

第1回 創薬に関するアンケート調査結果報告

目次

I 大学アンケート

1 調査概要	4
2 回答者の属性	5
3 創薬力強化	6
4 大学での教育内容	9
5 創薬人材育成	22
6 連携プログラム	42
7 大学卒業後の進路	46

II 一般アンケート

1 調査概要	52
2 回答者の属性	53
3 職場	63
4 採用者	64
5 採用者に期待する要素	68
6 学修の時期	150
7 創薬力強化	158

III 大学アンケートと一般アンケートの比較

1 大学の強調点と学ぶべきと思う項目	171
2 大学の強調点と企業が学んでおいて欲しい項目	180
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期	185
4 自由記述	198

I 大学アンケート

1 調査概要

調査概要

1 本調査の目的

本研究は、薬学部および大学院における教育を刷新し、日本の創薬力強化に直結する革新的教育プログラムを構築することを目的としています。その第一歩として、製薬企業、治験実施機関、省庁、国立研究機関、薬系大学など、創薬に関わる幅広い立場の方々を対象とするアンケート調査を通じて、現在の薬学教育に必要な学修事項を明らかにすることを目指します。

2 調査対象と回収結果

	配信数	回答数	回答率
国立大学	14	14	100.0%
公立大学	5	3	60.0%
私立大学	62	54	87.1%
合計	81	71	87.7%

3 調査方法

メールによる調査配信とインターネット回答

4 調査期間

2025年11月4日（火）～11月25日（火）

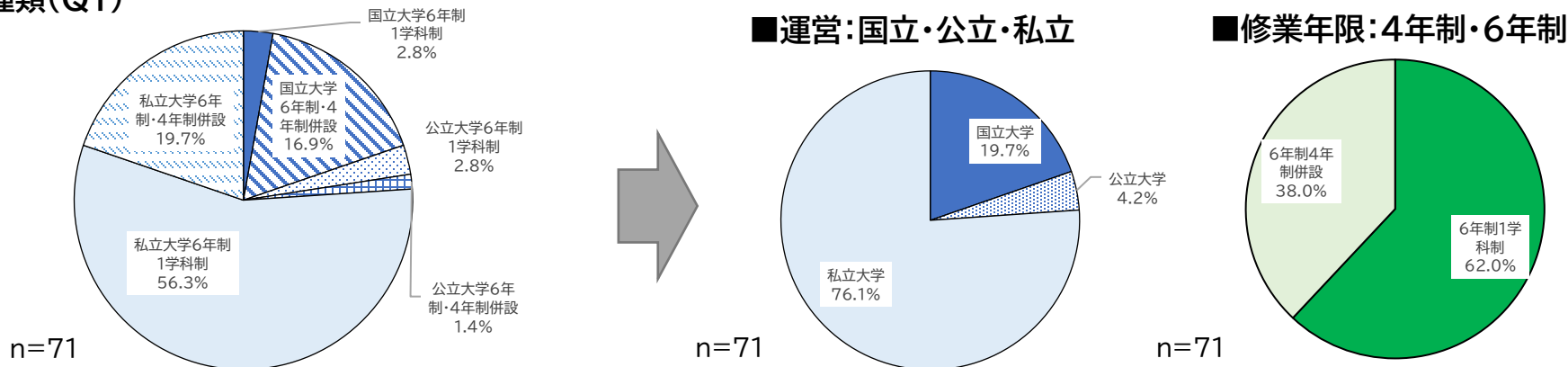
2 回答者の属性

回答者(大学)の属性

Point

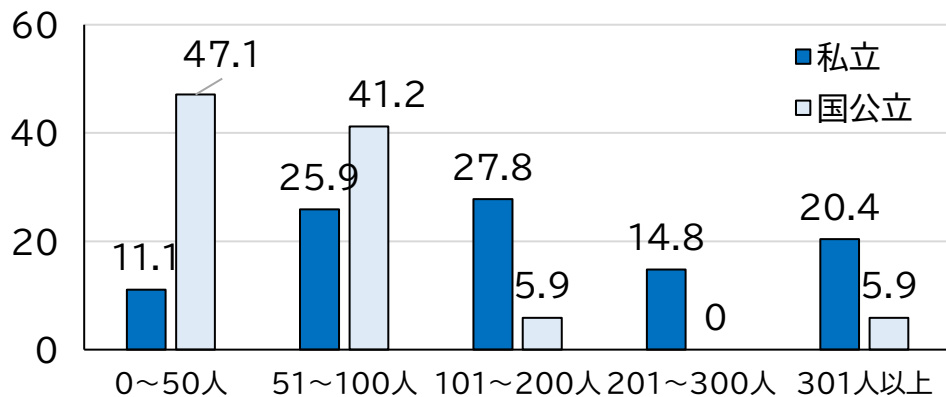
- ✓ 回答した大学の多くは私立大学であり、6年制1学科制が半数を占めています。
- ✓ 大学の規模としては、国公立に比べて私立の方が6年制課程定員数・4年制課程定員数のいずれもなくなっています（規模が大きい）。

大学の種類(Q1)

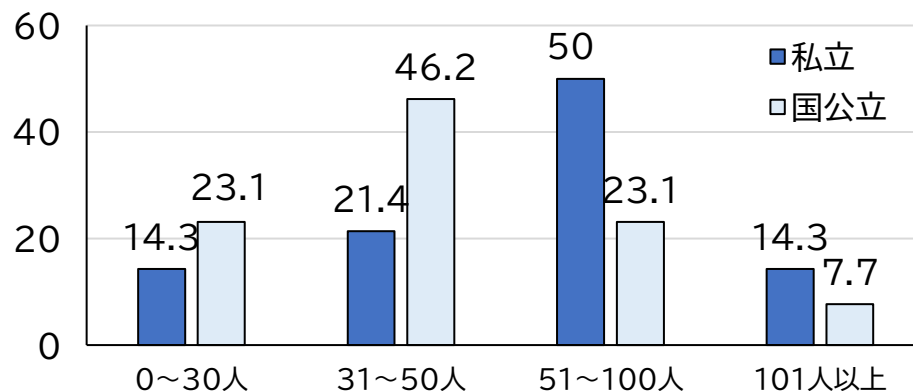


大学の規模(Q2~Q4)

6年制課程定員数



4年制課程定員数



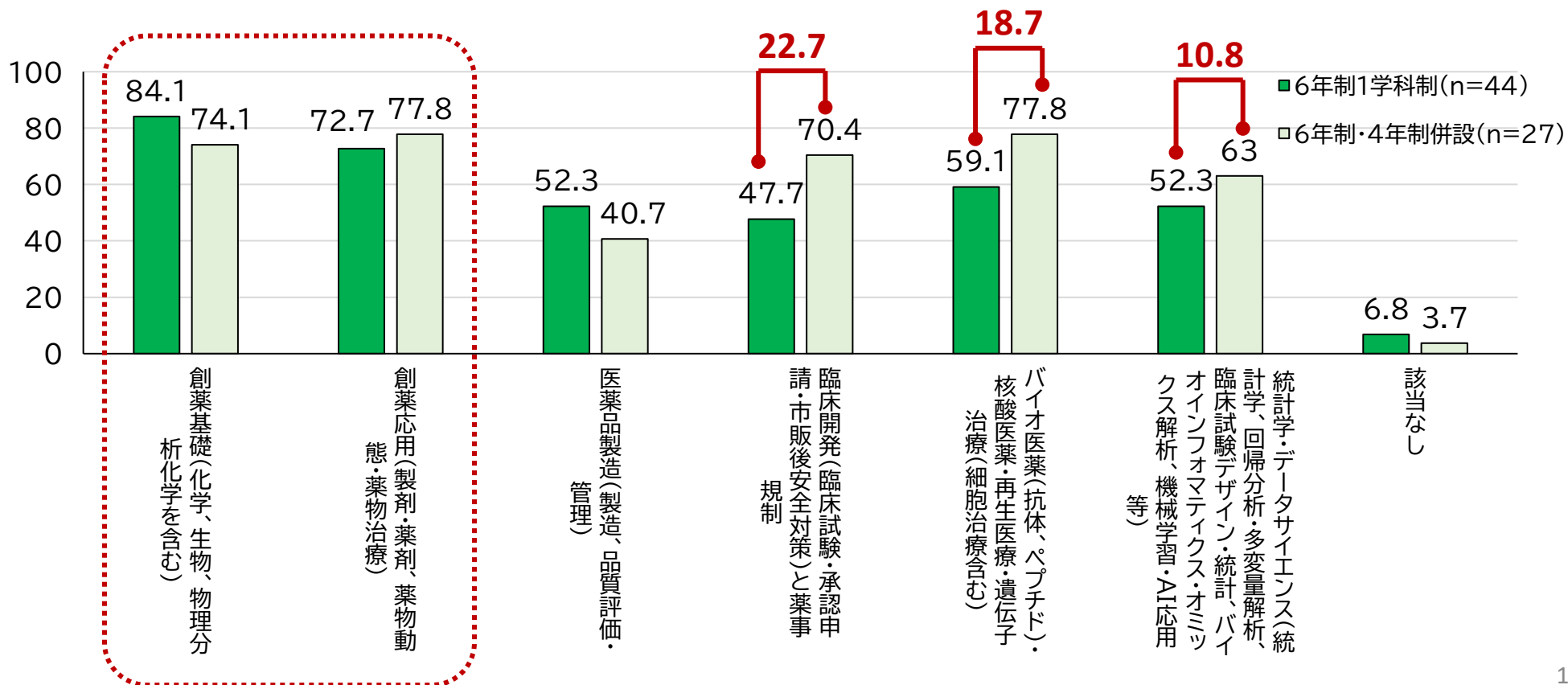
3 創薬力強化

創薬力強化の重点分野(修業年限別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 修業年限に関わらず「創薬基礎」と「創薬応用」が重要との認識が共通して高くなっています。
- ✓ 6年制・4年制併設の大学では「バイオ医薬・核酸医薬・再生医療・遺伝子治療」「臨床開発と薬事規制」「統計学・データサイエンス」を重点的にとらえている割合が高くなっています。

創薬力強化に関わる教育の重点分野と考えるもの(Q7)



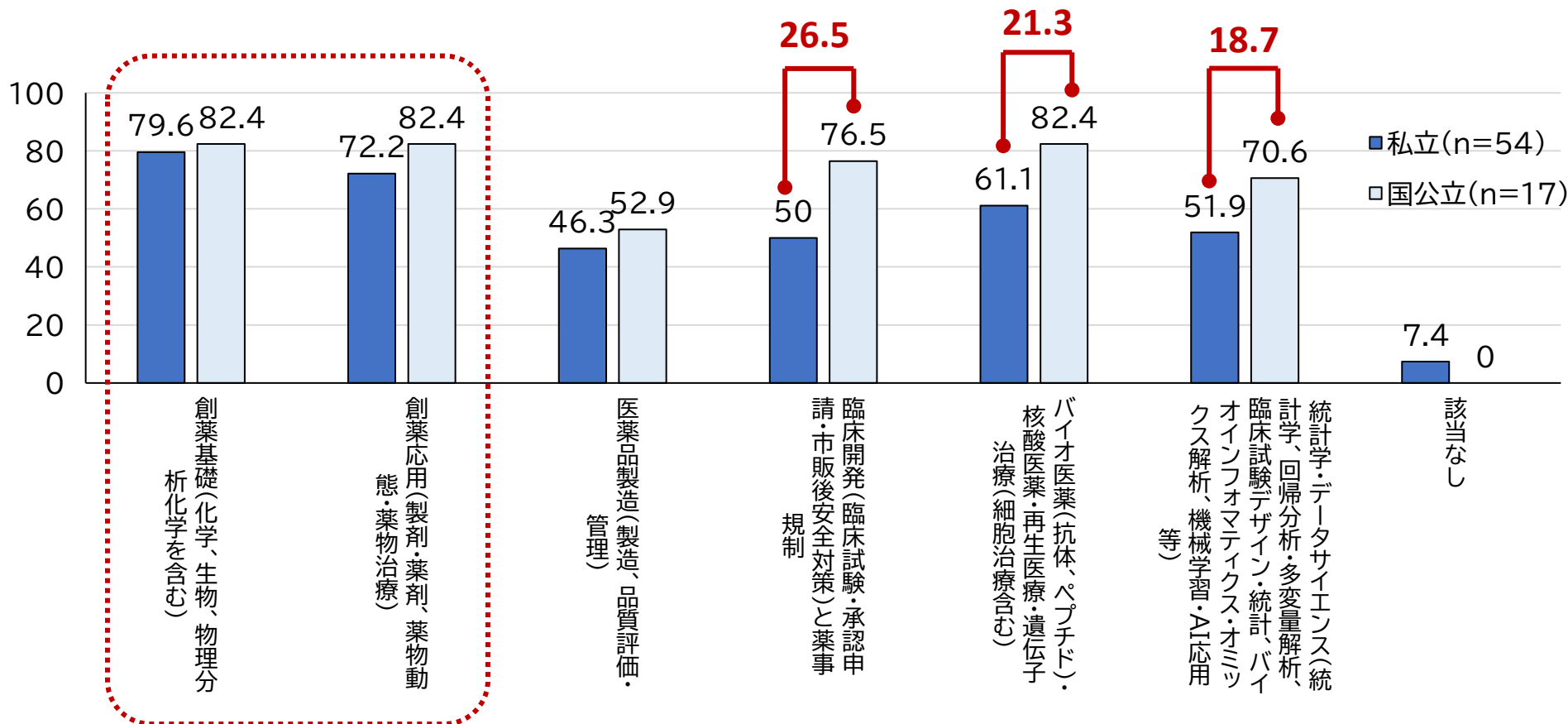
3 創薬力強化

創薬力強化の重点分野(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 学校種別に関わらず「創薬基礎」と「創薬応用」が重要との認識が共通して高くなっています。
- ✓ 国公立では「バイオ医薬・核酸医薬・再生医療・遺伝子治療」「臨床開発と薬事規制」「統計学・データサイエンス」を重点的にとらえている割合が高くなっています。

創薬力強化に関わる教育の重点分野と考えるもの(Q7)



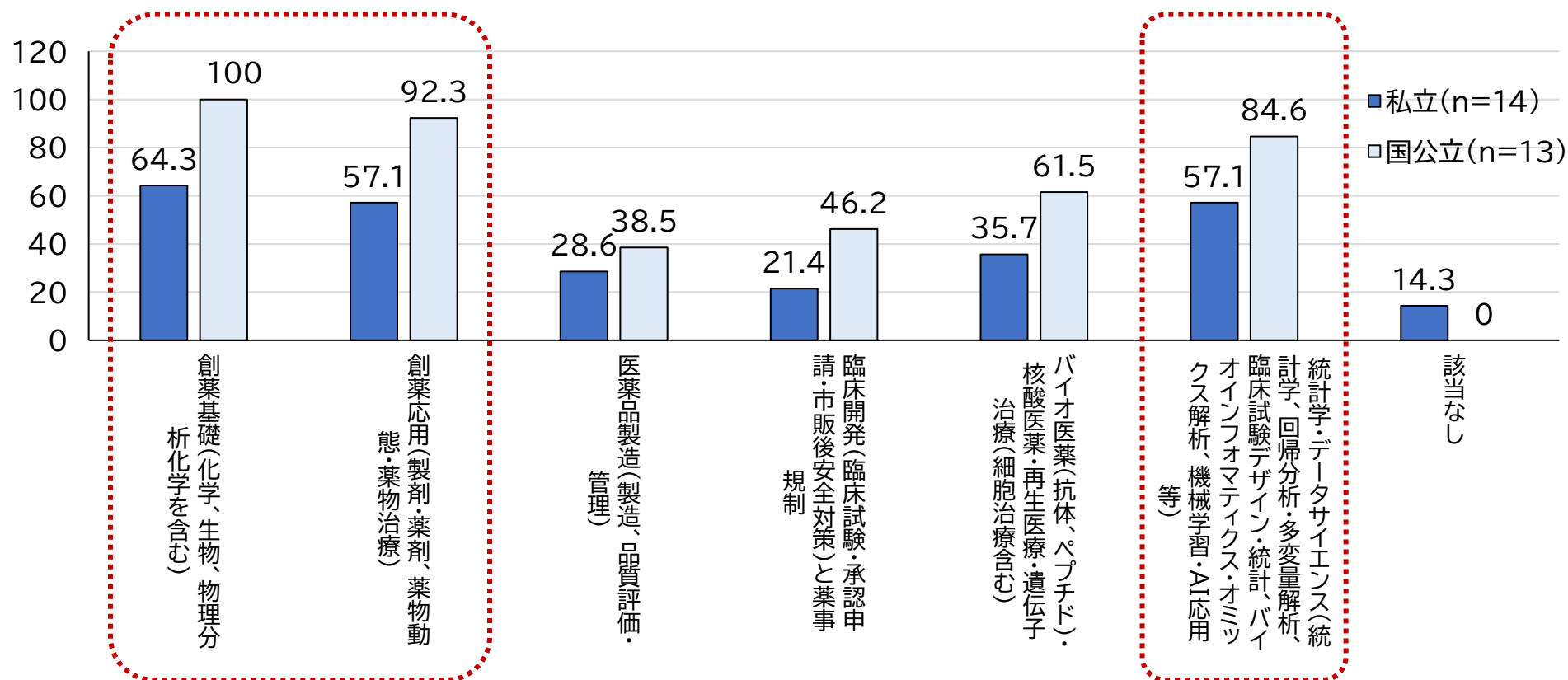
3 創薬力強化

創薬力強化の重点分野(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 学校種別に関わらず「創薬基礎」と「創薬応用」「統計学・データサイエンス」が重要との認識が共通して高くなっています。
- ✓ 全般的に、国公立の方が各分野を重要視している割合が高くなっています。

創薬力強化に関わる教育の重点分野と考えるもの(Q29)



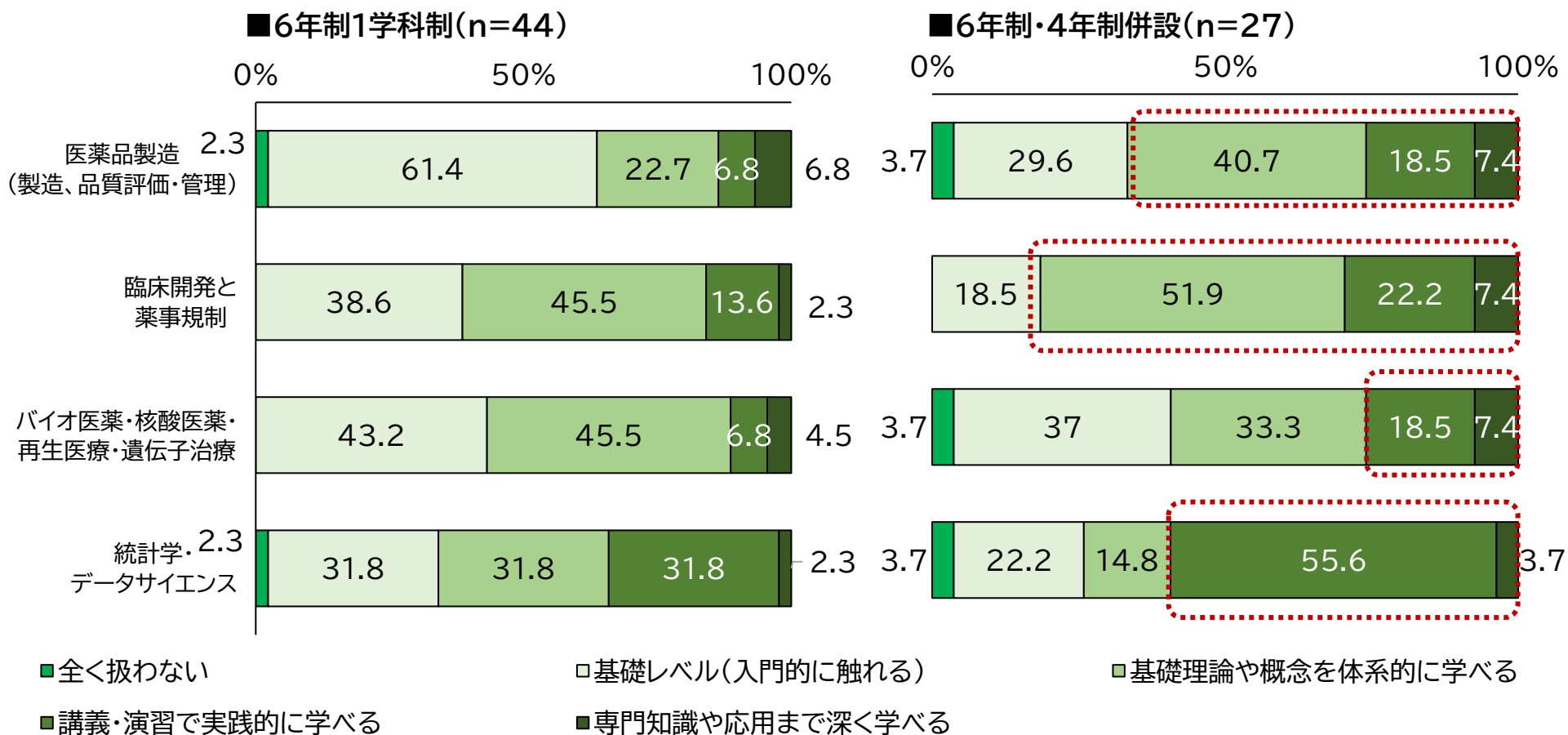
4 大学での教育内容（講義）

講義に関する充実度の認識(修業年限別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 6年制1学科制では「基礎レベル」や「基礎理論や概念を体系的に学べる」が多くを占めています。
- ✓ 6年制・4年制併設の大学の方が「基礎理論や概念を体系的に学べる」や「講義・演習で実践的に学べる」割合が多く、特に**統計学・データサイエンス**では「講義・演習で実践的に学べる」割合が高くなっています。

各種講義の充実度(Q8)



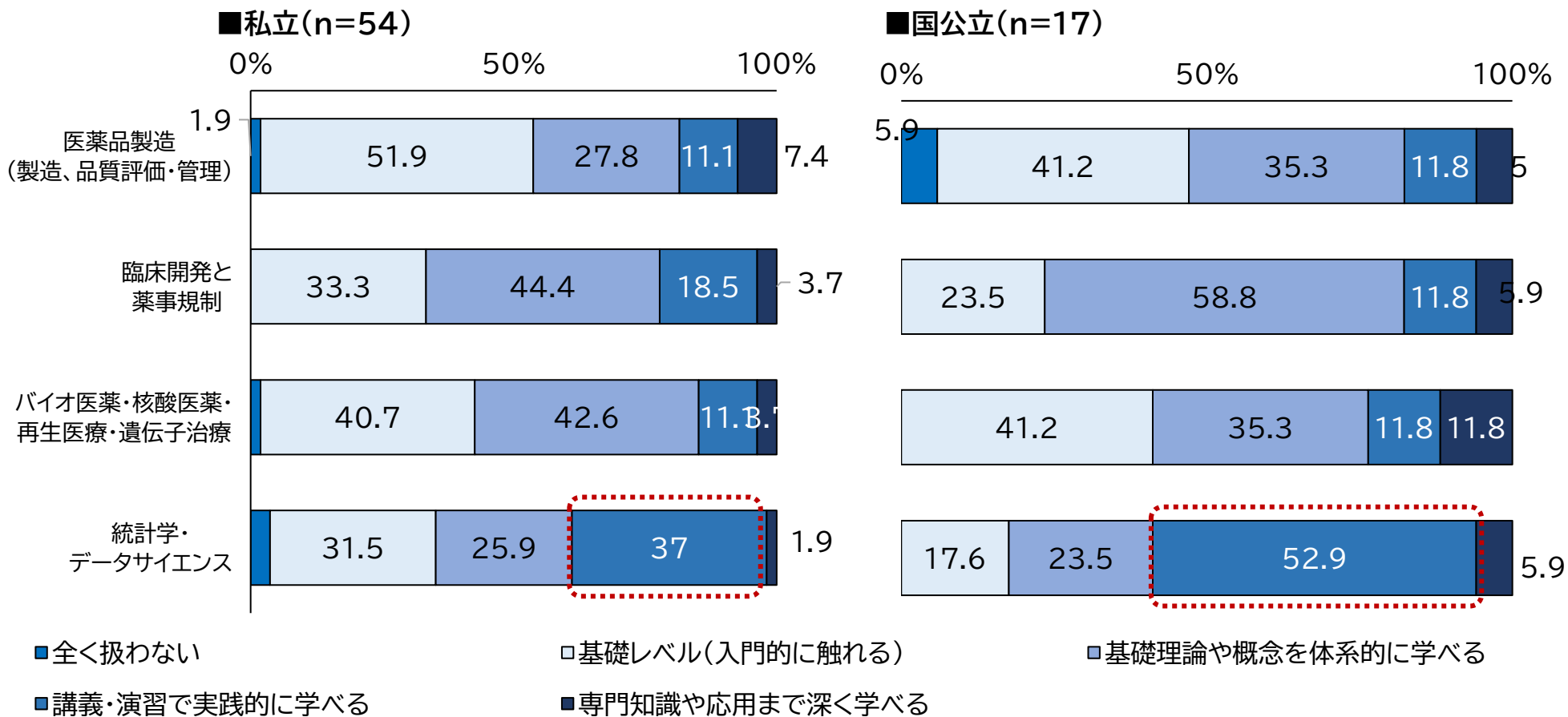
4 大学での教育内容（講義）

講義に関する充実度の認識(学校種別)【6年制課程について】

Point

✓ 国公立・私立ともに「基礎レベル」や「基礎理念や概念を体系的に学べる」が多くを占めているが、**統計学・データサイエンスでは「講義・演習で実践的に学べる」割合が国公立で高くなっています。**

各種講義の充実度(Q8)



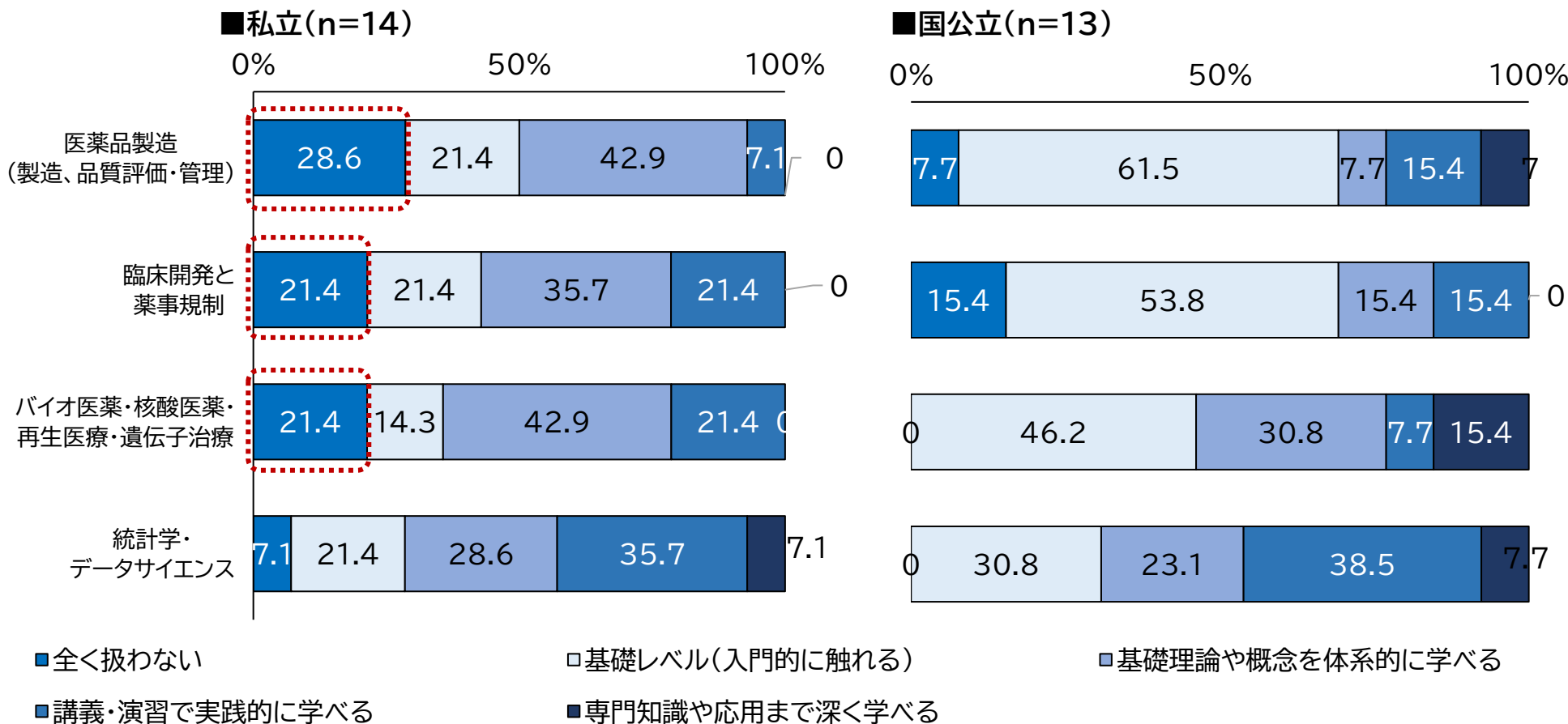
4 大学での教育内容（講義）

講義に関する充実度の認識(学校種別)【4年制課程について】

Point

✓ 私立では、およそ2割が「医薬品製造」「臨床開発と薬事規制」「バイオ医薬・核酸医薬・再生医療・遺伝子治療」を「全く扱わない」と回答しているが、「基礎理論や概念を体系的に学べる」や「講義・演習で実践的に学べる」の回答割合は国公立より高くなっています。

各種講義の充実度(Q30)



4 大学での教育内容（講義）

知的財産権の講義の有無

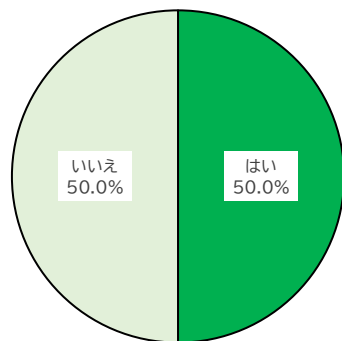
Point

- ✓ 6年制1学科制や私立の大学では、知的財産権の講義があるかないがそれぞれ半数となっているが、6年制・4年制併設や国公立では講義がある割合がおよそ7割となっています。（4年制課程においては、私立と国公立で大きな差はみられない）

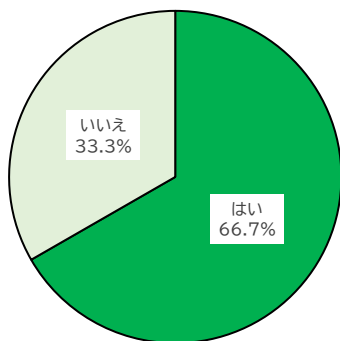
知的財産権の講義があるか(Q9・31)

6年制課程について

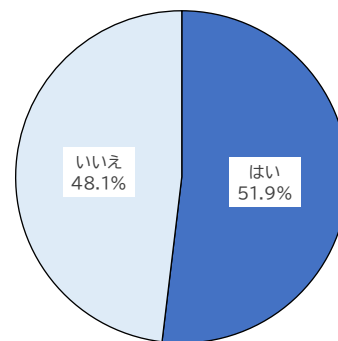
■6年制1学科制 (n=44)



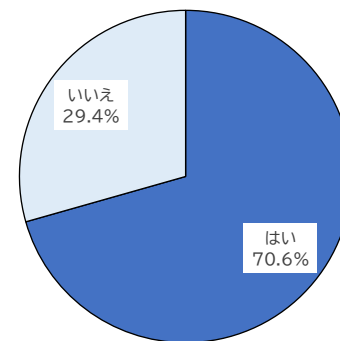
■6年制・4年制併 (n=27)



■私立 (n=54)

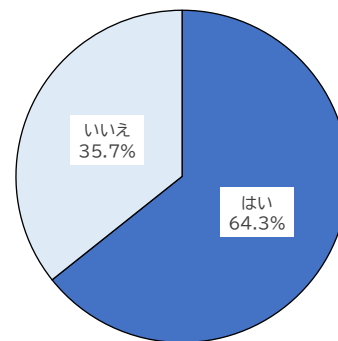


■国公立 (n=17)

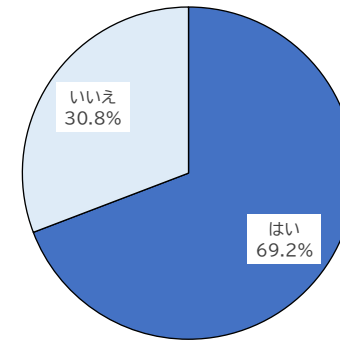


4年制課程について

■私立 (n=14)



■国公立 (n=13)



4 大学での教育内容（実習）

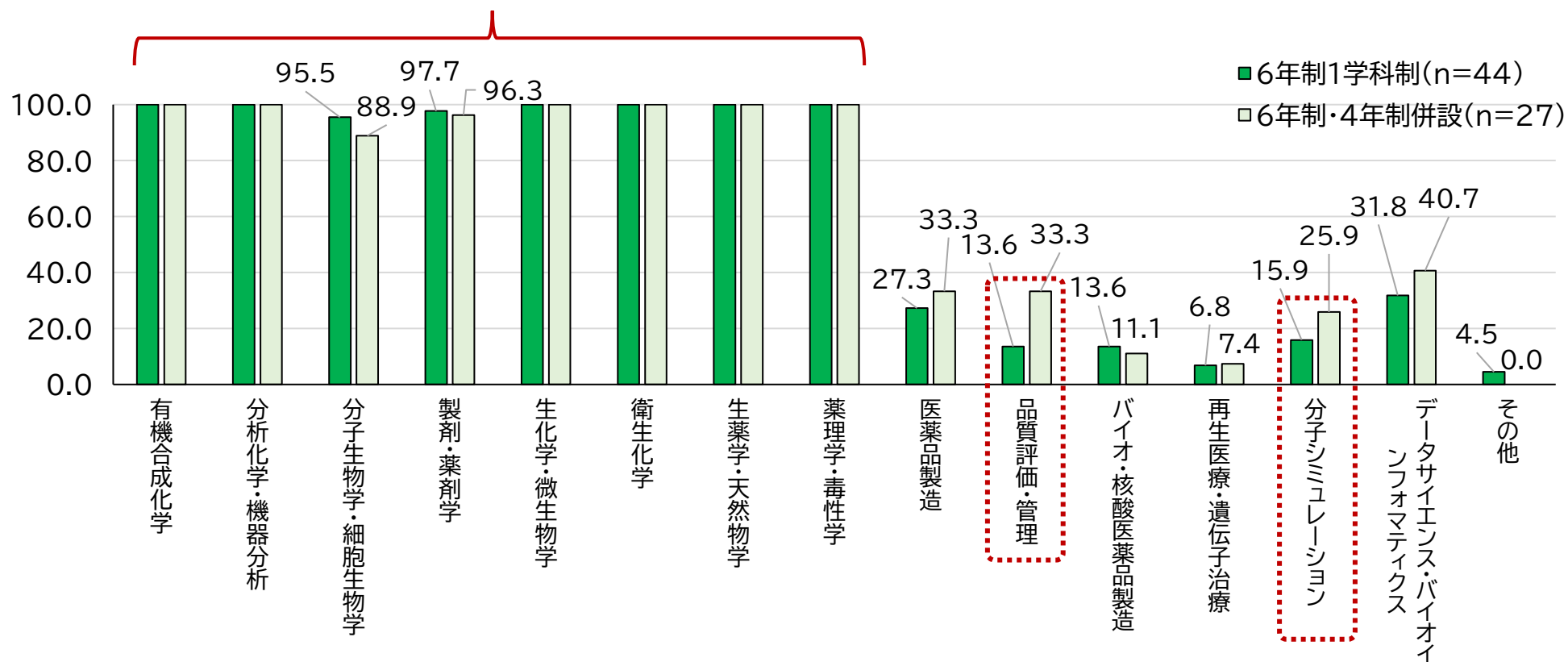
学習実習（修業年限別）【6年制課程について】

Point

- ✓ 学習実習がある分野は、ほぼすべての大学で実習をしているものと、そうでないものに二分されています。
- ✓ 「品質評価・管理」と「分子シミュレーション」は6年制・4年制併設の大学の方が実習をしている割合が高くなっています。

学生実習のある分野(Q10)

ほぼすべての大学で実施



4 大学での教育内容（実習）

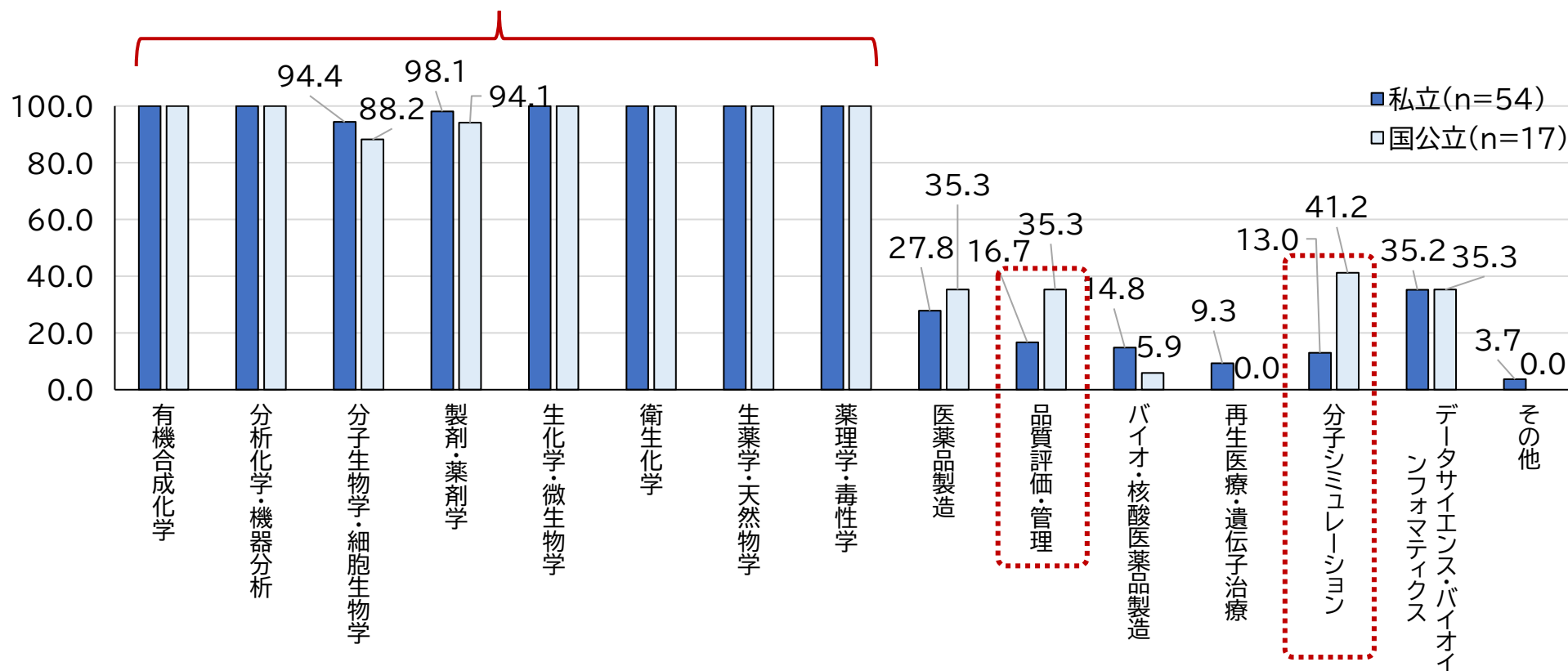
学習実習（学校種別）【6年制課程について】

Point

- ✓ 学習実習がある分野は、ほぼすべての大学で実習をしているものと、そうでないものに二分されています。
- ✓ 「品質評価・管理」と「分子シミュレーション」は国公立の大学の方が実習をしている割合が高くなっています。

学生実習のある分野(Q10)

ほぼすべての大学で実施



4 大学での教育内容（実習）

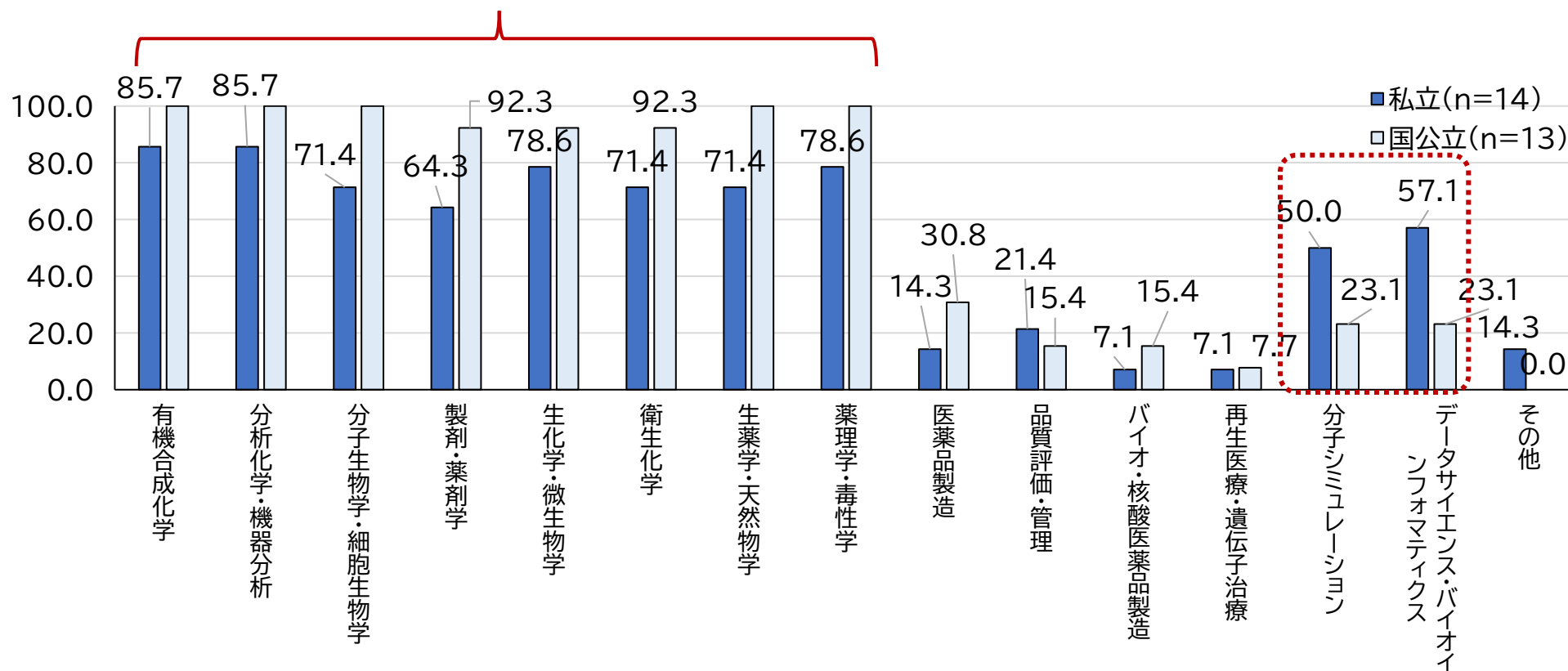
学習実習(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 学習実習がある分野は、国公立大学ではほぼすべての大学で実習をしているものと、そうでないものに二分されています。
- ✓ 「データサイエンス・バイオインフォマティクス」と「分子シミュレーション」は私立の大学の方が実習をしている割合が高くなっています。

学生実習のある分野(Q32)

ほぼすべての国公立大学で実施



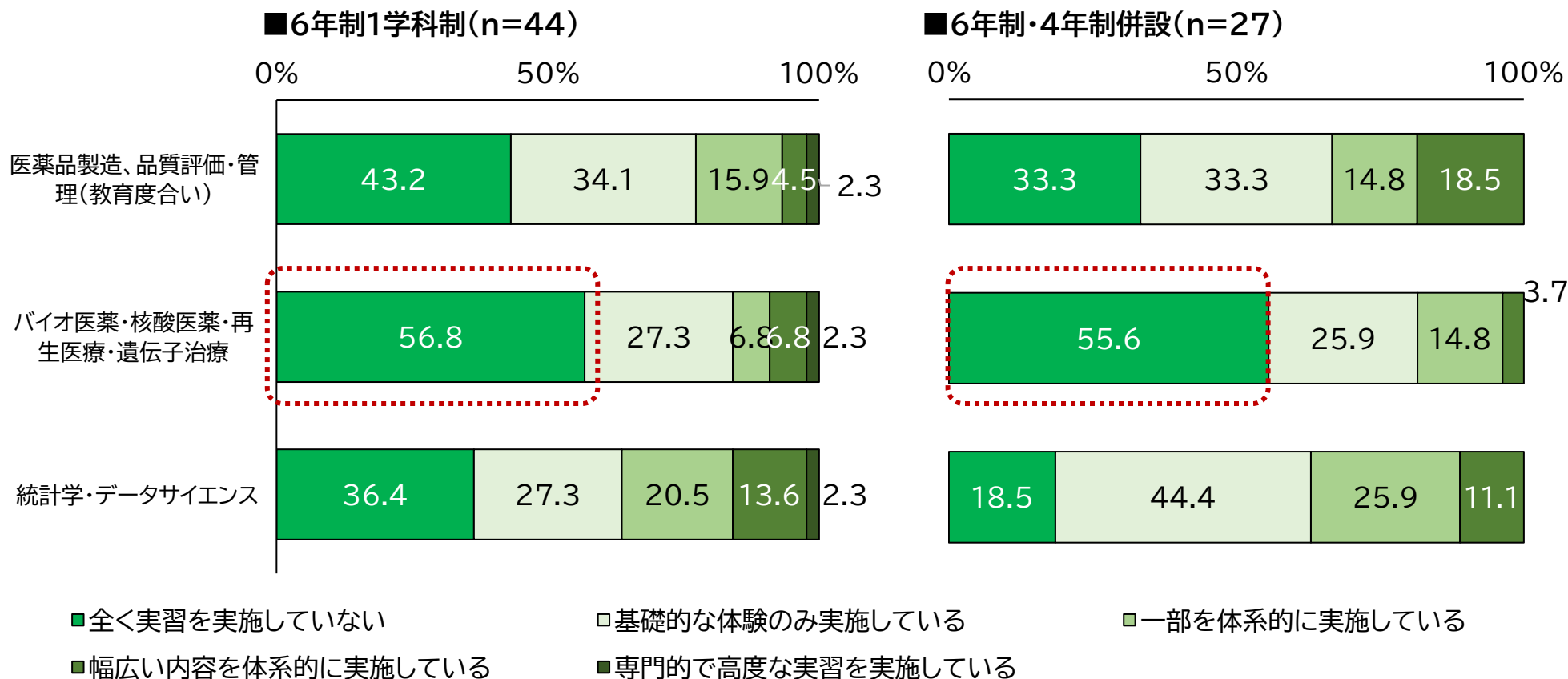
4 大学での教育内容（実習）

学生実習の教育度合いの評価(修業年限別)【6年制課程について】

Point

✓ バイオ医薬・核酸医薬・再生医療・遺伝子治療は、他に比べると「全く実習を実施していない」割合が高くなっています。

学生実習の教育度合いを評価(Q11)



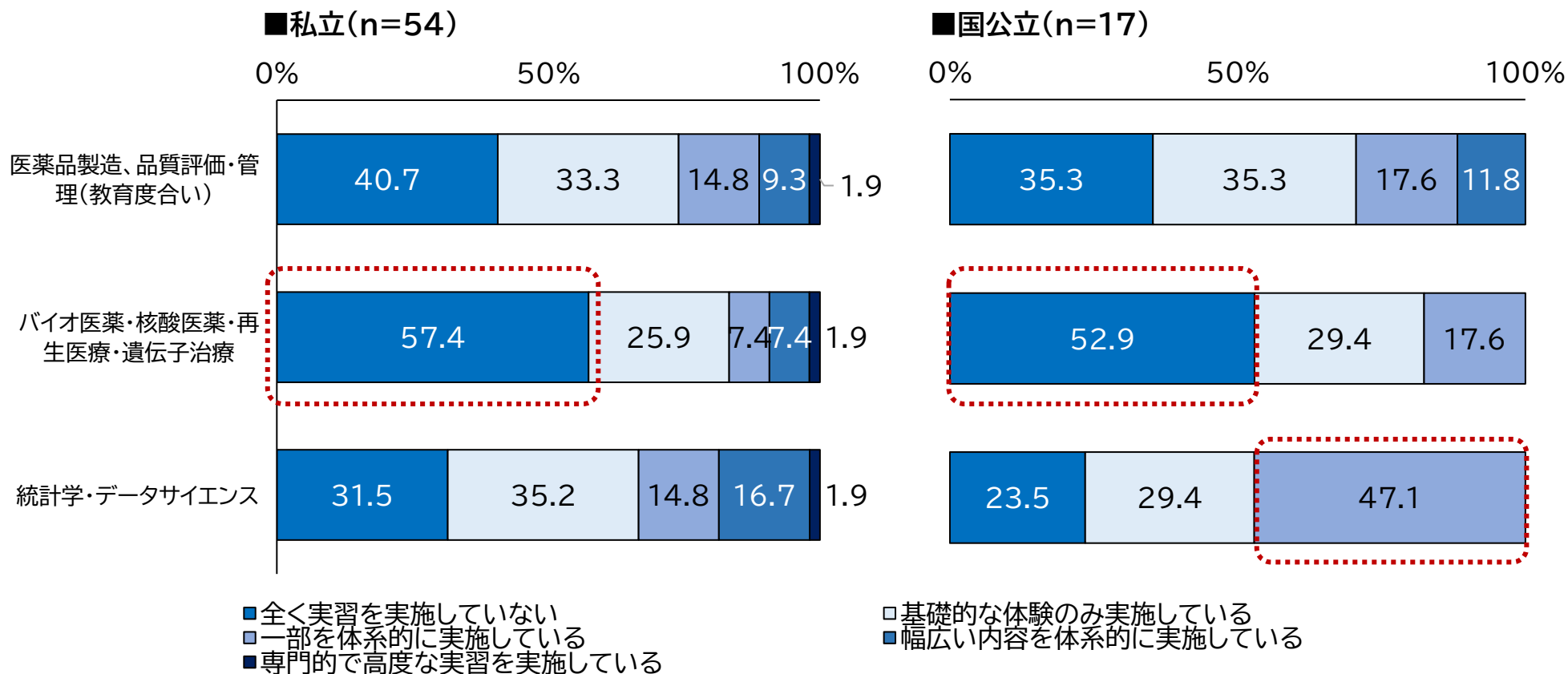
4 大学での教育内容（実習）

学生実習の教育度合いの評価(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ バイオ医薬・核酸医薬・再生医療・遺伝子治療は、他に比べると「全く実習を実施していない」割合が高くなっています。
- ✓ 国公立では統計学・データサイエンスを「一部を体系的に実施している」割合が高くなっています。

学生実習の教育度合いを評価(Q11)



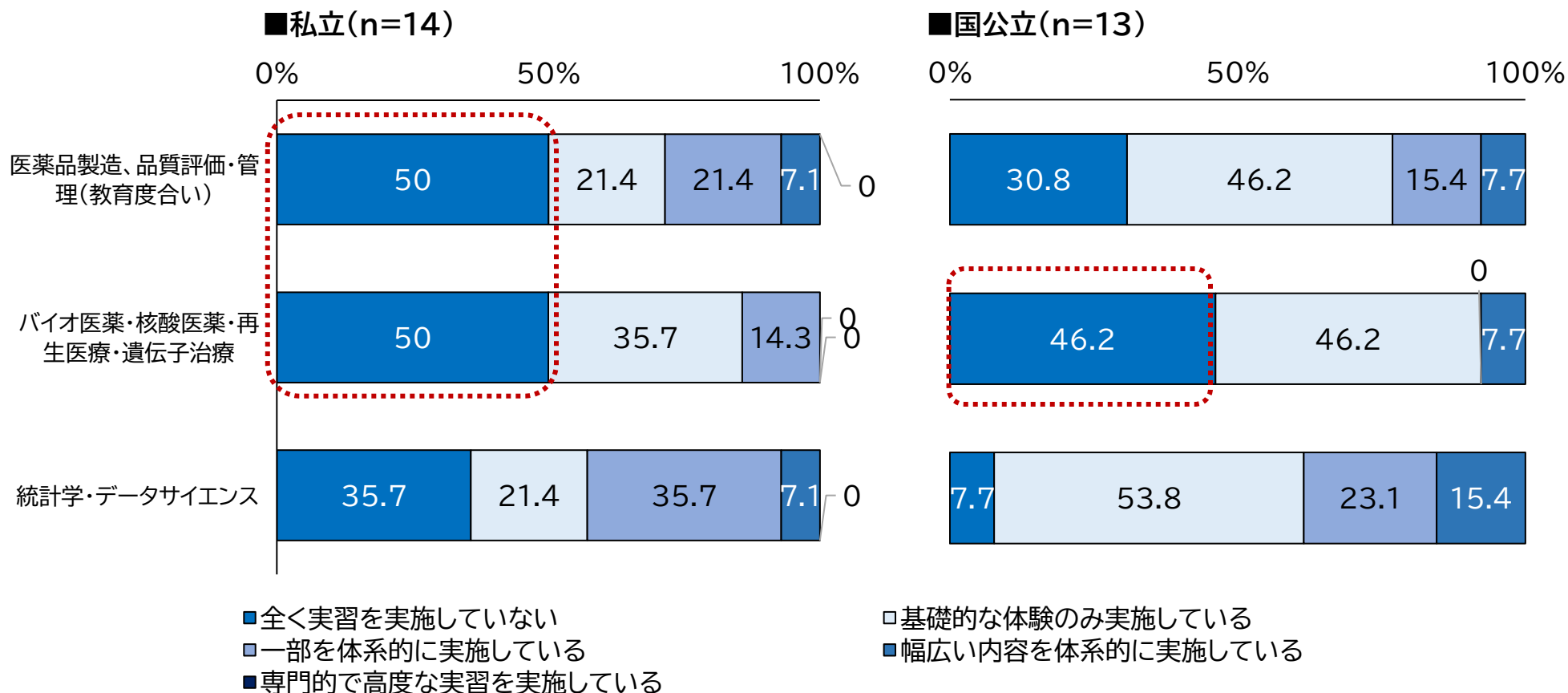
4 大学での教育内容（実習）

学生実習の教育度合いの評価(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ バイオ医薬・核酸医薬・再生医療・遺伝子治療と、私立での医薬品製造、品質評価・管理は、他に比べると「全く実習を実施していない」割合が高くなっています。
- ✓ 私立は、国公立に比べると統計学・データサイエンスを「全く実施していない」割合が高くなっています。

学生実習の教育度合いを評価(Q33)



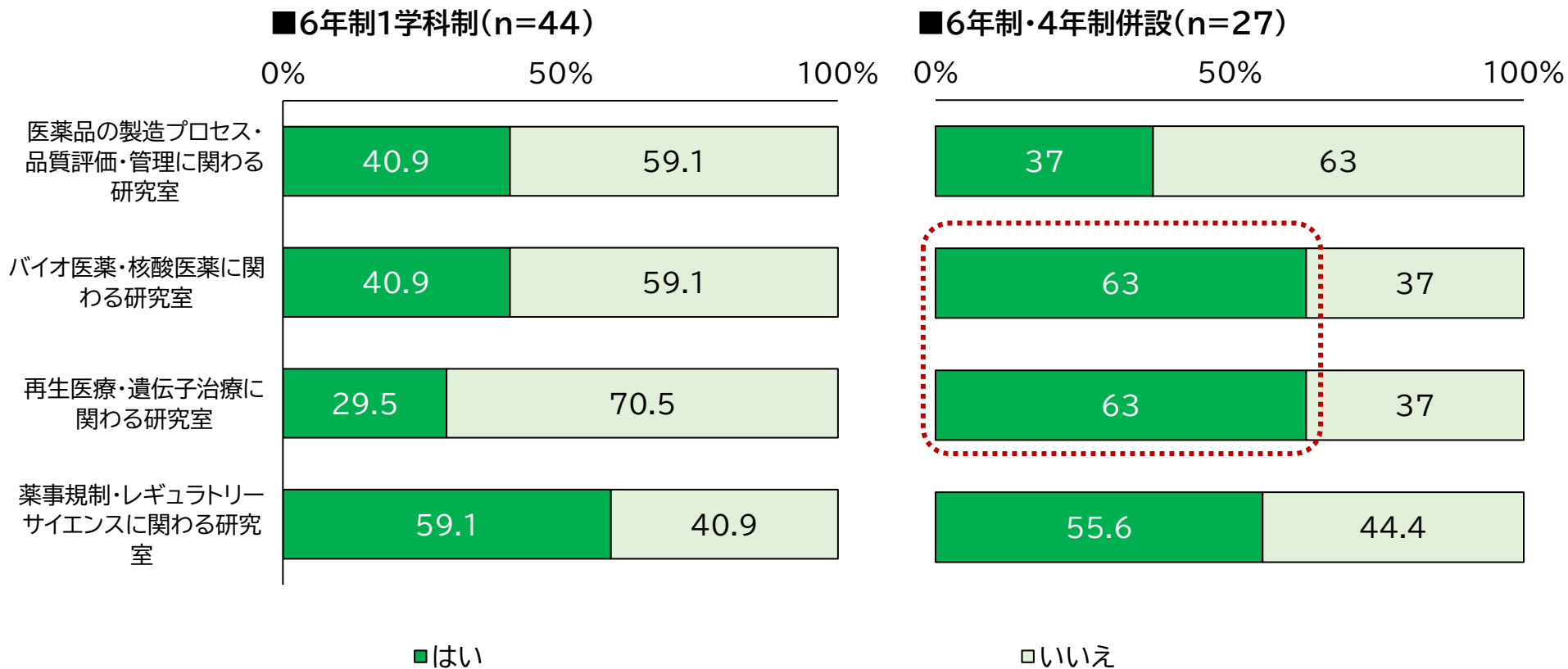
4 大学での教育内容（研究室）

研究室の有無(修業年限別)【6年制課程について】

Point

✓ バイオ医薬・核酸医薬に関わる研究室と再生医療・遺伝子治療に関わる研究室は、傾向の違いがあります。

各種研究室の有無(Q15～Q18)



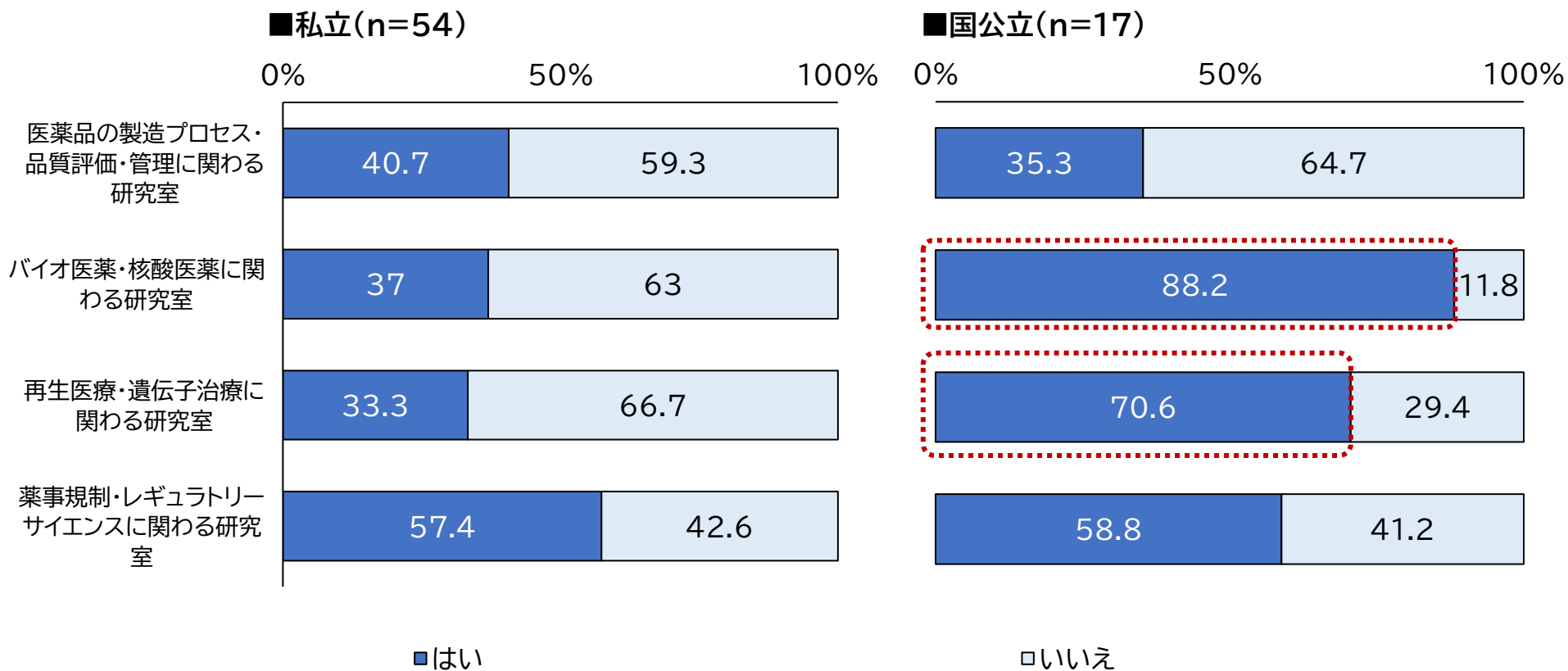
4 大学での教育内容（研究室）

研究室の有無(学校種別)【6年制課程について】

Point

✓ バイオ医薬・核酸医薬に関わる研究室と再生医療・遺伝子治療に関わる研究室は、傾向の違いがあります。

各種研究室の有無(Q15～Q18)



4 大学での教育内容（研究室）

研究室の有無(学校種別)【4年制課程について】

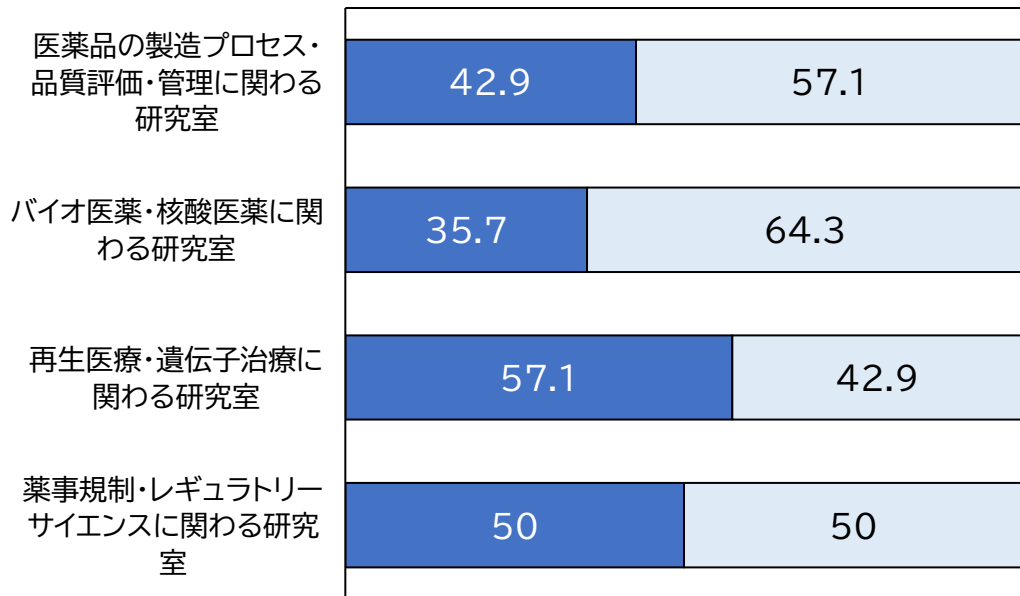
Point

✓ バイオ医薬・核酸医薬に関わる研究室は、私立では研究室がある割合が低く、国公立では研究室がある割合が高くなっています。

各種研究室の有無(Q38～Q40)

■私立(n=14)

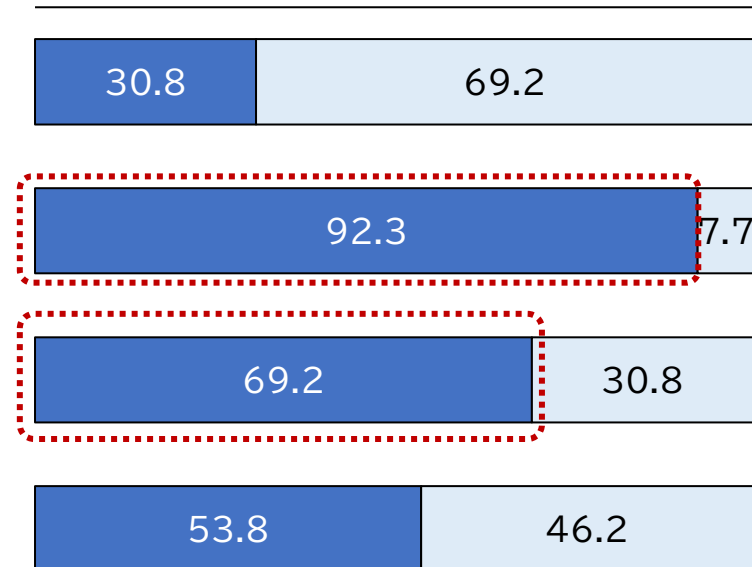
0% 50% 100%



■はい

■国公立(n=13)

0% 50% 100%



□いいえ

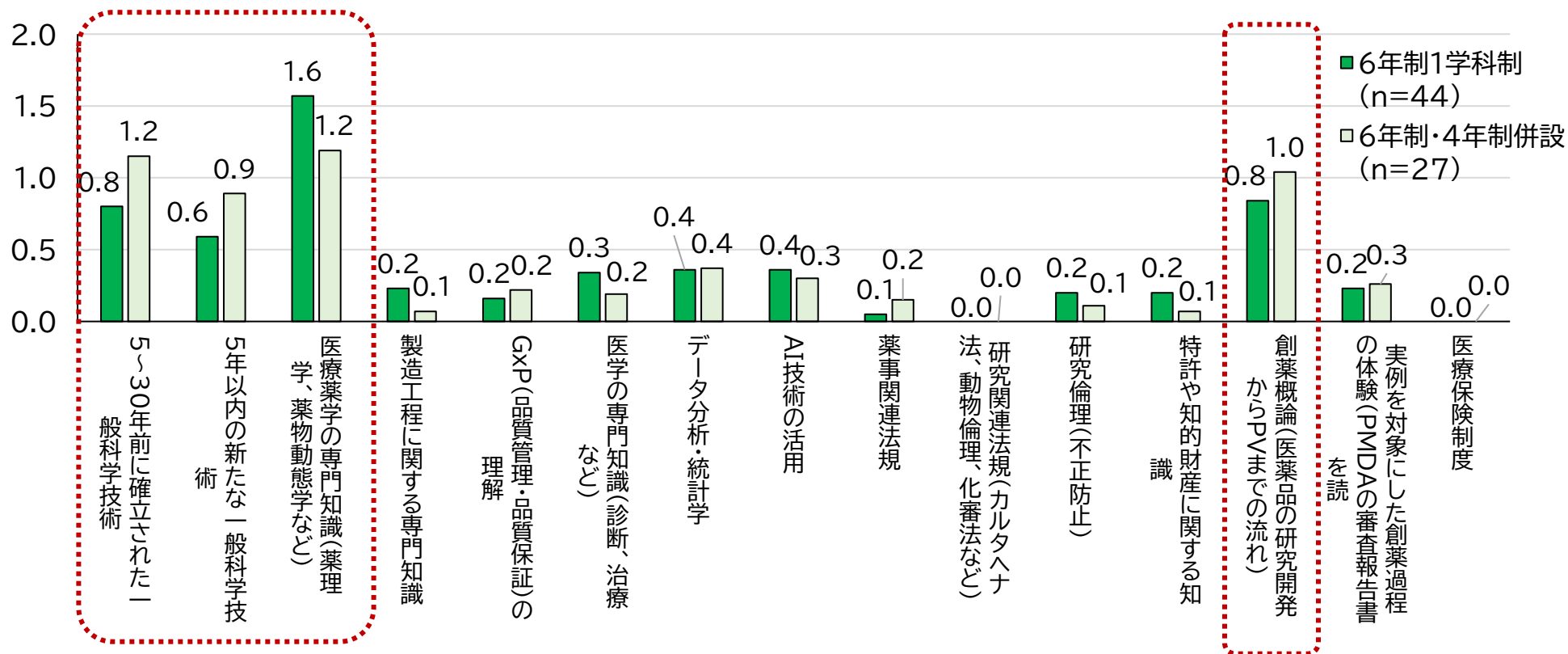
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:知識(修業年限別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「医療薬学の専門知識」と「創薬概論」「5～30年前に確立された一般科学技術」「5年以内の新たな一般科学技術」が共通して高くなっています。
- ✓ 6年制1学科制では、「医療薬学の専門知識」が最も強調されており、6年制・4先制併設では「5～30年前に確立された一般科学技術」が同程度となっています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:知識(Q19)



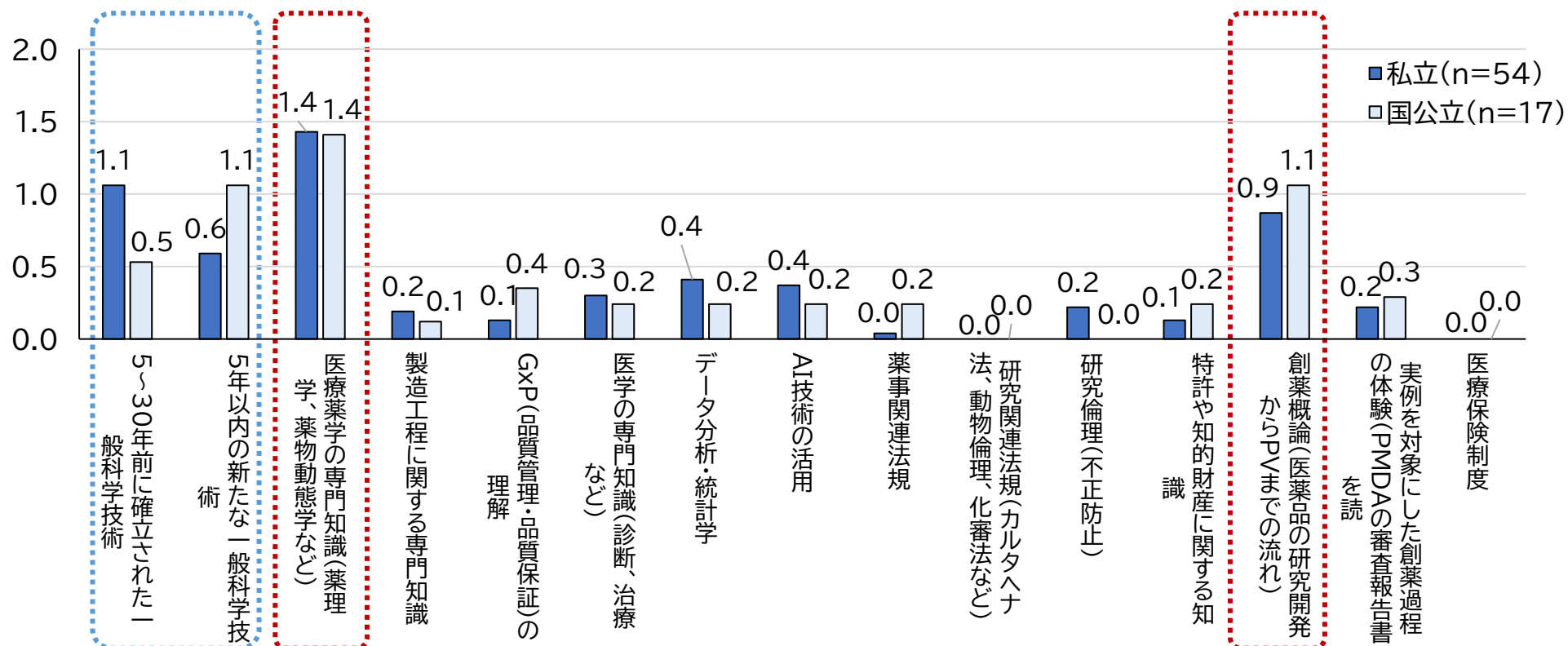
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:知識(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「医療薬学の専門知識」と「創薬概論」「5～30年前に確立された一般科学技術」「5年以内の新たな一般科学技術」が共通して高くなっています。
- ✓ 国公立では「5年以内の新たな一般科学技術」、私立では「5～30年前に確立された一般科学技術」が強調されています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:知識(Q19)



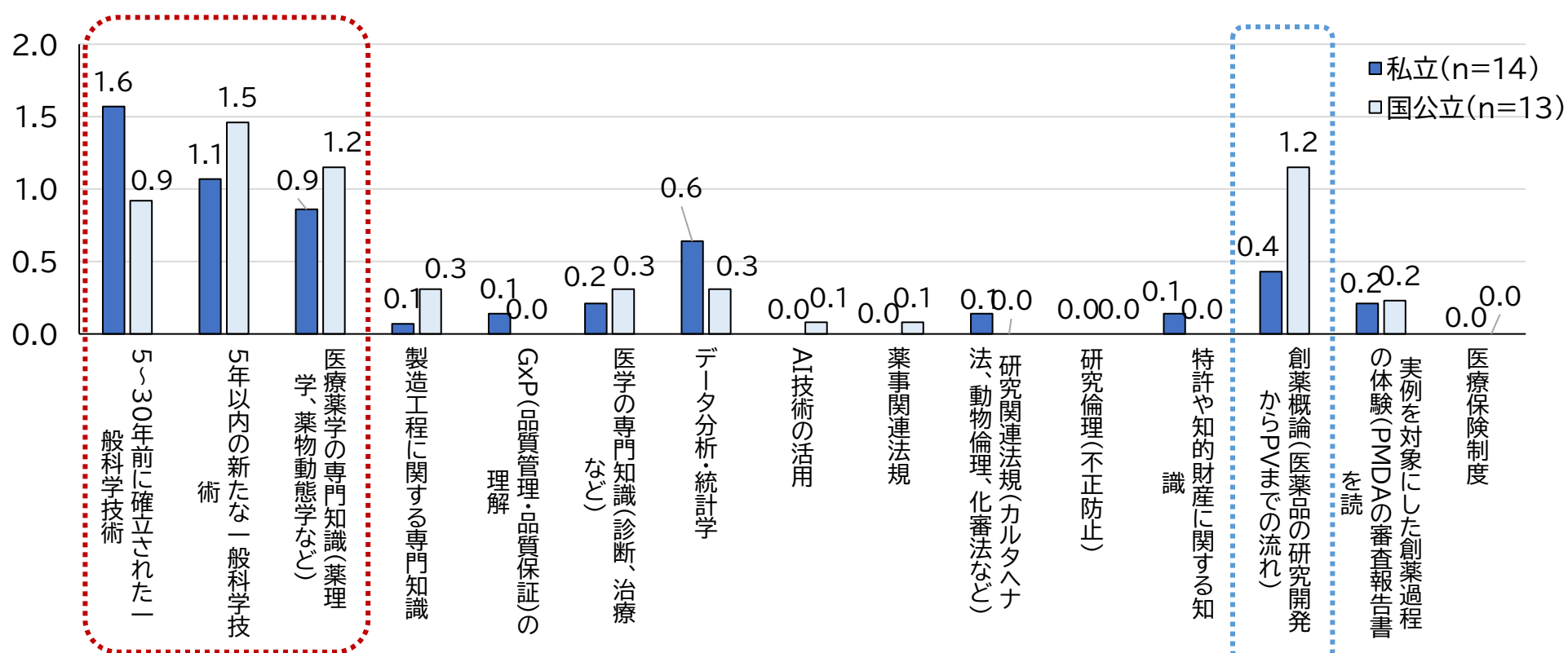
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:知識(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 「5～30年前に確立された一般科学技術」「5年以内の新たな一般科学技術」「医療薬学の専門知識」が共通して高くなっています。
- ✓ 国公立では「創薬概論」が強調されています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:知識(Q41)



5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:知識

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:知識(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		5～30年前に確立された一般科学技術	5年以内の新たな一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	製造工程に関する専門知識	GxP(品質管理・品質保証)の理解	医学の専門知識(診断、治療など)	データ分析・統計学	AI技術の活用	薬事関連法規	研究関連法規(カルタヘナ法、動物倫理、化審法など)	研究倫理(不正防止)	特許や知的財産に関する知識	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)	医療保険制度
6年制 1学科制	1番目	8	2	16	2	2	0	1	1	0	0	2	1	8	0	0
		18.2	4.5	36.4	4.5	4.5	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	4.5	2.3	18.2	0.0	0.0
	2番目	3	9	7	2	0	6	5	3	0	0	0	2	3	4	0
		6.8	20.5	15.9	4.5	0.0	13.6	11.4	6.8	0.0	0.0	0.0	4.5	6.8	9.1	0.0
	3番目	5	2	7	0	1	3	3	7	2	0	3	2	7	2	0
		11.4	4.5	15.9	0.0	2.3	6.8	6.8	15.9	4.5	0.0	6.8	4.5	15.9	4.5	0.0
6年制 4年制 併設	1番目	9	3	5	0	0	0	0	1	1	0	1	0	6	1	0
		33.3	11.1	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0	3.7	0.0	22.2	3.7	0.0
	2番目	1	6	6	1	2	0	4	2	0	0	0	1	3	1	0
		3.7	22.2	22.2	3.7	7.4	0.0	14.8	7.4	0.0	0.0	0.0	3.7	11.1	3.7	0.0
	3番目	2	3	5	0	2	5	2	1	1	0	0	0	4	2	0
		7.4	11.1	18.5	0.0	7.4	18.5	7.4	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	14.8	7.4	0.0

5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:知識

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:知識(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		5～30年前に確立された一般科学技術	5年以内の新たな一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	製造工程に関する専門知識	GxP(品質管理・品質保証)の理解	医学の専門知識(診断、治療など)	データ分析・統計学	AI技術の活用	薬事関連法規	研究関連法規(カルタヘナ法、動物倫理、化審法など)	研究倫理(不正防止)	特許や知的財産に関する知識	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)	医療保険制度
私立	1番目	14	2	17	2	1	0	1	2	0	0	3	1	10	0	0
		25.9	3.7	31.5	3.7	1.9	0.0	1.9	3.7	0.0	0.0	5.6	1.9	18.5	0.0	0.0
	2番目	4	11	8	2	1	6	8	4	0	0	0	1	4	5	0
		7.4	20.4	14.8	3.7	1.9	11.1	14.8	7.4	0.0	0.0	0.0	1.9	7.4	9.3	0.0
	3番目	7	4	10	0	2	4	3	6	2	0	3	2	9	2	0
		13	7.4	18.5	0.0	3.7	7.4	5.6	11.1	3.7	0.0	5.6	3.7	16.7	3.7	0.0
国公立	1番目	3	3	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4	1	0
		17.6	17.6	23.5	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	23.5	5.9	0.0
	2番目	0	4	5	1	1	0	1	1	0	0	0	2	2	0	0
		0.0	23.5	29.4	5.9	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	0.0	0.0
	3番目	0	1	2	0	1	4	2	2	1	0	0	0	2	2	0
		0.0	5.9	11.8	0.0	5.9	23.5	11.8	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	0.0

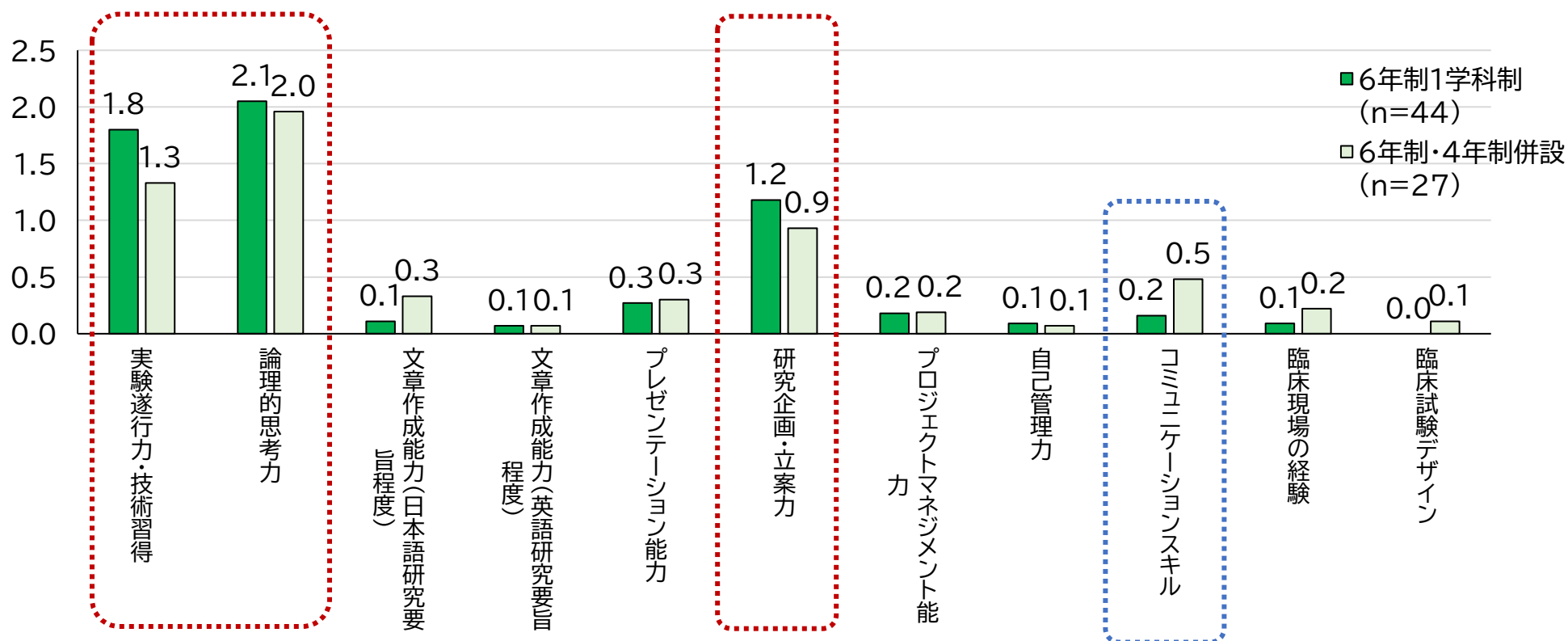
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(修業年限別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「論理的思考力」と「実験遂行力・技術習得」「研究企画・立案力」が共通して高くなっています。
- ✓ 6年制・4年制併設の方が「コミュニケーションスキル」がわずかに高くなっています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:(Q19)



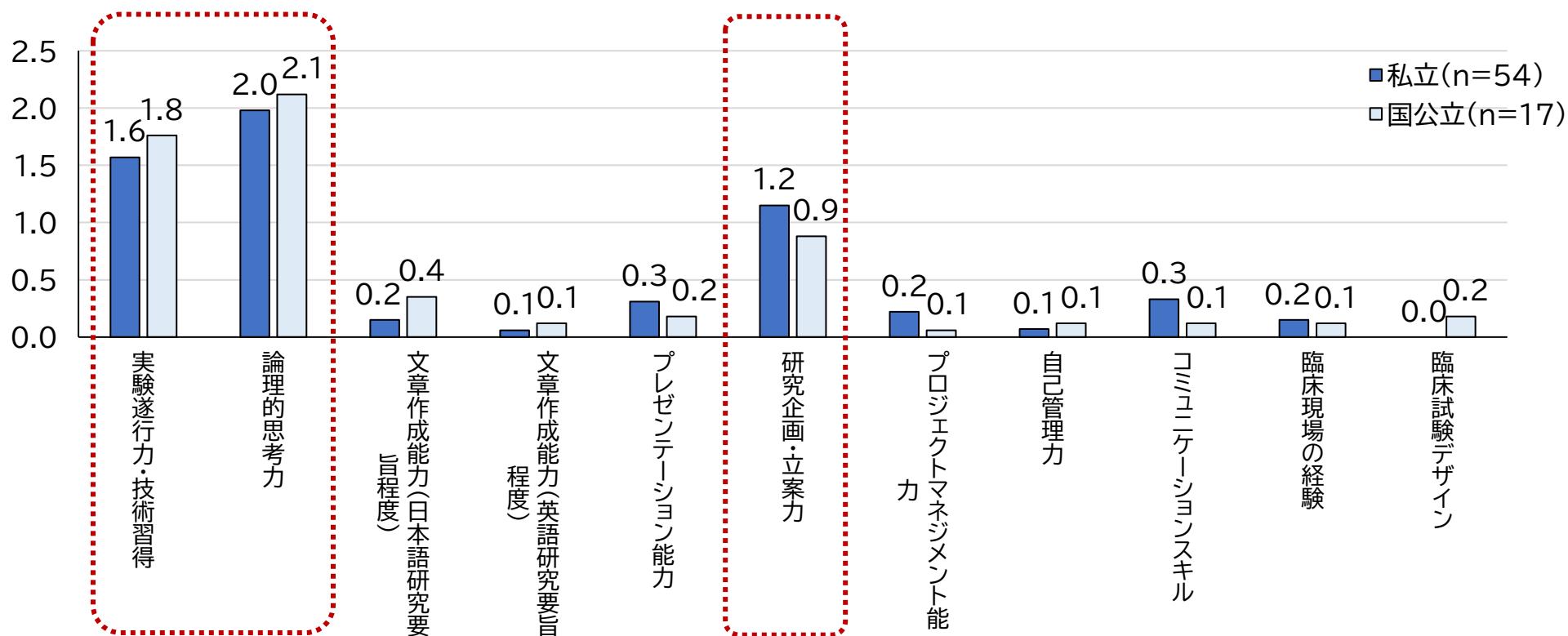
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「論理的思考力」と「実験遂行力・技術習得」「研究企画・立案力」が共通して高くなっています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:(Q19)



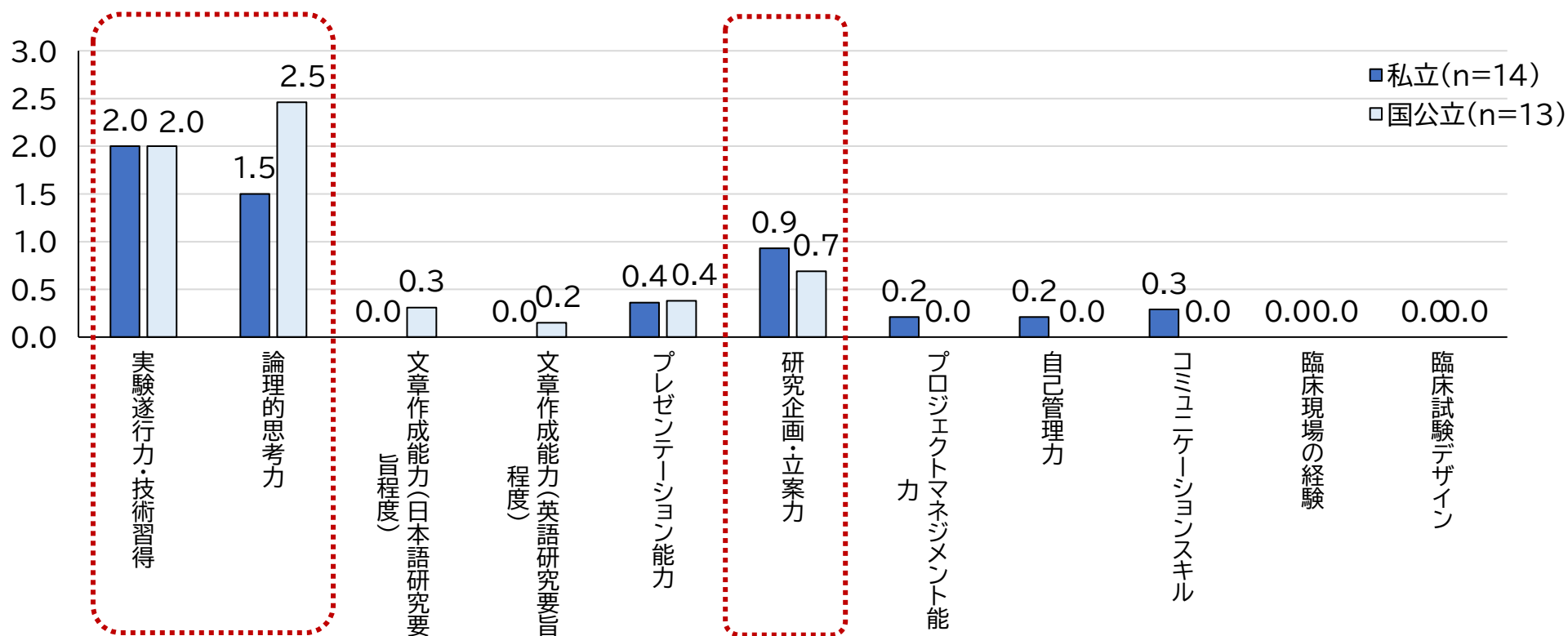
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 「論理的思考力」と「実験遂行力・技術習得」「研究企画・立案力」が共通して高くなっています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:(Q41)



5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:技能・技術

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:技能・技術(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		実験遂行 力・技術習 得	論理的思考 力	文章作成能 力(日本語 研究要旨程 度)	文章作成能 力(英語研 究要旨程度)	プレゼン テーション 能力	研究企画・ 立案力	プロジェク トマネジメ ント能力	自己管理力	コミュニ ケーション スキル	臨床現場の 経験	臨床試験デ ザイン
6年制 1学科 制	1番目	17	20	0	0	0	5	2	0	0	0	0
		38.6	45.5	0.0	0.0	0.0	11.4	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	2番目	11	13	1	0	3	13	0	1	1	1	0
		25	29.5	2.3	0.0	6.8	29.5	0.0	2.3	2.3	2.3	0.0
	3番目	6	4	3	3	6	11	2	2	5	2	0
		13.6	9.1	6.8	6.8	13.6	25	4.5	4.5	11.4	4.5	0.0
6年制 4年制 併設	1番目	5	12	2	0	1	3	0	0	3	0	1
		18.5	44.4	7.4	0.0	3.7	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	3.7
	2番目	8	7	1	1	2	4	1	0	0	3	0
		29.6	25.9	3.7	3.7	7.4	14.8	3.7	0.0	0.0	11.1	0.0
	3番目	5	3	1	0	1	8	3	2	4	0	0
		18.5	11.1	3.7	0.0	3.7	29.6	11.1	7.4	14.8	0.0	0.0

5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:技能・技術

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:技能・技術(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		実験遂行 力・技術習 得	論理的思考 力	文章作成能 力(日本語 研究要旨程 度)	文章作成能 力(英語研 究要旨程度)	プレゼン テーション 能力	研究企画・ 立案力	プロジェク トマネジメ ント能力	自己管理力	コミュニ ケーション スキル	臨床現場の 経験	臨床試験デ ザイン
私立	1番目	14	26	1	0	1	7	2	0	3	0	0
		25.9	48.1	1.9	0.0	1.9	13.0	3.7	0.0	5.6	0.0	0.0
	2番目	17	12	1	0	4	15	1	0	1	3	0
		31.5	22.2	1.9	0.0	7.4	27.8	1.9	0.0	1.9	5.6	0.0
	3番目	9	5	3	3	6	11	4	4	7	2	0
		16.7	9.3	5.6	5.6	11.1	20.4	7.4	7.4	13.0	3.7	0.0
国公立	1番目	8	6	1	0	0	1	0	0	0	0	1
		47.1	35.3	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
	2番目	2	8	1	1	1	2	0	1	0	1	0
		11.8	47.1	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0
	3番目	2	2	1	0	1	8	1	0	2	0	0
		11.8	11.8	5.9	0.0	5.9	47.1	5.9	0.0	11.8	0.0	0.0

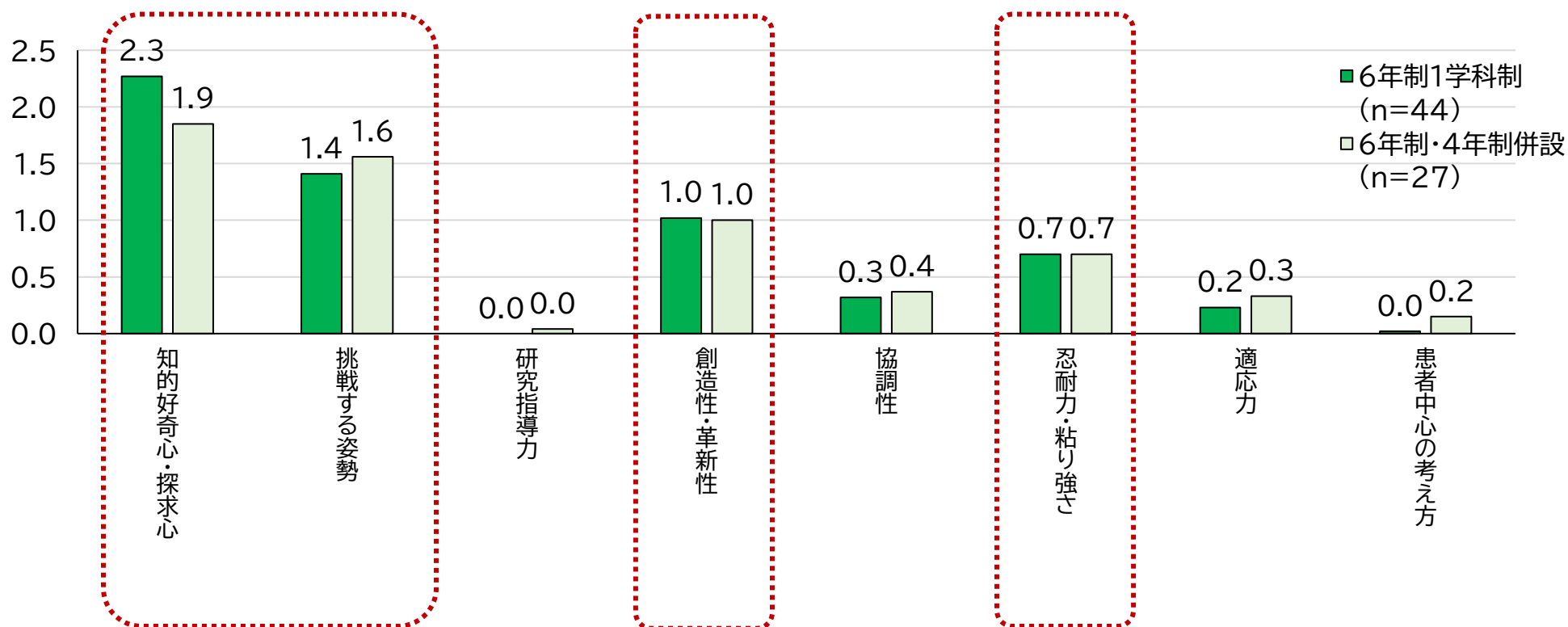
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(修業年限別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「知的的好奇心・探求心」と「挑戦する市施地」、「創造性・革新性」、「忍耐力・粘り強さ」が共通して高くなっています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q19)



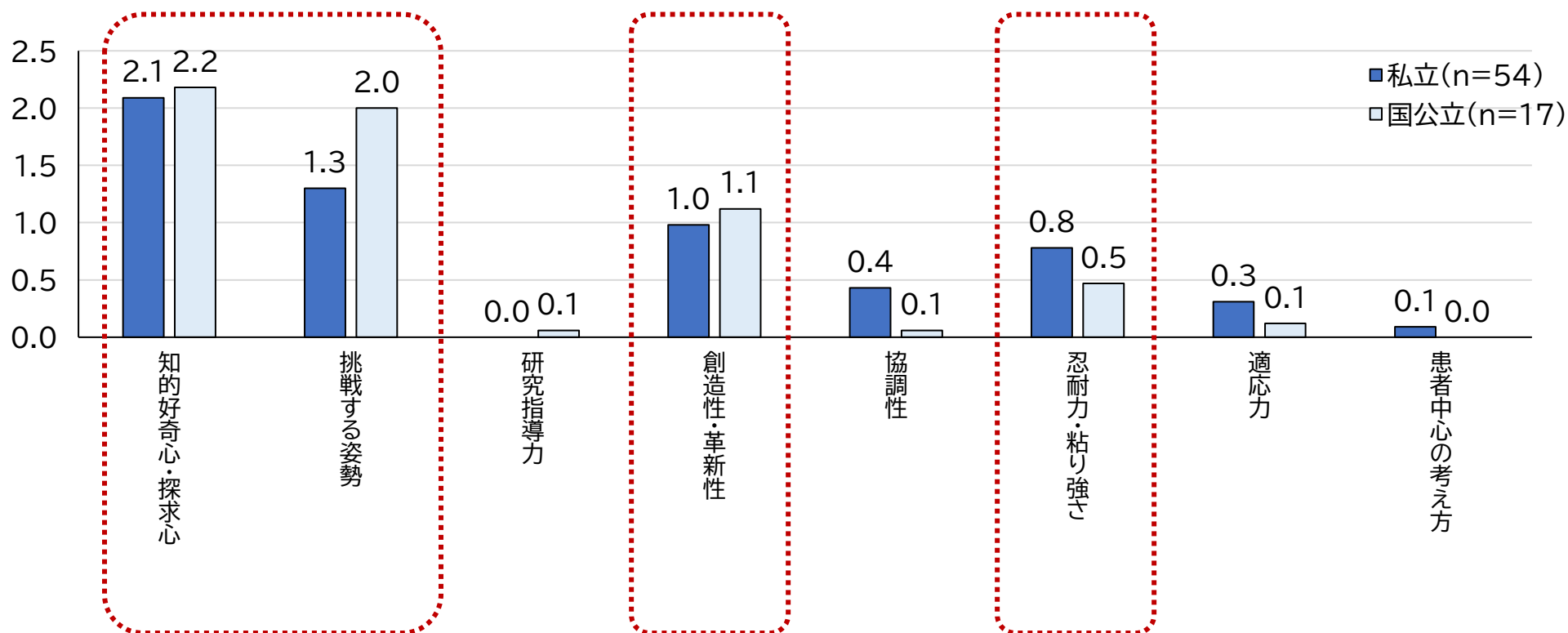
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「知的好奇心・探求心」と「挑戦する市施地」、「創造性・革新性」、「忍耐力・粘り強さ」が共通して高くなっています。
- ✓ 「挑戦する姿勢」は私立よりも「国公立」の方が高い傾向にあります。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q19)



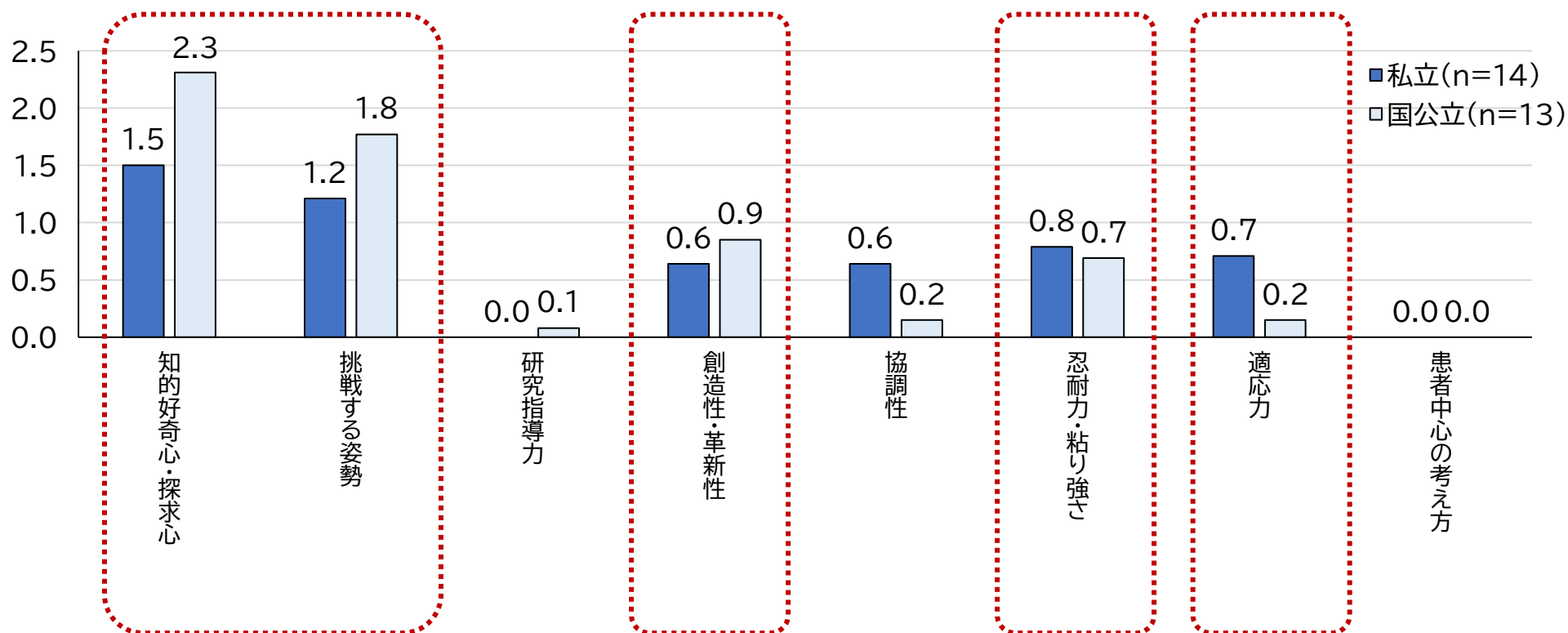
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 「知的好奇心・探求心」と「挑戦する市施地」、「創造性・革新性」、「忍耐力・粘り強さ」が共通して高くなっています。
- ✓ 「適応力」は国公立の方が強調している傾向にあります。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q41)



5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:姿勢・態度

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:姿勢・態度(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	研究指導力	創造性・革新性	協調性	忍耐力・粘り強さ	適応力	患者中心の考え方
6年制 1学科 制	1番目	29	7	0	5	1	2	0	0
		65.9	15.9	0.0	11.4	2.3	4.5	0.0	0.0
	2番目	6	17	0	11	3	3	4	0
		13.6	38.6	0.0	25.0	6.8	6.8	9.1	0.0
	3番目	1	7	0	8	5	19	2	1
		2.3	15.9	0.0	18.2	11.4	43.2	4.5	2.3
6年制 4年制 併設	1番目	11	5	0	6	3	2	0	0
		40.7	18.5	0.0	22.2	11.1	7.4	0.0	0.0
	2番目	6	11	0	2	0	3	4	1
		22.2	40.7	0.0	7.4	0.0	11.1	14.8	3.7
	3番目	5	5	1	5	1	7	1	2
		18.5	18.5	3.7	18.5	3.7	25.9	3.7	7.4

5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:姿勢・態度

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:姿勢・態度(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	研究指導力	創造性・革新性	協調性	忍耐力・粘り強さ	適応力	患者中心の考え方
私立	1番目	31	8	0	8	4	3	0	0
		57.4	14.8	0.0	14.8	7.4	5.6	0.0	0.0
	2番目	8	18	0	11	3	6	7	1
		14.8	33.3	0.0	20.4	5.6	11.1	13.0	1.9
	3番目	4	10	0	7	5	21	3	3
		7.4	18.5	0.0	13.0	9.3	38.9	5.6	5.6
国公立	1番目	9	4	0	3	0	1	0	0
		52.9	23.5	0.0	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0
	2番目	4	10	0	2	0	0	1	0
		23.5	58.8	0.0	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0
	3番目	2	2	1	6	1	5	0	0
		11.8	11.8	5.9	35.3	5.9	29.4	0.0	0.0

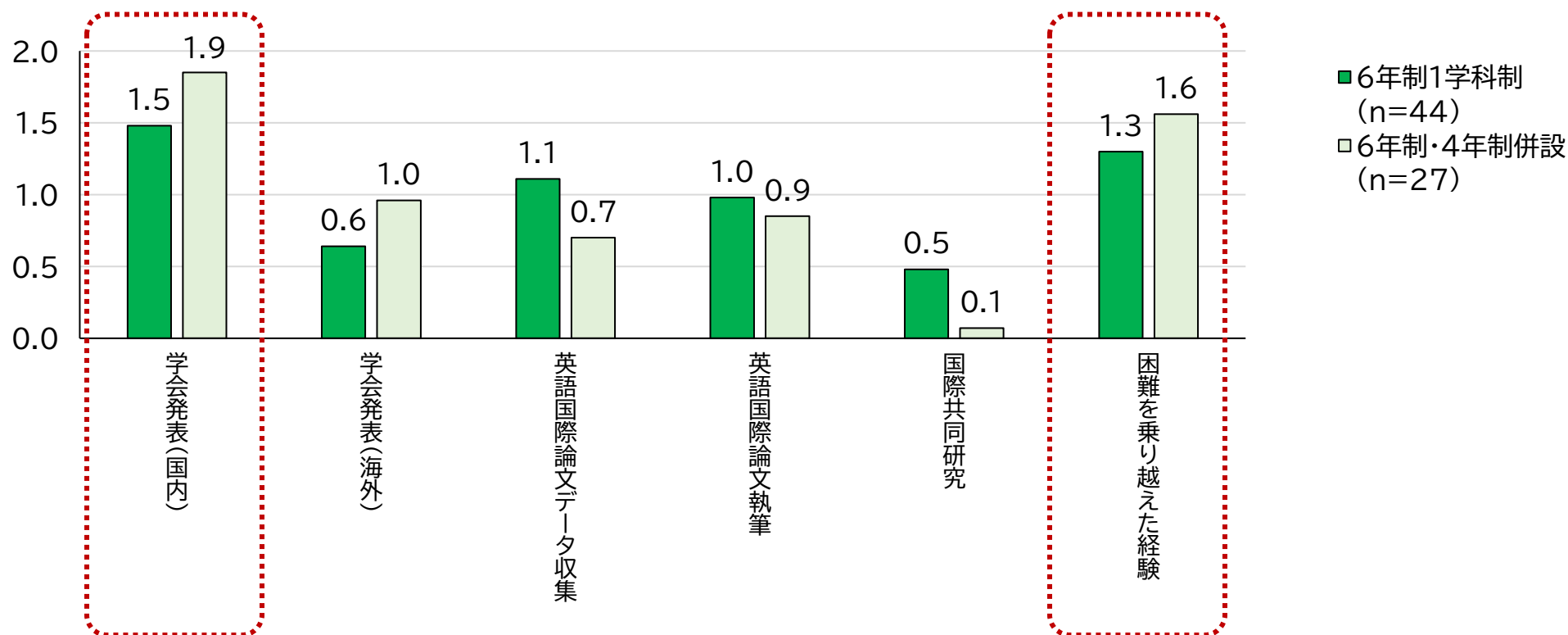
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(修業年限別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「学会発表（国内）」と「困難を乗り越えた経験」が共通して高くなっています。
- ✓ 6年制1学科制では「英語国際論文データ収集」が強調され、6年制・4年制併設では「学会発表（海外）」が強調されています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q19)



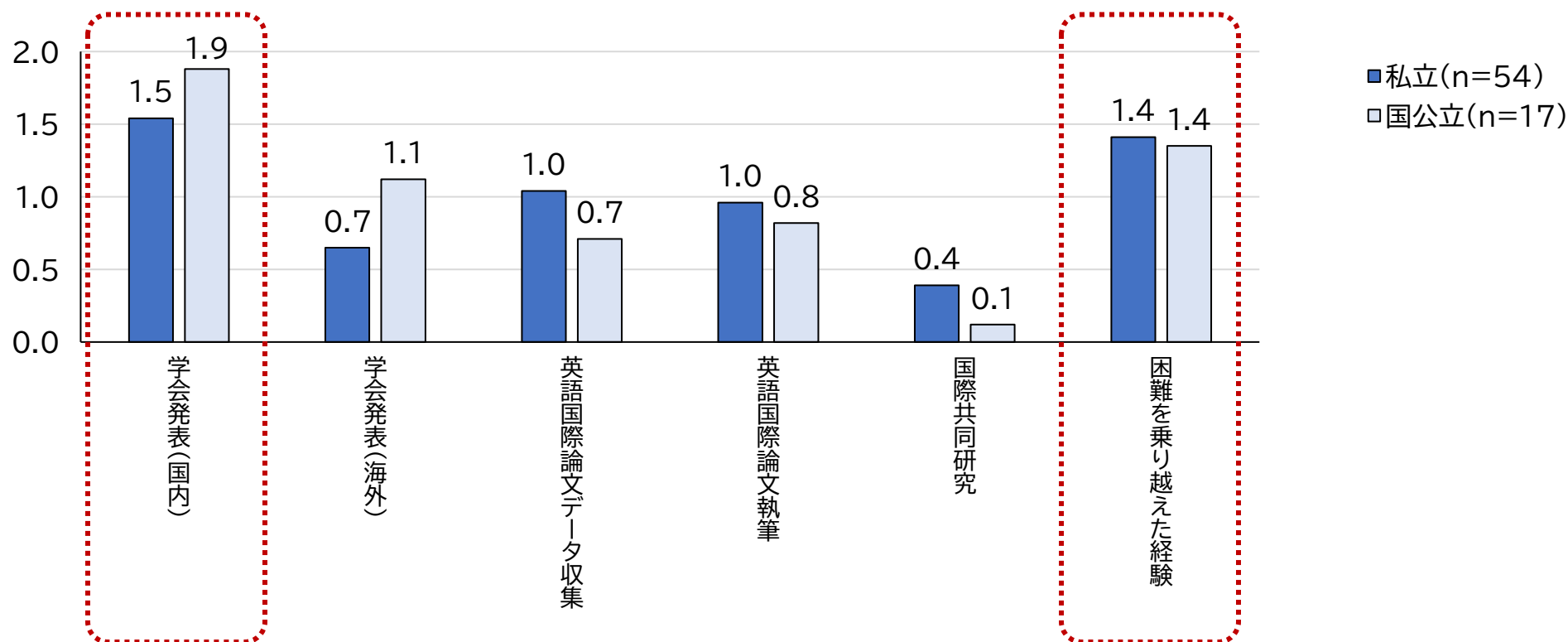
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「学会発表（国内）」と「困難を乗り越えた経験」が共通して高くなっています。
- ✓ 私立では「英語国際論文データ収集」や「英語国際論文執筆」が強調され、国公立では「学会発表（海外）」が強調されています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q19)



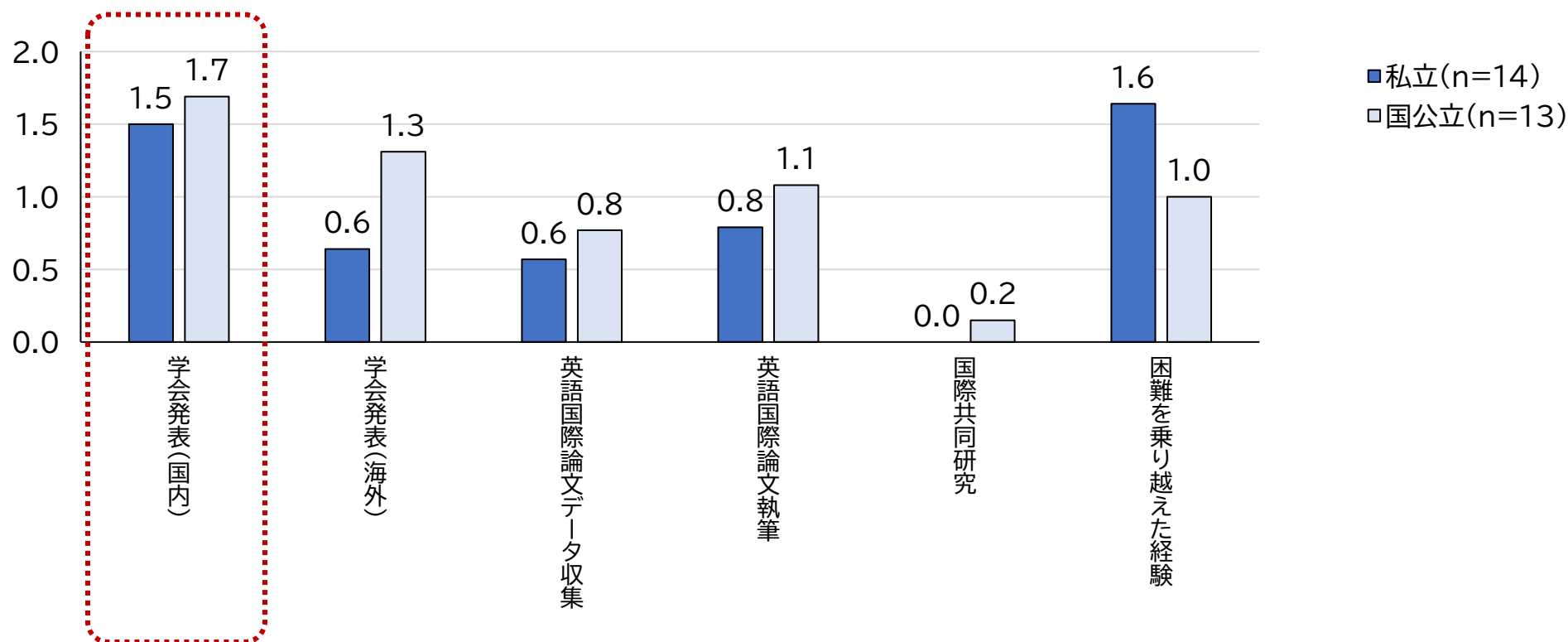
5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 「学会発表（国内）」が共通して高くなっています。
- ✓ 私立では「と「困難を乗り越えた経験」が強調され、国公立では「学会発表（海外）」が強調されています。

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q41)



5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:経験

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:経験(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文 データ収集	英語国際論文執 筆	国際共同研究	困難を乗り越え た経験
6年制 1学科 制	1番目	15	2	4	7	4	12
		34.1	4.5	9.1	15.9	9.1	27.3
	2番目	7	6	16	7	3	5
		15.9	13.6	36.4	15.9	6.8	11.4
	3番目	6	10	5	8	3	11
		13.6	22.7	11.4	18.2	6.8	25.0
6年制 4年制 併設	1番目	11	3	2	1	0	10
		40.7	11.1	7.4	3.7	0.0	37.0
	2番目	7	5	5	7	0	3
		25.9	18.5	18.5	25.9	0.0	11.1
	3番目	3	7	3	6	2	6
		11.1	25.9	11.1	22.2	7.4	22.2

5 創薬人材育成

創薬人材育成で強調したい点:経験

創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点:経験(Q19)

上段:回答件数 下段:割合

		学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文 データ収集	英語国際論文執 筆	国際共同研究	困難を乗り越え た経験
私立	1番目	19	2	5	7	4	17
		35.2	3.7	9.3	13.0	7.4	31.5
	2番目	9	8	18	10	3	6
		16.7	14.8	33.3	18.5	5.6	11.1
	3番目	8	13	5	11	3	13
		14.8	24.1	9.3	20.4	5.6	24.1
国公立	1番目	7	3	1	1	0	5
		41.2	17.6	5.9	5.9	0.0	29.4
	2番目	5	3	3	4	0	2
		29.4	17.6	17.6	23.5	0.0	11.8
	3番目	1	4	3	3	2	4
		5.9	23.5	17.6	17.6	11.8	23.5

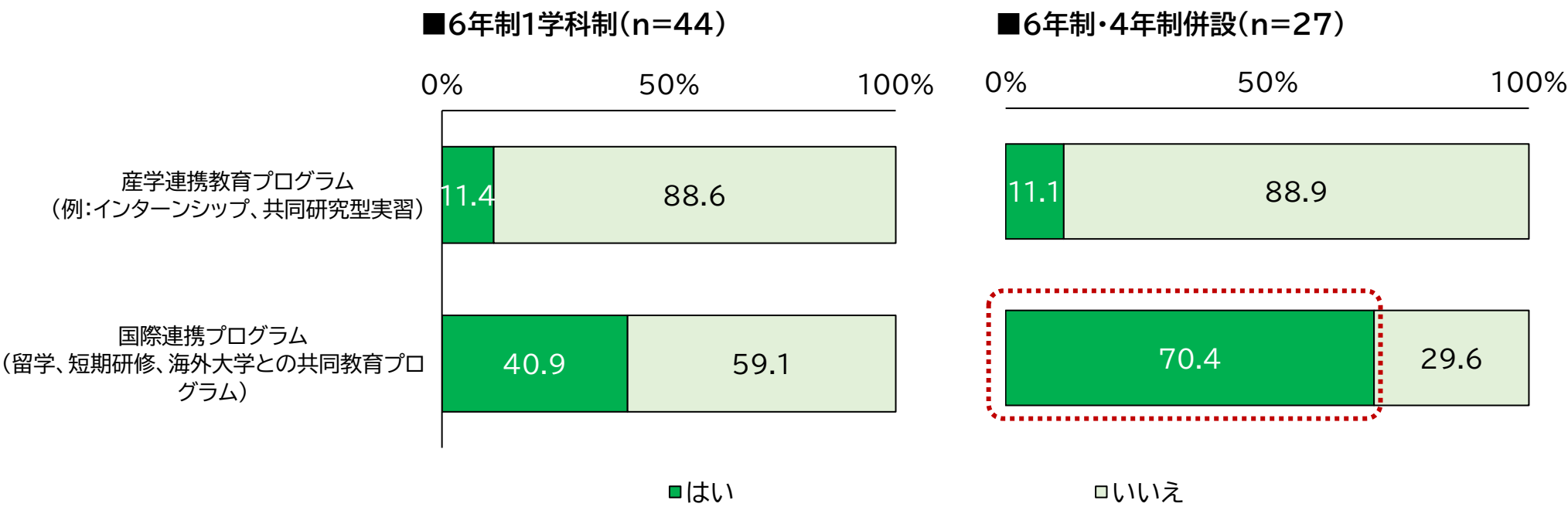
6 連携プログラム

プログラムの有無(修業年限別)【6年制課程について】

Point

✓ 産業連携教育プログラムはあまり実施されておらず、国際連携プログラムは特に6年制・4年制併設の大学で実施されています。

各種研究室の有無(Q20～)



6 連携プログラム

プログラムの有無(学校種別)

Point

✓ 産業連携教育プログラムはあまり実施されておらず、国際連携プログラムは特に国公立の大学では7割以上が実施しています。

各種研究室の有無(6年制課程:Q20・22)

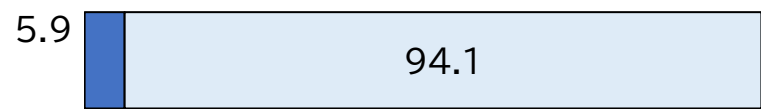
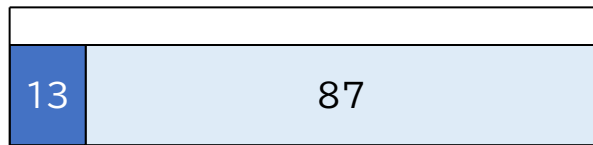
■私立(n=54)

■国公立(n=17)

0% 50% 100%

0% 50% 100%

産学連携教育プログラム
(例:インターンシップ、共同研究型実習)



国際連携プログラム
(留学、短期研修、海外大学との共同教育プログラム)



各種研究室の有無(4年制課程:Q42・44)

■はい

□いいえ

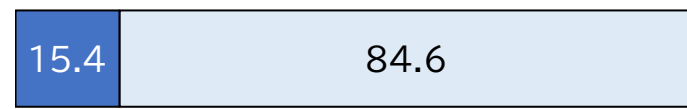
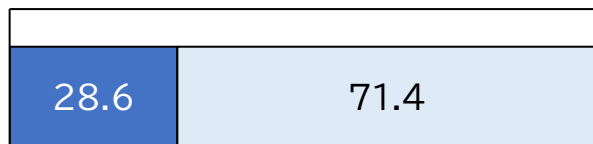
■私立(n=14)

■国公立(n=13)

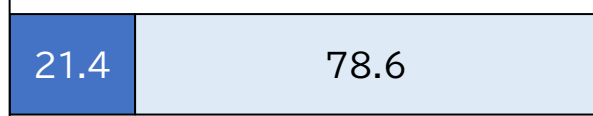
0% 50% 100%

0% 50% 100%

産学連携教育プログラム
(例:インターンシップ、共同研究型実習)



国際連携プログラム
(留学、短期研修、海外大学との共同教育プログラム)



6 連携プログラム

産業連携教育プログラムの内容

Q21 産学連携教育プログラム(6年制課程)	
連携形態、内容	期間
参加型学習	
製薬企業へのインターンシップ	1週間
地元職能団体と共催で有資格者対象の研修プログラム	
企業にて研修	5日間
企業とのインターンシップ	1週間
講義・実習の一部を教員とともに担当いただく	
地域医療の課題解決	10月～3月
大学推薦型「就業体験学習」を企業約40社と提携して開催	企業側の裁量で決定

Q43 産学連携教育プログラム(4年制課程)	
連携形態、内容	期間
製薬企業見学(早期体験)	
複数の製薬企業の工場を見学	
インターンシップを通年授業として、夏インターン、秋冬インターンへの参加を促している	
企業にて研修	5日間
	通年
大学推薦型「就業体験学習」を企業約40社と提携して開催	企業側の裁量で決定

6 連携プログラム

国際連携プログラムの内容

Q23 国際連携プログラム	
国	派遣先
アメリカ	南カリフォルニア大学、ケンタッキー大学、マーサ大学、テネシー大学、オルバニー薬科大学、ニューメキシコ大学、サンフォード大学、アリゾナ大学、ノースカロライナ大学、ハワイ大学、アイオワ大学、フロリダ大学、カリフォルニア大学デイビス校、イリノイ大学
カナダ	アルバータ州立大学、ヴィクトリア大学、トロント大学附属 SickKids病院、CCEL語学学校
イギリス	ポーツマス大学、オックスフォード大学、マンチェスター大学、ハートフォードシャー大学
アイルランド	アイルランド王立外科医学院、アイルランド国立大学ダブリン校
香港	香港科学技術大学、香港中文大学
台湾	国立台中科技大学、台北医学大学
タイ	マヒドン大学、マハサラカム大学、シーナカリンウィロート大学、チュラロンコーン大学、コンケン大学
韓国	成均館大学
オーストリア	ディーキン大学
フィリピン	デラサールアラネタ大学附属語学学校
スイス	バーゼル大学
ドイツ	フライブルク大学
フランス	リヨン大学
イタリア	ミラノ大学

Q45 国際連携プログラム	
国	派遣先
カナダ	ヴィクトリア大学、CCEL語学学校
イギリス	オックスフォード大学、マンチェスター大学
香港	台北医学大学
タイ	コンケン大学
韓国	成均館大学
オーストリア	ディーキン大学
フィリピン	デラサールアラネタ大学附属語学学校
スイス	バーゼル大学

7 大学卒業後の進路

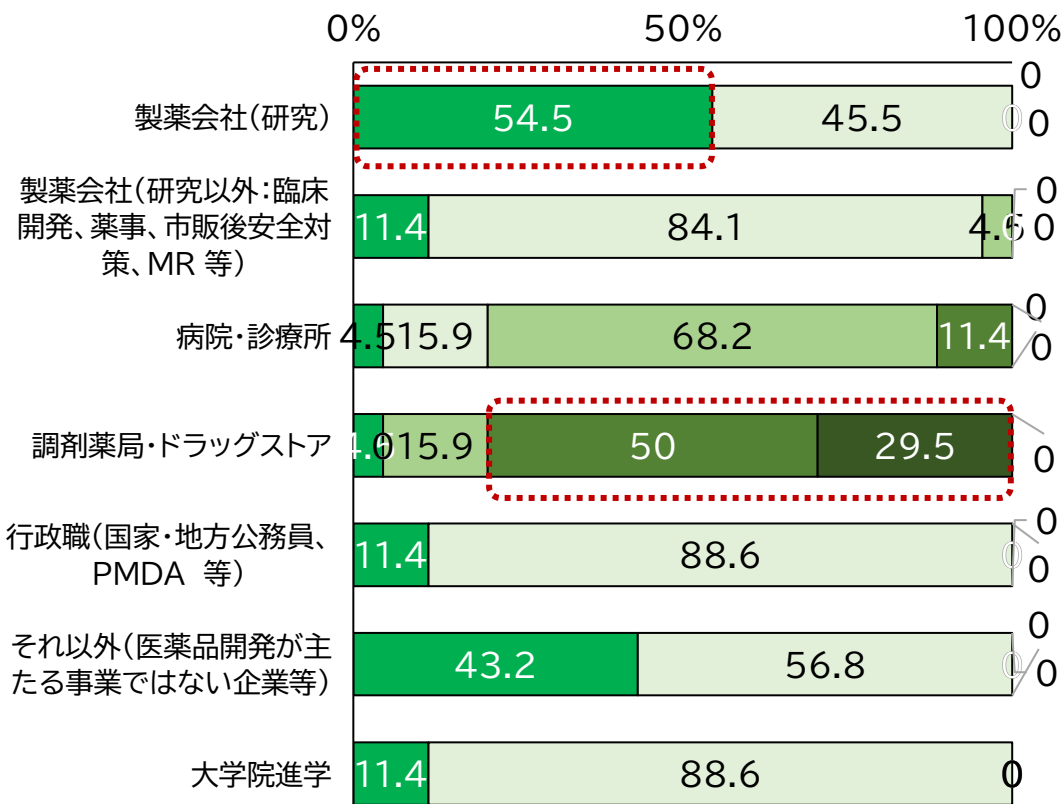
卒業生の進路実績(就業年限)【6年制課程について】

Point

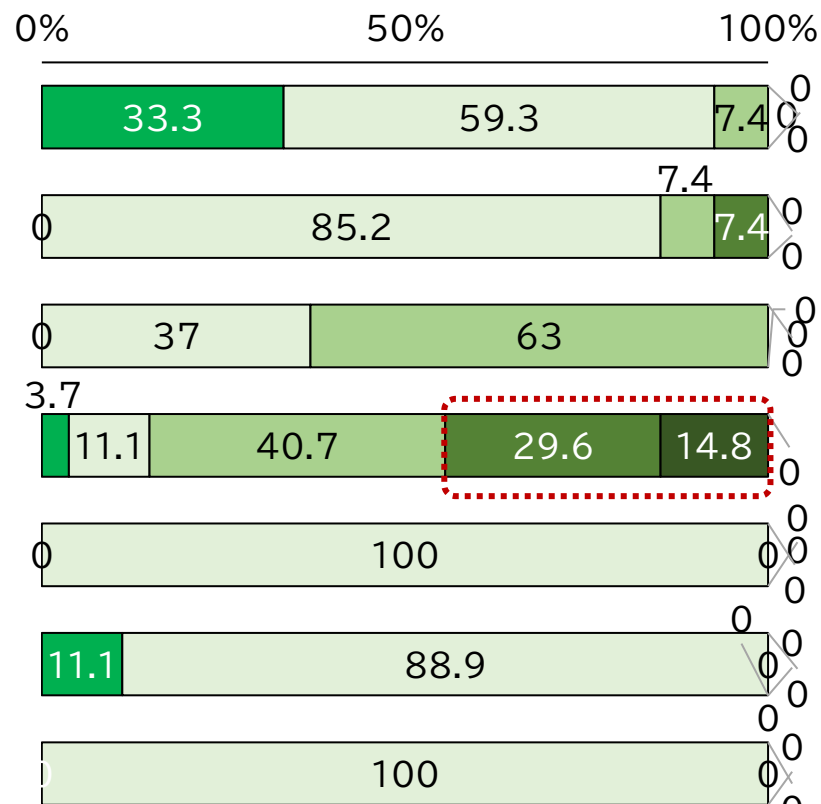
- ✓ 修業年限に関わらず「調剤薬局・ドラッグストア」では「40～60%」や「60～80%」の割合が高くなっています。
- ✓ 6年制1学科制では、「製薬会社（研究）」が「0%」である大学が53.8%と他に比べて高くなっています。

創卒業生の進路実績(Q24)

■6年制1学科制(n=44)



■6年制・4年制併設(n=27)



■0% □1~20%未満 ■20~40%未満 ■40~60%未満 ■60~80%未満 ■80%以上

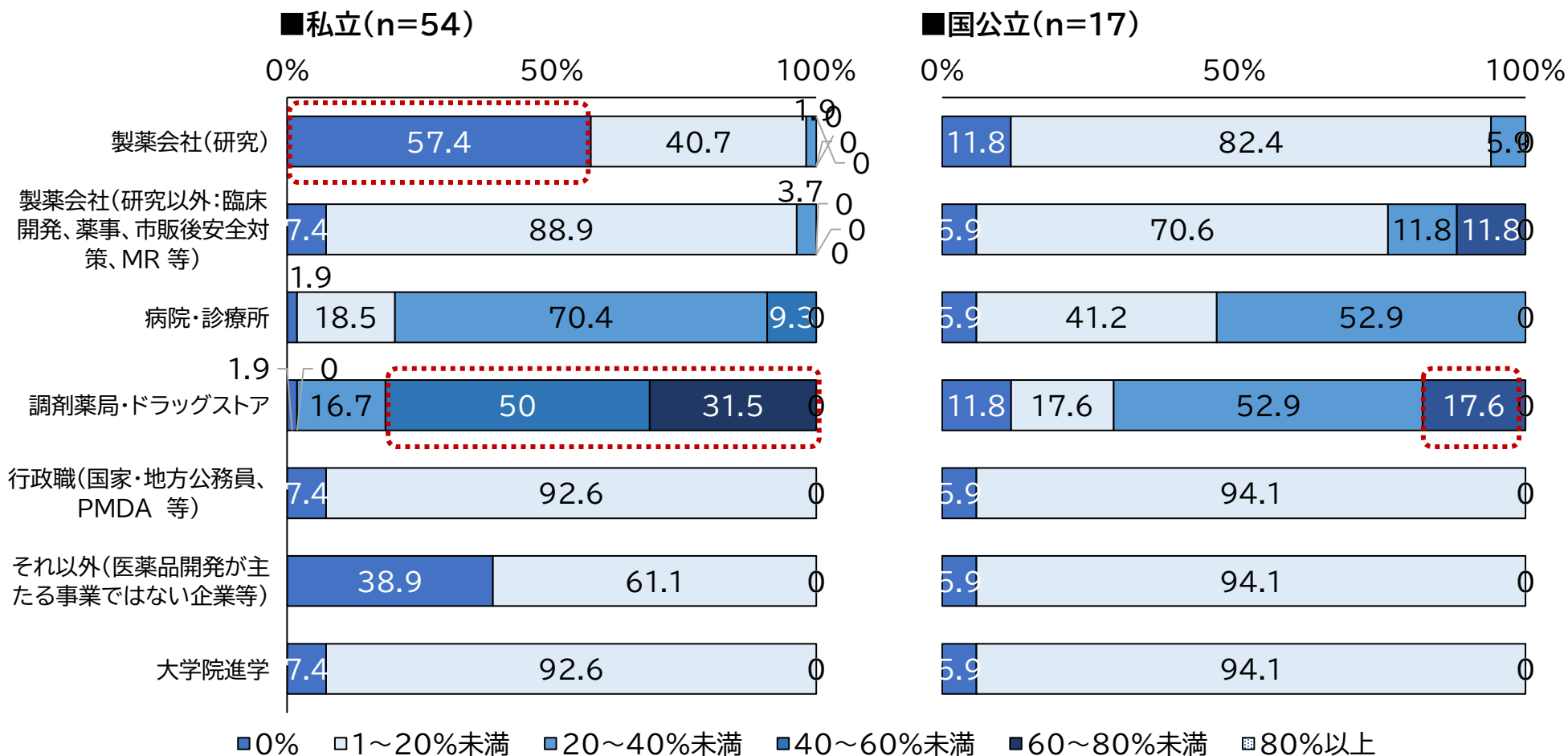
7 大学卒業後の進路

卒業生の進路実績(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「調剤薬局・ドラッグストア」について、私立では「40～60%」と「60～80%」の割合が高くなっています。
- ✓ 私立では、「製薬会社（研究）」が「0%」である大学が57.1%と他に比べて高くなっています。

卒業生の進路実績(Q24)



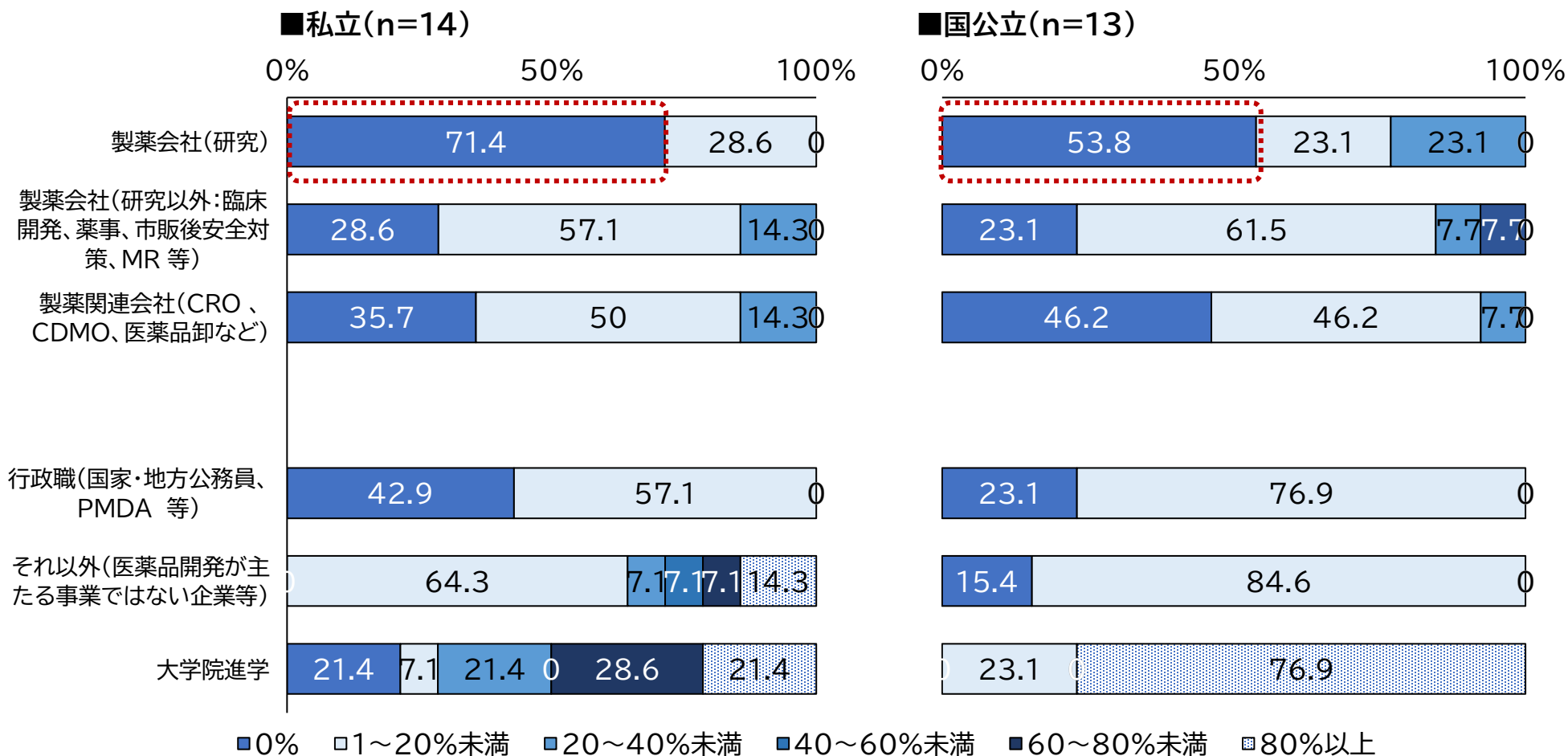
7 大学卒業後の進路

卒業生の進路実績(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 私立では、大学院進学で「60～80%」が28.6%と高くなっています。
- ✓ 学校種別に関わらず、「製薬会社（研究）」が「0%」である大学が他に比べて高くなっています。

卒業生の進路実績(Q46)



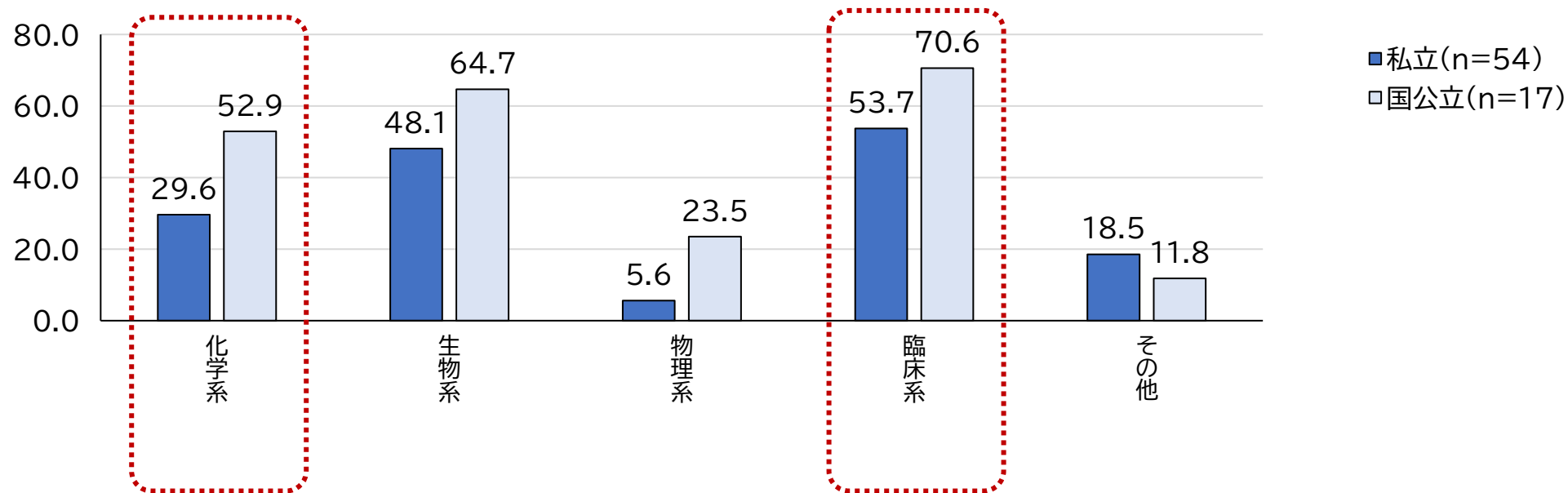
7 大学卒業後の進路

大学院に進学する割合(学校種別)【6年制課程について】

Point

- ✓ 「臨床系」が共通して高くなっています。
- ✓ 私立の大学に比べて国公立の大学は「化学系」「生物系」「物理系」の割合が高くなっています。

大学院に進学する割合が相対的に多い研究分野はどれですか(Q25)



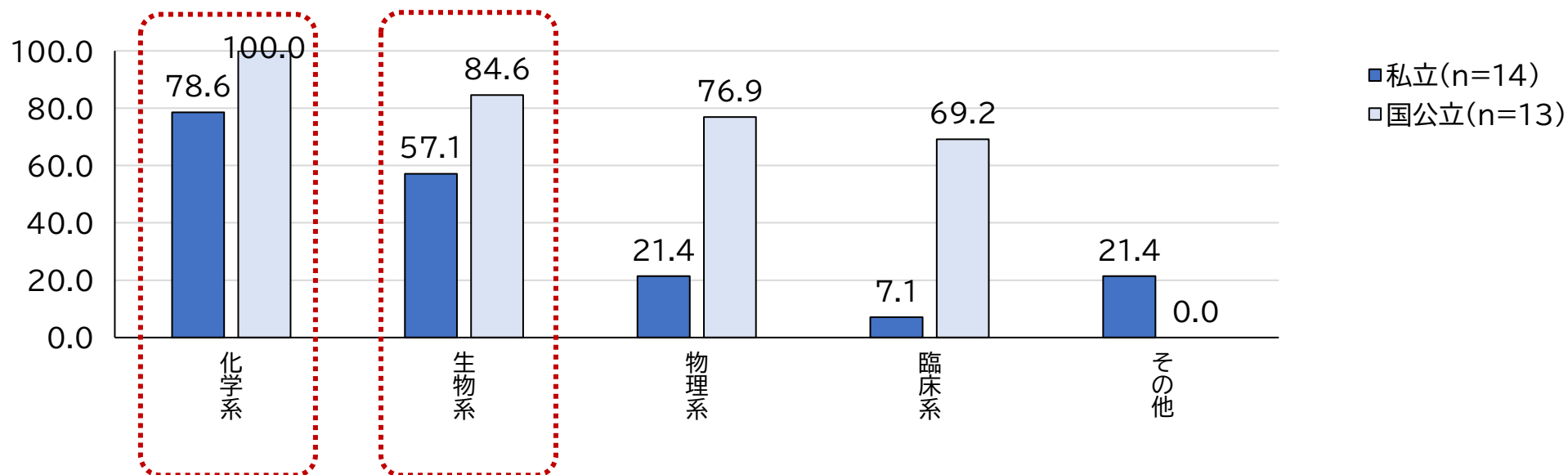
7 大学卒業後の進路

大学院に進学する割合(学校種別)【4年制課程について】

Point

- ✓ 「臨床系」と「生物系」が共通して高くなっています。
- ✓ 私立の大学に比べて国公立の大学は「物理系」「臨床系」の割合が高くなっています。

大学院に進学する割合が相対的に多い研究分野はどれですか(Q47)



Ⅱ 一般アンケート

1 調査概要

調査概要

1 本調査の目的

本研究は、薬学部および大学院における教育を刷新し、日本の創薬力強化に直結する革新的教育プログラムを構築することを目的としています。その第一歩として、製薬企業、治験実施機関、省庁、国立研究機関、薬系大学など、創薬に関わる幅広い立場の方々を対象とするアンケート調査を通じて、現在の薬学教育に必要な学修事項を明らかにすることを目指します。

2 調査対象と回収結果

	回収数
製薬会社	201
臨床試験支援企業	81
非臨床試験受託企業	15
医薬品製造受託企業	4
病院	36
行政など	116
国公私立大学薬学部	698
大学(薬学部以外)	22
合計	1,173

3 調査方法

メールによる調査配信とインターネット回答

4 調査期間

2025年11月4日（火）～11月25日（火）

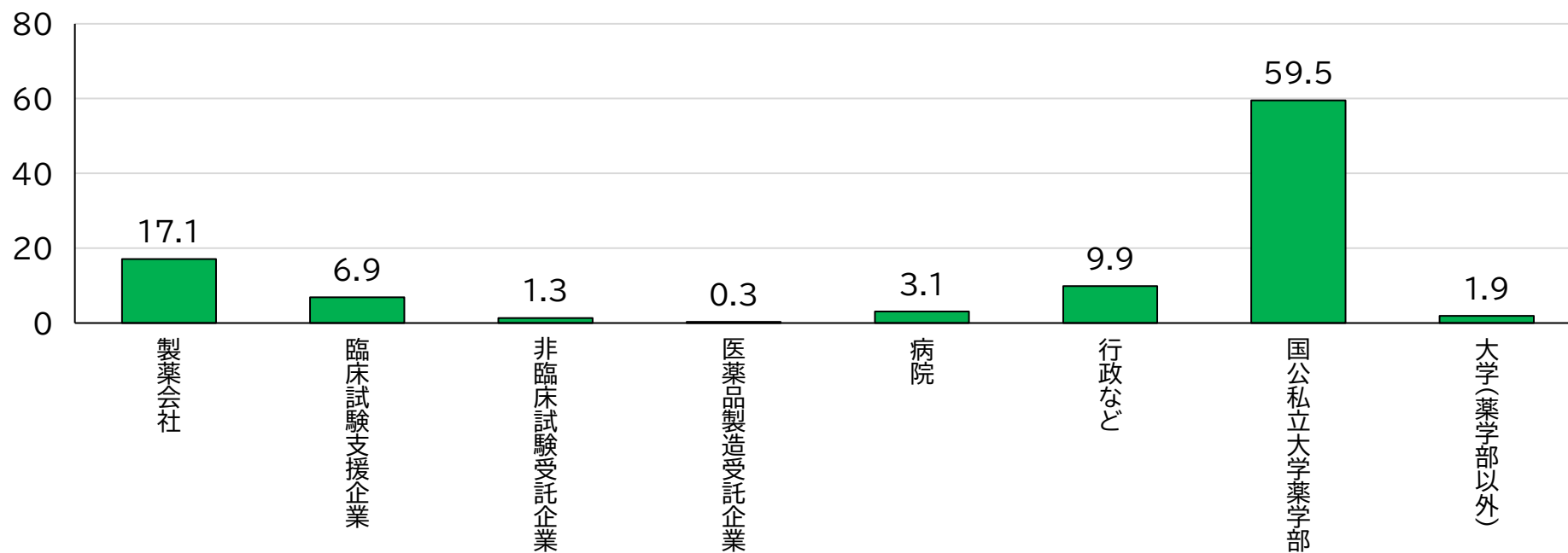
2 回答者の属性

回答者の属性

Point

- ✓ 回答者は、国公立大学薬学部が59.5%、製薬会社が17.1%、臨床試験支援企業が6.9%となっています。

回答者の所属(Q3)



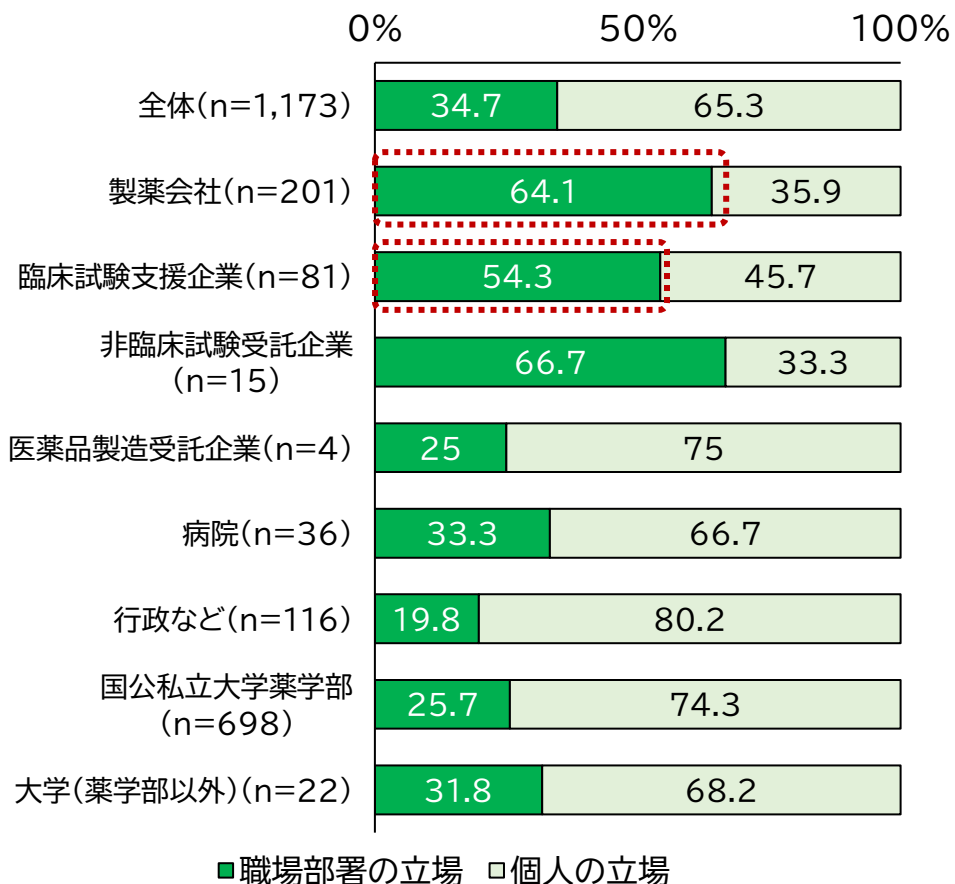
2 回答者の属性

回答者の属性

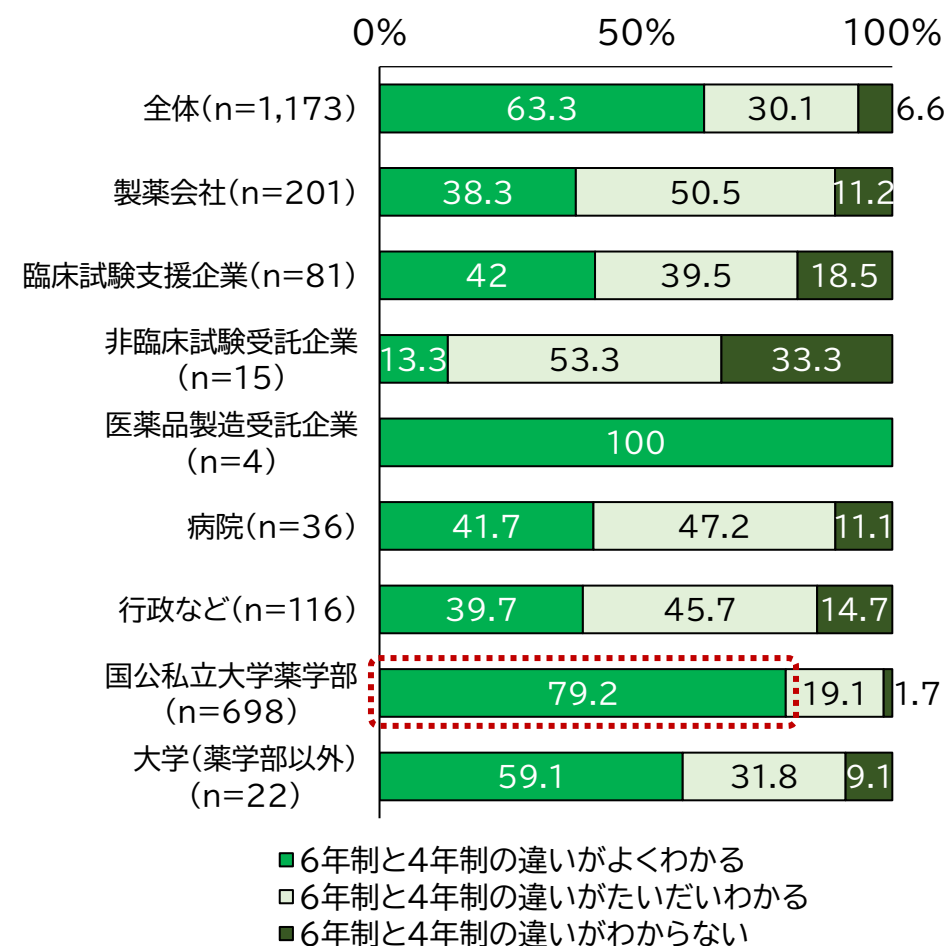
Point

- ✓ 全体としては、「個人の立場」で回答しているのが65.3%と多くをしていますが、製薬会社や臨床試験支援企業、非臨床試験受託企業では、「職場部署の立場」が半数以上を占めています。
- ✓ 6年制と4年制の違いについては、「よくわかる」の割合が全体で63.3%となっていますが、国公立大学薬学部で79.2%と高く、他の機関では、およそ4割となっています。

回答者の立場(Q3)



回答者の立場(Q3)



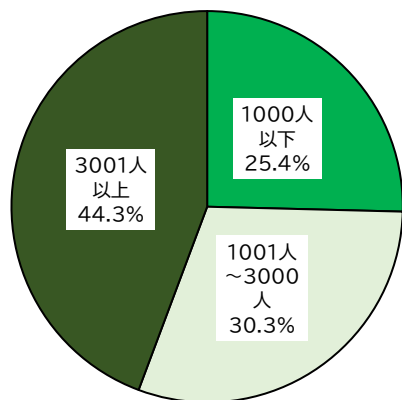
2 回答者の属性

製薬会社の属性

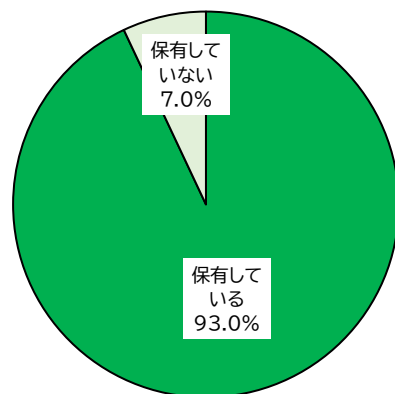
Point

- ✓ 製薬会社は「3001人以上」が44.3%、「1001人～3000人」が30.3%、「1000人以下」が25.4%となっています。
- ✓ 国内研究所は「保有している」が93.0%と多くを占めています。
- ✓ 所属する部署は、「創薬研究」が20.9%、「信頼性保証」が16.9%、「臨床開発」が16.9%と高くなっています。

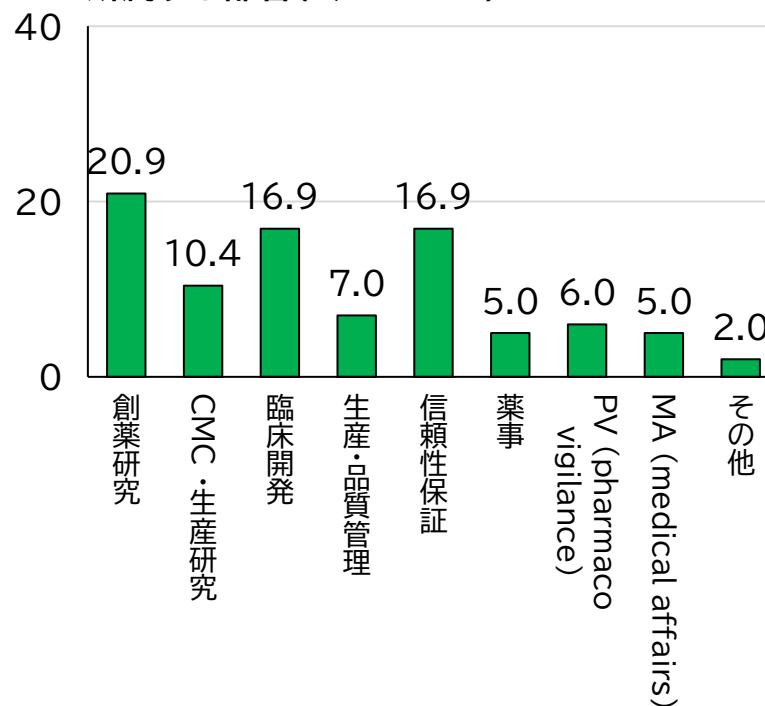
従業員数(Q3-1-1)



国内研究所の保有(Q3-1-2)



所属する部署(Q3-1-3)



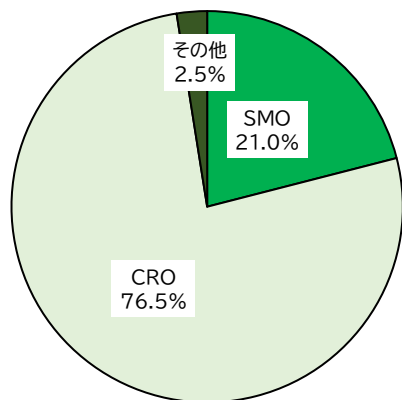
2 回答者の属性

製薬会社以外の属性

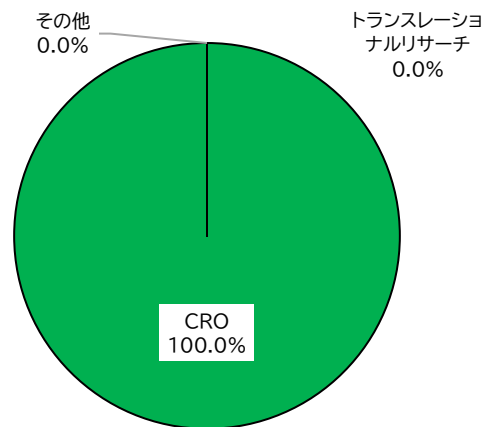
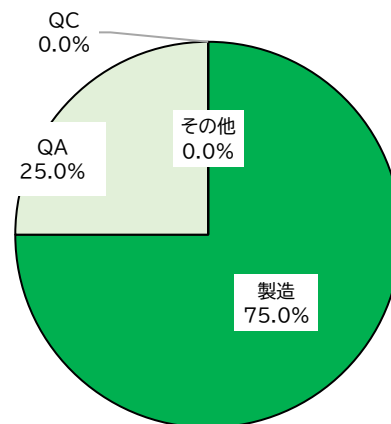
Point

- ✓ 臨床試験支援企業は「CRO」が76.5%、非臨床試験受託企業は「CRO」の所属が100.0%となっています。
- ✓ 医療品製造受託企業は、「製造」が75.0%、病院は「治験担当部」が66.6%となっています。

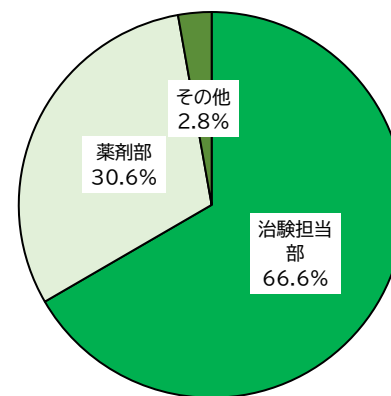
臨床試験支援企業の所属(Q3-2)



医薬品製造受託企業の所属(Q3-4)



非臨床試験受託企業の所属(Q3-3)



病院の所属(Q3-5)

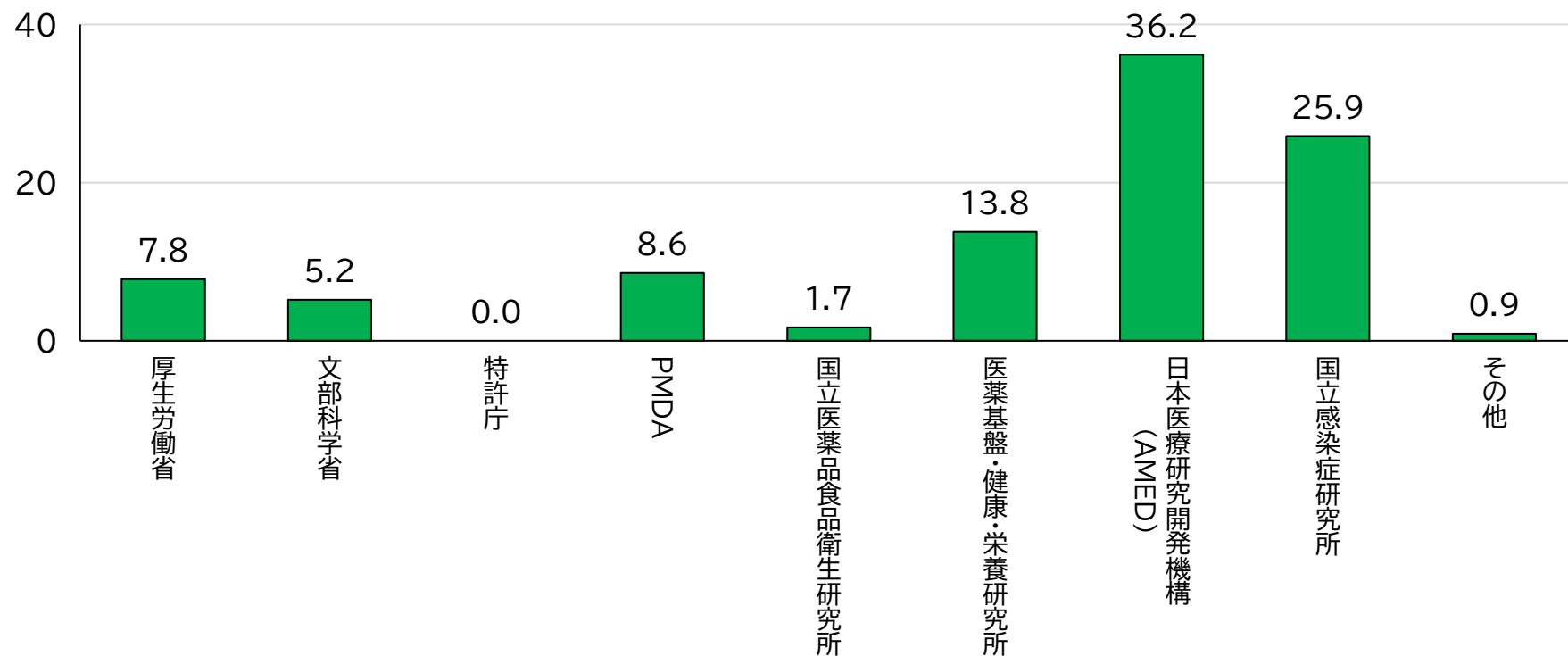
2 回答者の属性

行政の属性

Point

- ✓ 行政と回答した人の所属は、「日本医療研究開発機構（AMED）」が36.2%、国立感染症研究所が25.9%、「医薬基盤・健康・栄養研究所」が13.8%となっています。

行政(Q3-6)



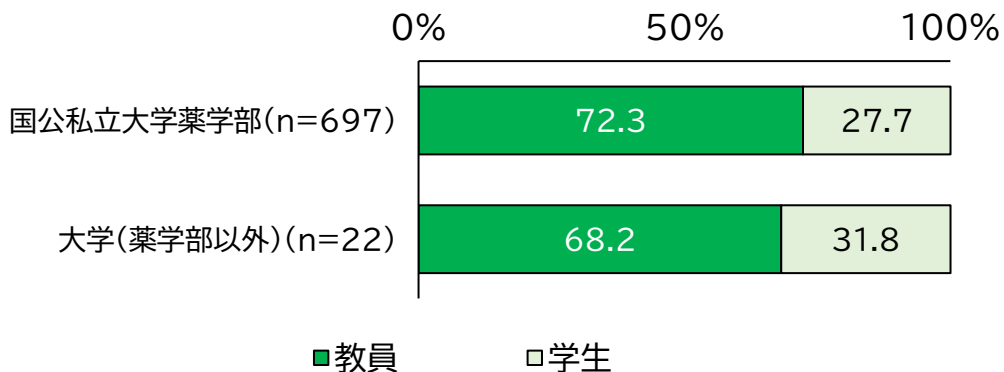
2 回答者の属性

大学の属性

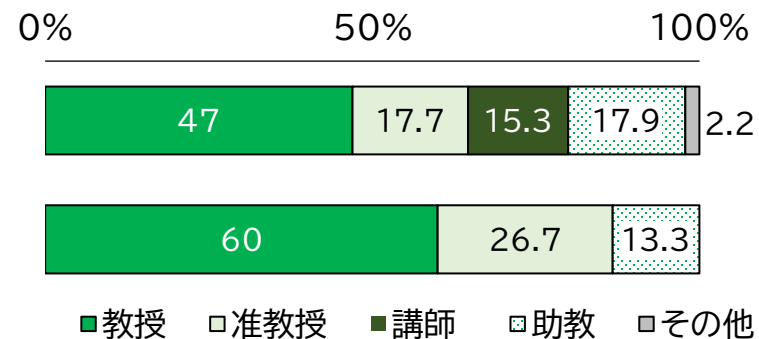
Point

- ✓ 大学に所属していると回答した人（国立私立大学薬学部・大学（薬学部以外））は「教員」がおよそ7割となっている。また、その中で「教授」が多くを占めています。

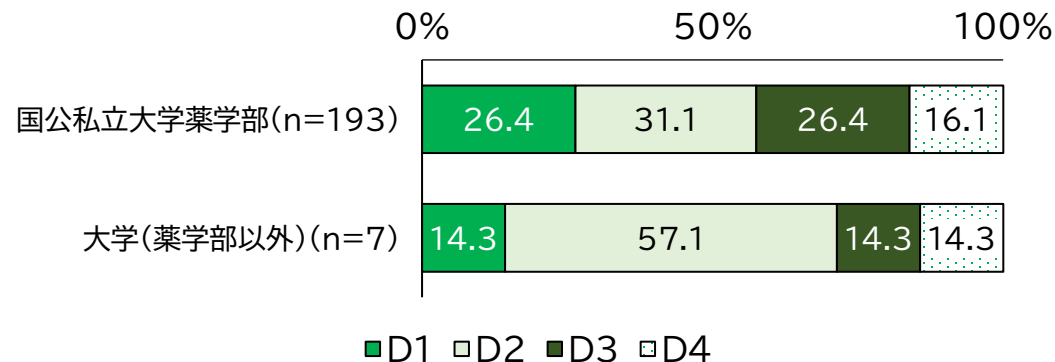
大学:立場(Q3-2)



大学教員:肩書(Q3-1-2)



大学学生:学年(Q3-1-2)



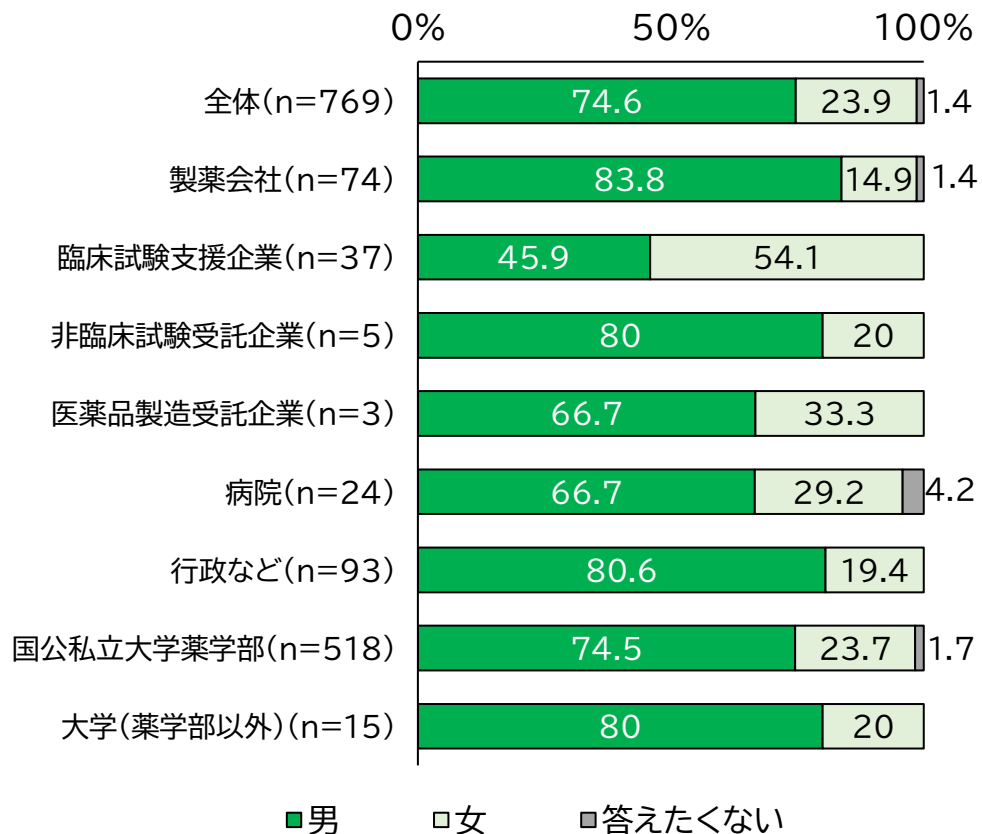
2 回答者の属性

所属別の構成要素

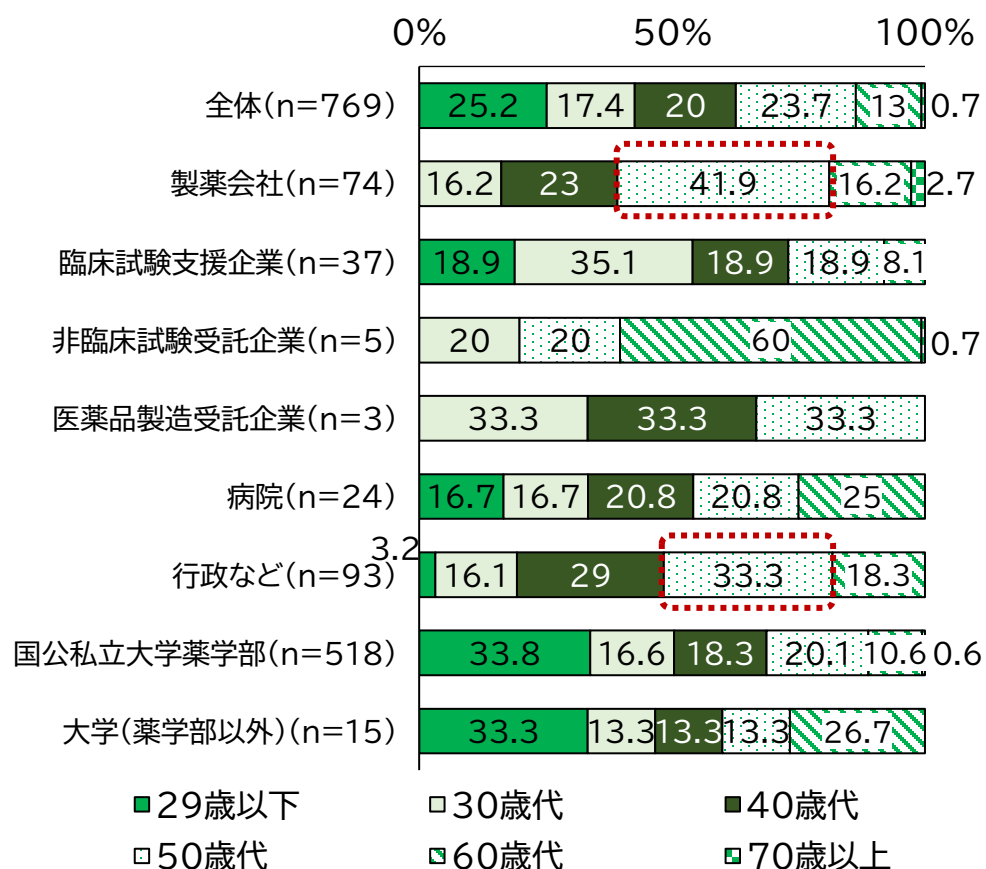
Point

- ✓ 臨床試験支援企業を除いて、すべての機関で回答者は「男」の割合が高くなっています。
- ✓ 年齢については、製薬会社及び行政などでは「29歳以下」が少なく、「50歳代」が多くなっています。

■性別(Q4)



■年齢層(Q5)



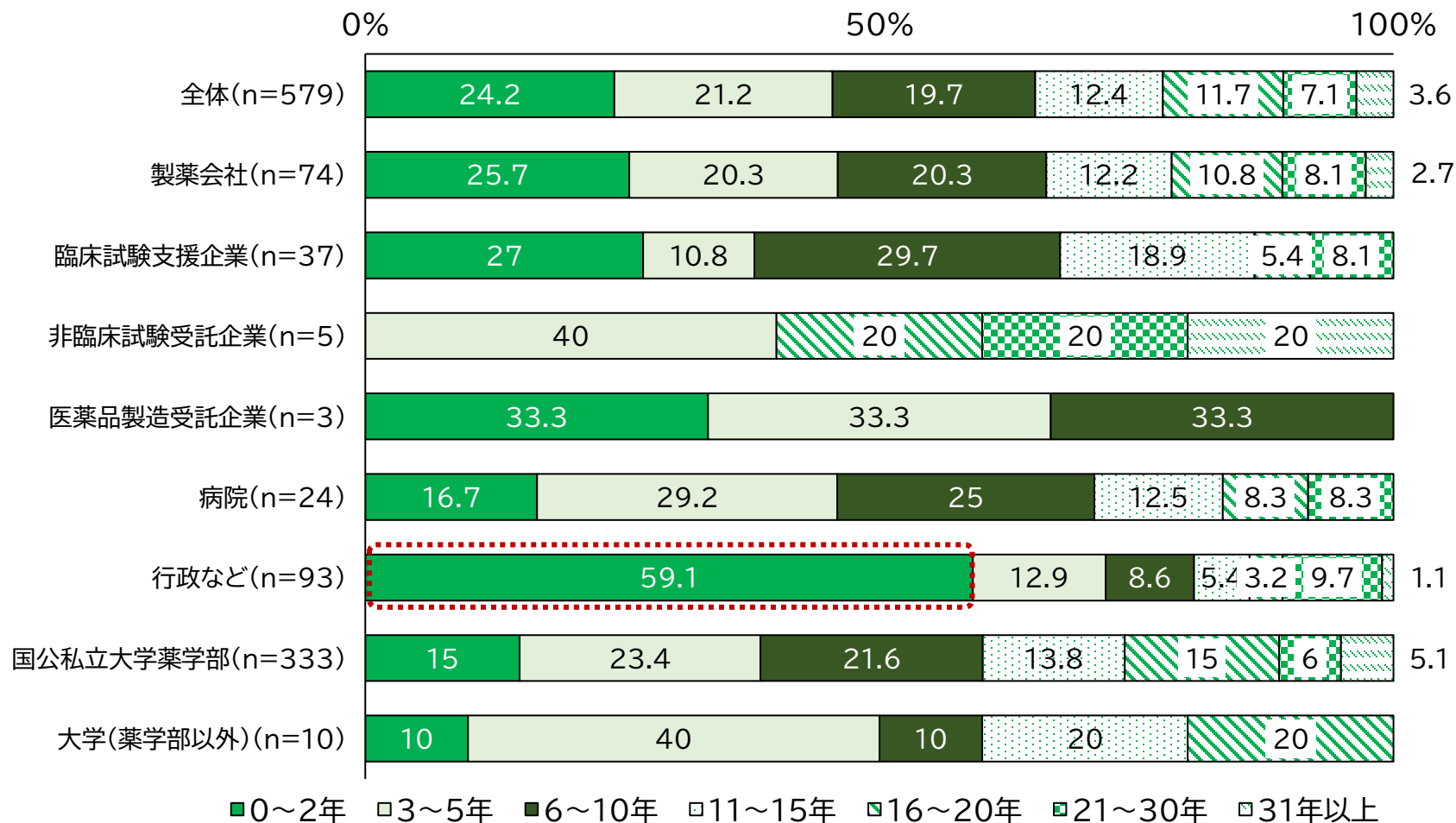
2 回答者の属性

所属別の構成要素

Point

- ✓ 行政は、経験年数が「0～2年」が59.1%と短い人が多くなっています。
- ✓ 全体的に、10年未満がおよそ6割を占めています。

■現在の部署の経験年数(Q6)



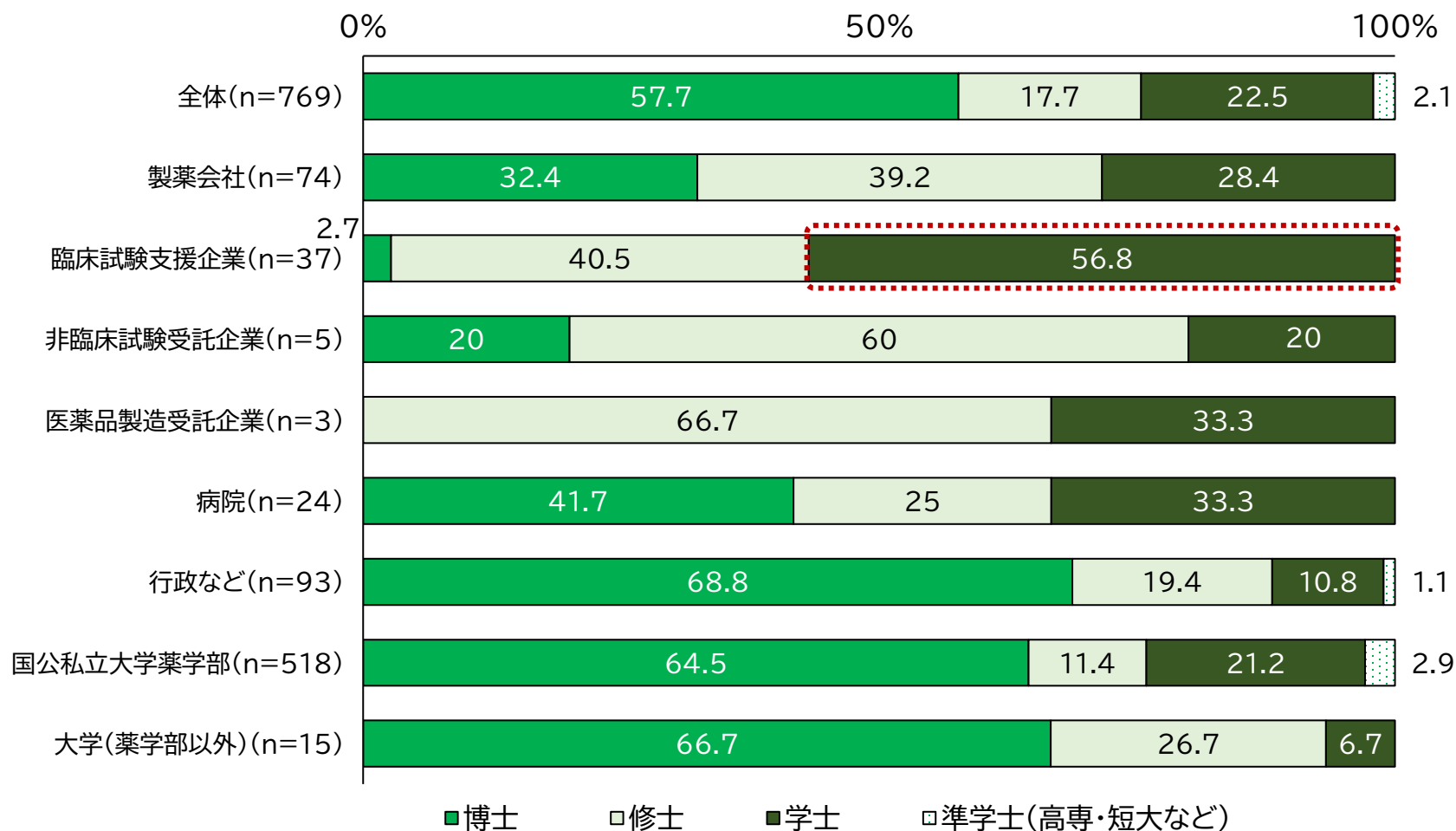
2 回答者の属性

所属別の構成要素

Point

✓ 回答者の学位は「博士」が多くを占めているが、臨床試験支援企業は、56.8%が「学士」となっています。

■回答者の学位(Q7)



2 回答者の属性

所属別の構成要素

Point

- ✓ 専門分野は、「薬学（４年制）」が占める割合が高くなっています。
- ✓ 行政では「医学」が17.2%、理学が12.5%と他が占める割合も高くなっています。

■回答者の専門分野(Q7-1～Q7-2)

	薬学 (４年制)	薬学 (３年制旧カリキュラム)	薬科学 (３年制)	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学	その他
全体(n=444)	45.7	15.5	7.9	9.5	0.9	0.7	7	4.7	2.9	5.2
製薬会社(n=24)	75	0	0	4.2	0	0	4.2	4.2	8.3	4.2
病院(n=10)	40	10	10	40	0	0	0	0	0	0
行政など(n=64)	37.5	3.1	1.6	17.2	4.7	4.7	12.5	6.3	4.7	7.8
国公私立大学薬学部 (n=334)	46.1	19.2	9.6	7.5	0.3	0	6.3	4.2	2.1	4.8
大学(薬学部以外)(n=10)	20	20	0	10	0	0	10	20	10	10

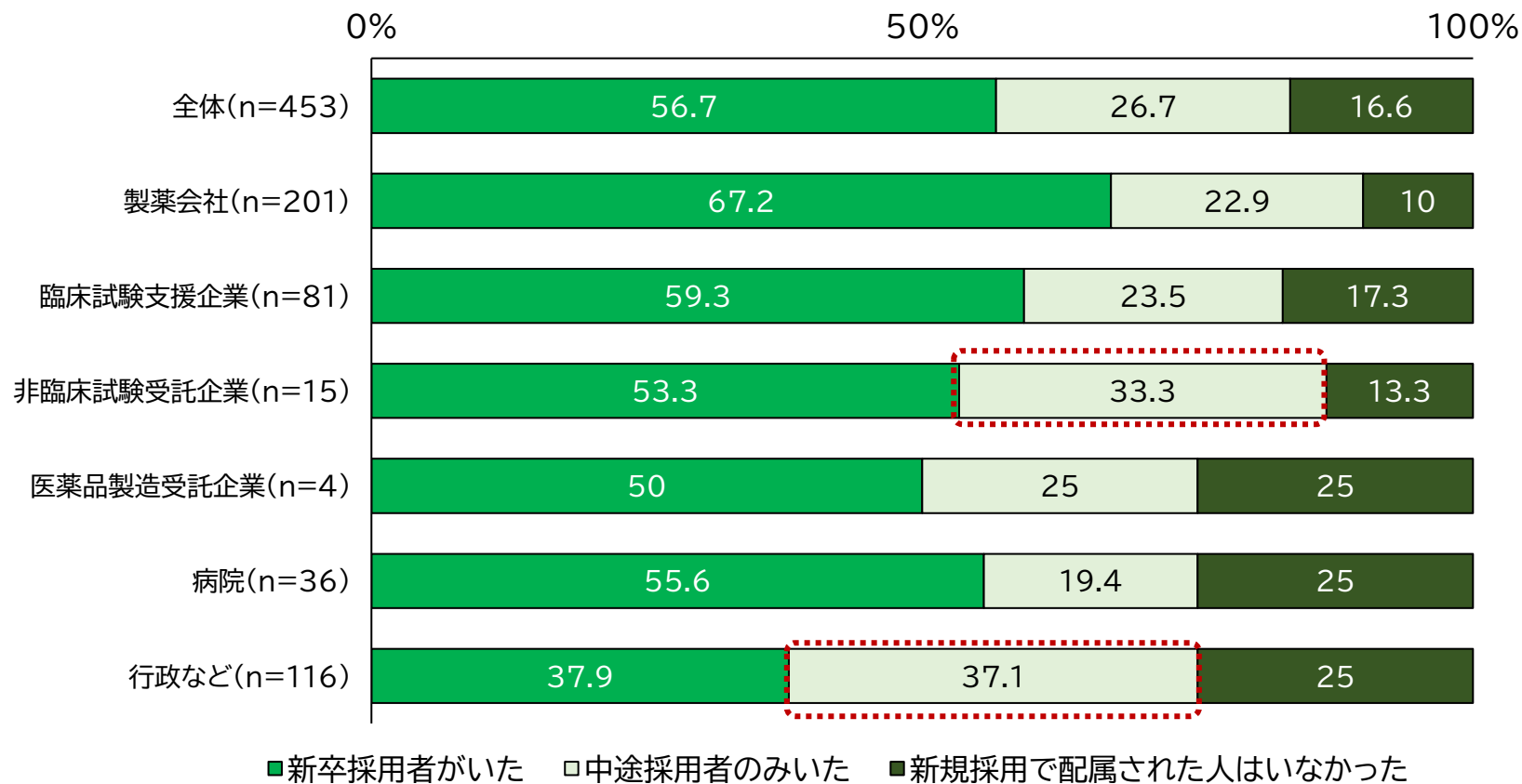
3 職場

職場における配属状況

Point

- ✓ 行政などを除いて、「新卒採用者がいた」は5割以上を占めています。
- ✓ 行政などと、非臨床試験受託企業では「中途採用者のみいた」が3割以上となっています。

■過去5年での新卒採用者の有無(Q10)



4 採用者

採用者の学位(所属別)

Point

- ✓ 新卒採用者の最終学位について、製薬会社では、新卒・中途に関わらず「修士（薬学）」、「学士（薬学）」、「修士（理学）」、「博士（薬学）」の順番に多く、傾向に大きな違いはありません。

採用者の最終学位(総合得点)(Q11)

	新卒採用者					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社(n=181)	修士(薬学)	学士(薬学 (6年制))	修士(理学)	博士(薬学)	修士(工学)	修士(薬学)	学士(薬学 (4年制))	修士(理学)	博士(薬学)	学士(理学)
臨床試験支援企業 (n=67)	学士(薬学 (6年制))	修士(薬学)	修士(理学)	学士(薬学 (4年制))	修士(農学) 学士(理学)	学士(薬学 (6年制))	修士(理学)	修士(薬学) 学士(薬学(4年制))		学士(理学)
非臨床試験受託企業 (n=13)	修士(農学)	修士(理学)	学士(農学)	修士(工学)	修士(薬学) 学士(理学)	学士(理学)	博士(獣医学) 修士(理学)		博士(理学)	-
医薬品製造受託企業 (n=3)	修士(理学) 修士(農学)		学士(理学)	-	-	学士(薬学 (6年制))	-	-	-	-
病院 (n=27)	学士(薬学 (6年制))	博士(薬学)	学士(薬学(4年制)) 学士(薬科学)		修士(薬学)	学士(医学)	博士(薬学) 博士(医学)		修士(薬学)	修士(工学) 学士(薬学 (6年制)) 学士(薬学 (4年制))
行政など (n=87)	博士(薬学)	学士(薬学 (6年制))	博士(理学)	博士(獣医学)	博士(医学)	博士(薬学)	博士(医学)	修士(薬学)	修士(理学)	博士(獣医学)

4 採用者：資料

採用者の最終学位(総合得点)(Q11)

	博士							修士				学士								
	薬学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学	薬学	理学	工学	農学	薬学(6)	薬学(4)	薬科学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学
全体	181	57	1	31	67	42	29	310	170	87	60	236	98	24	13	0	10	57	38	29
	0.48	0.15	0	0.08	0.18	0.11	0.08	0.82	0.45	0.23	0.16	0.62	0.26	0.06	0.03	0	0.03	0.15	0.1	0.08
製薬会社	84	10	0	7	33	26	17	223	95	66	37	103	46	11	3	0	4	30	29	14
	0.46	0.06	0	0.04	0.18	0.14	0.09	1.23	0.52	0.36	0.2	0.57	0.25	0.06	0.02	0	0.02	0.17	0.16	0.08
臨床試験 支援企業	1	0	0	0	2	0	4	50	47	6	9	60	39	7	3	0	0	16	5	9
	0.01	0	0	0	0.03	0	0.06	0.75	0.7	0.09	0.13	0.9	0.58	0.1	0.04	0	0	0.24	0.07	0.13
非臨床試験 受託企業	2	0	0	3	2	0	0	4	12	5	10	0	0	0	0	0	3	9	3	6
	0.15	0	0	0.23	0.15	0	0	0.31	0.92	0.38	0.77	0	0	0	0	0	0.23	0.69	0.23	0.46
医薬品製造 受託企業	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0	0	0	0	0	2	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0.67	0	0
病院	19	6	0	0	0	3	0	7	3	2	1	40	8	6	4	0	0	0	0	0
	0.7	0.22	0	0	0	0.11	0	0.26	0.11	0.07	0.04	1.48	0.3	0.22	0.15	0	0	0	0	0
行政など	75	41	1	21	30	13	8	26	10	8	0	30	5	0	3	0	3	0	1	0
	0.86	0.47	0.01	0.24	0.34	0.15	0.09	0.3	0.11	0.09	0	0.34	0.06	0	0.03	0	0.03	0	0.01	0

採用者の最終学位(製薬会社:従業員数別)(Q11)

	博士							修士				学士								
	薬学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学	薬学	理学	工学	農学	薬学(6)	薬学(4)	薬科学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学
1000人以下	9	0	0	3	0	3	5	32	25	8	10	28	21	2	0	0	1	10	9	11
	0.2	0	0	0.07	0	0.07	0.11	0.71	0.56	0.18	0.22	0.62	0.47	0.04	0	0	0.02	0.22	0.2	0.24
1001人~ 3000人	12	0	0	3	10	8	5	73	32	25	14	20	13	1	0	0	2	17	13	3
	0.22	0	0	0.06	0.19	0.15	0.09	1.35	0.59	0.46	0.26	0.37	0.24	0.02	0	0	0.04	0.31	0.24	0.06
3001人以上	63	10	0	1	23	15	7	118	38	33	13	55	12	8	3	0	1	3	7	0
	0.77	0.12	0	0.01	0.28	0.18	0.09	1.44	0.46	0.4	0.16	0.67	0.15	0.1	0.04	0	0.01	0.04	0.09	0

4 採用者：資料

採用者の最終学位(臨床試験支援企業)(Q11)

	博士							修士				学士								
	薬学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学	薬学	理学	工学	農学	薬学(6)	薬学(4)	薬科学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学
全体	181	57	1	31	67	42	29	310	170	87	60	236	98	24	13	0	10	57	38	29
	0.48	0.15	0	0.08	0.18	0.11	0.08	0.82	0.45	0.23	0.16	0.62	0.26	0.06	0.03	0	0.03	0.15	0.1	0.08
製薬会社	84	10	0	7	33	26	17	223	95	66	37	103	46	11	3	0	4	30	29	14
	0.46	0.06	0	0.04	0.18	0.14	0.09	1.23	0.52	0.36	0.2	0.57	0.25	0.06	0.02	0	0.02	0.17	0.16	0.08
臨床試験支援企業	1	0	0	0	2	0	4	50	47	6	9	60	39	7	3	0	0	16	5	9
	0.01	0	0	0	0.03	0	0.06	0.75	0.7	0.09	0.13	0.9	0.58	0.1	0.04	0	0	0.24	0.07	0.13
非臨床試験受託企業	2	0	0	3	2	0	0	4	12	5	10	0	0	0	0	0	3	9	3	6
	0.15	0	0	0.23	0.15	0	0	0.31	0.92	0.38	0.77	0	0	0	0	0	0.23	0.69	0.23	0.46
医薬品製造受託企業	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0	0	0	0	0	2	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0.67	0	0
病院	19	6	0	0	0	3	0	7	3	2	1	40	8	6	4	0	0	0	0	0
	0.7	0.22	0	0	0	0.11	0	0.26	0.11	0.07	0.04	1.48	0.3	0.22	0.15	0	0	0	0	0
行政など	75	41	1	21	30	13	8	26	10	8	0	30	5	0	3	0	3	0	1	0
	0.86	0.47	0.01	0.24	0.34	0.15	0.09	0.3	0.11	0.09	0	0.34	0.06	0	0.03	0	0.03	0	0.01	0

採用者の最終学位(製薬会社:従業員数別)(Q11)

	博士							修士				学士								
	薬学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学	薬学	理学	工学	農学	薬学(6)	薬学(4)	薬科学	医学	歯学	獣医学	理学	工学	農学
1000人以下	9	0	0	3	0	3	5	32	25	8	10	28	21	2	0	0	1	10	9	11
	0.2	0	0	0.07	0	0.07	0.11	0.71	0.56	0.18	0.22	0.62	0.47	0.04	0	0	0.02	0.22	0.2	0.24
1001人~3000人	12	0	0	3	10	8	5	73	32	25	14	20	13	1	0	0	2	17	13	3
	0.22	0	0	0.06	0.19	0.15	0.09	1.35	0.59	0.46	0.26	0.37	0.24	0.02	0	0	0.04	0.31	0.24	0.06
3001人以上	63	10	0	1	23	15	7	118	38	33	13	55	12	8	3	0	1	3	7	0
	0.77	0.12	0	0.01	0.28	0.18	0.09	1.44	0.46	0.4	0.16	0.67	0.15	0.1	0.04	0	0.01	0.04	0.09	0

4 採用者

採用者の学部(所属別)

Point

✓ 新卒採用者の学部について、製薬会社や行政などでは、「薬学」と「理学」の割合が高くなっています。

採用者の最終学部として多いもの(総合得点:所属別)(Q12)

	新卒採用者					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	薬学 (6年制)	薬学 (4年制)	理学	工学	農学	薬学 (4年制)	理学	工学	薬学 (6年制)	農学
臨床試験支援企業	薬学 (6年制)	薬学 (4年制)	理学	農学	工学	薬学 (6年制)	理学	工学	薬学 (4年制)	農学
非臨床試験受託企業	農学	理学	工学	薬学 (6年制)	獣医学	医学	理学	農学	獣医学	-
医薬品製造受託企業	理学	農学	-	-	-	薬学 (6年制)	-	-	-	-
病院	薬学 (6年制)	薬学 (4年制)	工学	理学	医学	医学	薬学 (4年制)	獣医学	工学	-
行政など	薬学 (6年制)	薬学 (4年制)	理学	医学	農学	薬学 (4年制)	理学	薬学 (6年制)	工学	獣医学

5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

- ✓ 採用者に希望する講義科目での学習事項について、技術は「論理的思考力」、経験は「困難を乗り越えた経験」が共通している傾向にある。知識と姿勢・態度については、所属で傾向が異なる傾向にあります。
- ✓ 製薬会社や行政などでは、新卒採用と中途採用で学んでおいてほしい講義科目に違いがあまり見られませんでした。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(Q14)

	知識		技能・技術		姿勢・態度		経験	
	新卒採用者	中途採用者	新卒採用者	中途採用者	新卒採用者	中途採用者	新卒採用者	中途採用者
製薬会社	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	論理的思考力	挑戦する姿勢	挑戦する姿勢 忍耐力・粘り強さ	困難を乗り越えた経験	困難を乗り越えた経験
臨床試験支援企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	論理的思考力	適応力	知的好奇心・探求心	困難を乗り越えた経験	困難を乗り越えた経験
非臨床試験受託企業	5～30年前に確立された一般科学技術	データ分析・統計学	実験遂行力・技術習得	実験遂行力・技術習得	挑戦する姿勢	挑戦する姿勢	困難を乗り越えた経験 学会発表(国内)	困難を乗り越えた経験
医薬品製造受託企業	製造工程に関する専門知識	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	論理的思考力	協調性 知的好奇心・探求心 適応力	患者中心の考え方	困難を乗り越えた経験	—
病院	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	論理的思考力	論理的思考力	知的好奇心・探求心	知的好奇心・探求心	困難を乗り越えた経験 学会発表(国内)	学会発表(国内)
行政など	5年以内の新たな一般科学技術	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	論理的思考力	論理的思考力	協調性	協調性	困難を乗り越えた経験	困難を乗り越えた経験

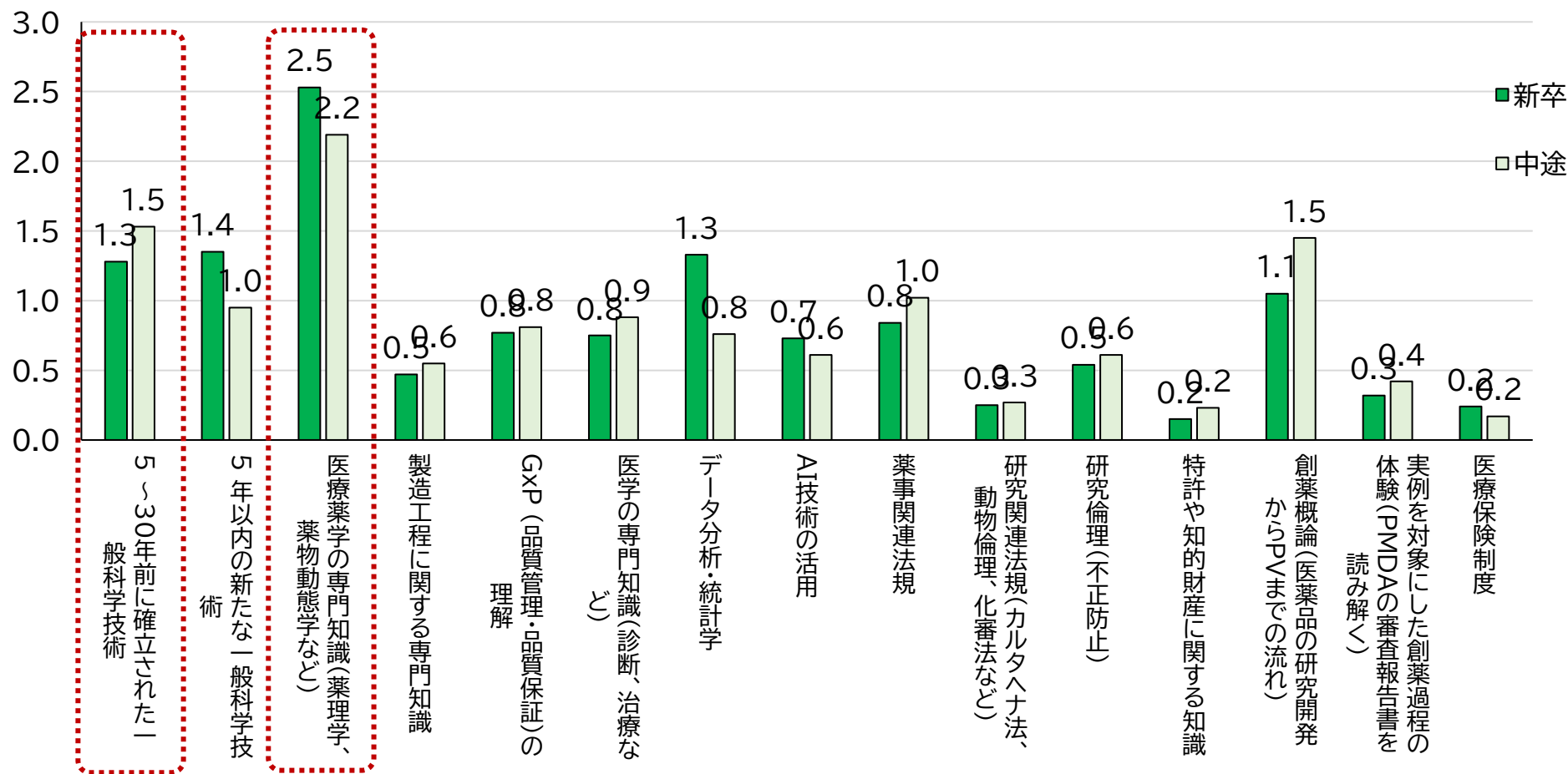
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 採用の種類別に関わらず、「医療薬学の専門知識」と「5～30年前に確立された一般科学技術」が高くなっています。
- ✓ 新卒採用では「データ分析・統計学」と「5年以内の新たな一般科学技術」が高く、中途採用では「創薬概論」が高くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別):知識(Q14)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

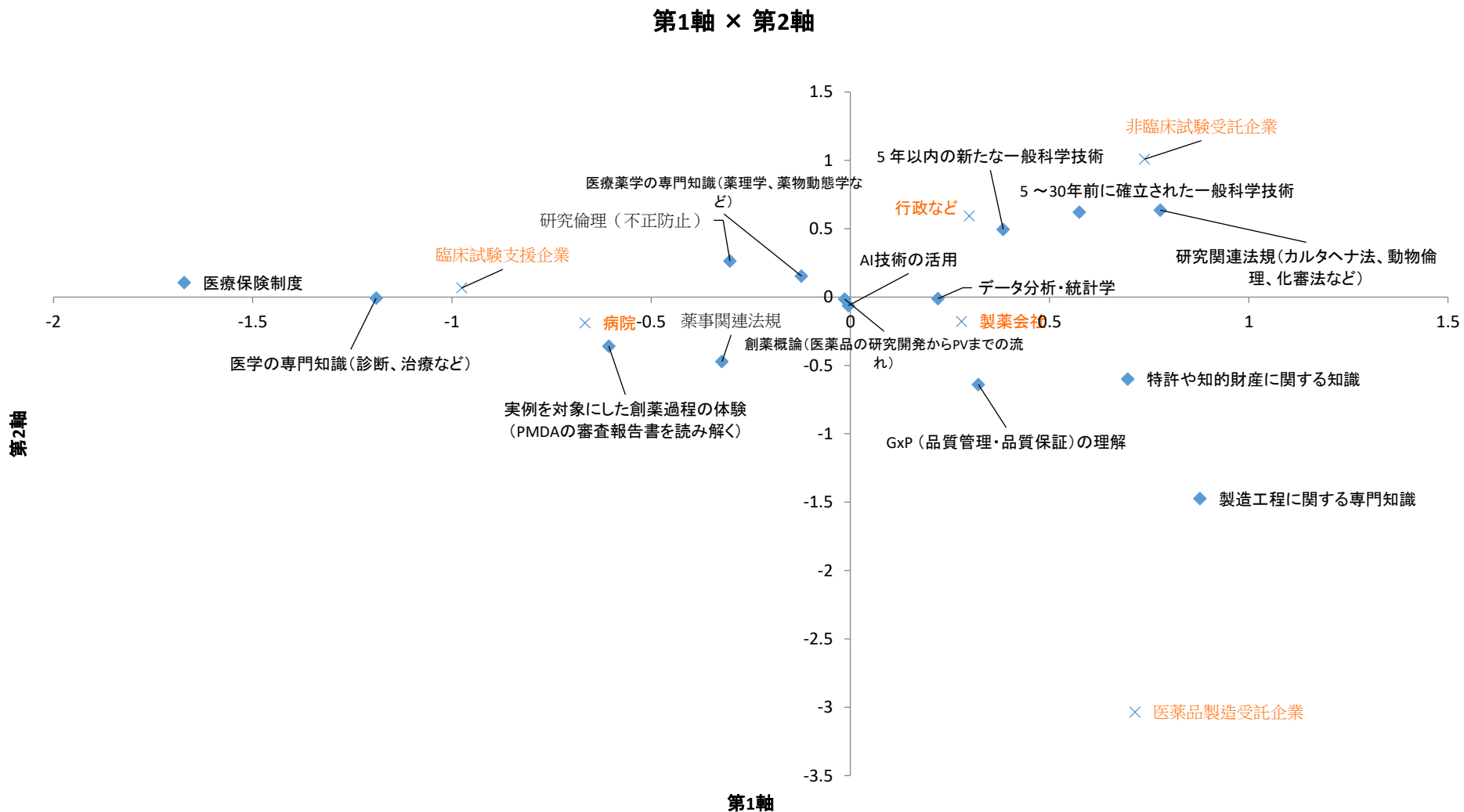
✓ 企業種別では、新卒・中途採用に関わらず「医療薬学の専門知識」が共通して高くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別):知識 (Q14-1)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	データ分析・統計学	5年以内の新たな一般科学技術	5～30年前に確立された一般科学技術	GxP(品質管理・品質保証)の理解	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	GxP(品質管理・品質保証)の理解	薬事関連法規	5～30年前に確立された一般科学技術	製造工程に関する専門知識
臨床試験支援企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	医学の専門知識(診断、治療など)	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	データ分析・統計学	薬事関連法規	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	医学の専門知識(診断、治療など)	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	5～30年前に確立された一般科学技術	薬事関連法規
非臨床試験受託企業	5～30年前に確立された一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5年以内の新たな一般科学技術	データ分析・統計学	GxP(品質管理・品質保証)の理解	データ分析・統計学	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	研究倫理(不正防止)	GxP(品質管理・品質保証)の理解
医薬品製造受託企業	製造工程に関する専門知識	GxP(品質管理・品質保証)の理解	薬事関連法規	データ分析・統計学	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	薬事関連法規	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	データ分析・統計学	製造工程に関する専門知識
病院	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	薬事関連法規	医学の専門知識(診断、治療など)	5～30年前に確立された一般科学技術	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	薬事関連法規	実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)
行政など	5年以内の新たな一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	データ分析・統計学	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	薬事関連法規	実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)

5 採用者に期待する要素

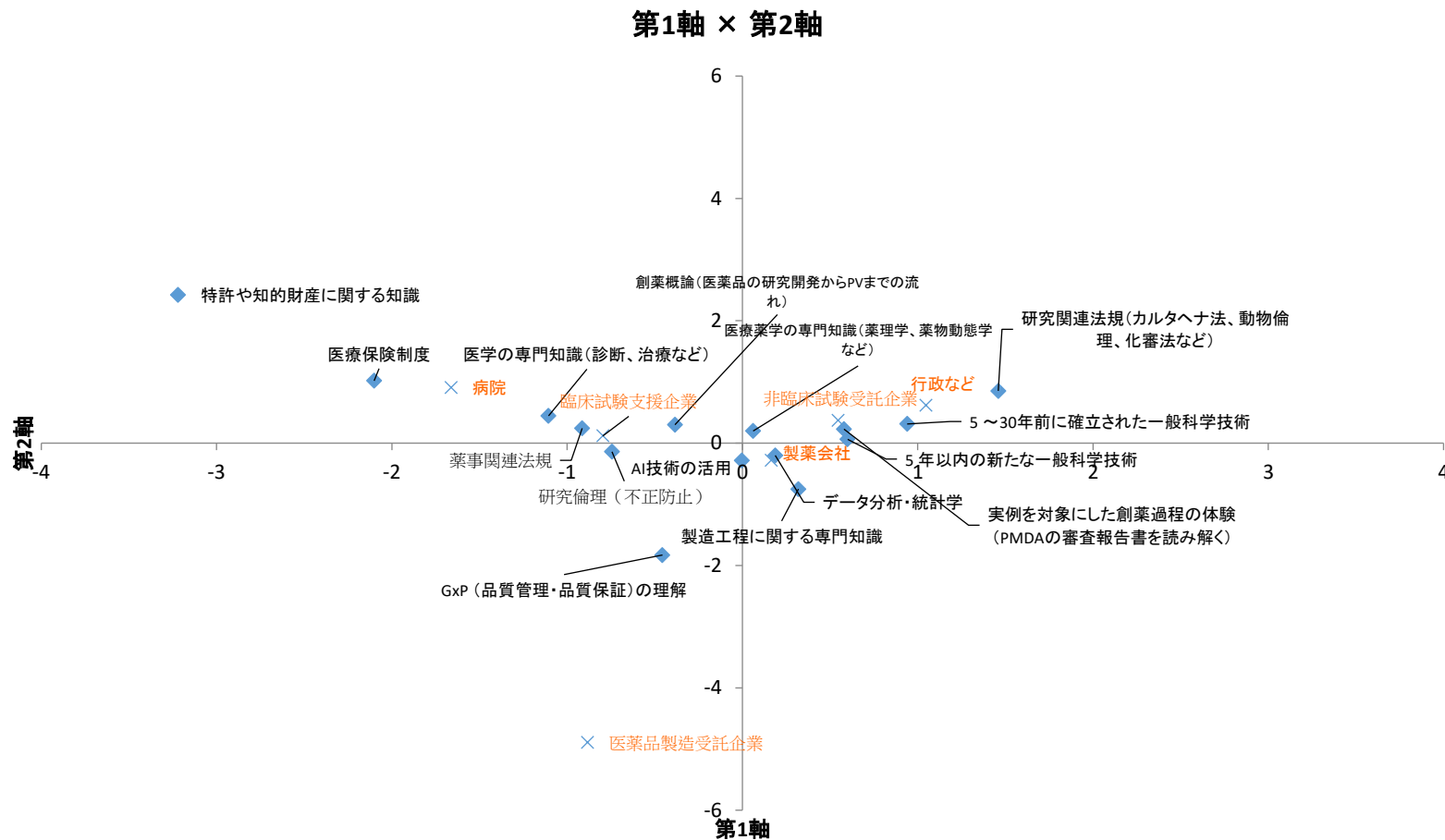
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率 53.5%)、第2軸(寄与率26.8%) 累積寄与率80.3%

5 採用者に期待する要素

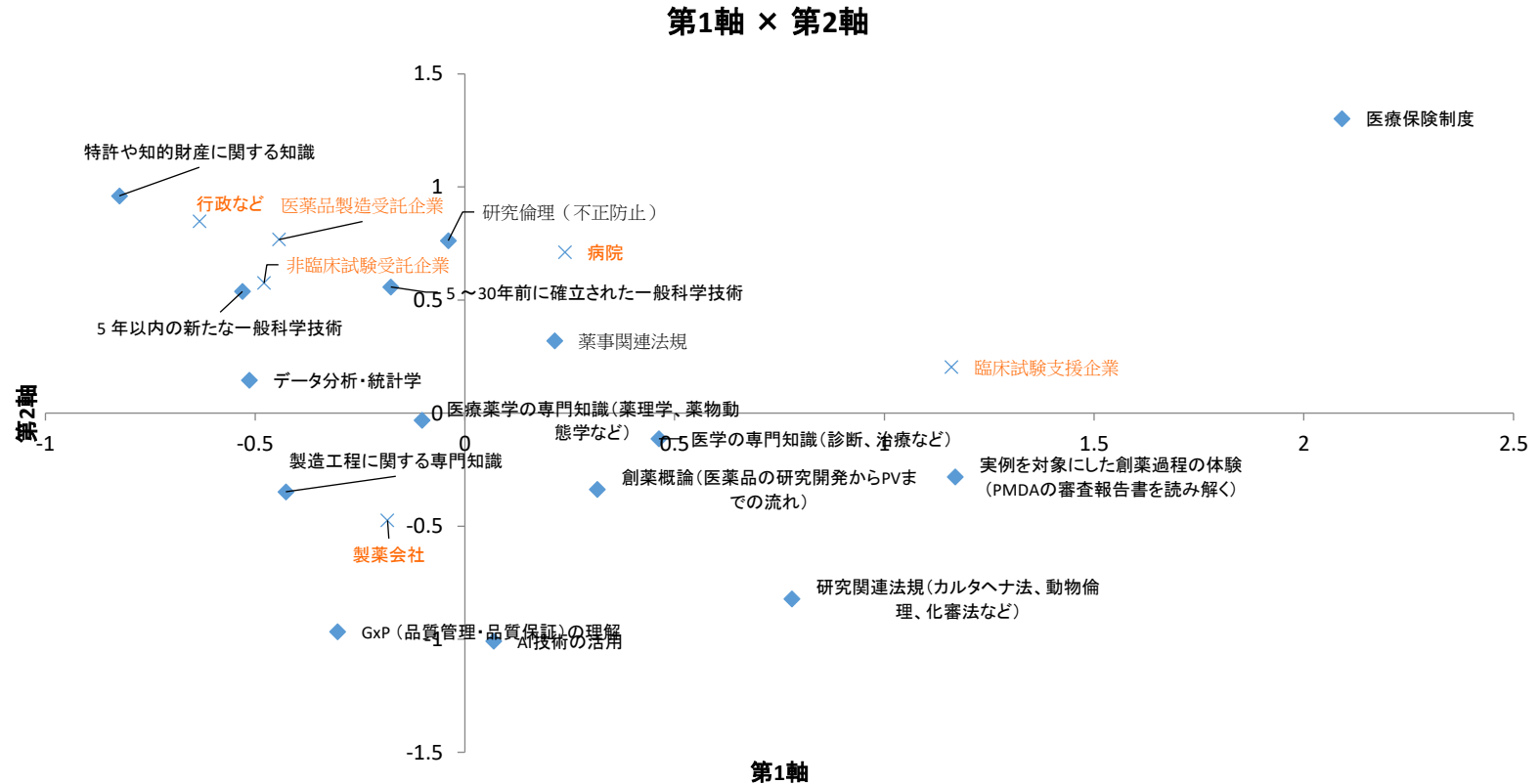
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率43.5%)、第2軸(寄与率22.8%) 累積寄与率66.4%

5 採用者に期待する要素

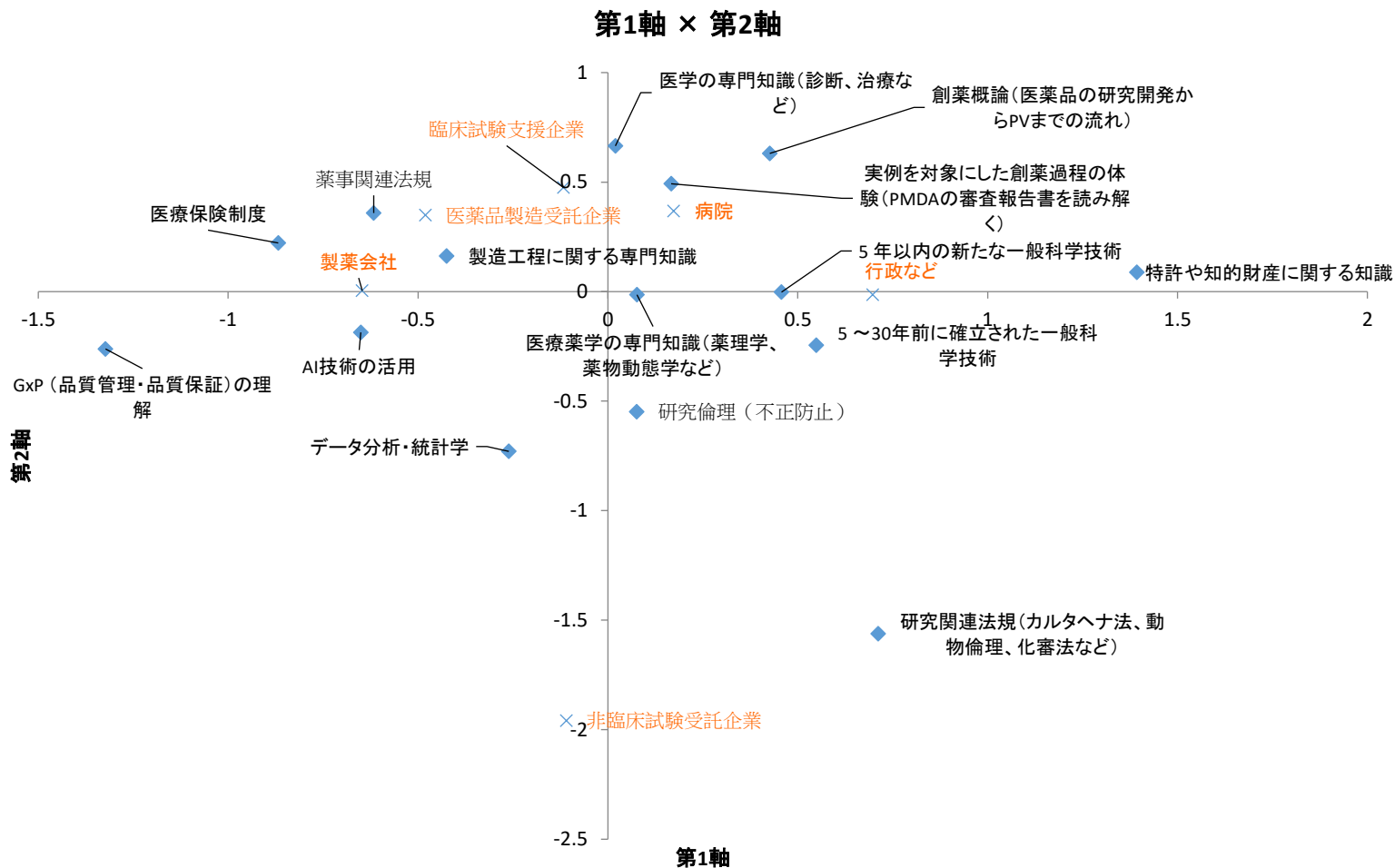
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率34.3%)、第2軸(寄与率27.5%) 累積寄与率61.7%

5 採用者に期待する要素

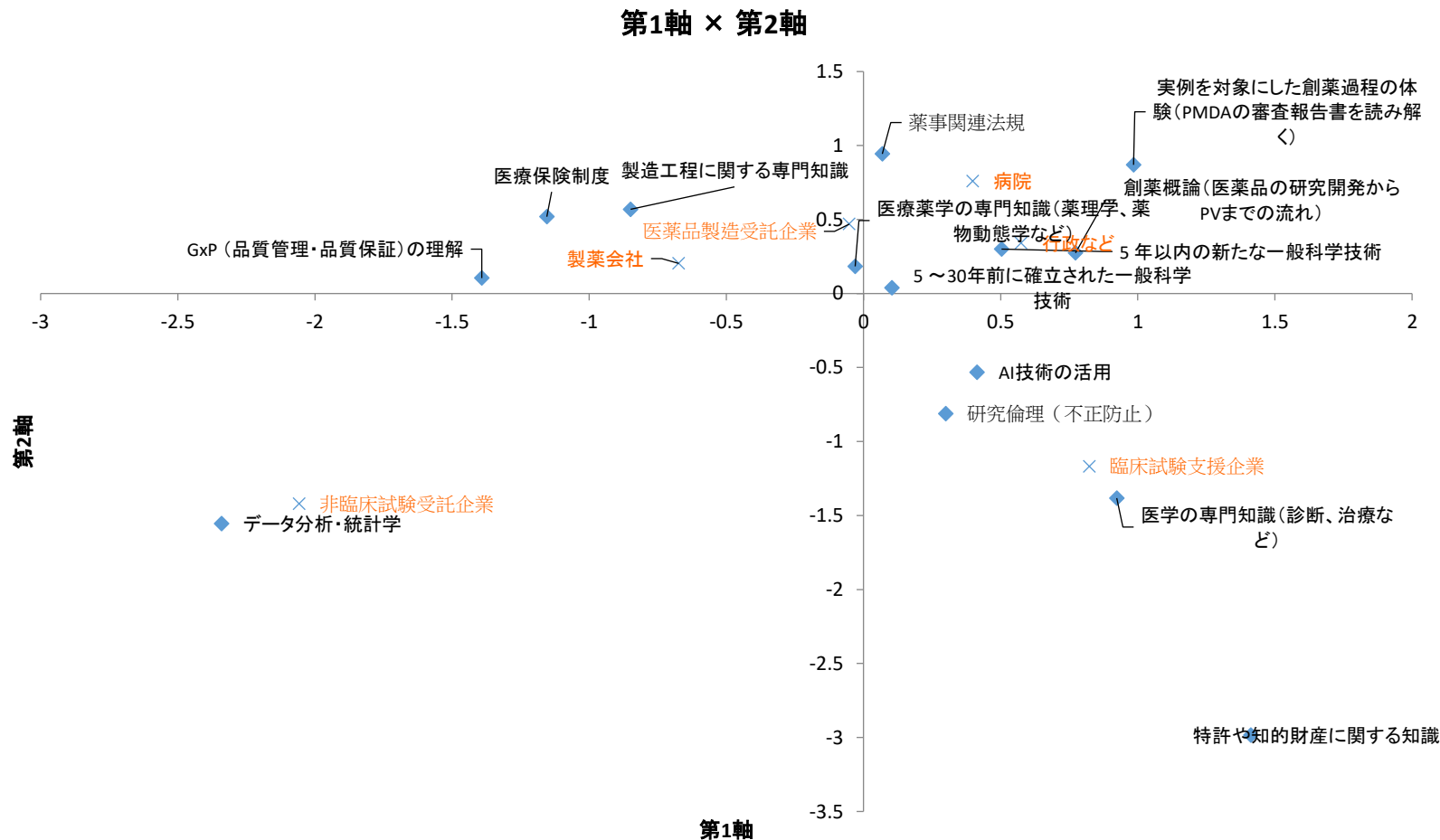
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識1～5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率48.5%)、第2軸(寄与率24.1%) 累積寄与率72.5%

5 採用者に期待する要素

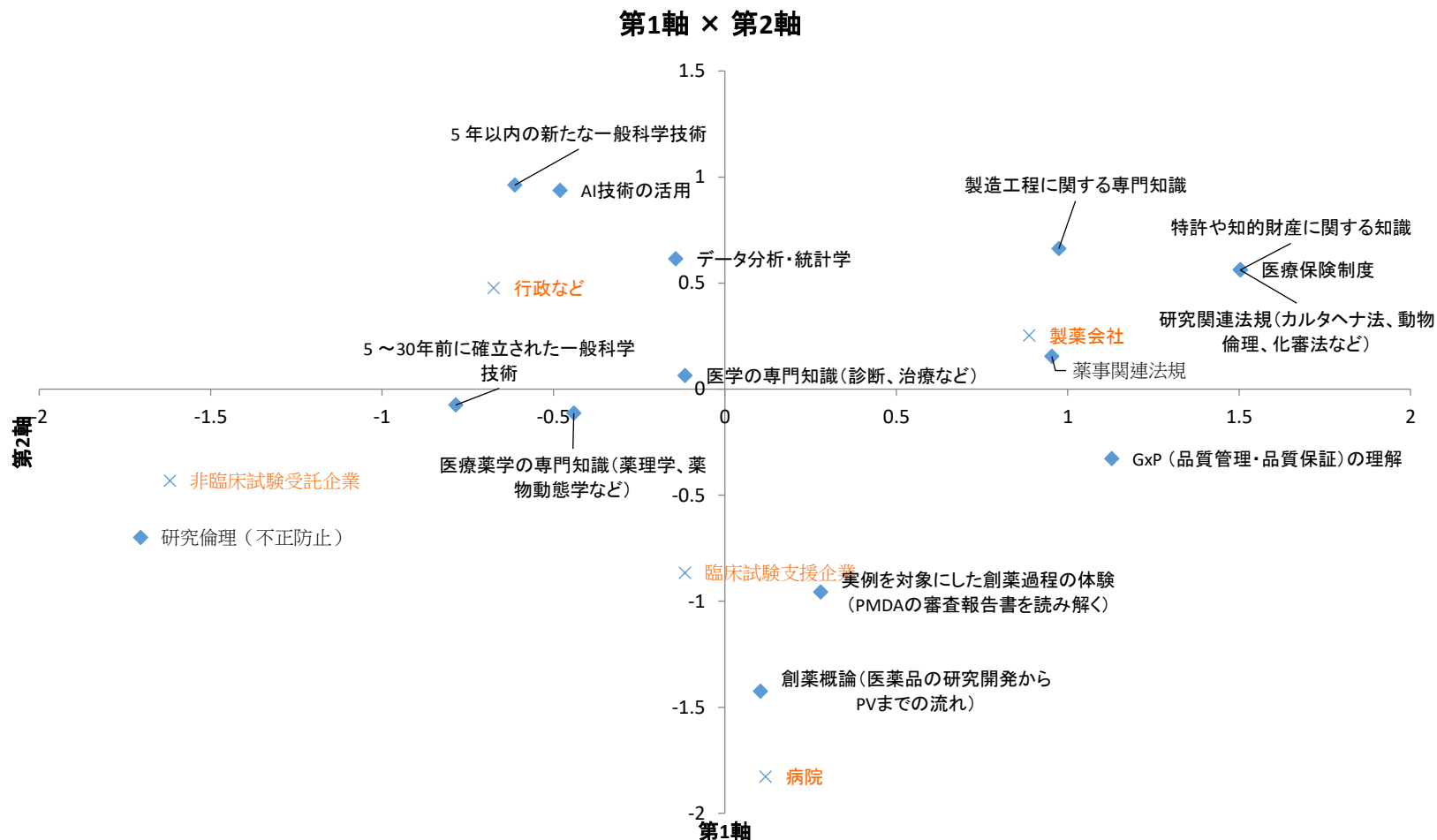
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率49.4%)、第2軸(寄与率22.3%) 累積寄与率71.7%

5 採用者に期待する要素

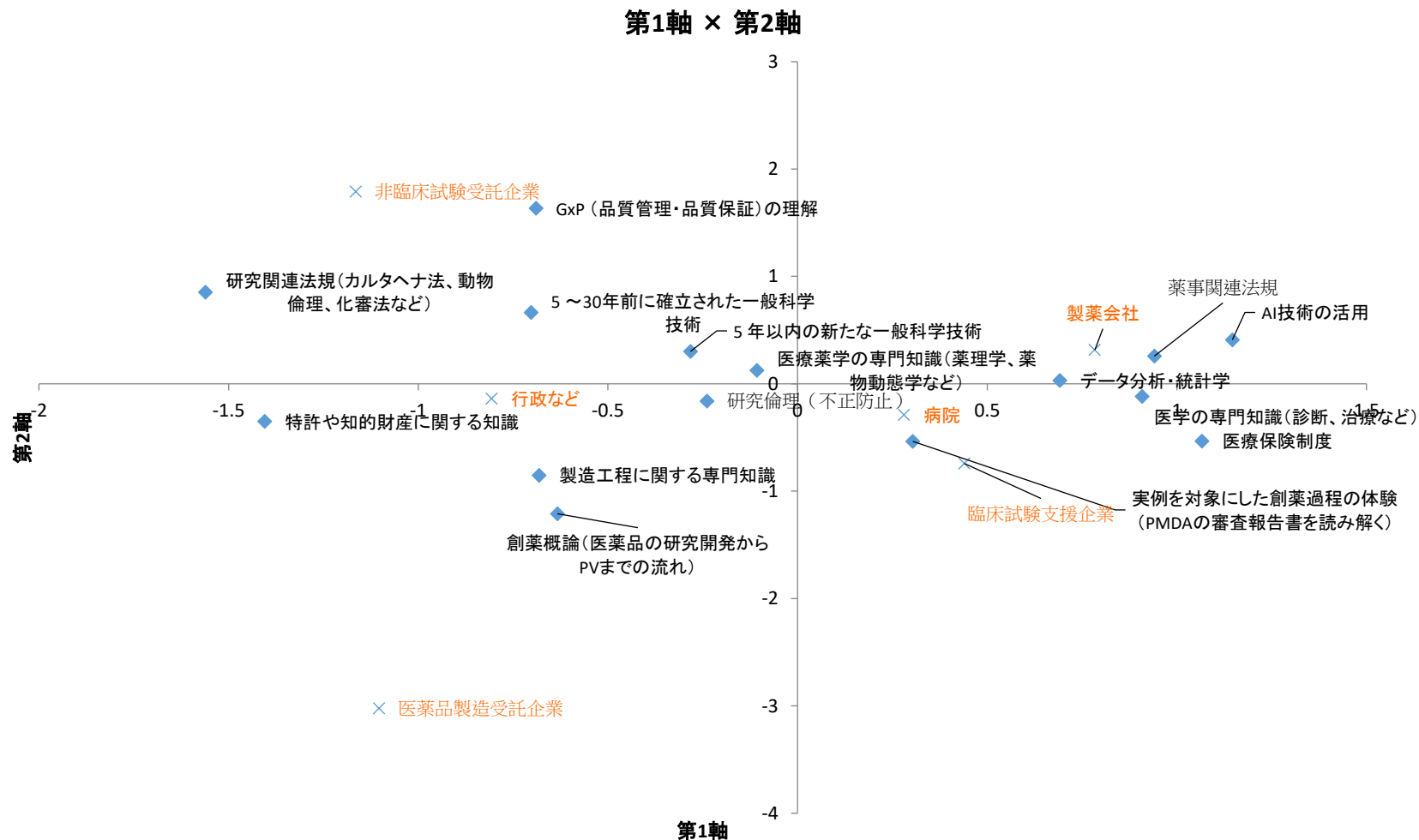
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率44.4%)、第2軸(寄与率25.7%) 累積寄与率70.1%

5 採用者に期待する要素

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(知識3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率48.4%)、第2軸(寄与率23.5%) 累積寄与率71.9%

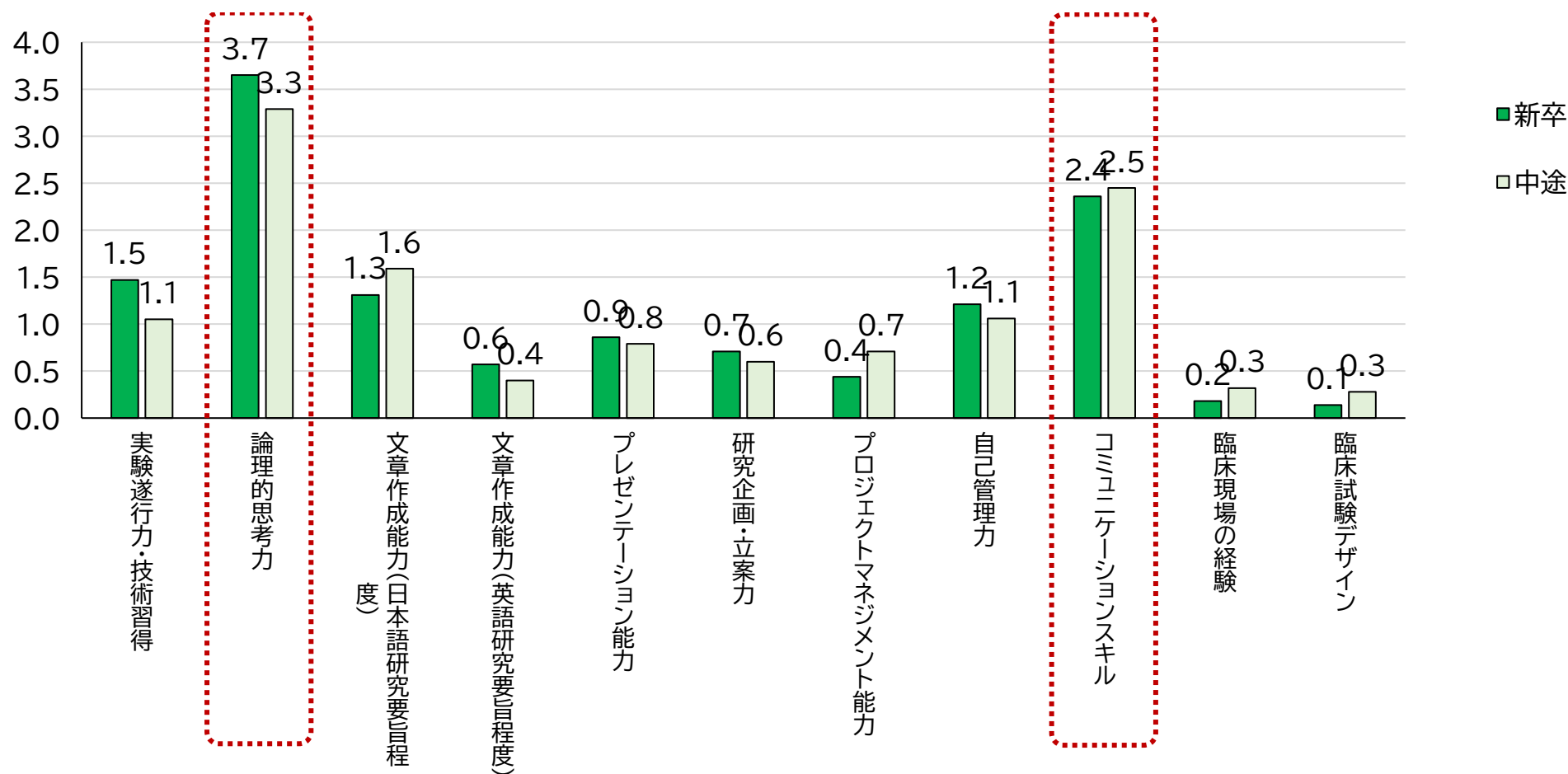
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 採用の種類別に関わらず、「論理的思考力」と「コミュニケーションスキル」が共通して高くなっています。
- ✓ 新卒採用では「実験遂行力・技術習得」が高く、中途採用では「文章作成能力（日本語研究要旨程度）」が高くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項:技能・技術(Q14-2)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

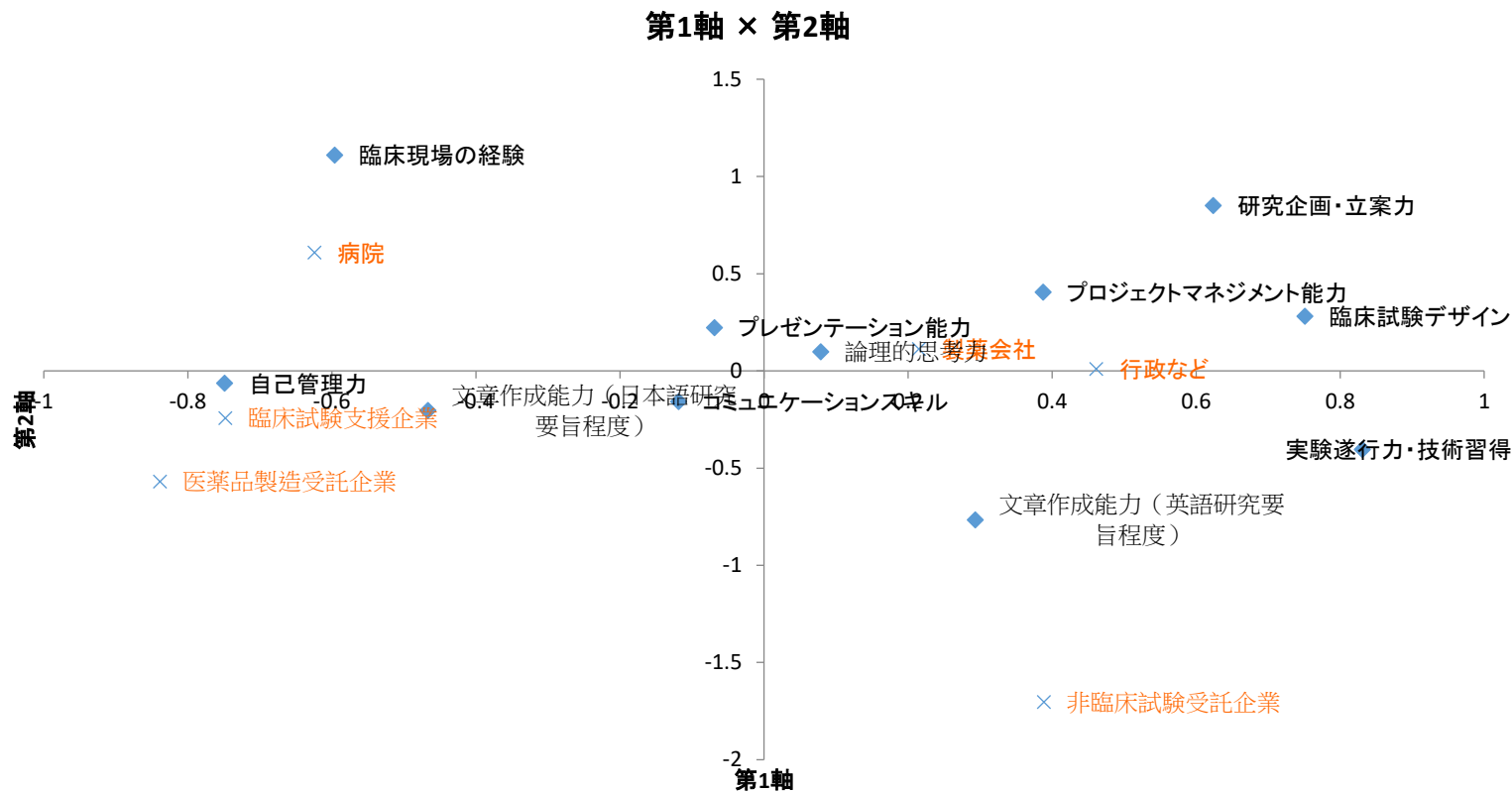
- ✓ 企業種別では、新卒・中途採用に関わらず「論理的思考力」と「コミュニケーションスキル」が共通して高くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別):技能・技術(Q14-2)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	論理的思考力	コミュニケーションスキル	実験遂行力・技術習得	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	研究企画・立案力	論理的思考力	コミュニケーションスキル	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	自己管理能力	実験遂行力・技術習得
臨床試験支援企業	論理的思考力	コミュニケーションスキル	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	自己管理能力	プレゼンテーション能力	論理的思考力	コミュニケーションスキル	自己管理能力	プレゼンテーション能力	文章作成能力(日本語研究要旨程度)
非臨床試験受託企業	実験遂行力・技術習得	コミュニケーションスキル	論理的思考力	文章作成能力(日本語研究要旨程度) 文章作成能力(英語研究要旨程度)		実験遂行力・技術習得	論理的思考力	コミュニケーションスキル	自己管理能力	文章作成能力(日本語研究要旨程度)
医薬品製造受託企業	論理的思考力	コミュニケーションスキル 文章作成能力(日本語研究要旨程度)		実験遂行力・技術習得 自己管理能力		論理的思考力	コミュニケーションスキル	自己管理能力	—	—
病院	論理的思考力	自己管理能力	コミュニケーションスキル	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	プレゼンテーション能力	論理的思考力	臨床現場の経験	コミュニケーションスキル	臨床試験デザイン	文章作成能力(日本語研究要旨程度)
行政など	論理的思考力	コミュニケーションスキル	実験遂行力・技術習得	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	プロジェクトマネジメント能力	論理的思考力	コミュニケーションスキル	実験遂行力・技術習得	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	プロジェクトマネジメント能力

5 採用者に期待する要素

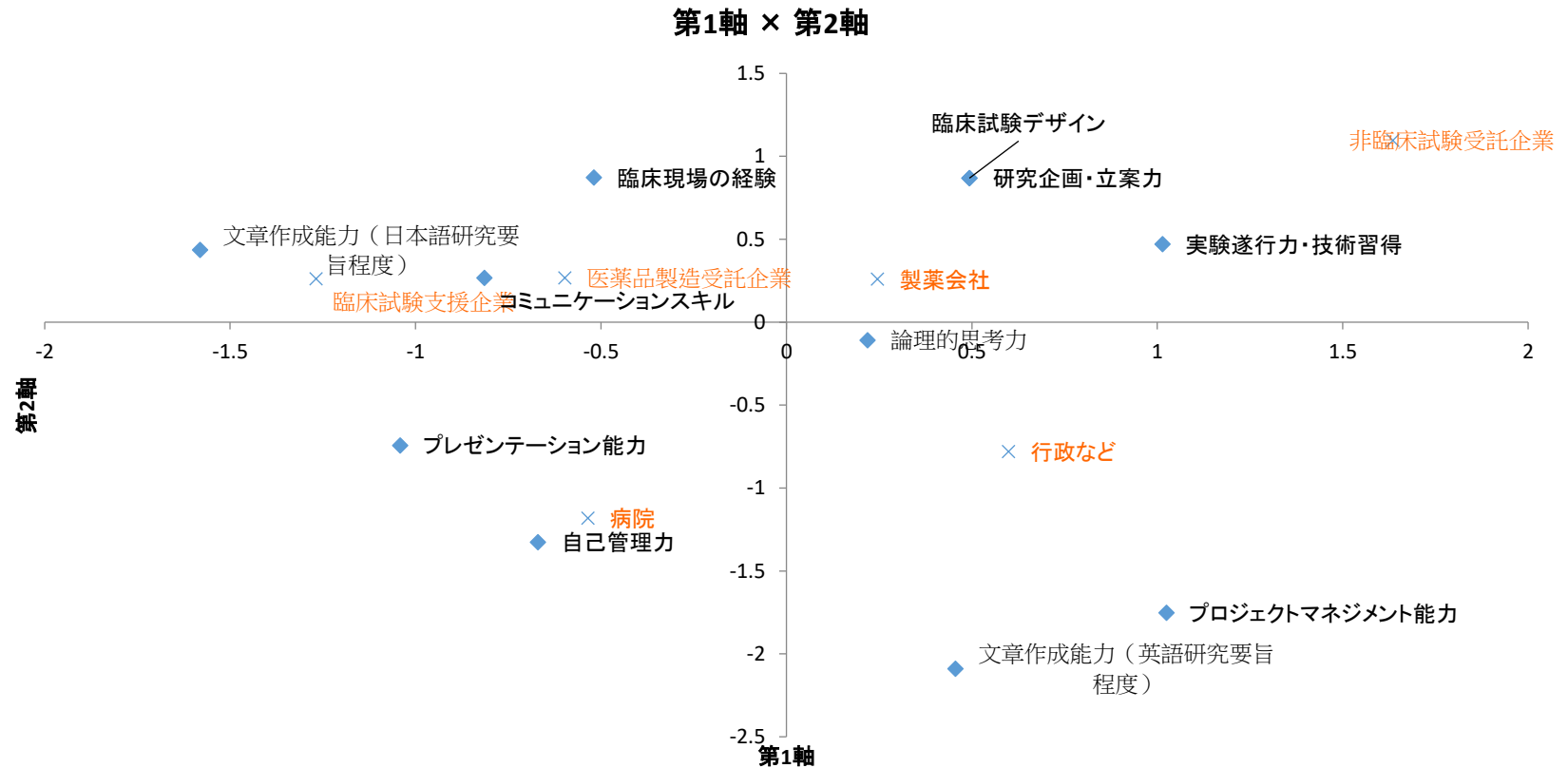
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率53.0%)、第2軸(寄与率26.6%) 累積寄与率79.5%

5 採用者に期待する要素

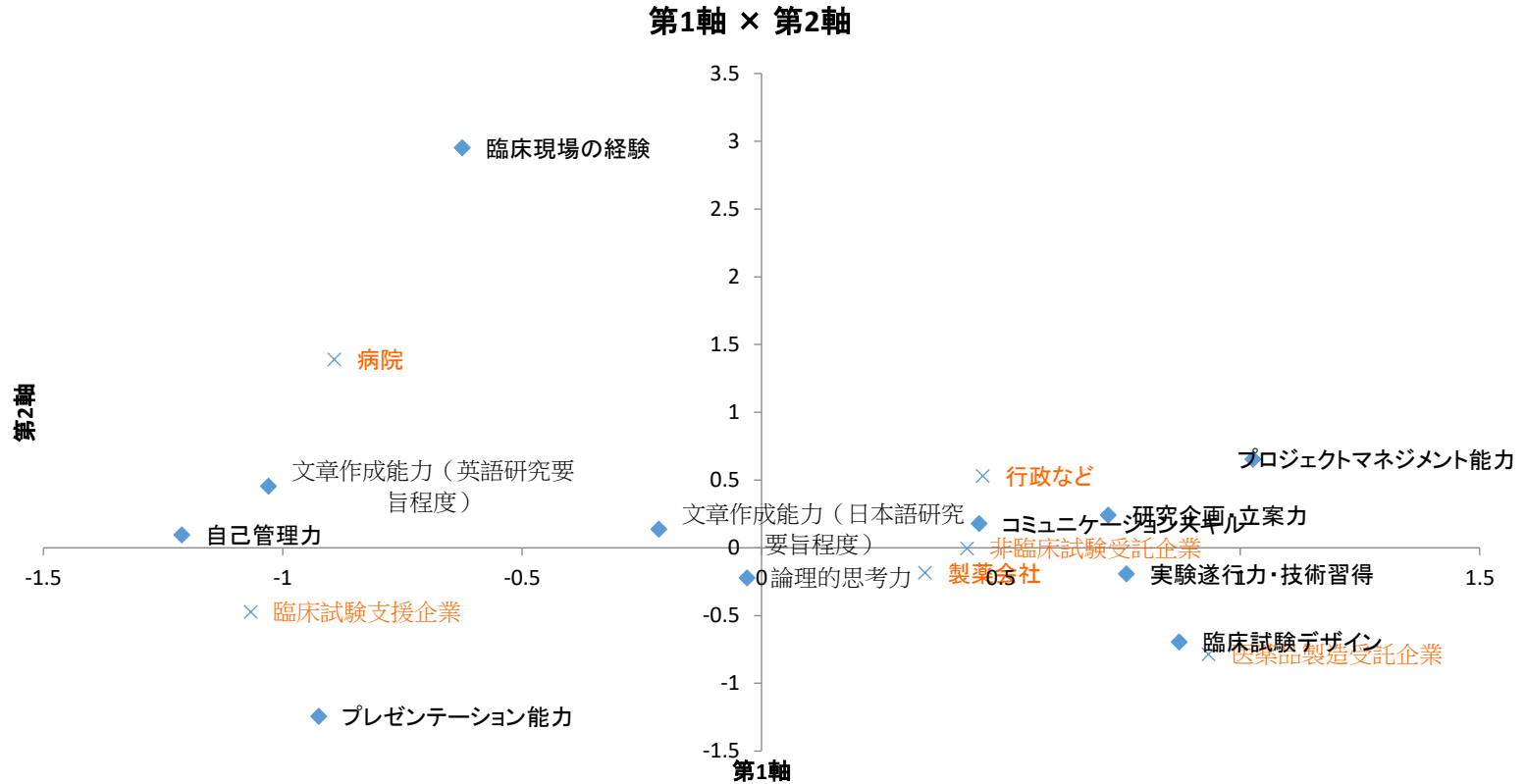
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率58.4%)、第2軸(寄与率20.8%) 累積寄与率79.2%

5 採用者に期待する要素

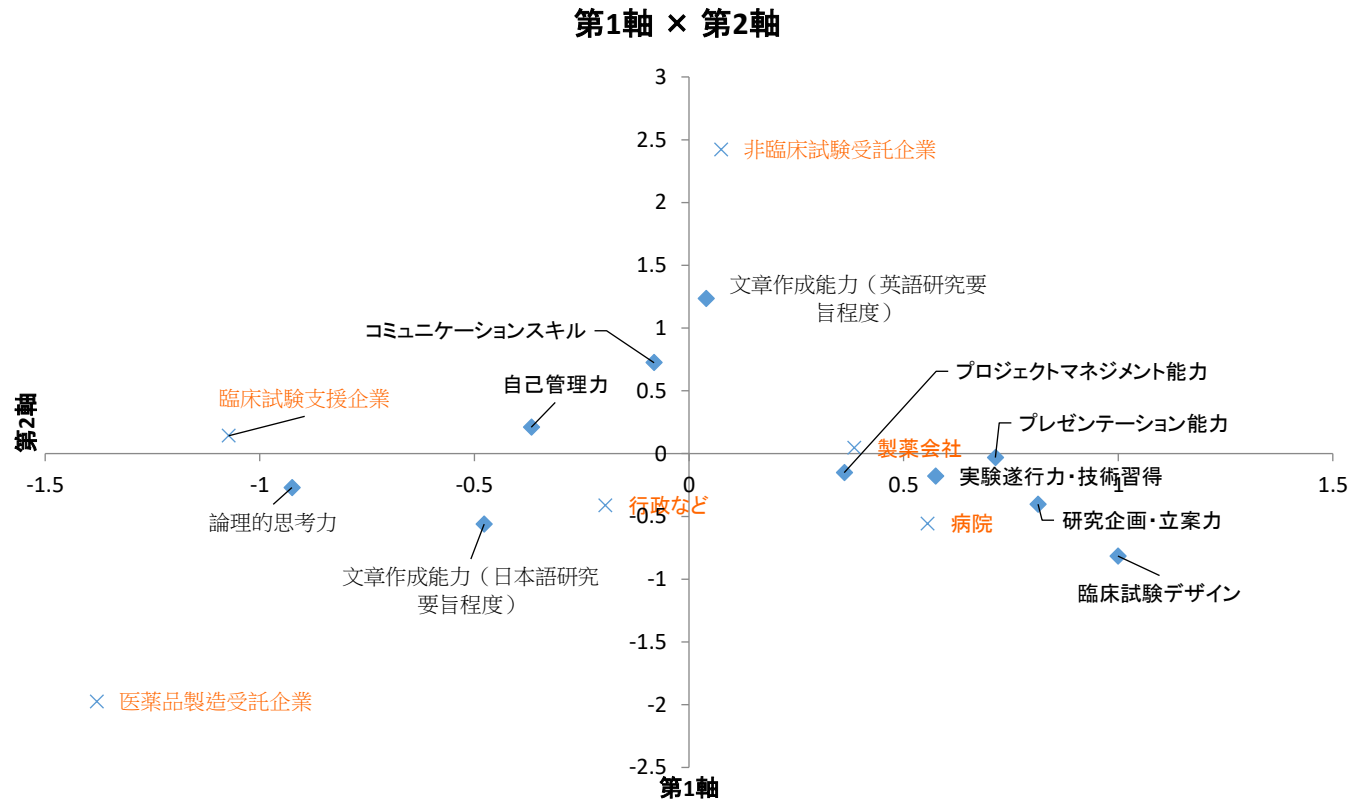
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率55.1%)、第2軸(寄与率25.2%) 累積寄与率80.2%

5 採用者に期待する要素

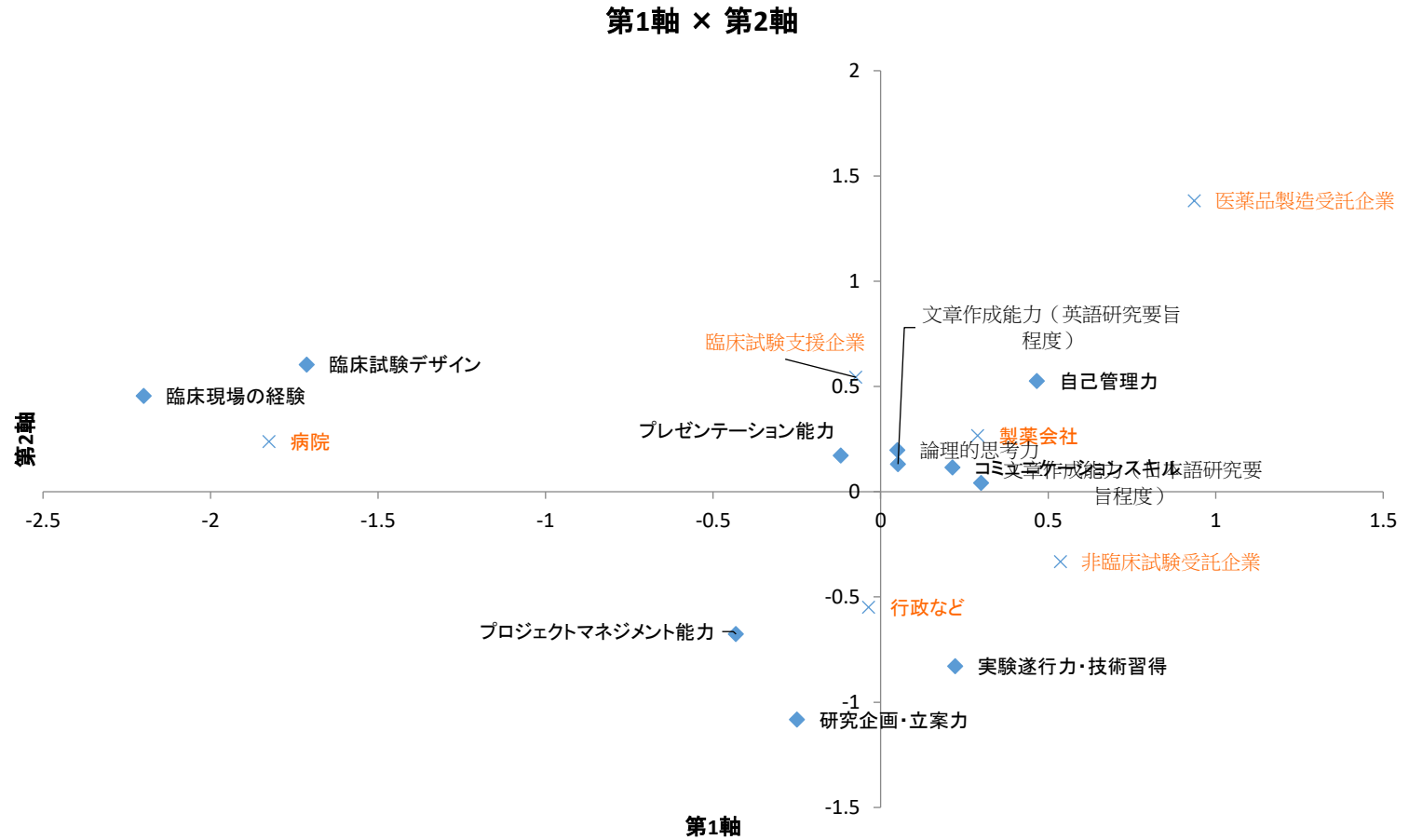
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率40.2%)、第2軸(寄与率27.2%) 累積寄与率67.4%

5 採用者に期待する要素

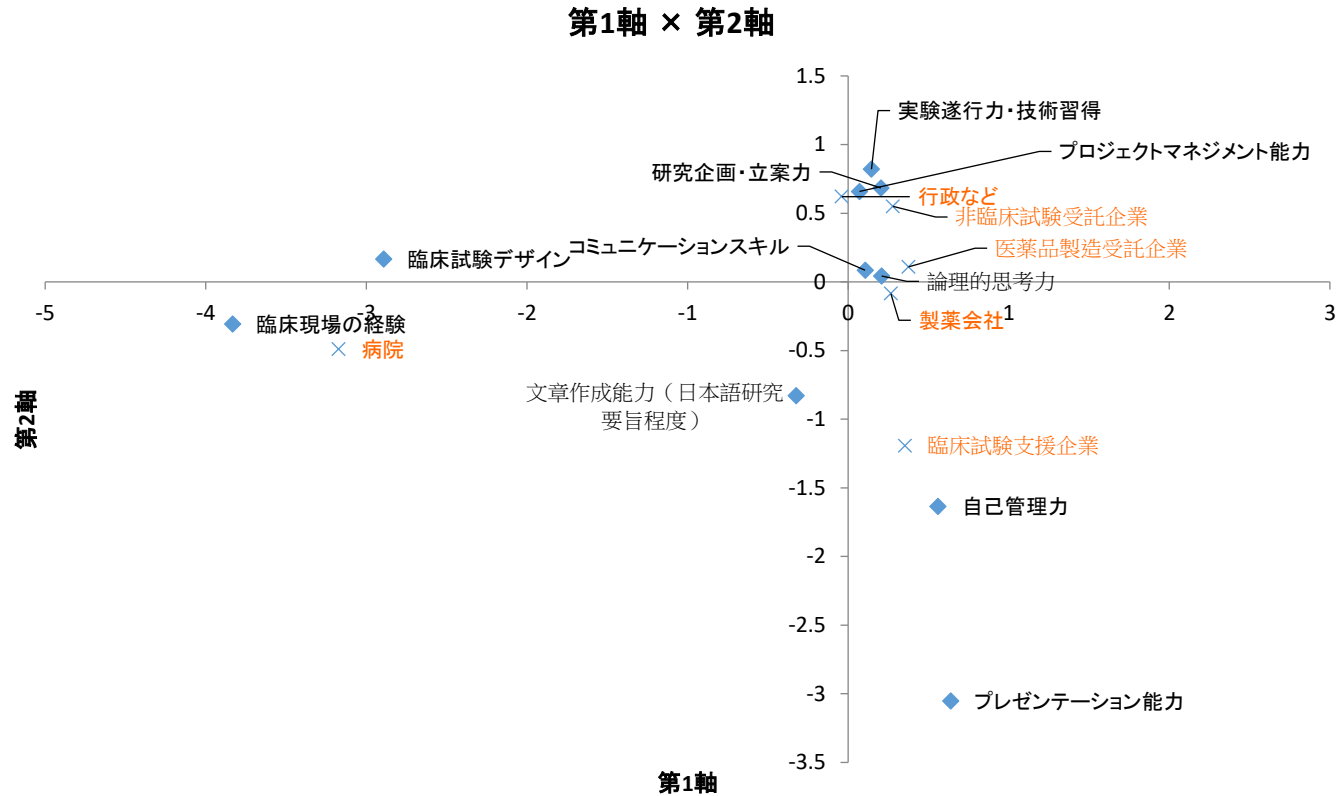
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1～5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率48.5%)、第2軸(寄与率29.2%) 累積寄与率77.7%

5 採用者に期待する要素

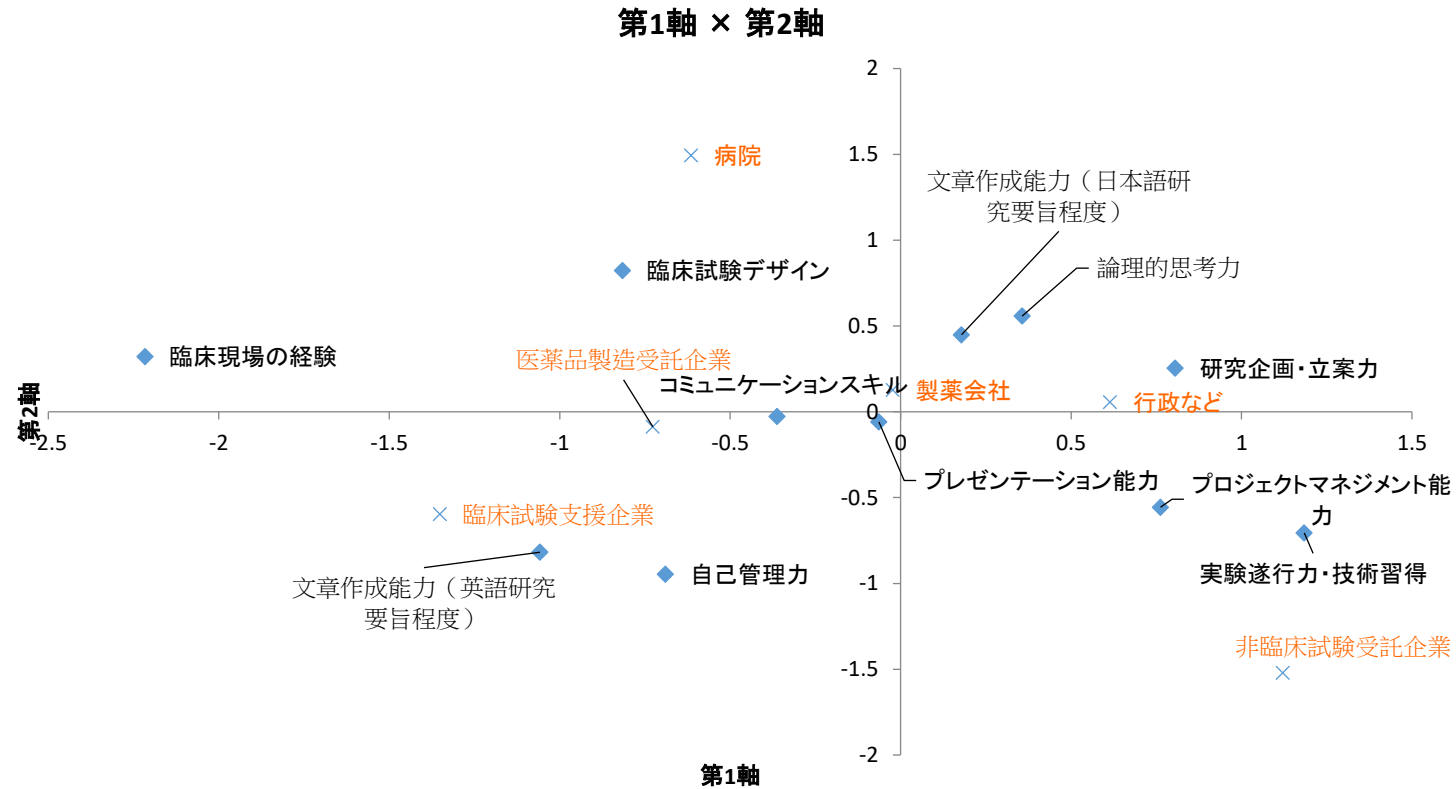
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率53.4%)、第2軸(寄与率26.5%) 累積寄与率79.9%

5 採用者に期待する要素

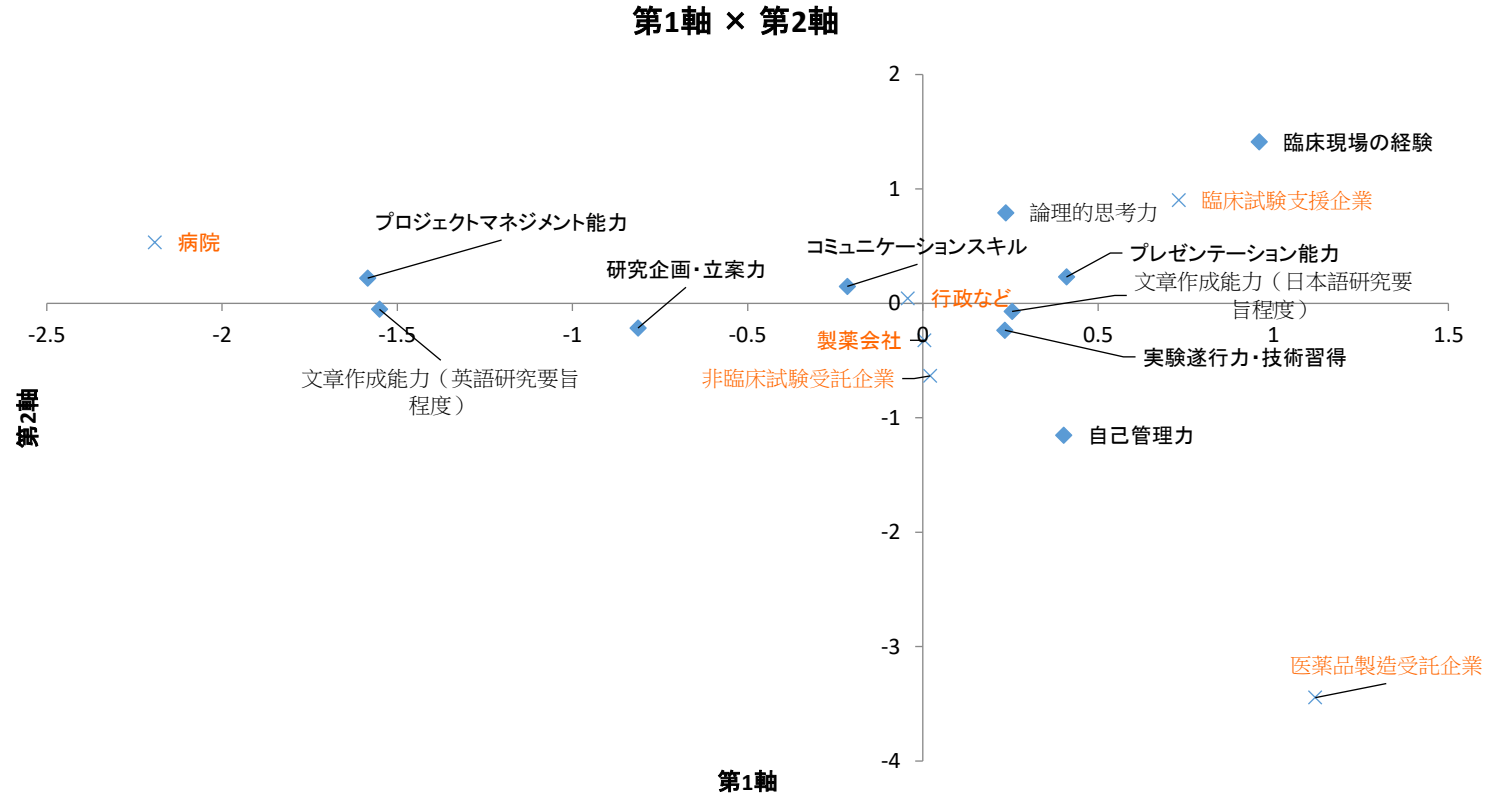
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率49.5%)、第2軸(寄与率19.1%) 累積寄与率68.6%

5 採用者に期待する要素

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率35.1%)、第2軸(寄与率30.6%) 累積寄与率65.7%

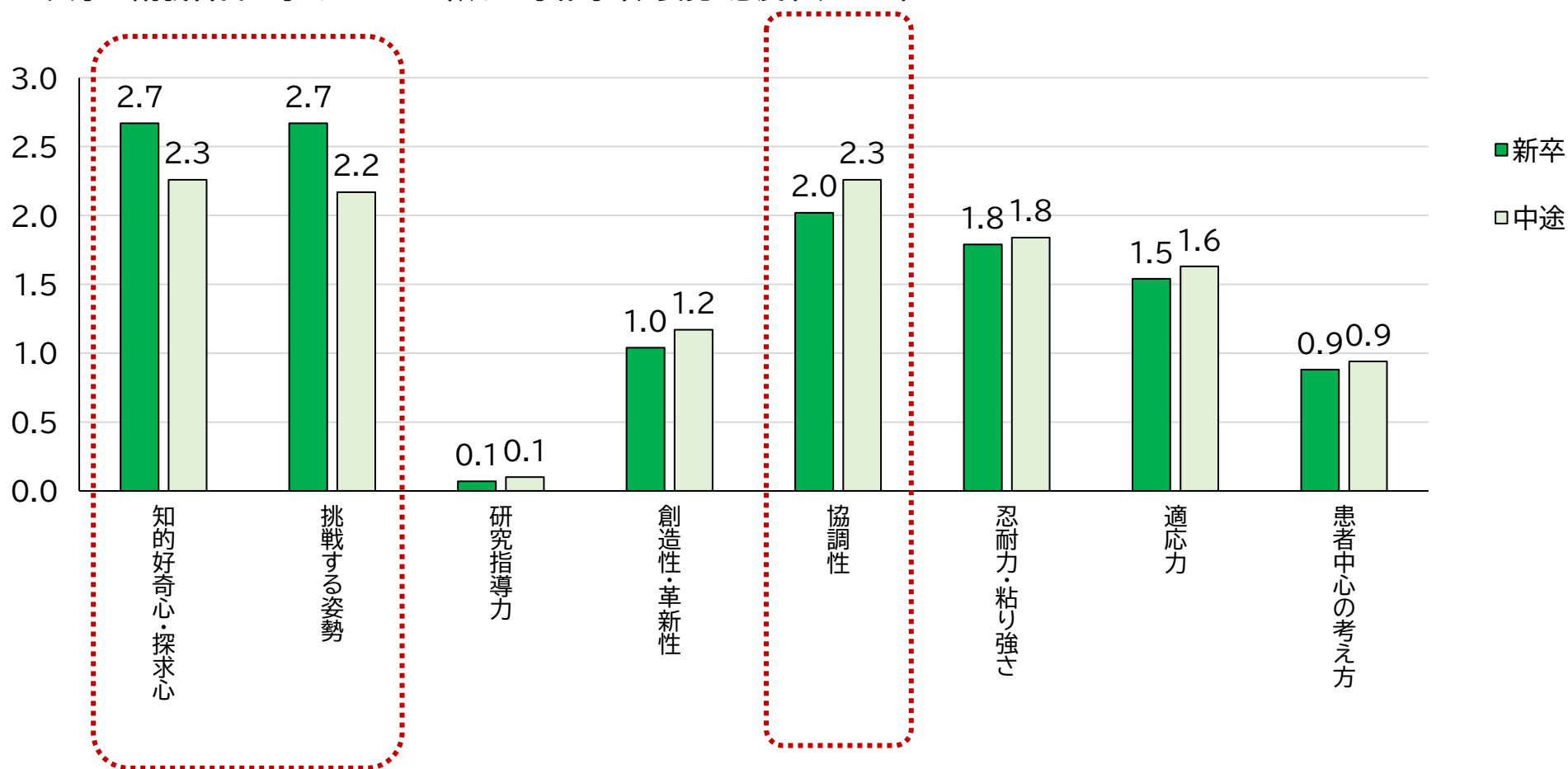
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 採用の種類別に関わらず、「知的好奇心・探求心」と「挑戦する姿勢」、「協調性」が共通して高く、いずれも「研究指導力」は低くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項:姿勢・態度(Q14-3)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

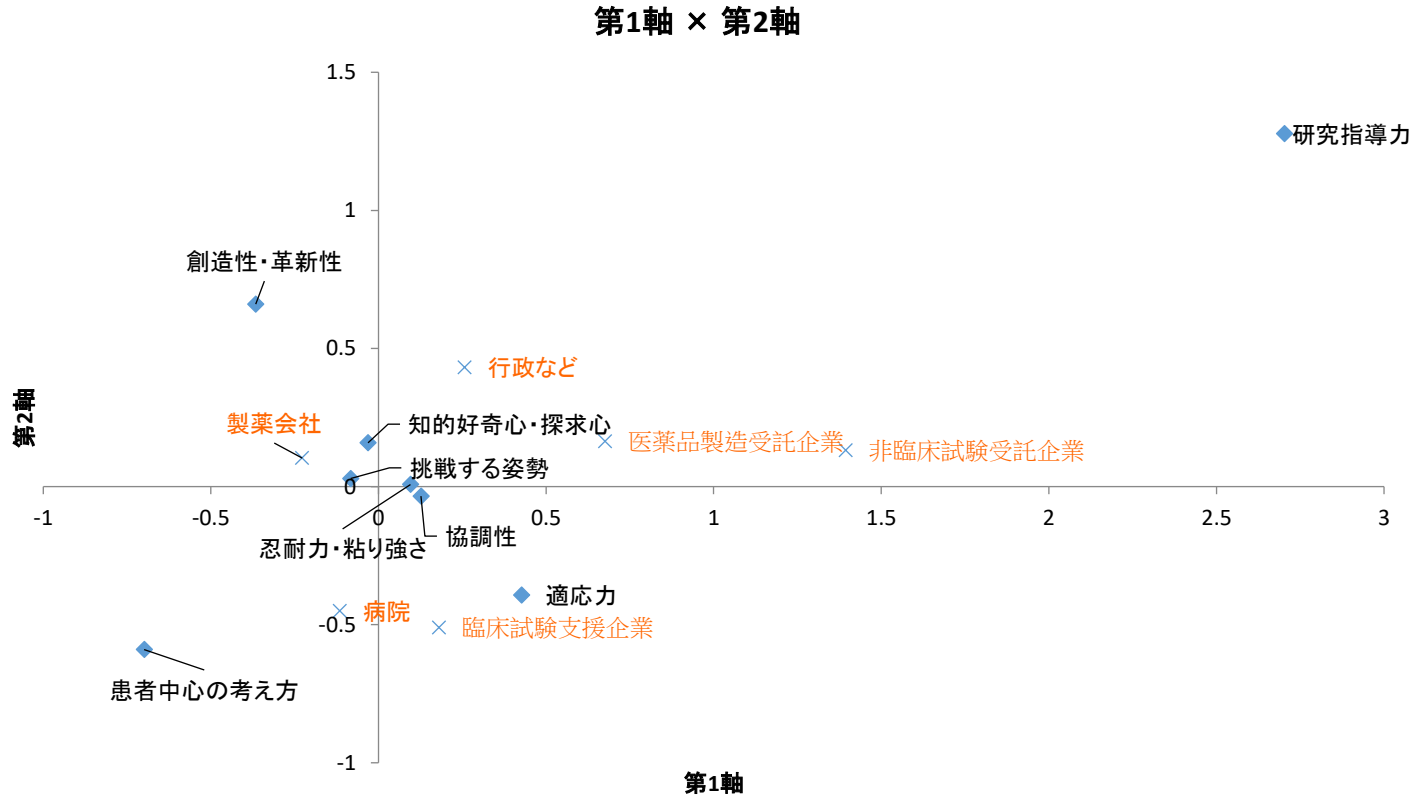
- ✓ 製薬会社、非臨床試験受託企業では、新卒・中途に関わらず「挑戦する姿勢」が高くなっています。
- ✓ 行政などでは、新卒・中途に関わらず「協調性」が高くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項:姿勢・態度(Q14-3)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	挑戦する姿勢	知的好奇心・探求心	忍耐力・粘り強さ	協調性	造性・革新性	挑戦する姿勢 忍耐力・粘り強さ		協調性	知的好奇心・探求心	適応力
臨床試験支援企業	適応力	挑戦する姿勢	知的好奇心・探求心	協調性	忍耐力・粘り強さ	知的好奇心・探求心	適応力	挑戦する姿勢	協調性	忍耐力・粘り強さ
非臨床試験受託企業	挑戦する姿勢	協調性	適応力	忍耐力・粘り強さ	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	忍耐力・粘り強さ 協調性		知的好奇心・探求心	適応力
医薬品製造受託企業	知的好奇心・探求心 協調性 適応力			忍耐力・粘り強さ 造性・革新性		患者中心の考え方	協調性	適応力	知的好奇心・探求心	—
病院	協調性	知的好奇心・探求心	患者中心の考え方	適応力	挑戦する姿勢	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	造性・革新性	協調性	患者中心の考え方
行政など	知的好奇心・探求心	協調性	挑戦する姿勢	忍耐力・粘り強さ	適応力	協調性	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	適応力	造性・革新性

5 採用者に期待する要素

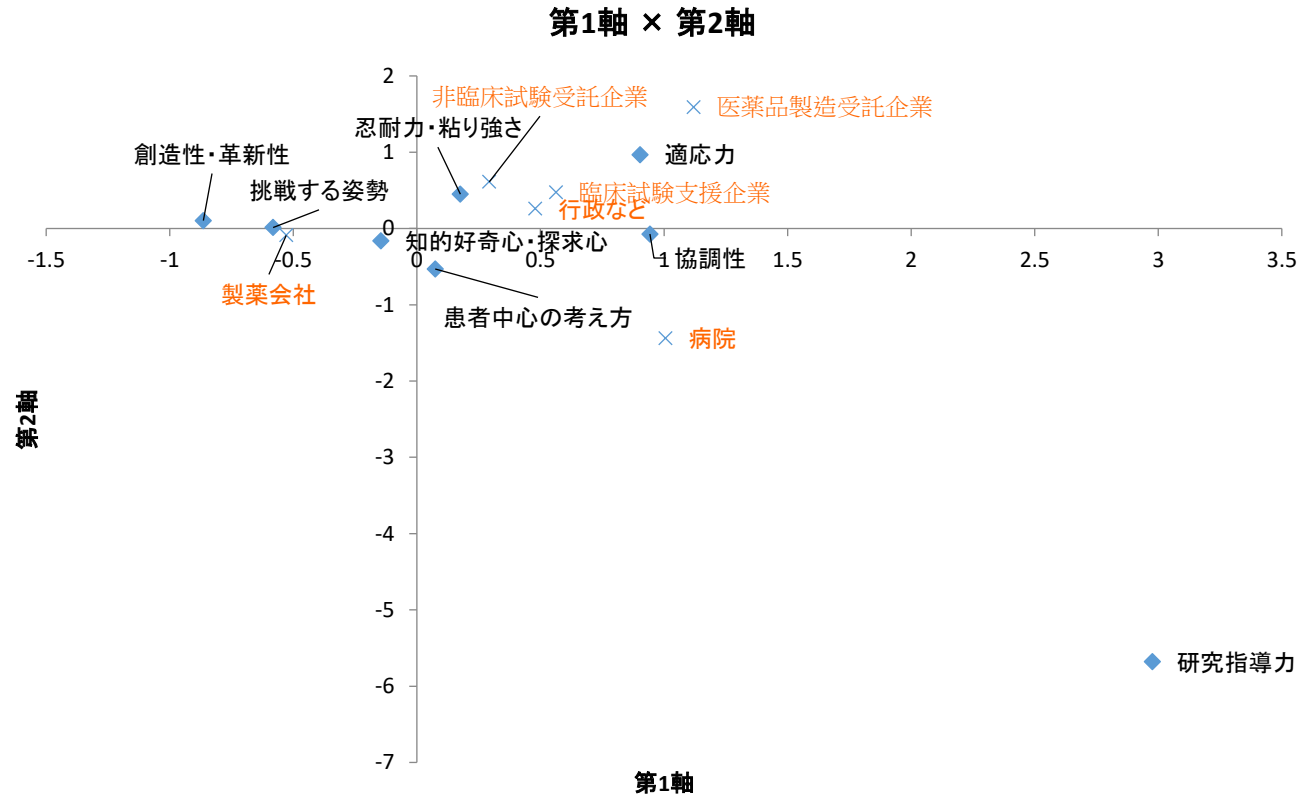
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率38.5%)、第2軸(寄与率29.3%) 累積寄与率67.7%

5 採用者に期待する要素

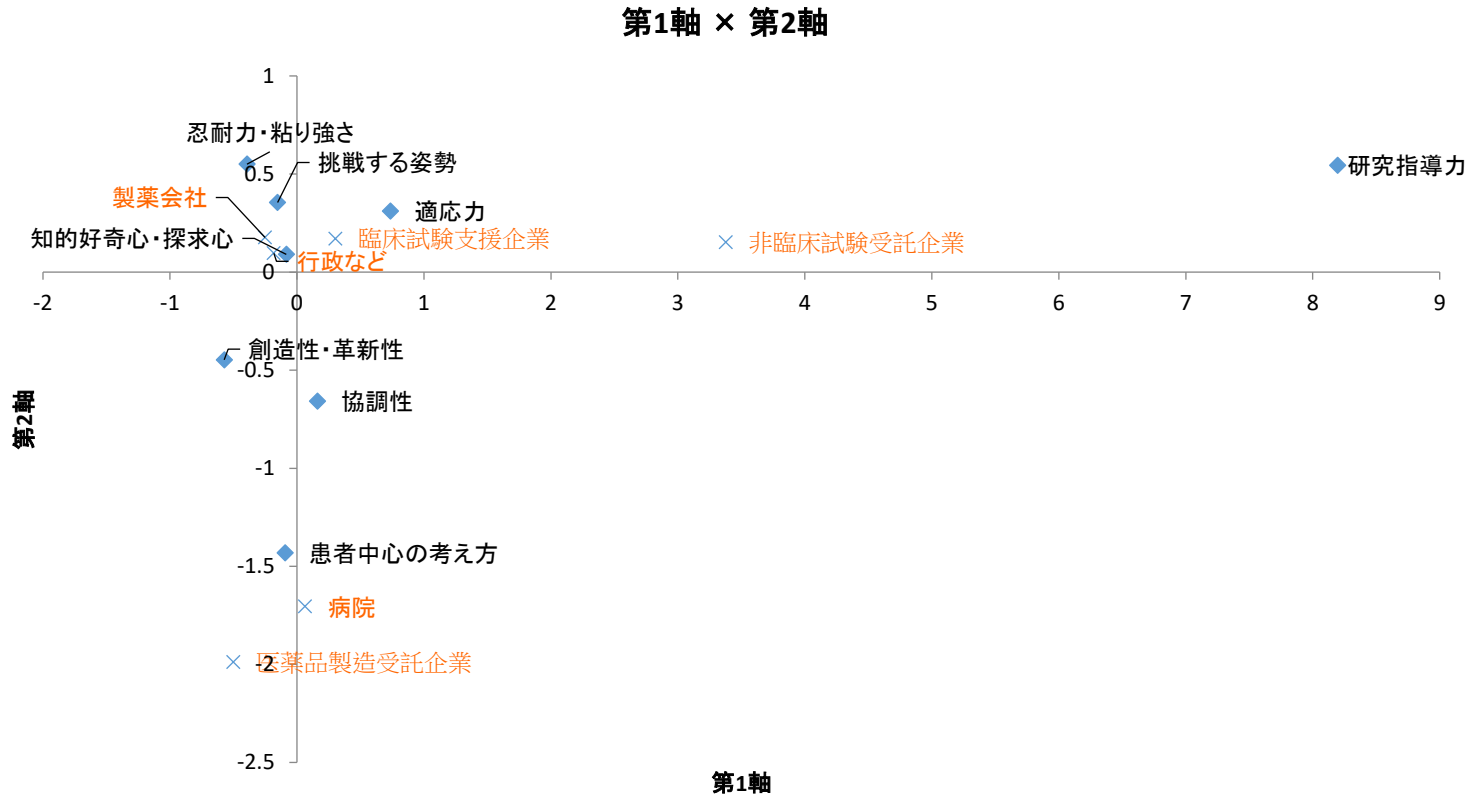
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率48.0%)、第2軸(寄与率27.0%) 累積寄与率75.0%

5 採用者に期待する要素

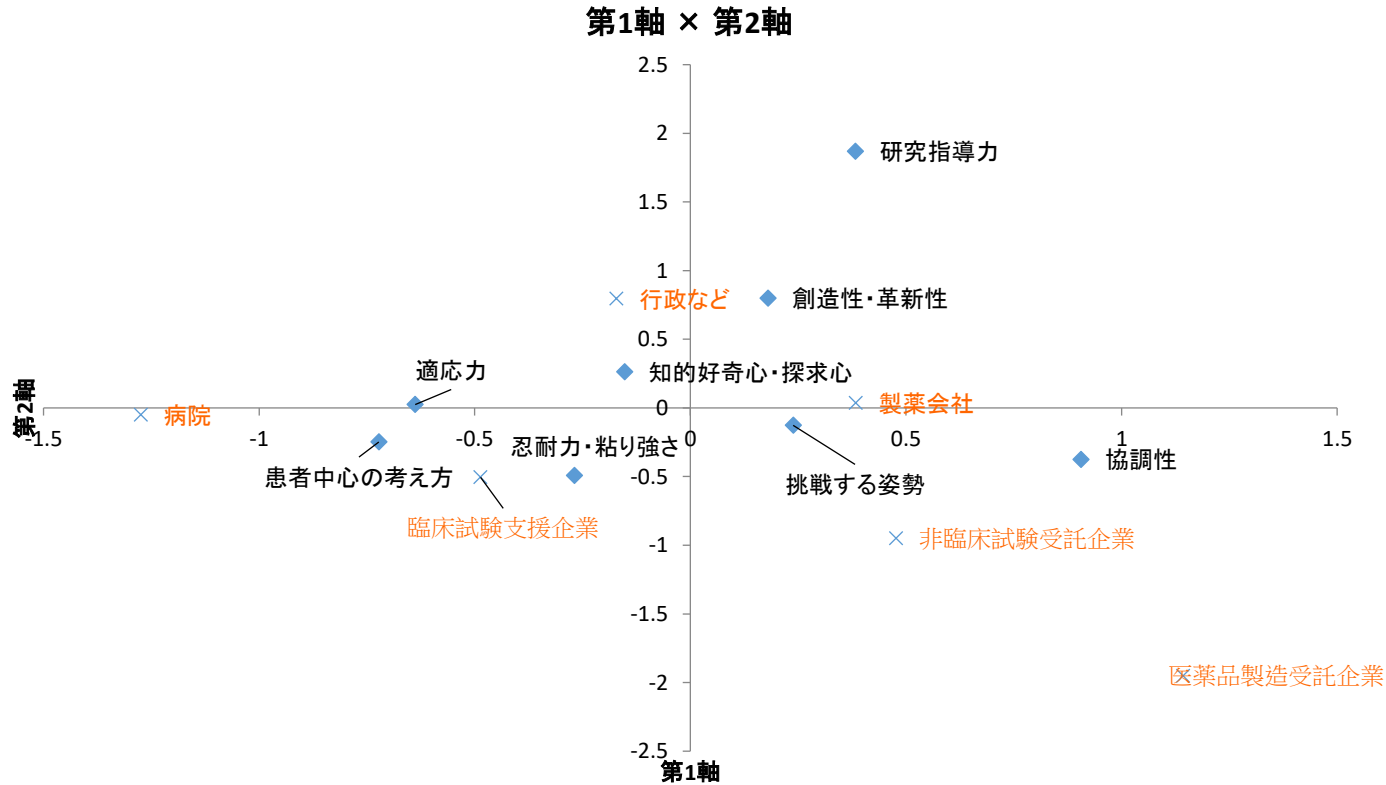
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率47.7%)、第2軸(寄与率21.7%) 累積寄与率69.4%

5 採用者に期待する要素

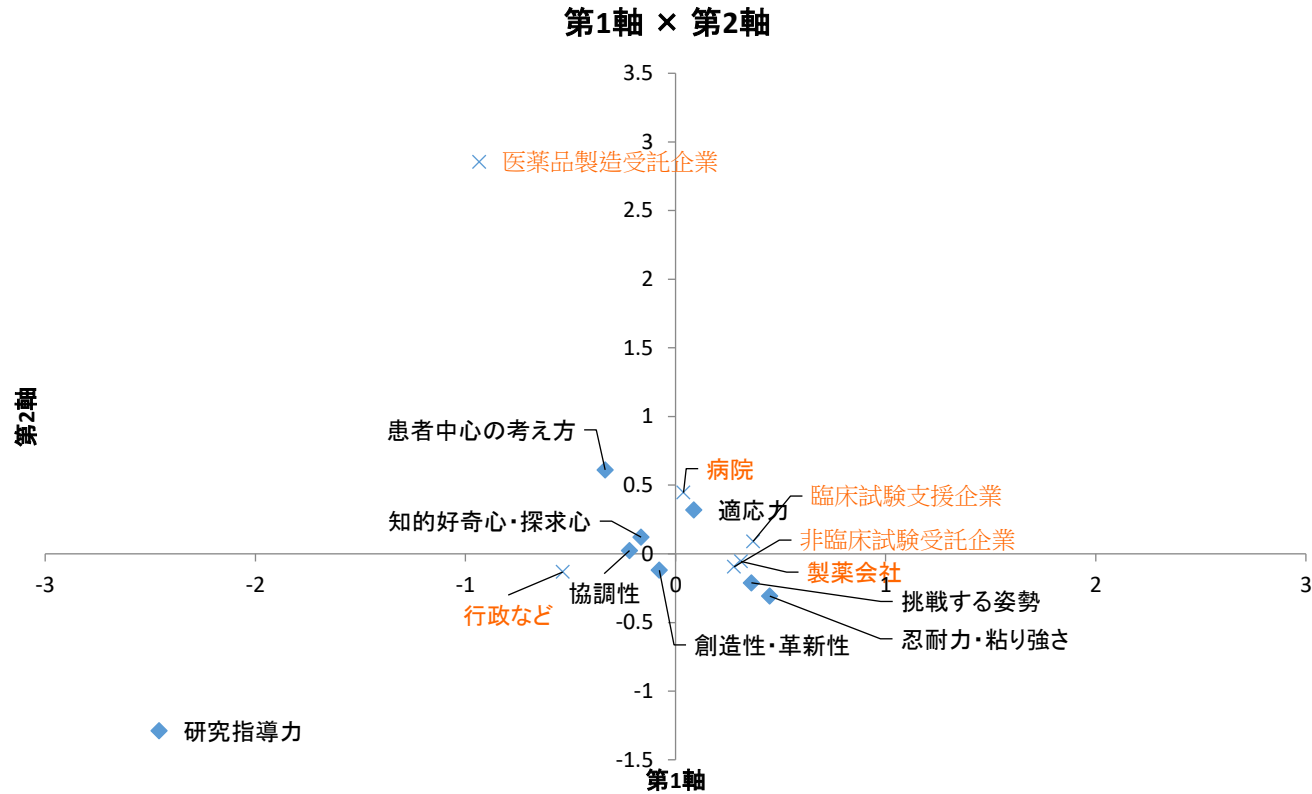
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率40.8%)、第2軸(寄与率26.0%) 累積寄与率66.7%

5 採用者に期待する要素

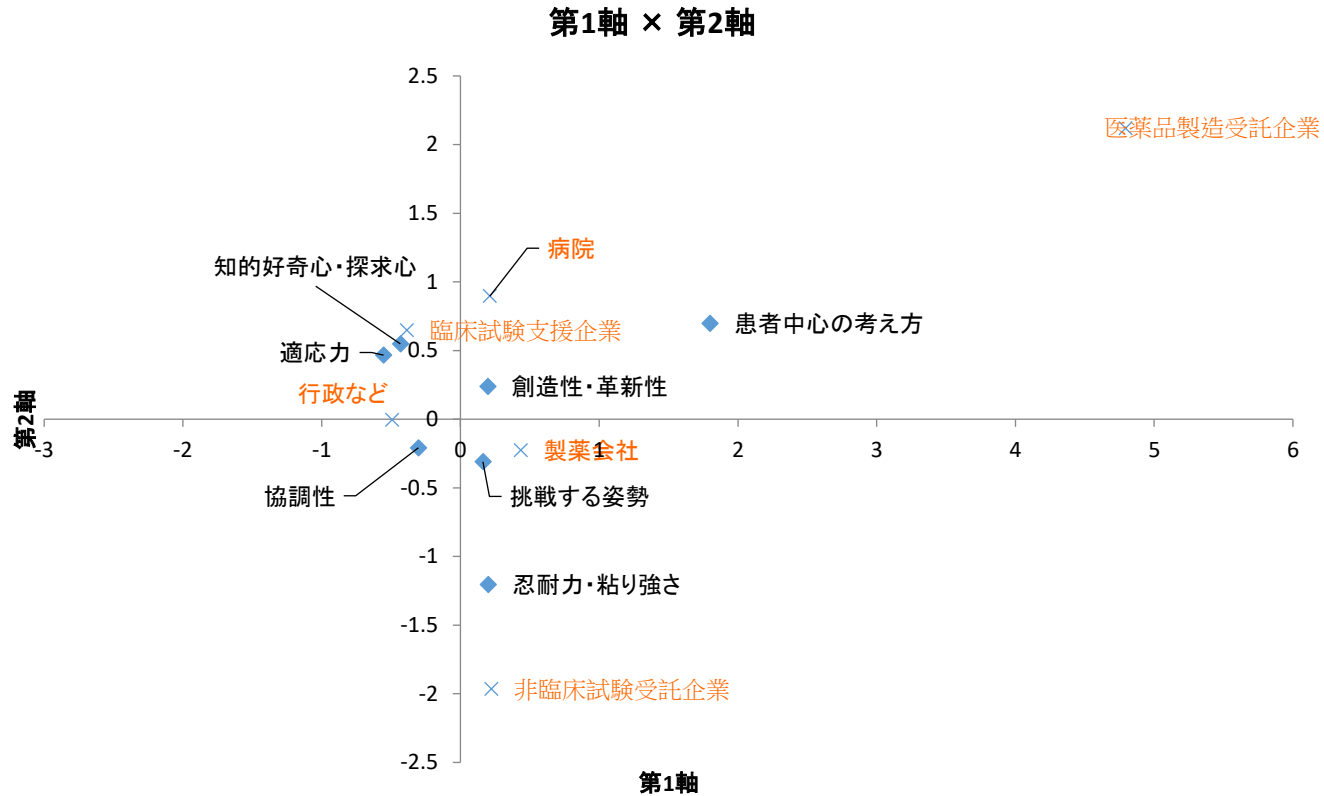
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1～5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率60.0%)、第2軸(寄与率18.6%) 累積寄与率78,6%

5 採用者に期待する要素

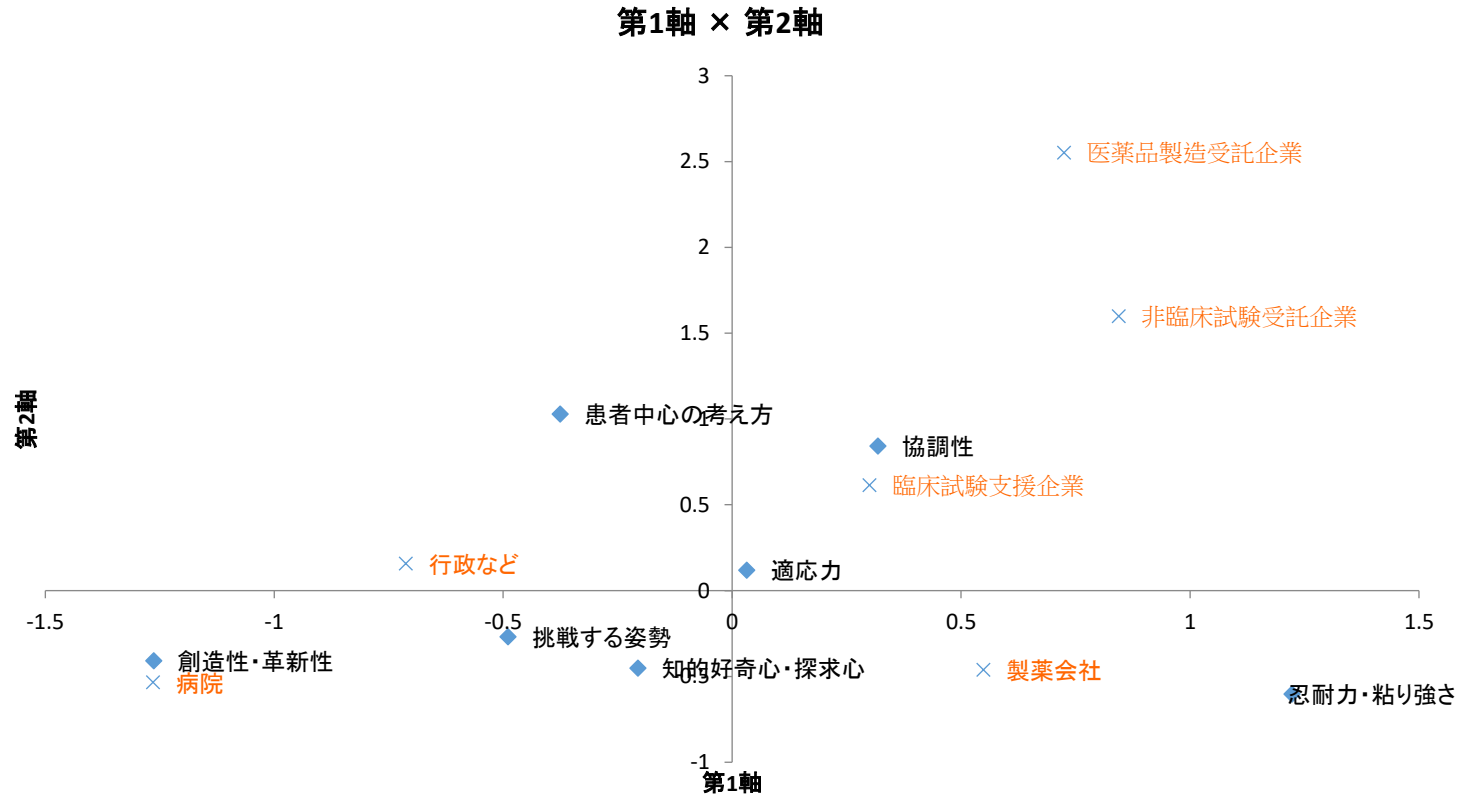
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率42.9%)、第2軸(寄与率33.0%) 累積寄与率75.8%

5 採用者に期待する要素

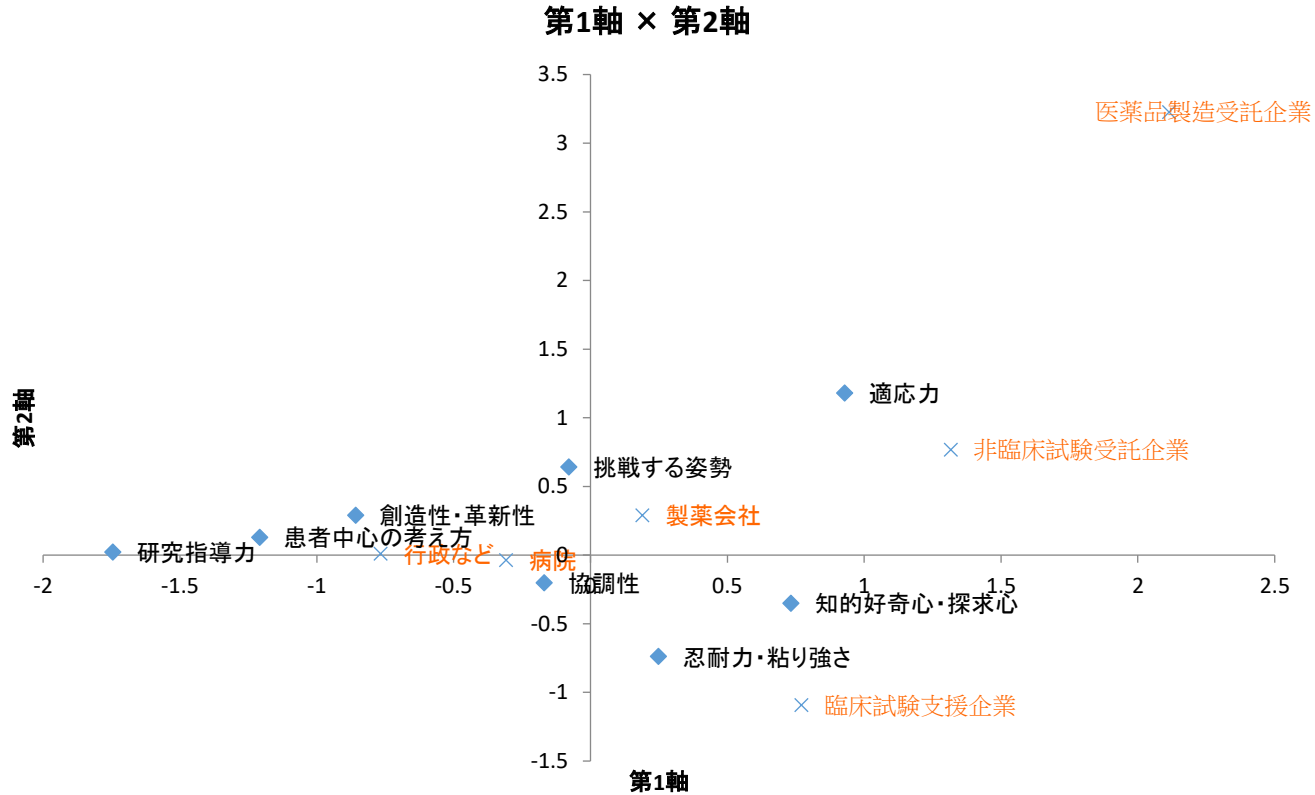
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率48.2%)、第2軸(寄与率27.2%) 累積寄与率75.4%

5 採用者に期待する要素

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率42.6%)、第2軸(寄与率29.5%) 累積寄与率72.0%

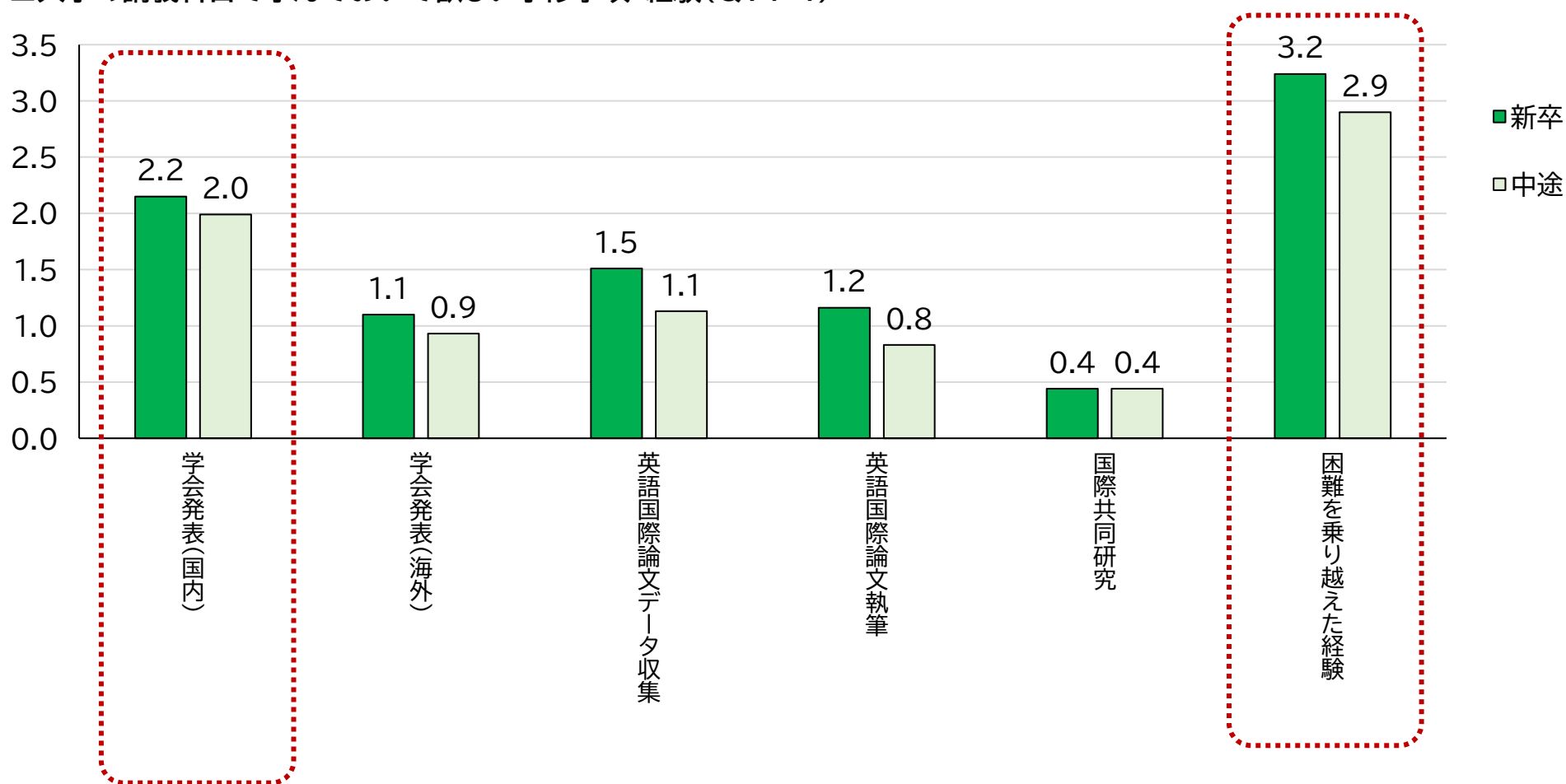
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 採用の種類別に関わらず、「困難を乗り越えた経験」「学会発表（国内）」が共通して高く、いずれも「国際共同研究」は低くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項:経験(Q14-4)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

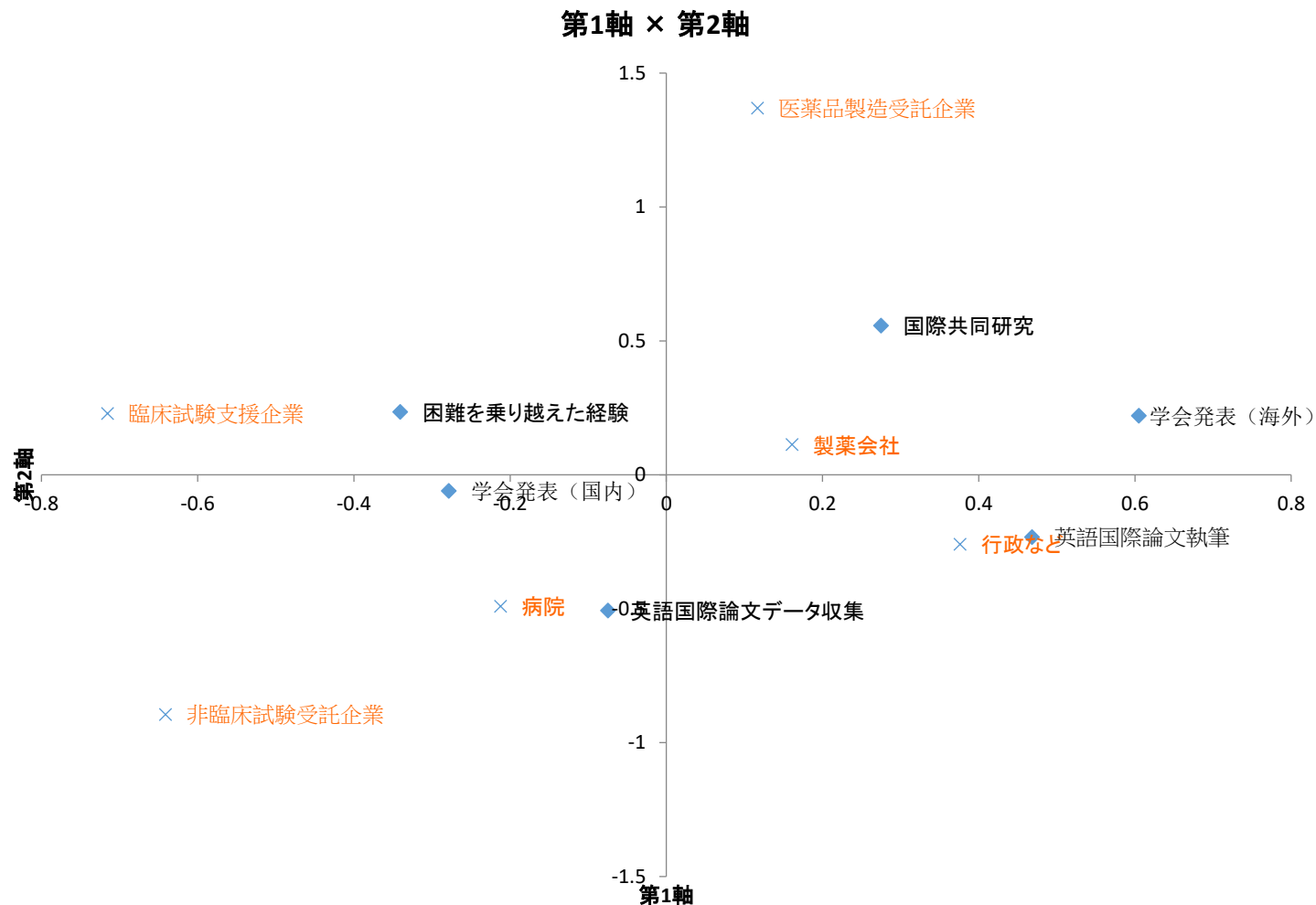
- ✓ 新卒・中途に関わらず「困難を乗り越えた経験」と「学会発表（国内）」が最も高くなっています。

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項:経験(Q14-4)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	英語国際論文執筆	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	英語国際論文執筆
臨床試験支援企業	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	英語国際論文執筆 国際共同研究	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆
非臨床試験受託企業	困難を乗り越えた経験 学会発表(国内)		英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆	学会発表(海外)	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内) 英語国際論文データ収集		学会発表(海外)	英語国際論文執筆
医薬品製造受託企業	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	—	学会発表(海外)	英語国際論文執筆	—	—	—	—	—
病院	困難を乗り越えた経験 学会発表(国内)		英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆	学会発表(海外)	学会発表(国内)	困難を乗り越えた経験	学会発表(海外)	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆
行政など	困難を乗り越えた経験	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆	学会発表(国内)	学会発表(海外)	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆	学会発表(海外)

5 採用者に期待する要素

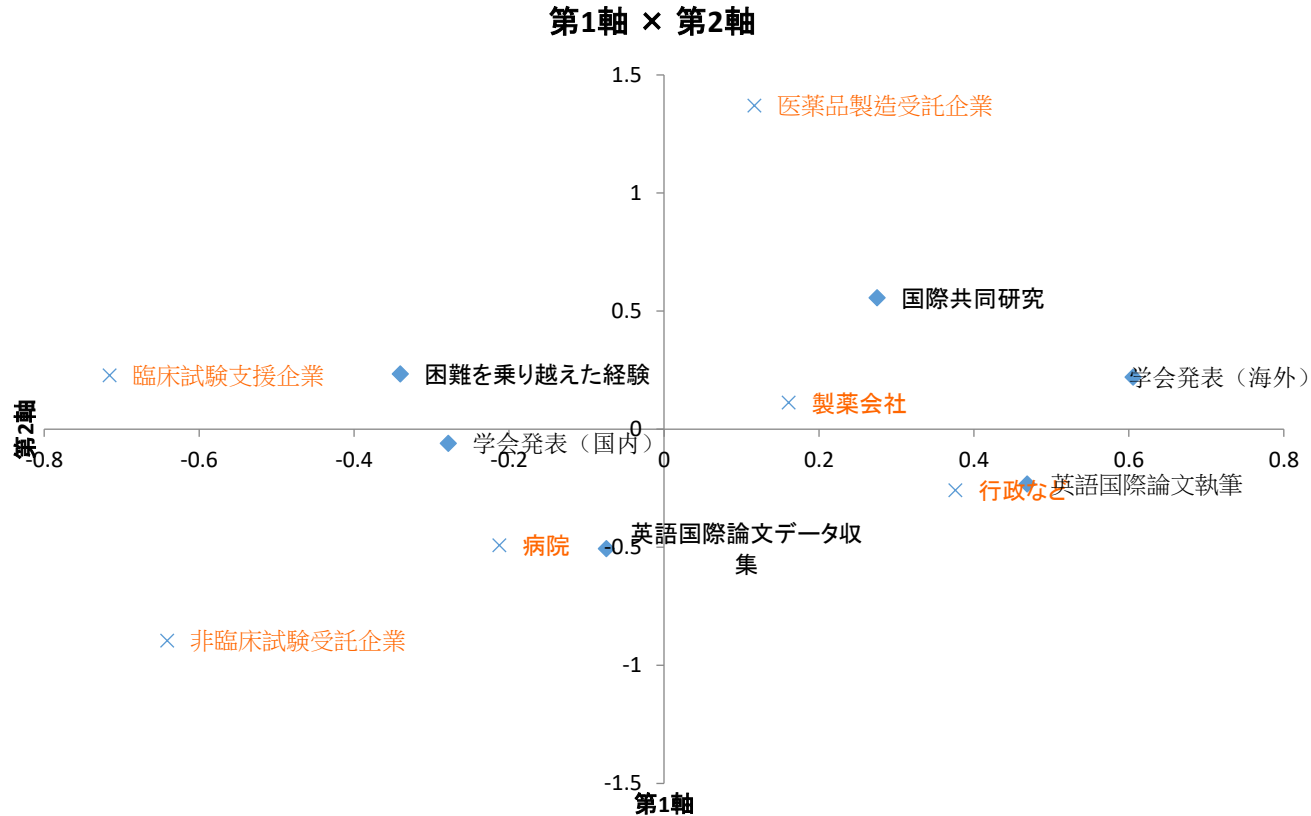
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率58.7%)、第2軸(寄与率27.8%) 累積寄与率86.5%

5 採用者に期待する要素

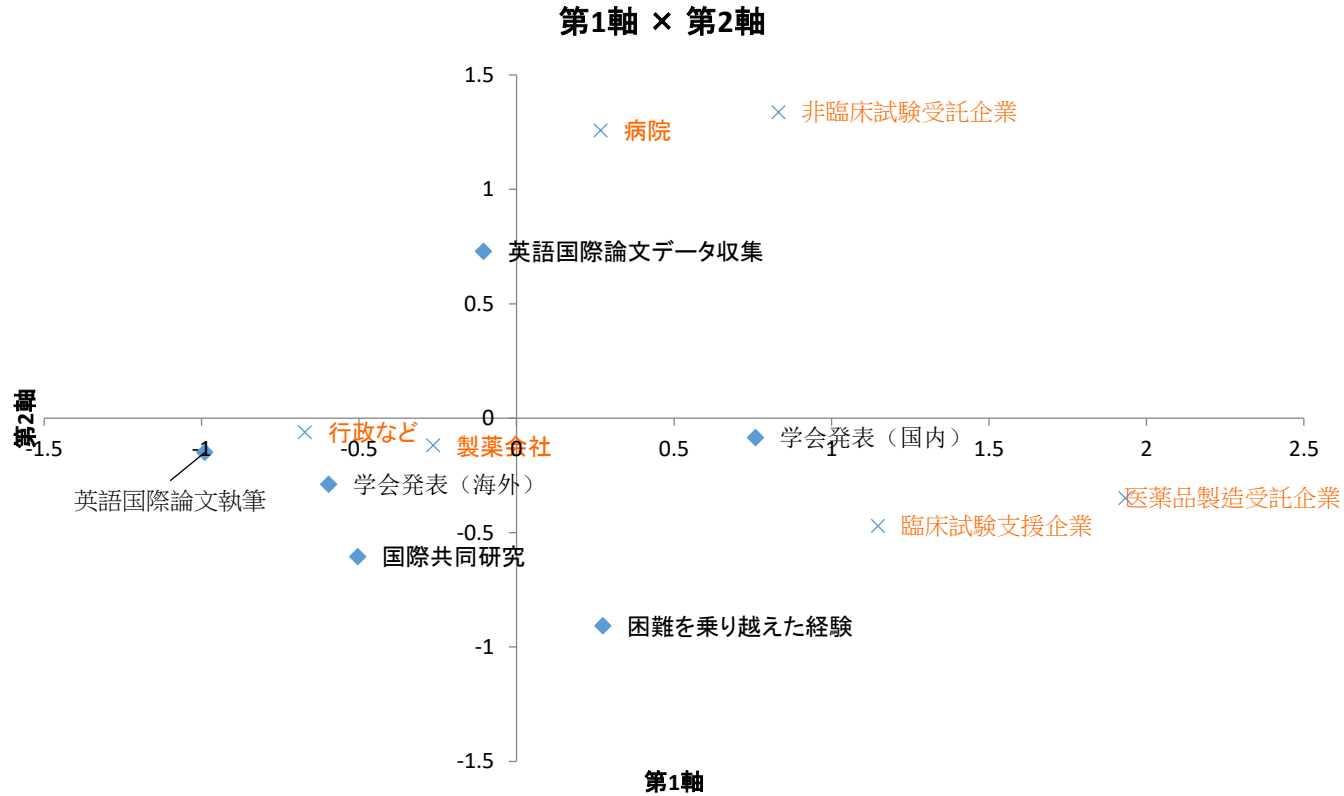
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率66.7%)、第2軸(寄与率18.3%) 累積寄与率85.1%

5 採用者に期待する要素

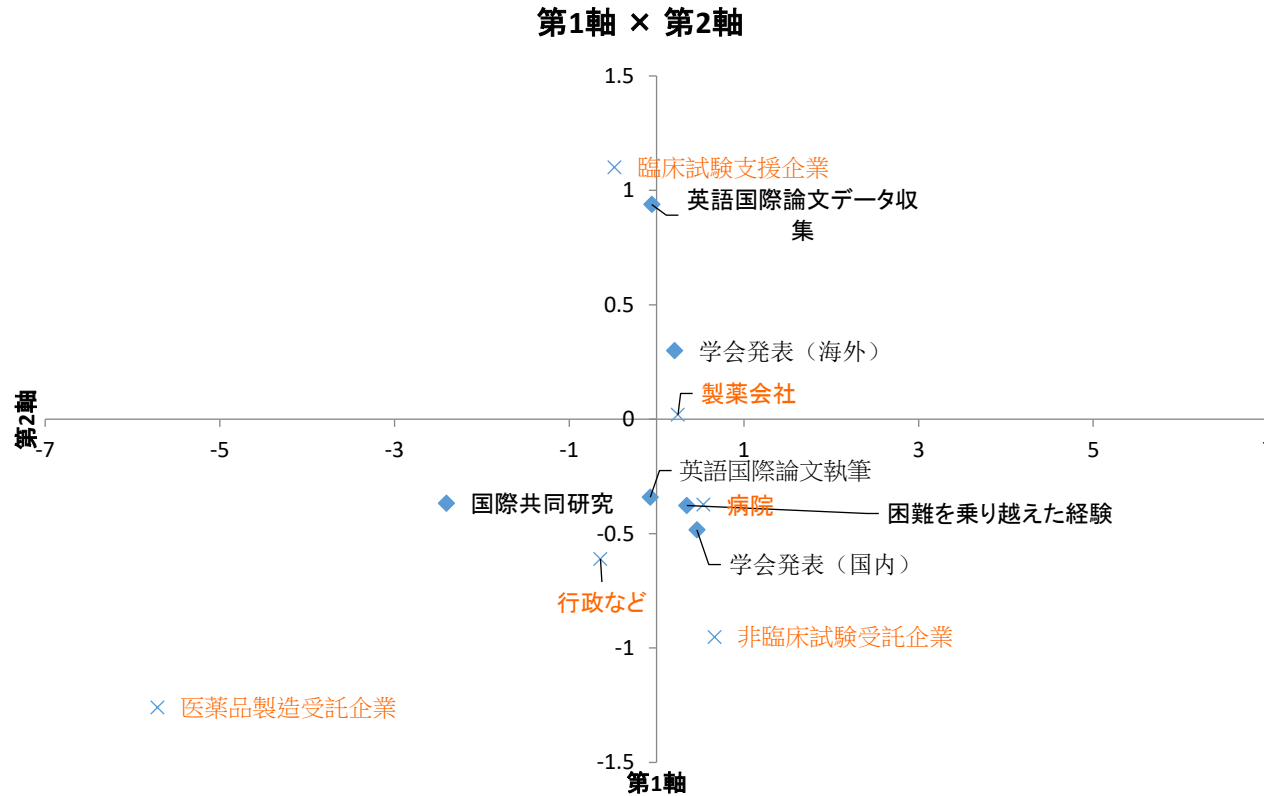
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率62.6%)、第2軸(寄与率23.7%) 累積寄与率86.3%

5 採用者に期待する要素

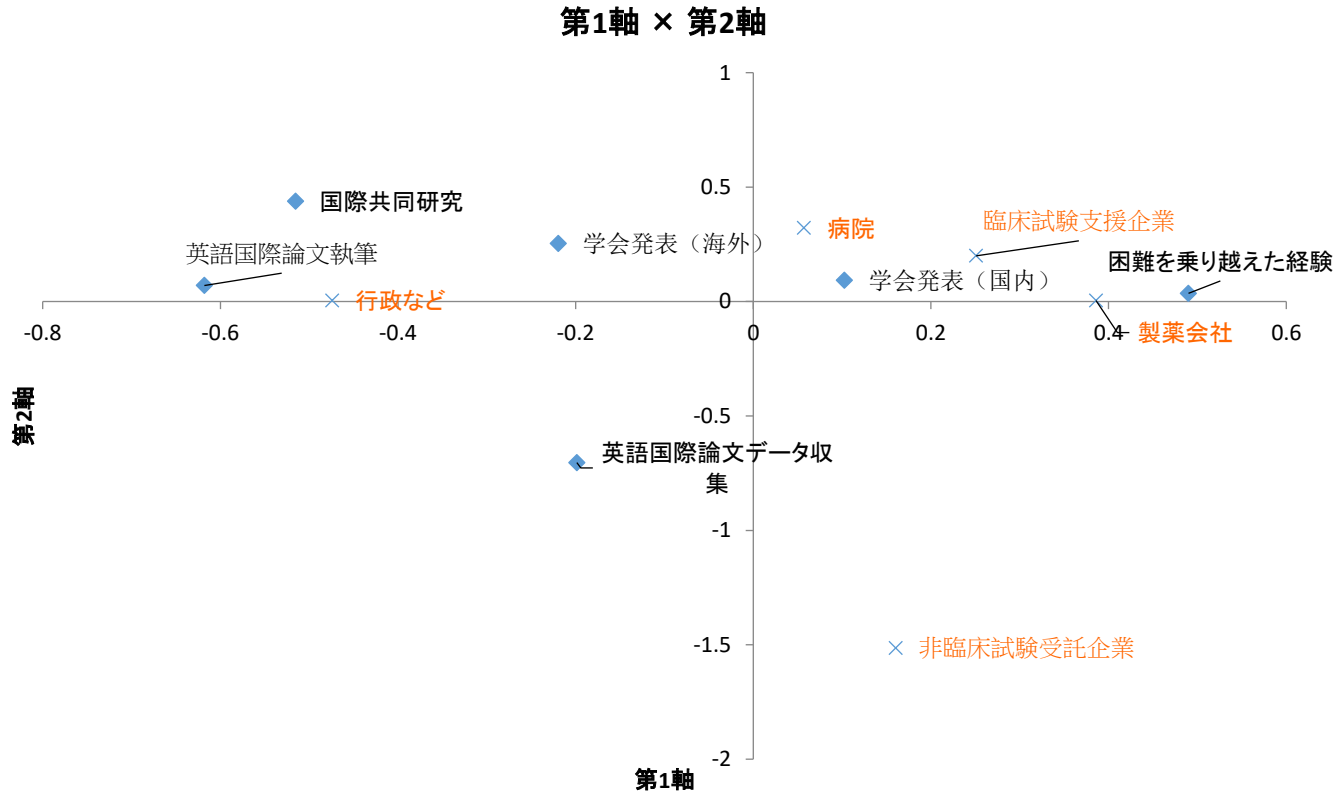
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率59.2%)、第2軸(寄与率28.3%) 累積寄与率87.5%

5 採用者に期待する要素

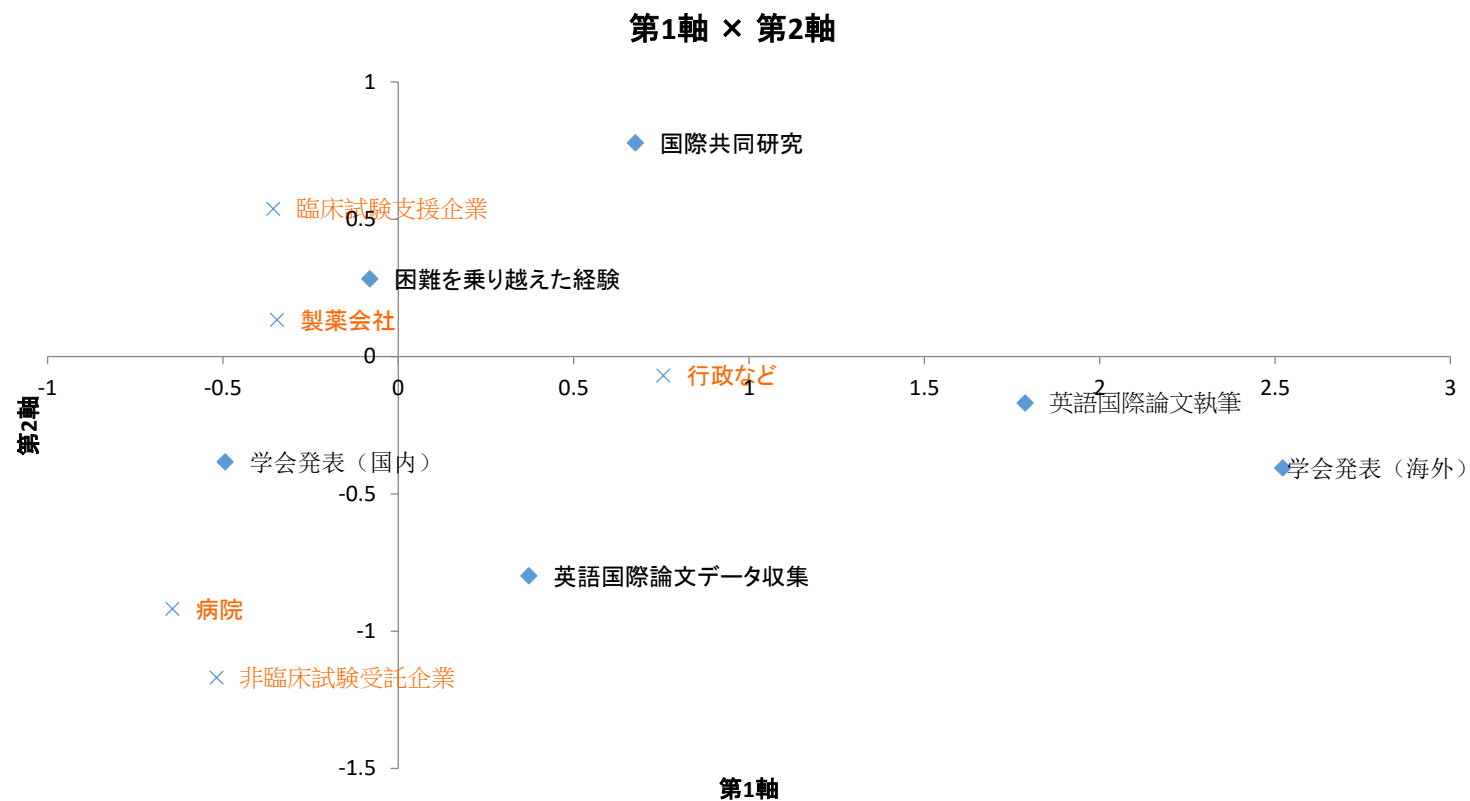
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験1~5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率60.8%)、第2軸(寄与率26.3%) 累積寄与率87.1%

5 採用者に期待する要素

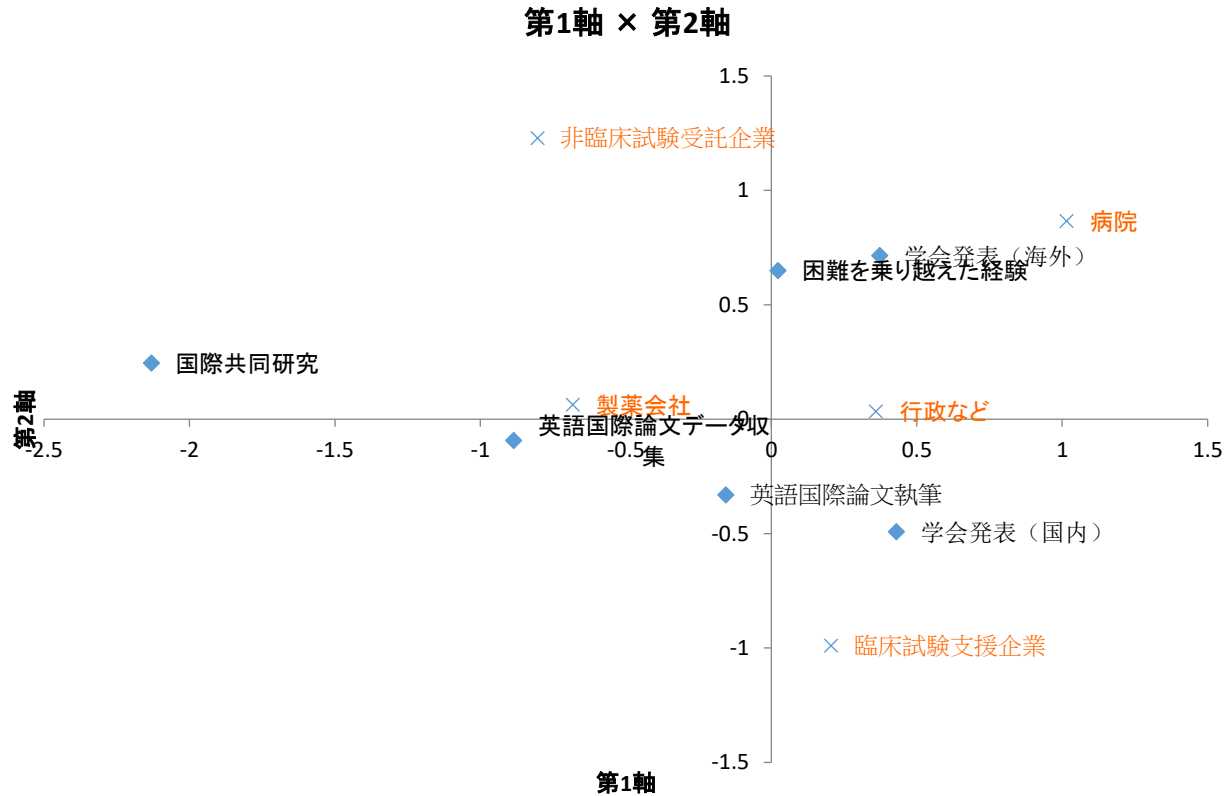
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率72.8%)、第2軸(寄与率23.7%) 累積寄与率96.5%

5 採用者に期待する要素

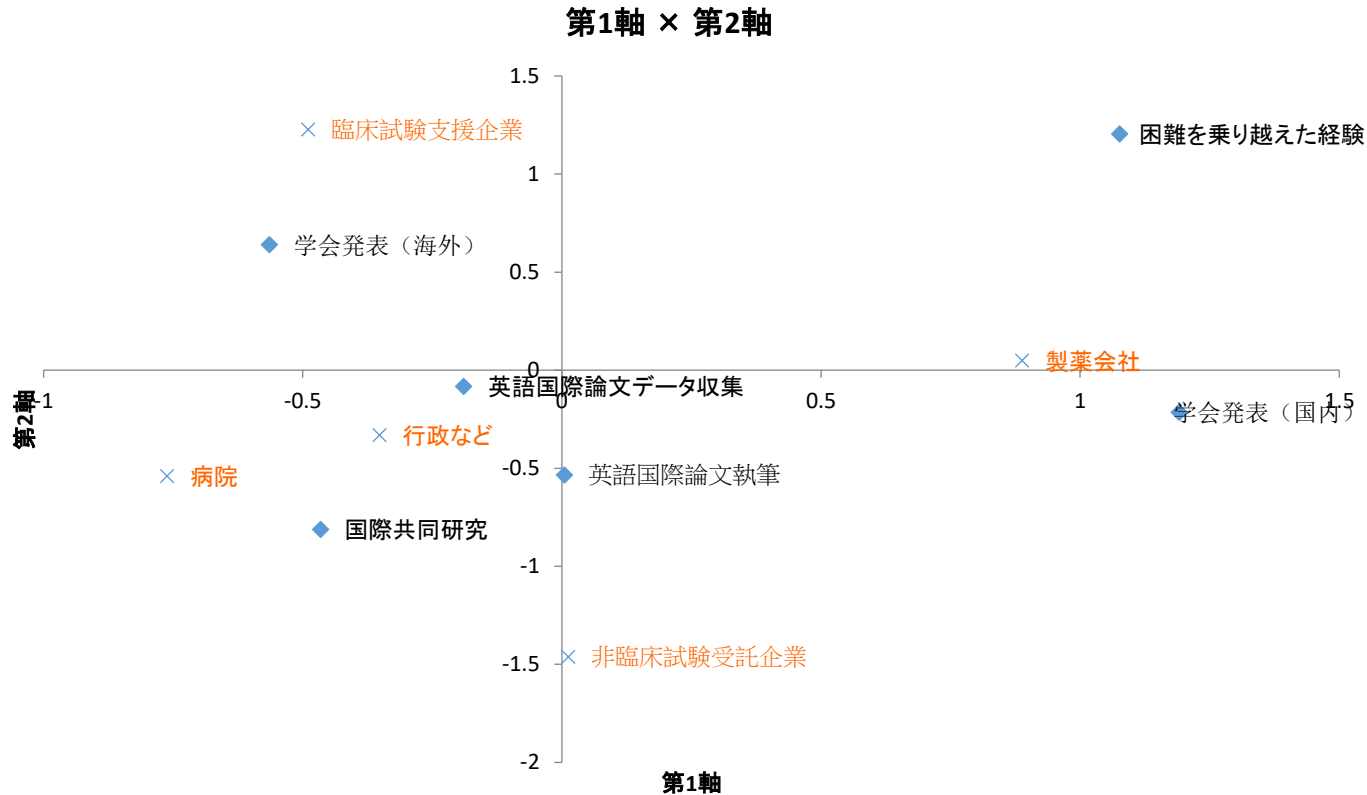
■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率46.3%)、第2軸(寄与率29.0%) 累積寄与率75.2%

5 採用者に期待する要素

■大学の講義科目で学んでおいて欲しい学修事項(経験3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率42.9%)、第2軸(寄与率36.1%) 累積寄与率79.0%

5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

- ✓ 研究活動で学んでおいてほしい学修事項は、新卒・中途採用に関わらず、共通している傾向にあります。

■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項:全体(Q15)

	知識		技能・技術		姿勢・態度		経験	
	新卒採用者	中途採用者	新卒採用者	中途採用者	新卒採用者	中途採用者	新卒採用者	中途採用者
製薬会社	データ分析・統計学	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	論理的思考力	挑戦する姿勢	挑戦する姿勢	困難を乗り越えた経験	困難を乗り越えた経験
臨床試験支援企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	論理的思考力	知的好奇心・探求心	知的好奇心・探求心	困難を乗り越えた経験	困難を乗り越えた経験
非臨床試験受託企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	実験遂行力・技術習得	実験遂行力・技術習得	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	学会発表(国内)	困難を乗り越えた経験
医薬品製造受託企業	データ分析・統計学	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	論理的思考力	協調性 忍耐力・粘り強さ	患者中心の考え方	困難を乗り越えた経験	—
病院	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	論理的思考力	臨床現場の経験	知的好奇心・探求心	知的好奇心・探求心	学会発表(国内)	困難を乗り越えた経験
行政など	5年以内の新たな一般科学技術	5年以内の新たな一般科学技術	論理的思考力	論理的思考力	知的好奇心・探求心	知的好奇心・探求心	困難を乗り越えた経験	困難を乗り越えた経験

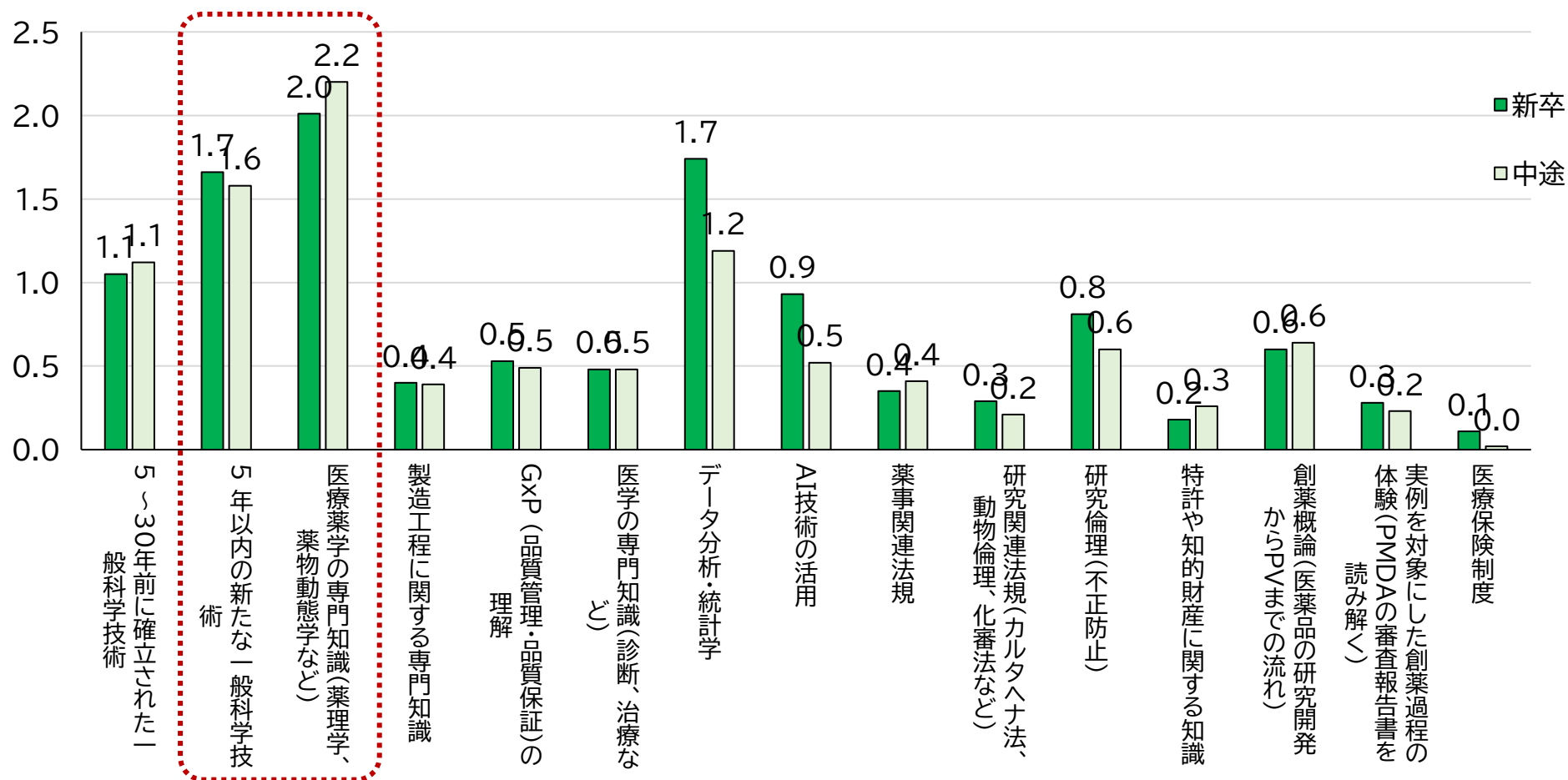
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 新卒・中途に関わらず、「医療薬学の専門知識」「5年以内の新たな一般科学技術」が高くなっています。
- ✓ 新卒の採用では、「データ分析・統計学」が高い傾向にあります。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:知識(Q15-1)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

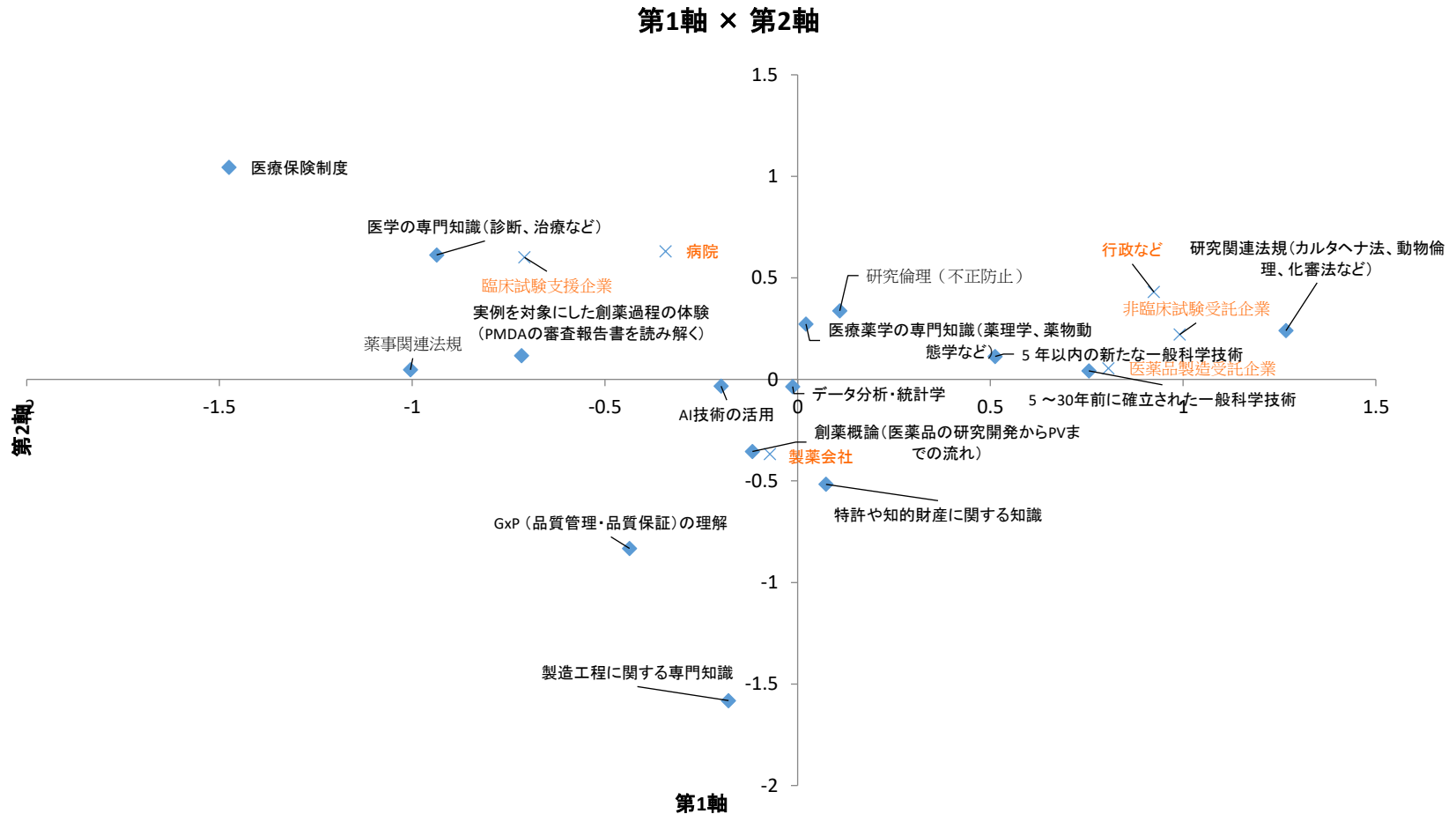
✓ 製薬会社、行政などでは、新卒・中途採用に関わらず、求める知識に大きな違いはありません。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:知識(Q15-1)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	データ分析・統計学	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5年以内の新たな一般科学技術	AI技術の活用	5～30年前に確立された一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	データ分析・統計学	5年以内の新たな一般科学技術	AI技術の活用	GxP(品質管理・品質保証)の理解 製造工程に関する専門知識
臨床試験支援企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	データ分析・統計学	5年以内の新たな一般科学技術 AI技術の活用	医学の専門知識(診断、治療など)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	医学の専門知識(診断、治療など)	5年以内の新たな一般科学技術	創業概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	
非臨床試験受託企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5年以内の新たな一般科学技術	5～30年前に確立された一般科学技術	データ分析・統計学	研究関連法規(カルタヘナ法、動物倫理、化審法など)	5～30年前に確立された一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	GxP(品質管理・品質保証)の理解	データ分析・統計学	研究倫理(不正防止)
医薬品製造受託企業	データ分析・統計学	5～30年前に確立された一般科学技術 5年以内の新たな一般科学技術	AI技術の活用	—	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	—	—	—	—	—
病院	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	データ分析・統計学	研究倫理(不正防止)	5年以内の新たな一般科学技術	医学の専門知識(診断、治療など)	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5年以内の新たな一般科学技術	創業概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)	データ分析・統計学 AI技術の活用	
行政など	5年以内の新たな一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5～30年前に確立された一般科学技術	データ分析・統計学	研究倫理(不正防止)	5年以内の新たな一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	データ分析・統計学	5～30年前に確立された一般科学技術	GxP(品質管理・品質保証)の理解

5 採用者に期待する要素

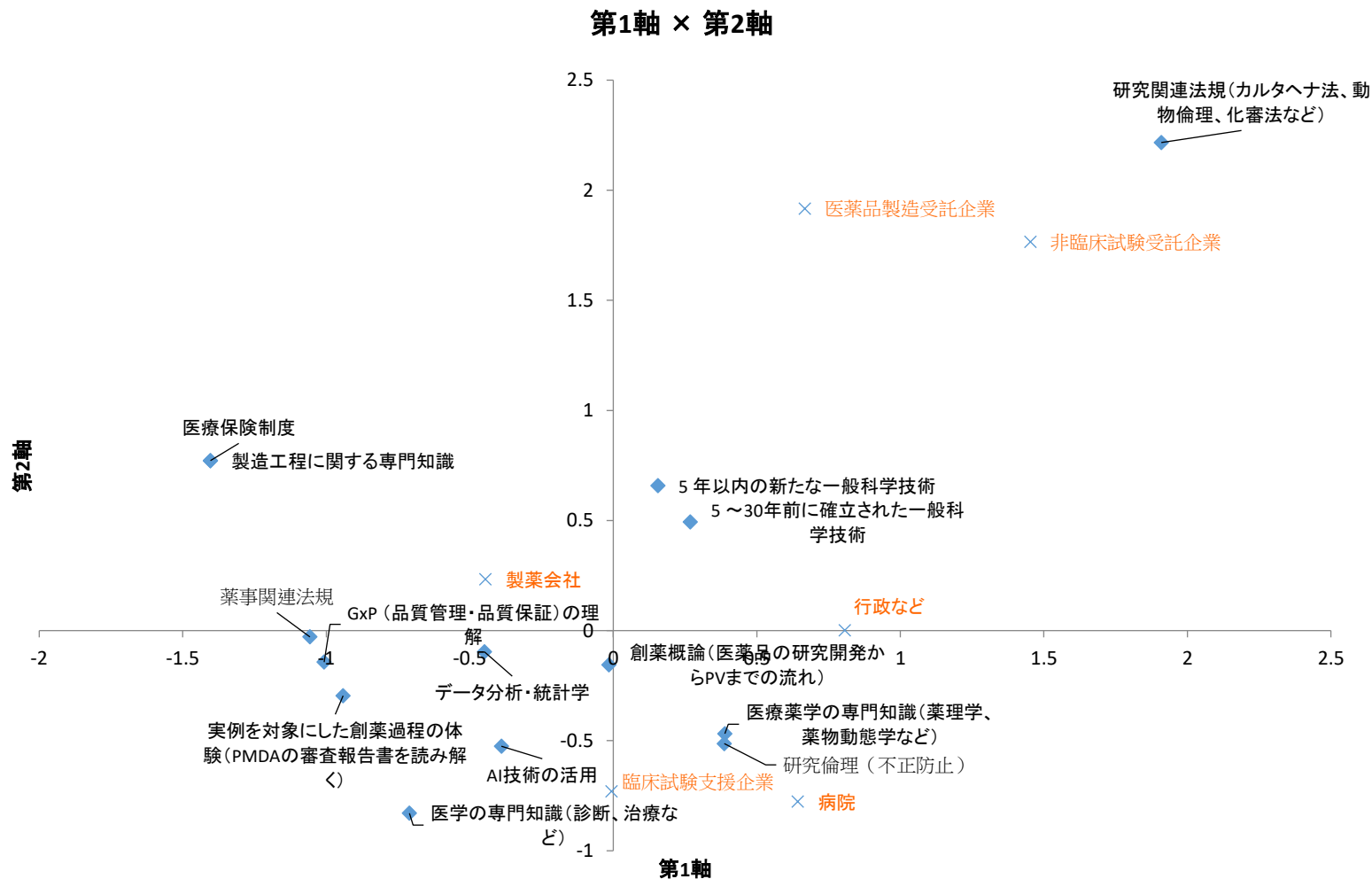
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率50.8%)、第2軸(寄与率28.4%) 累積寄与率79.2%

5 採用者に期待する要素

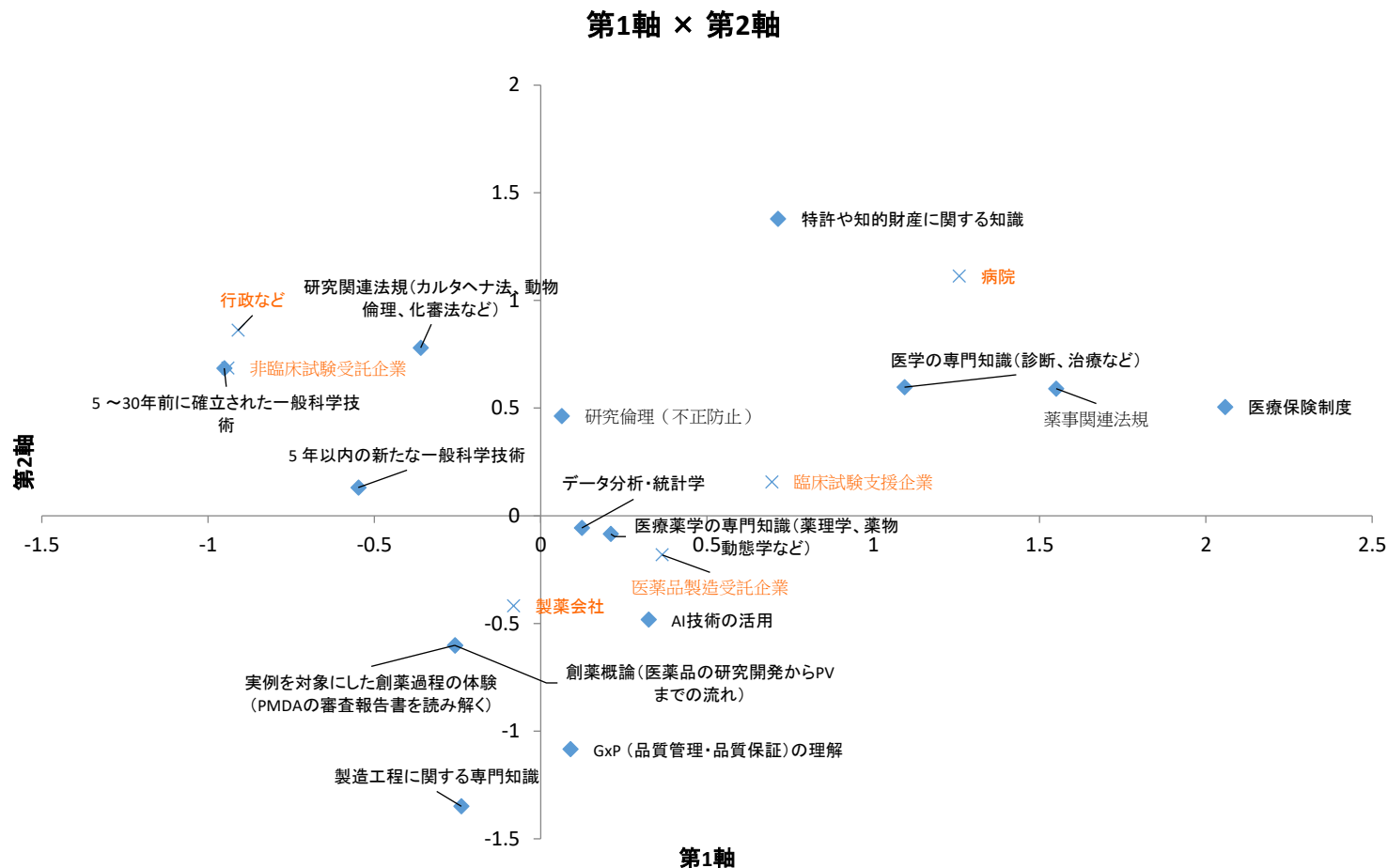
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率40.1%)、第2軸(寄与率36.0%) 累積寄与率76.2%

5 採用者に期待する要素

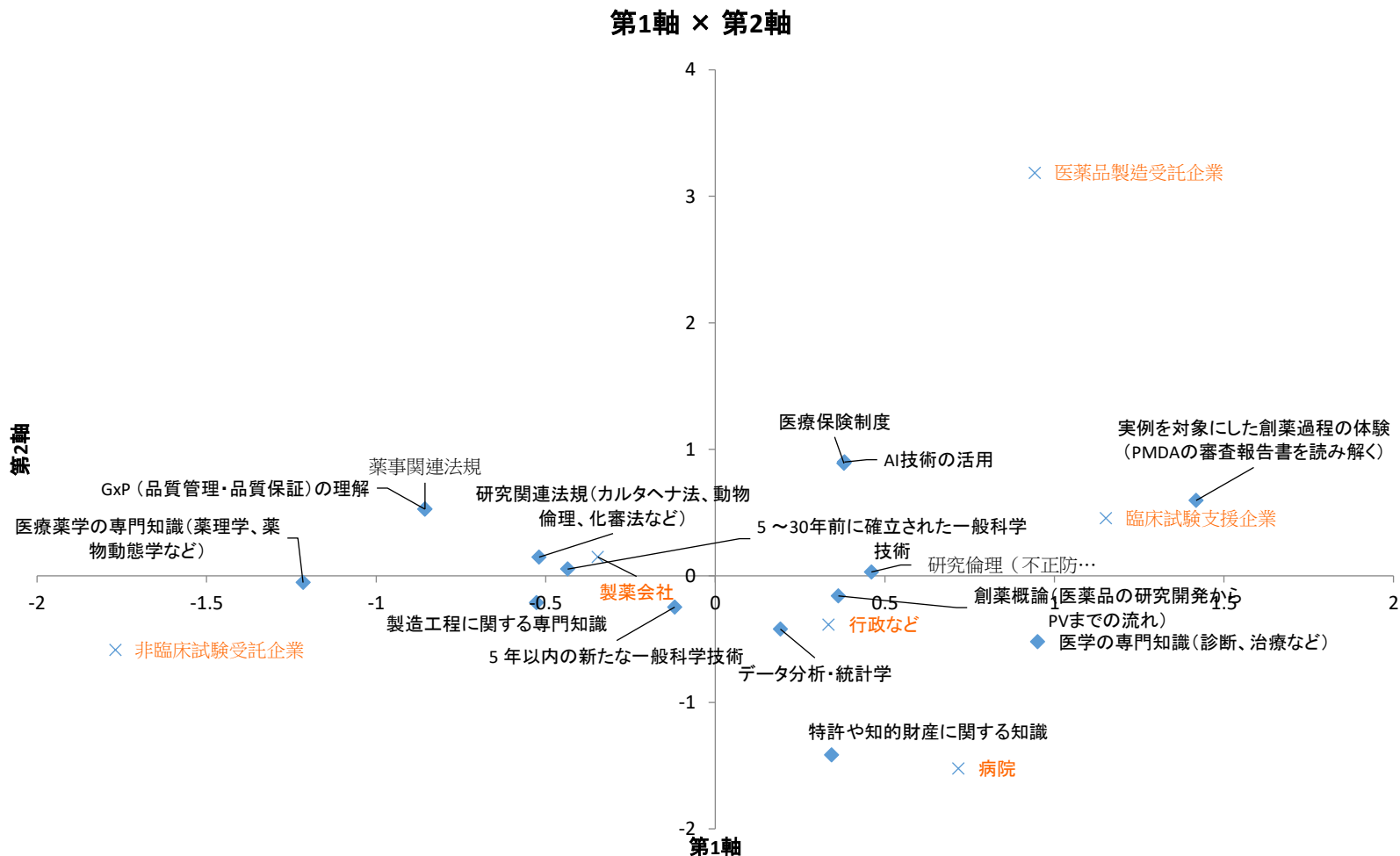
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率33.9%)、第2軸(寄与率28.6%) 累積寄与率62.5%

5 採用者に期待する要素

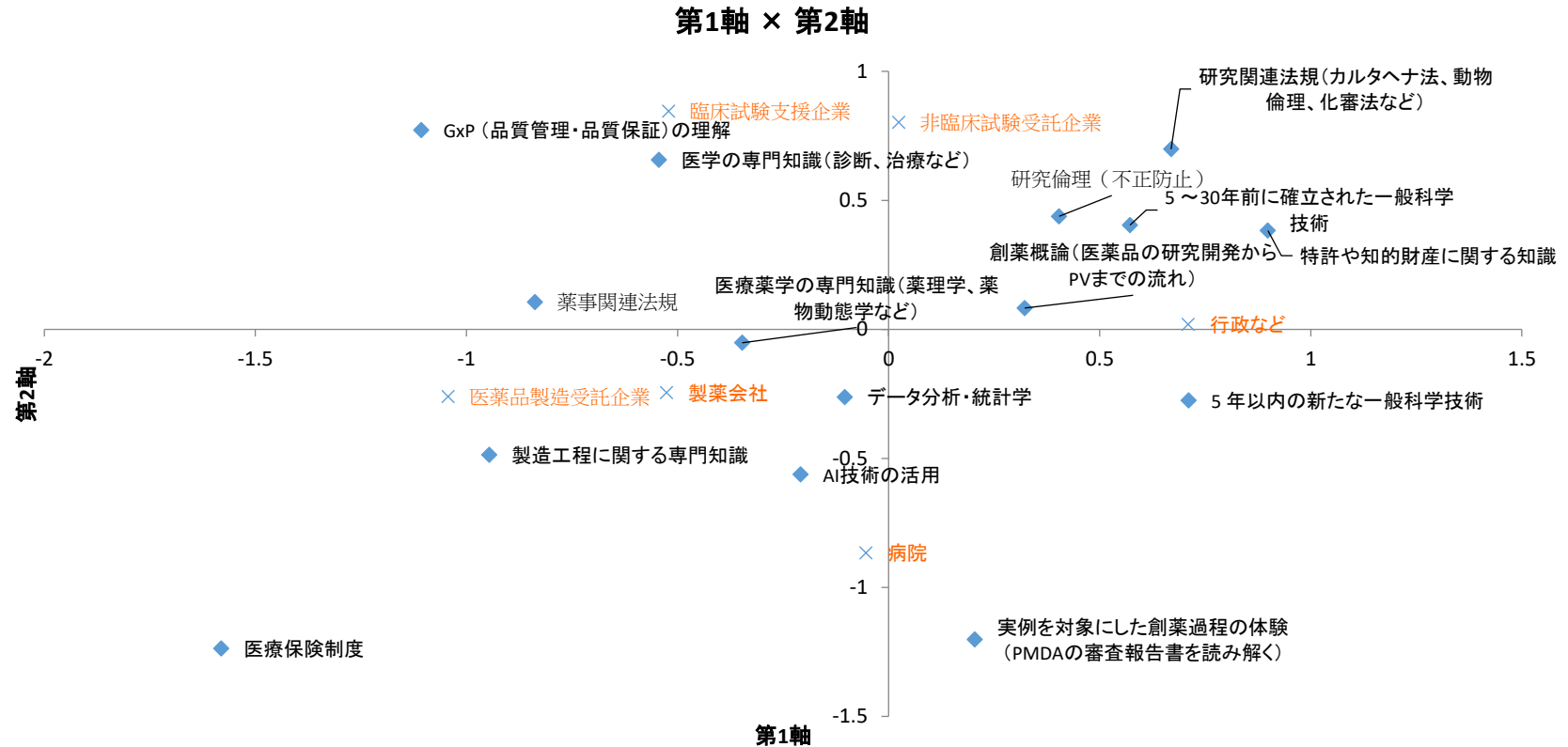
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率45.9%)、第2軸(寄与率22.4%) 累積寄与率68.3%

5 採用者に期待する要素

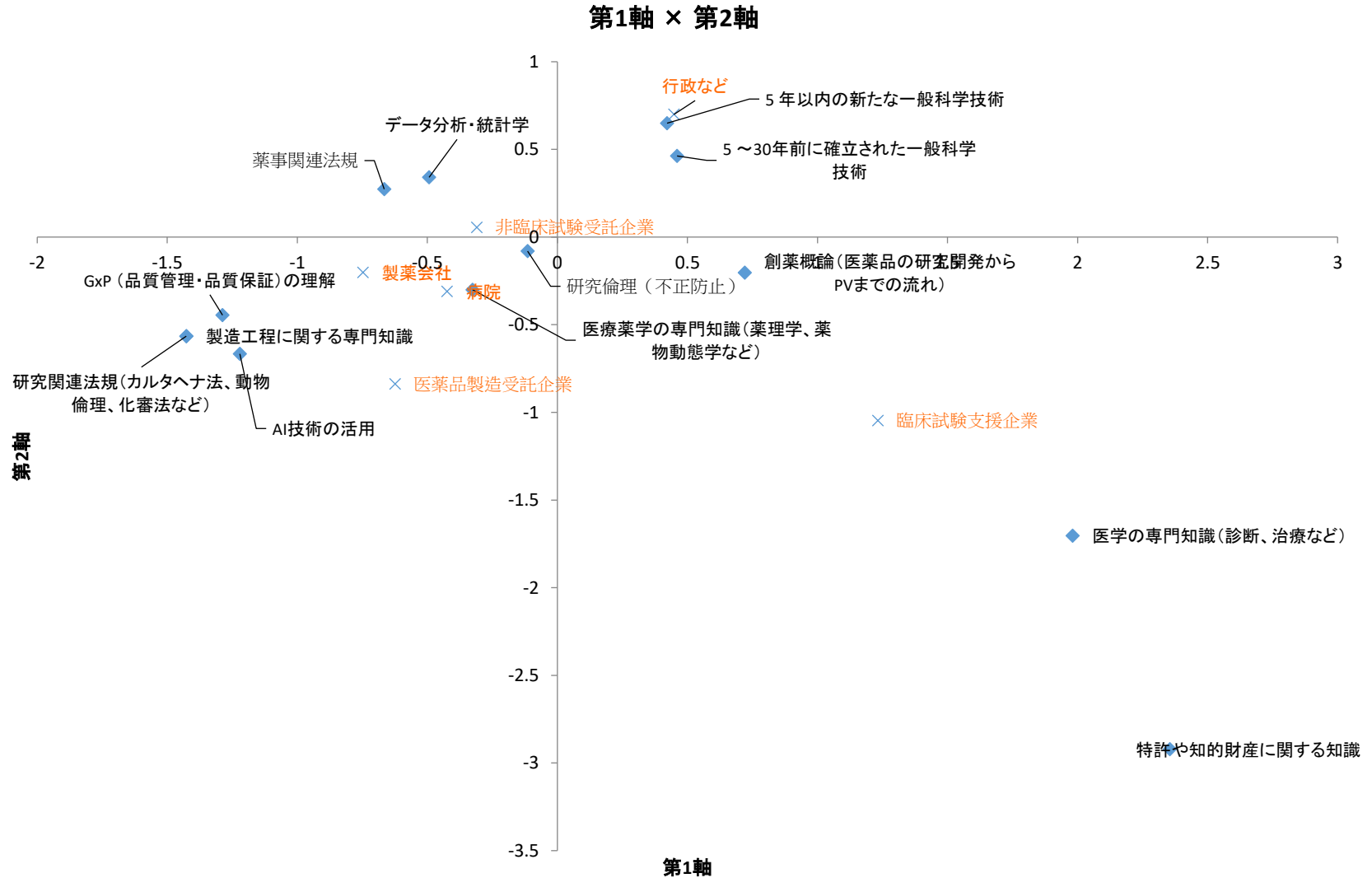
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識1~5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率54.7%)、第2軸(寄与率19.6%) 累積寄与率74.3%

5 採用者に期待する要素

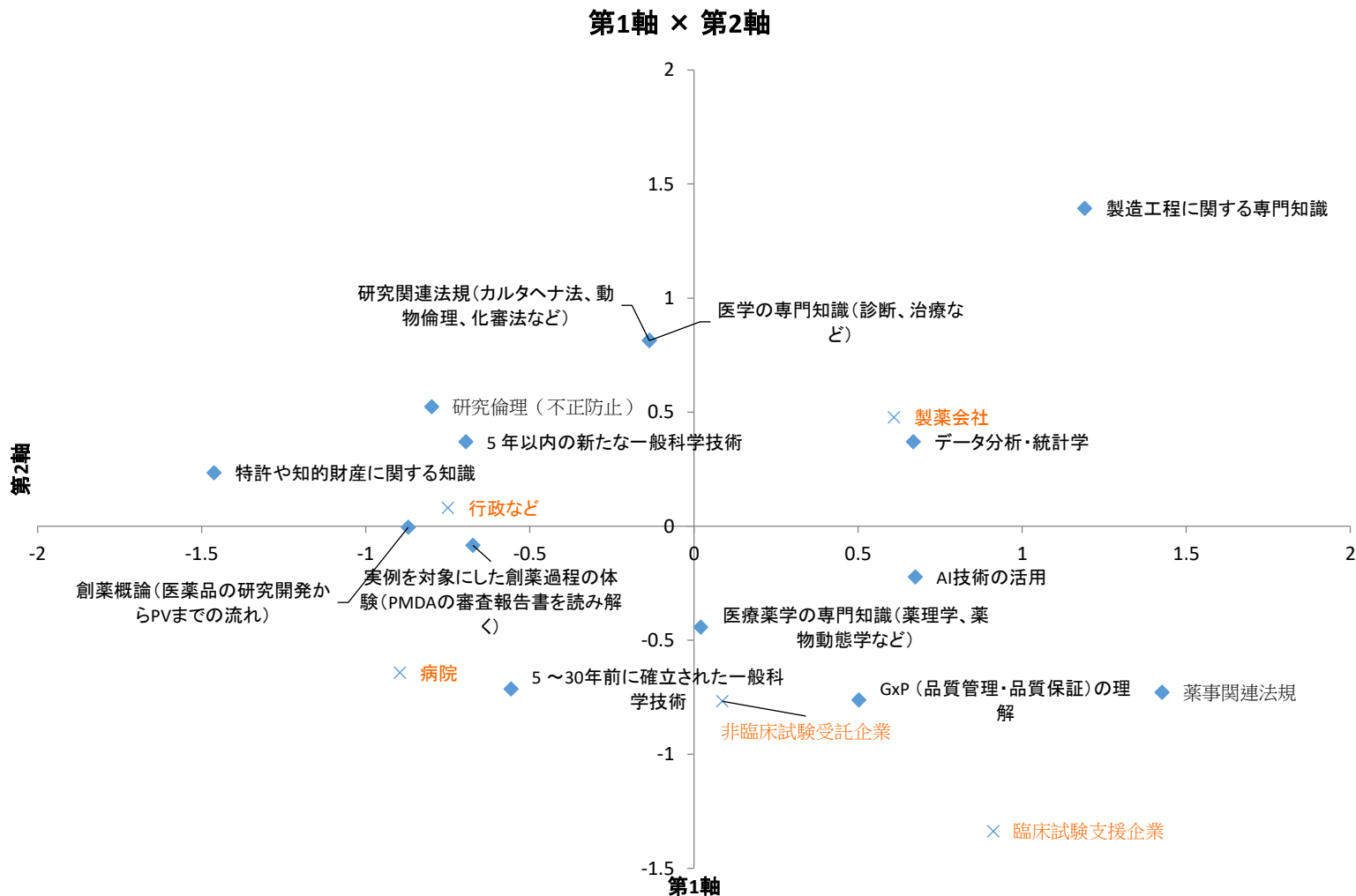
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率49.0%)、第2軸(寄与率23.0%) 累積寄与率72.1%

5 採用者に期待する要素

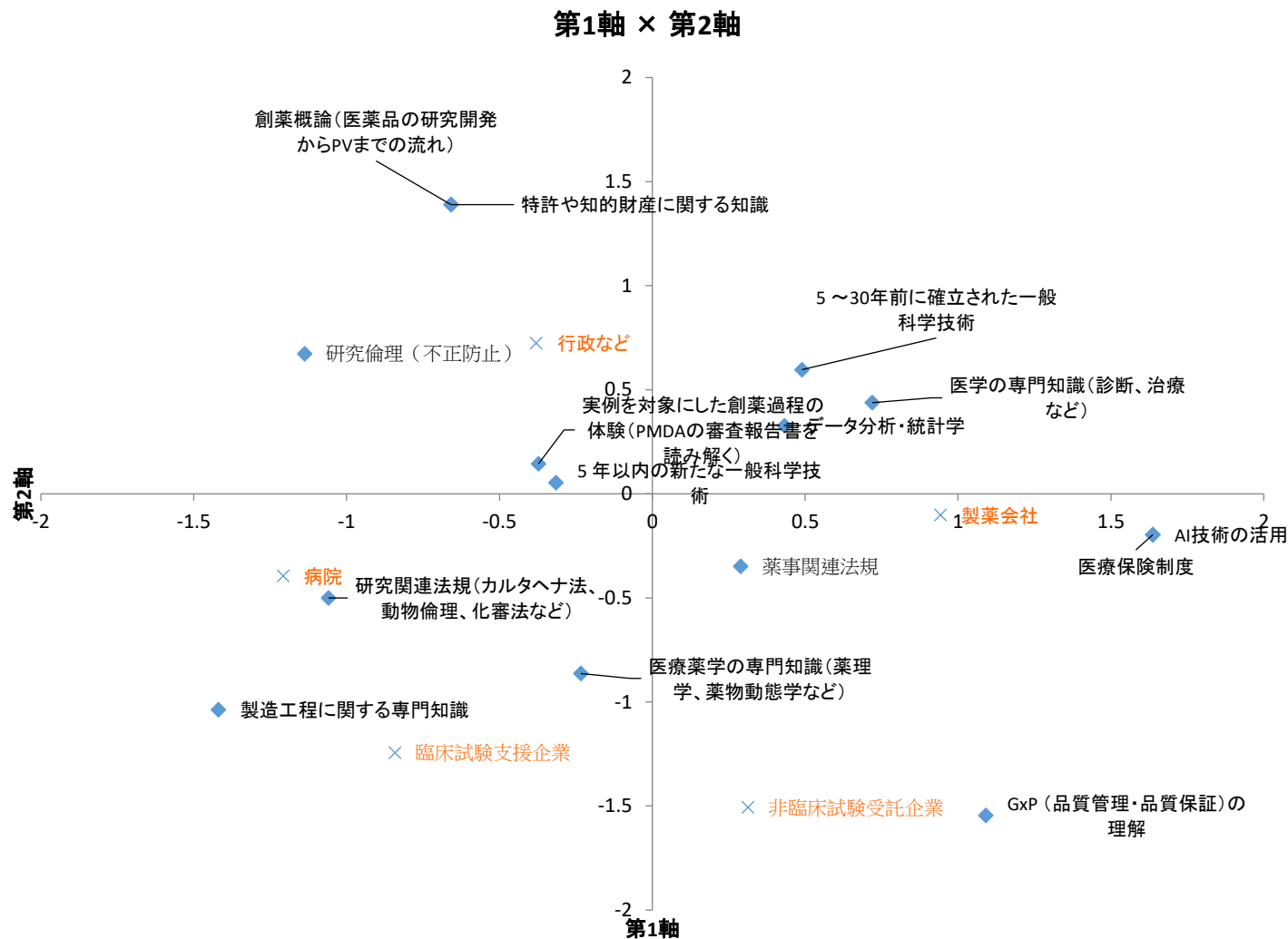
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率51.2%)、第2軸(寄与率22.8%) 累積寄与率73.9%

5 採用者に期待する要素

■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(知識3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率35.3%)、第2軸(寄与率28.9%) 累積寄与率64.2%

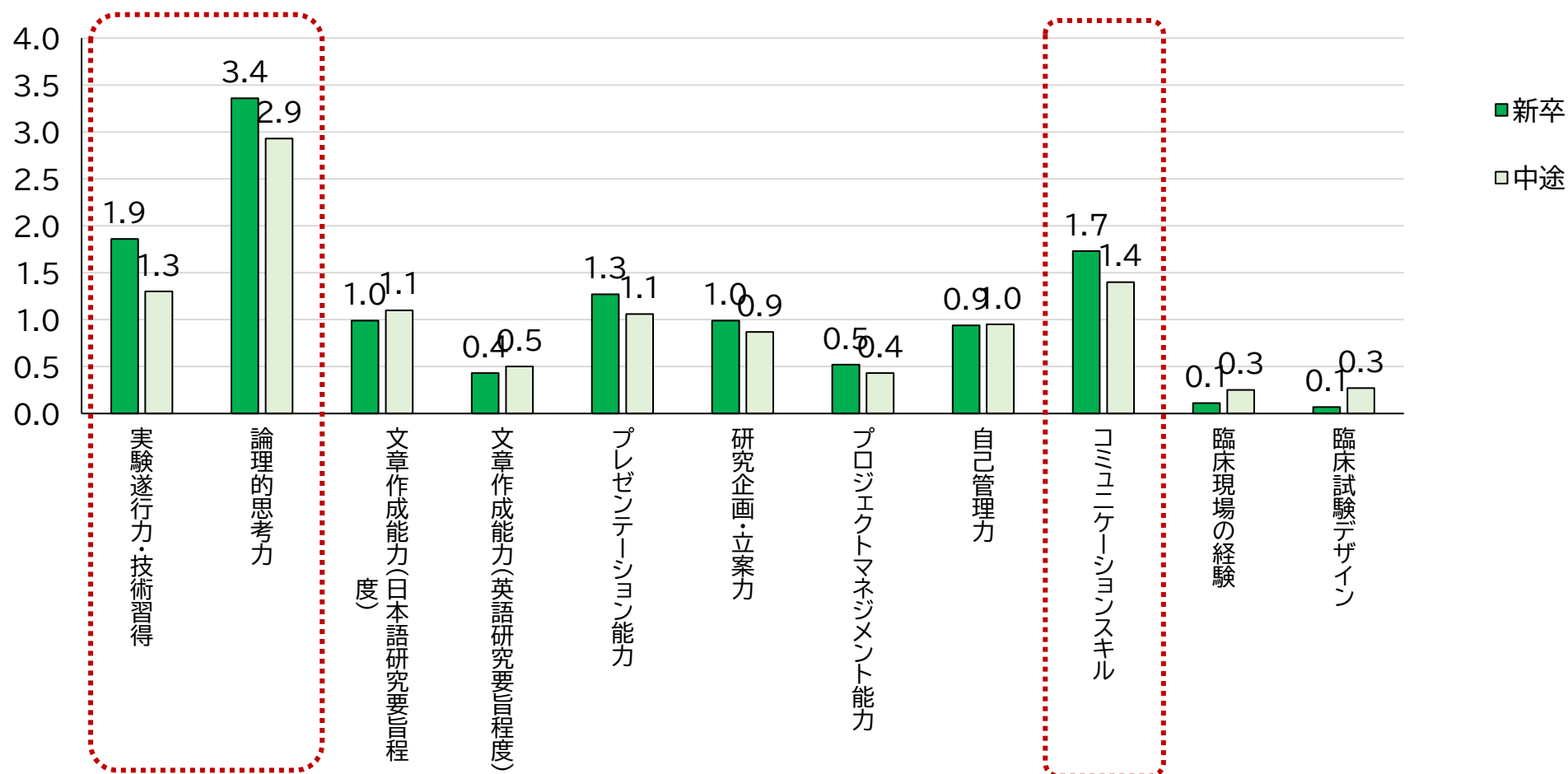
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 新卒・中途採用に関わらず、「論理的思考力」が最も高く、「実験遂行力・技術習得」と「コミュニケーションスキル」も高くなっています。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:技能・技術(Q15-2)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

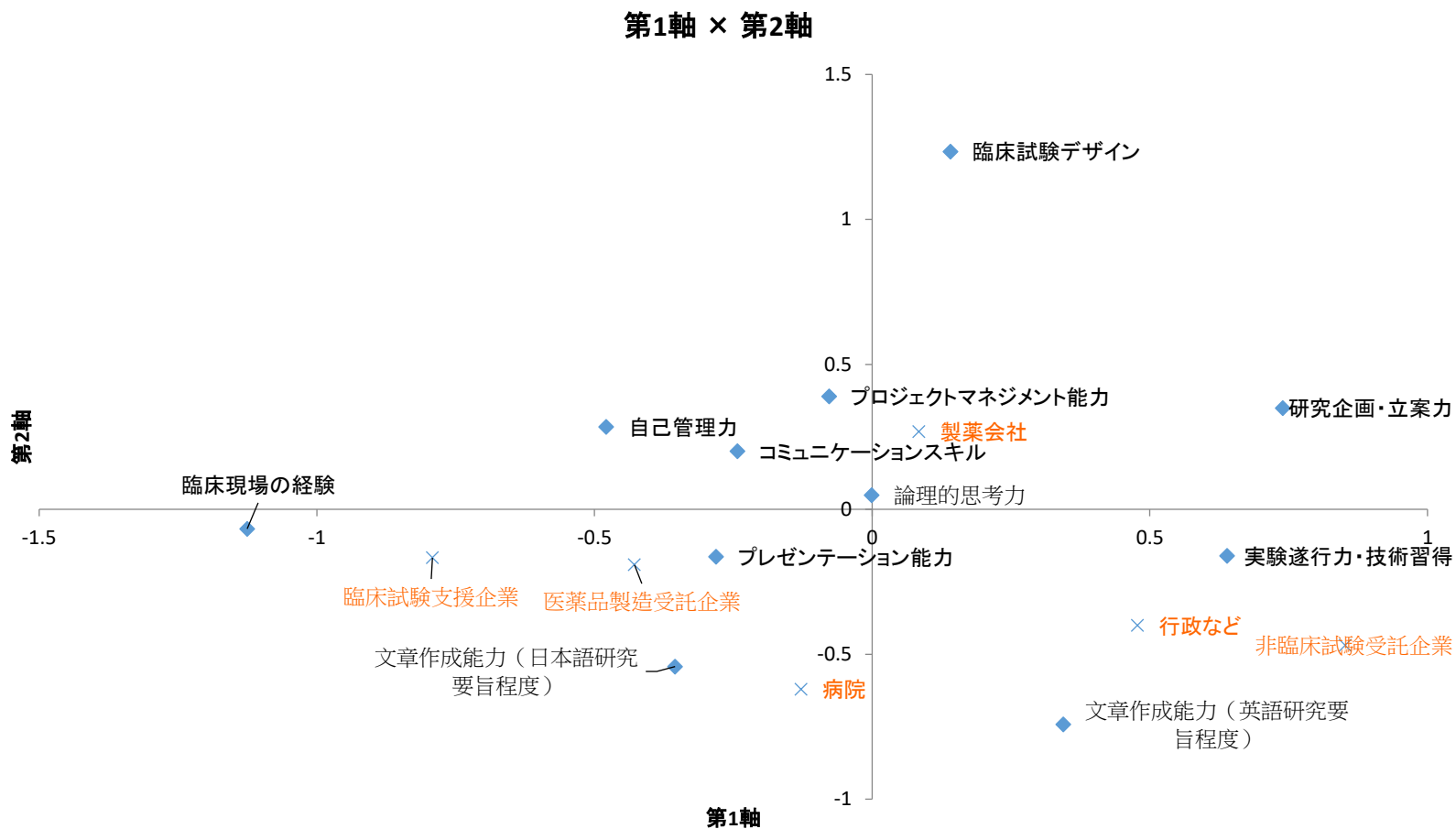
✓ 非臨床試験受託企業では「実験遂行力・技術取得」が高いが、他では「論理的思考力」が高くなっています。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:技能・技術(Q15-2)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	論理的思考力	実験遂行力・技術習得	コミュニケーションスキル	プレゼンテーション能力	研究企画・立案力	論理的思考力	コミュニケーションスキル	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	実験遂行力・技術習得	プレゼンテーション能力
臨床試験支援企業	論理的思考力	コミュニケーションスキル	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	プレゼンテーション能力	自己管理能力	論理的思考力	コミュニケーションスキル	プレゼンテーション能力 プロジェクトマネジメント能力		研究企画・立案力 自己管理能力
非臨床試験受託企業	実験遂行力・技術習得	コミュニケーションスキル	論理的思考力	研究企画・立案力	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	実験遂行力・技術習得	論理的思考力	文章作成能力(日本語研究要旨程度)	コミュニケーションスキル	研究企画・立案力 自己管理能力
医薬品製造受託企業	論理的思考力	実験遂行力・技術習得 コミュニケーションスキル		文章作成能力(日本語研究要旨程度) 自己管理能力		論理的思考力	コミュニケーションスキル	—	—	—
病院	論理的思考力	プレゼンテーション能力	文章作成能力(日本語研究要旨程度) 自己管理能力 コミュニケーションスキル			臨床現場の経験	コミュニケーションスキル	臨床試験デザイン	研究企画・立案力 自己管理能力	
行政など	論理的思考力	実験遂行力・技術習得	コミュニケーションスキル	研究企画・立案力	プレゼンテーション能力	論理的思考力	実験遂行力・技術習得	コミュニケーションスキル	プレゼンテーション能力	文章作成能力(日本語研究要旨程度) 研究企画・立案力

5 採用者に期待する要素

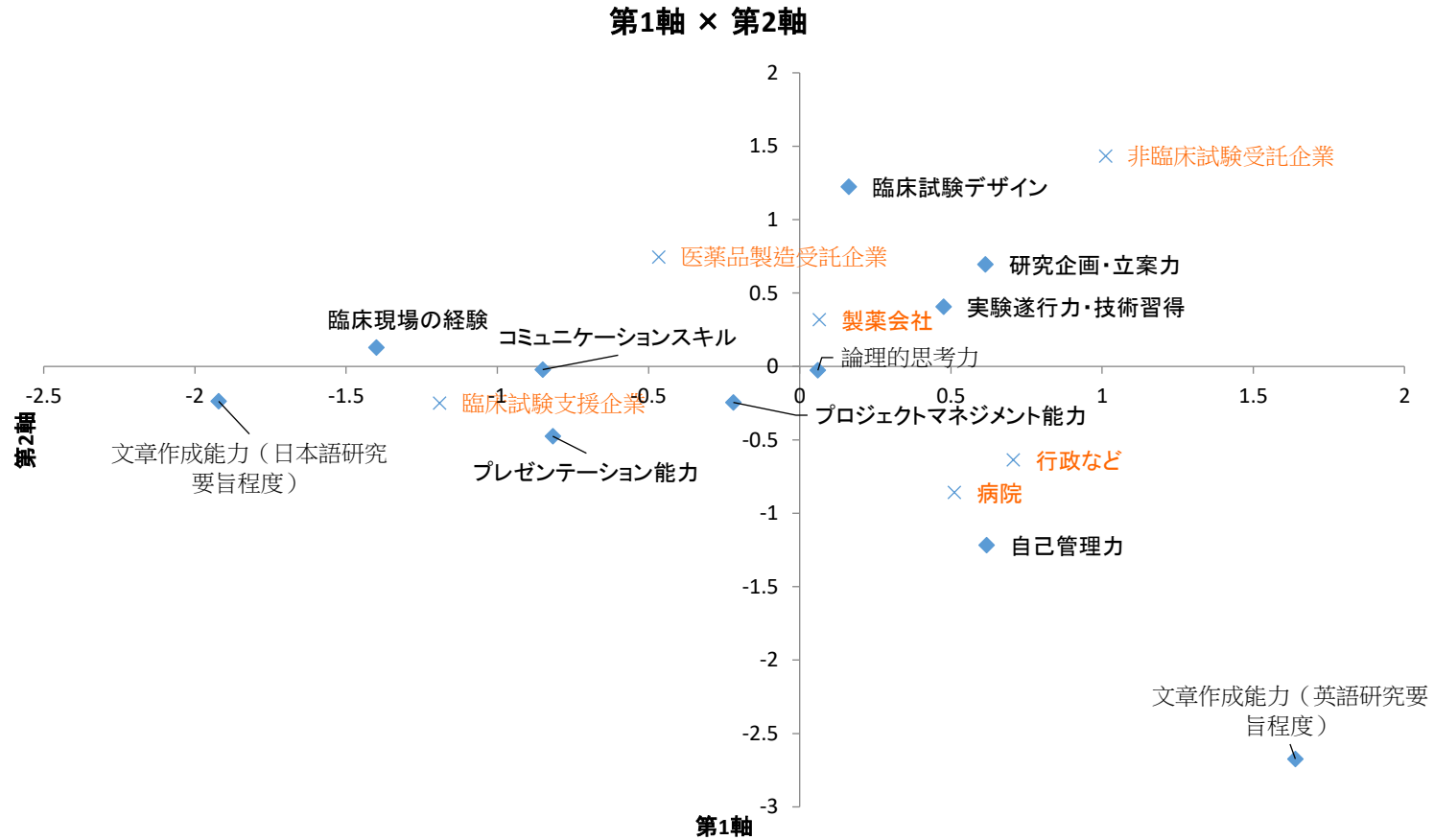
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率56.3%)、第2軸(寄与率21.3%) 累積寄与率77.6%

5 採用者に期待する要素

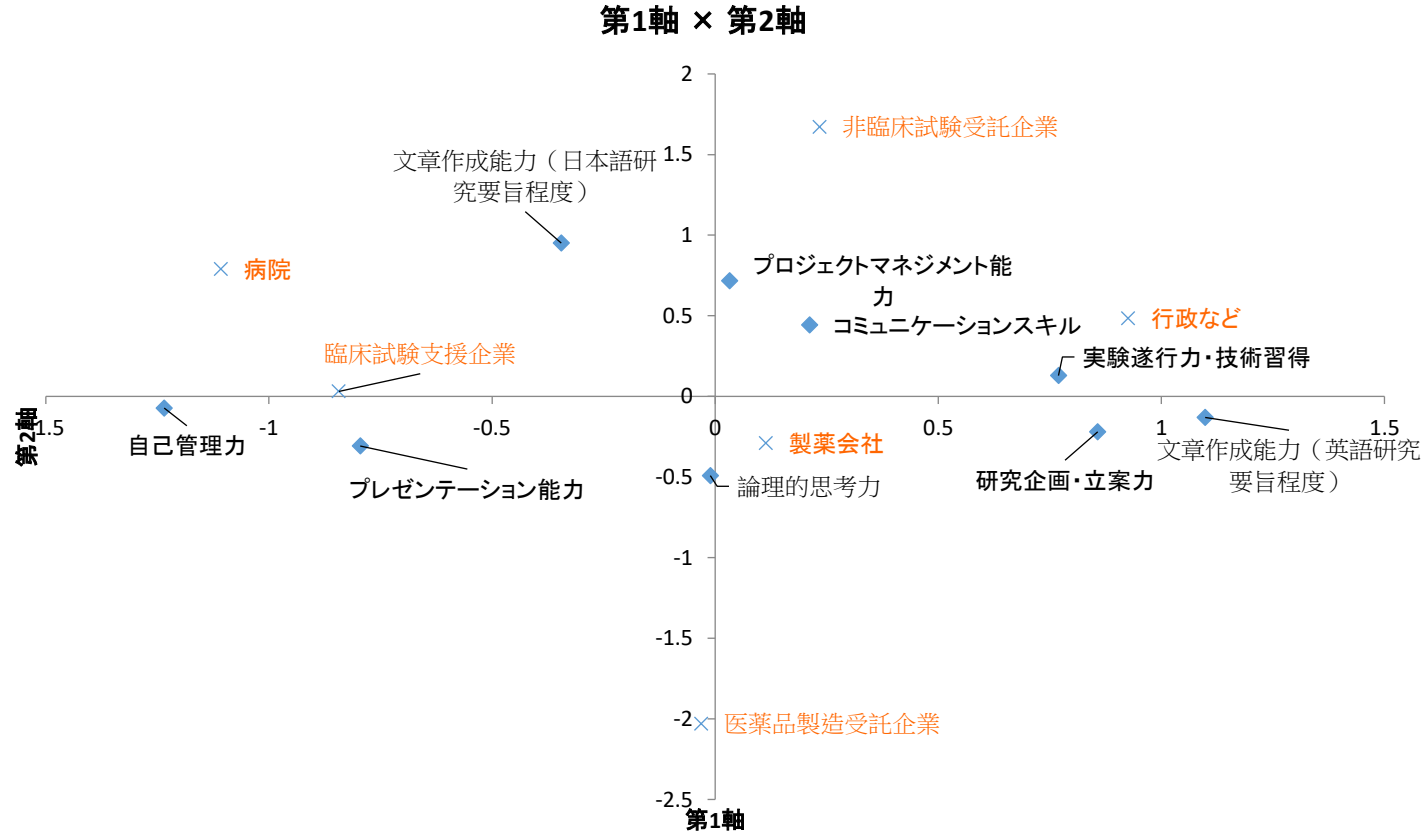
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率55.4%)、第2軸(寄与率23.0%) 累積寄与率78.4%

5 採用者に期待する要素

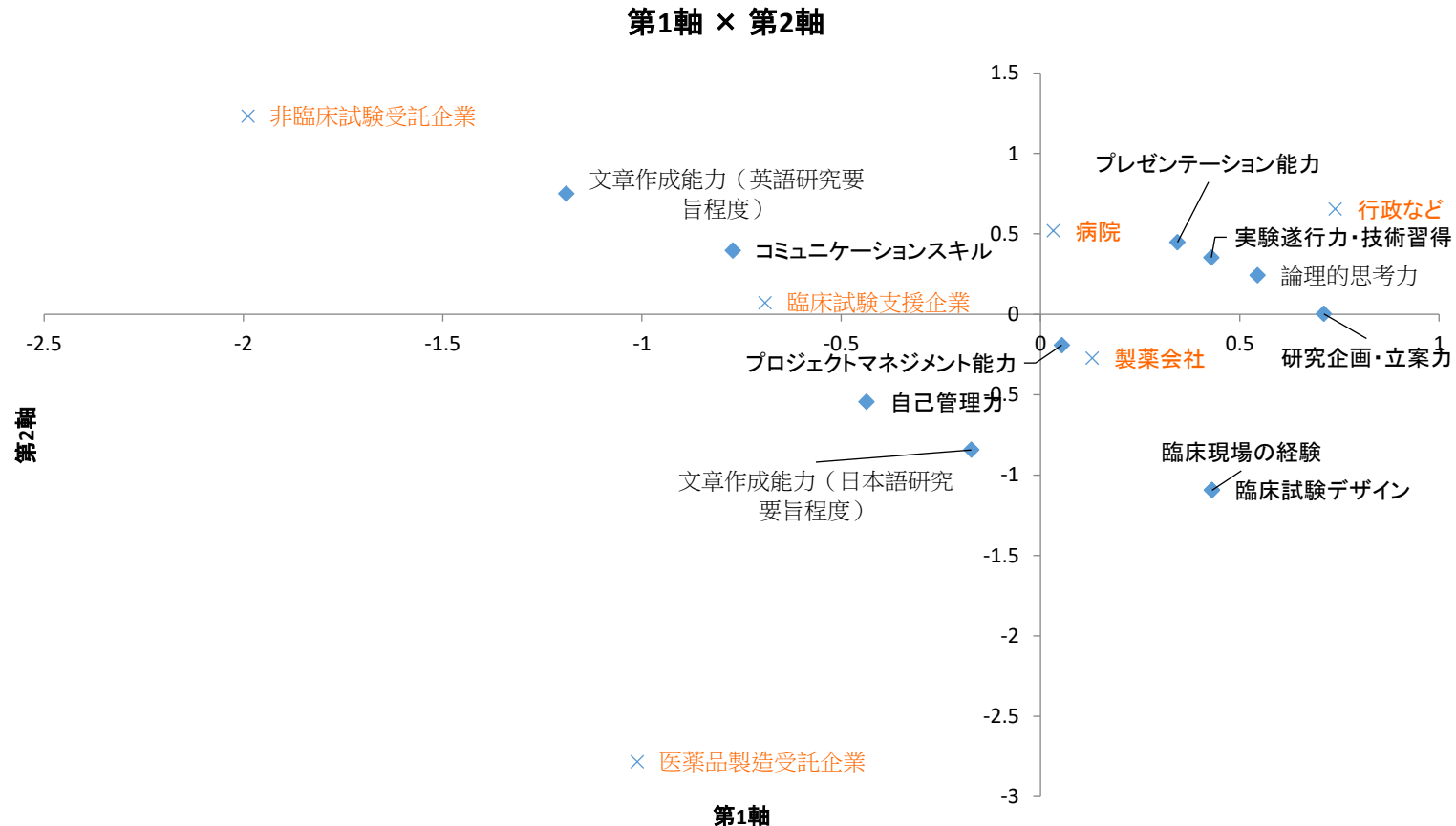
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率56.8%)、第2軸(寄与率27.2%) 累積寄与率84.0%

5 採用者に期待する要素

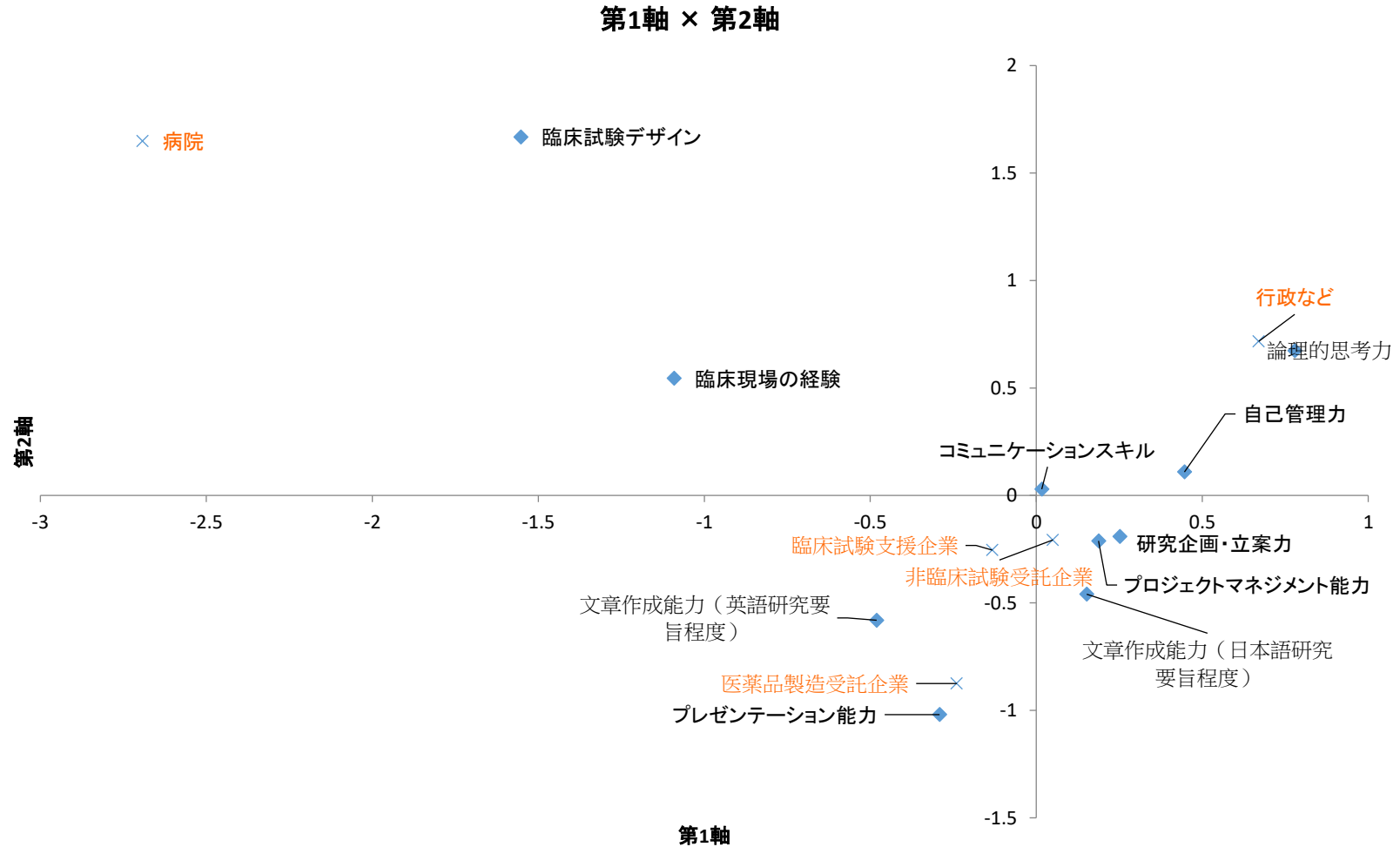
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率41.0%)、第2軸(寄与率28.0%) 累積寄与率68.9%

5 採用者に期待する要素

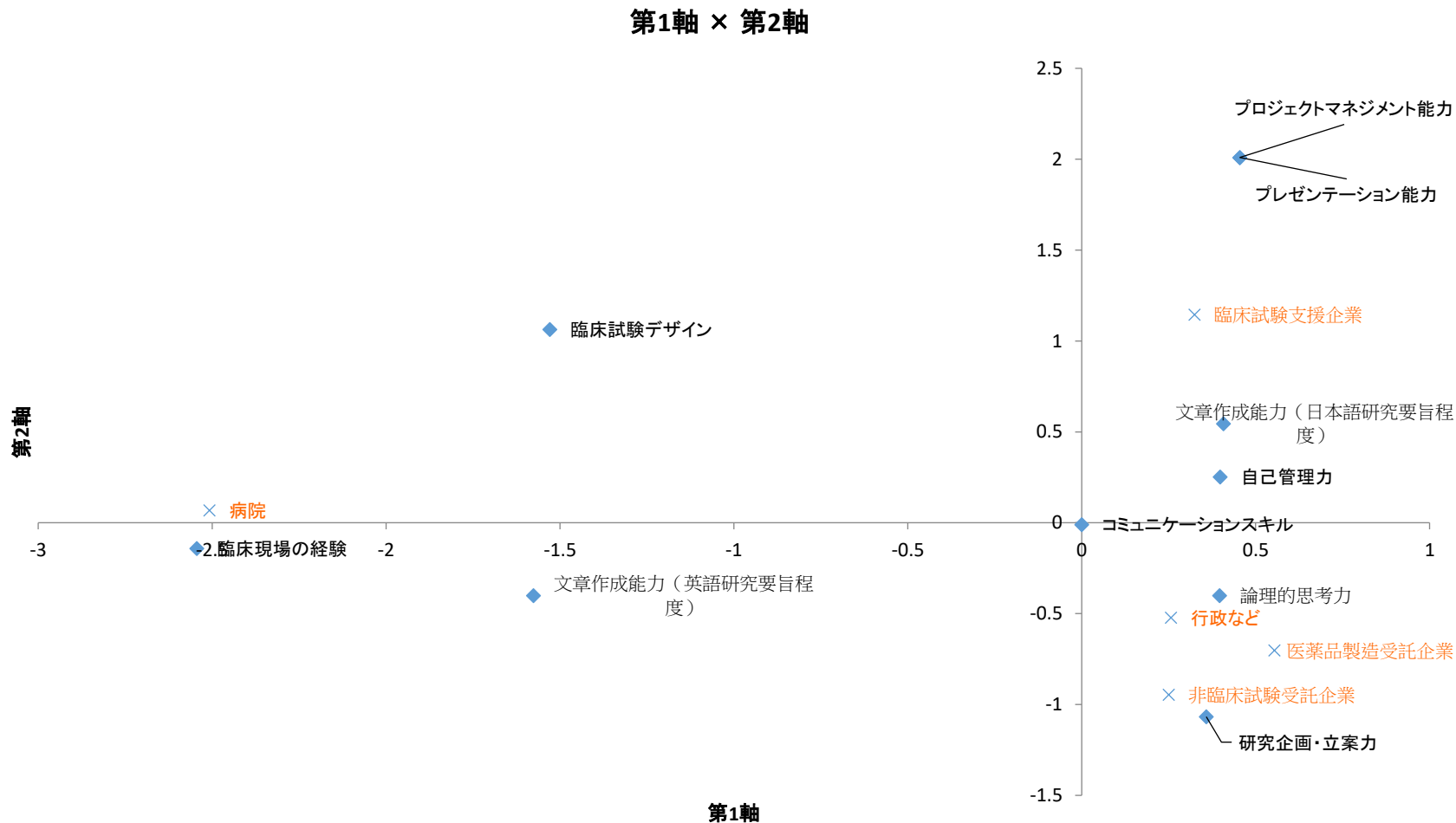
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1～5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率48.0%)、第2軸(寄与率34.1%) 累積寄与率82.1%

5 採用者に期待する要素

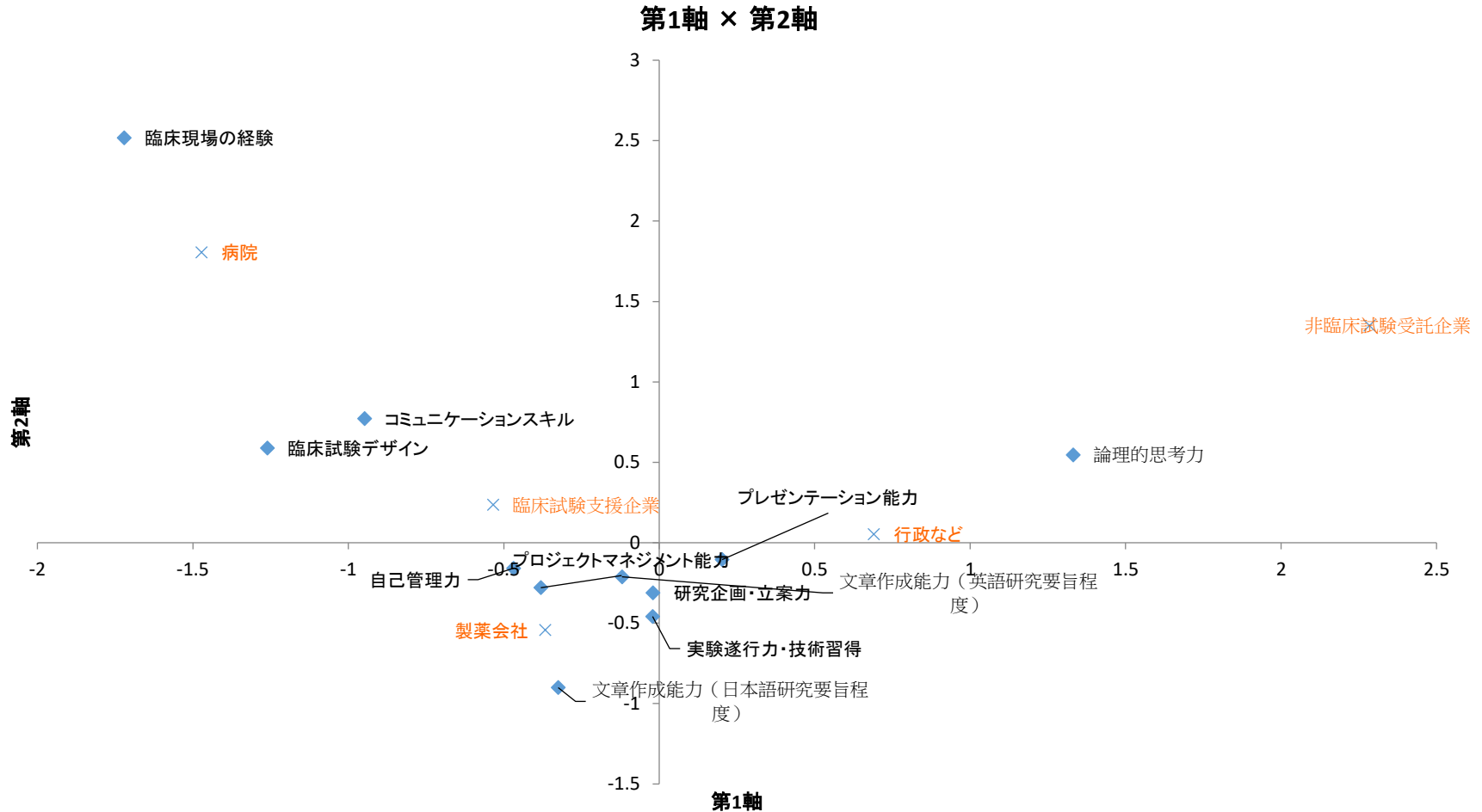
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率53.2%)、第2軸(寄与率33.9%) 累積寄与率87.1%

5 採用者に期待する要素

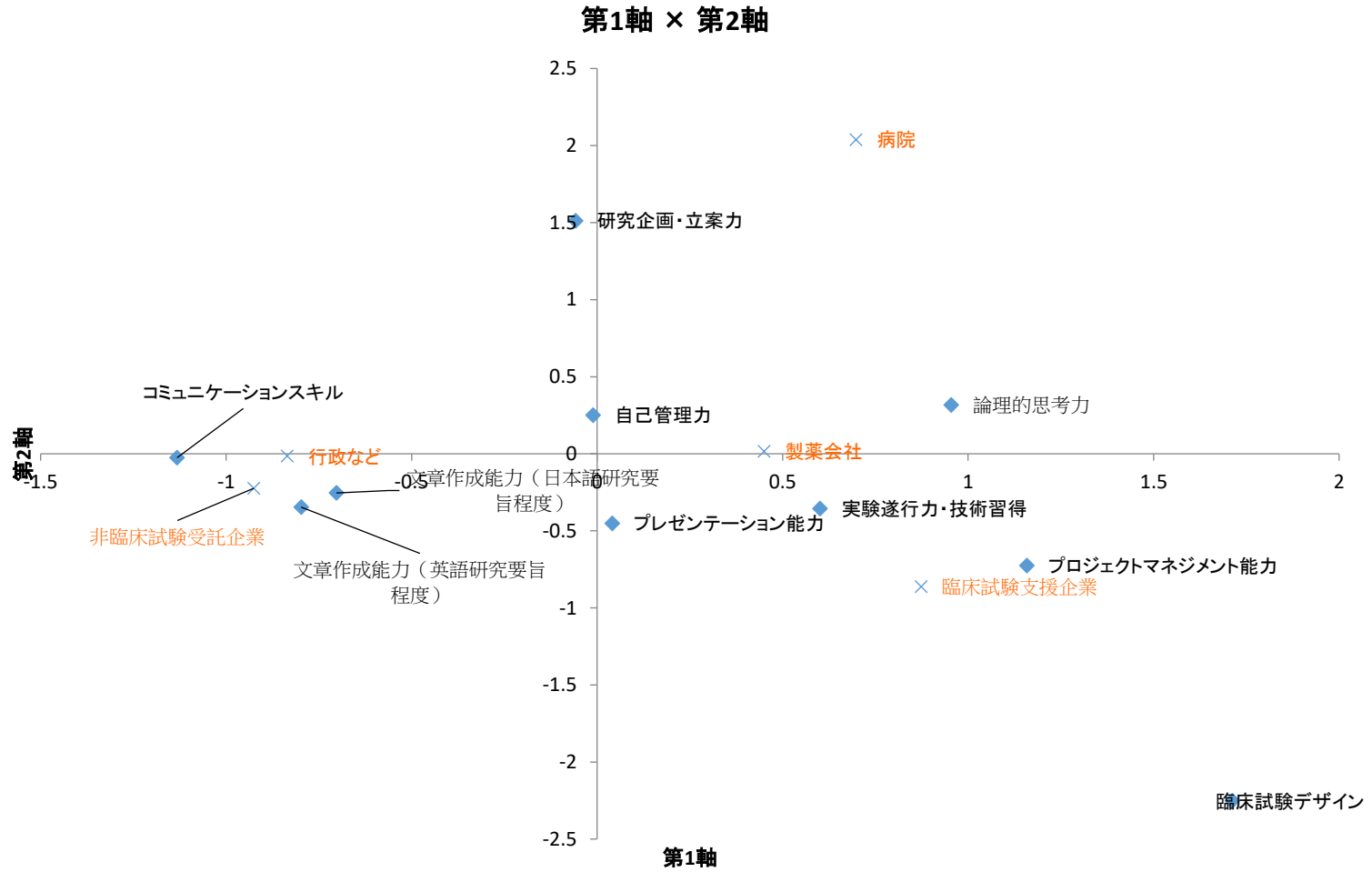
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率53.0%)、第2軸(寄与率25.6%) 累積寄与率78.7%

5 採用者に期待する要素

■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(技能・技術3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率47.5%)、第2軸(寄与率26.8%) 累積寄与率74.3%

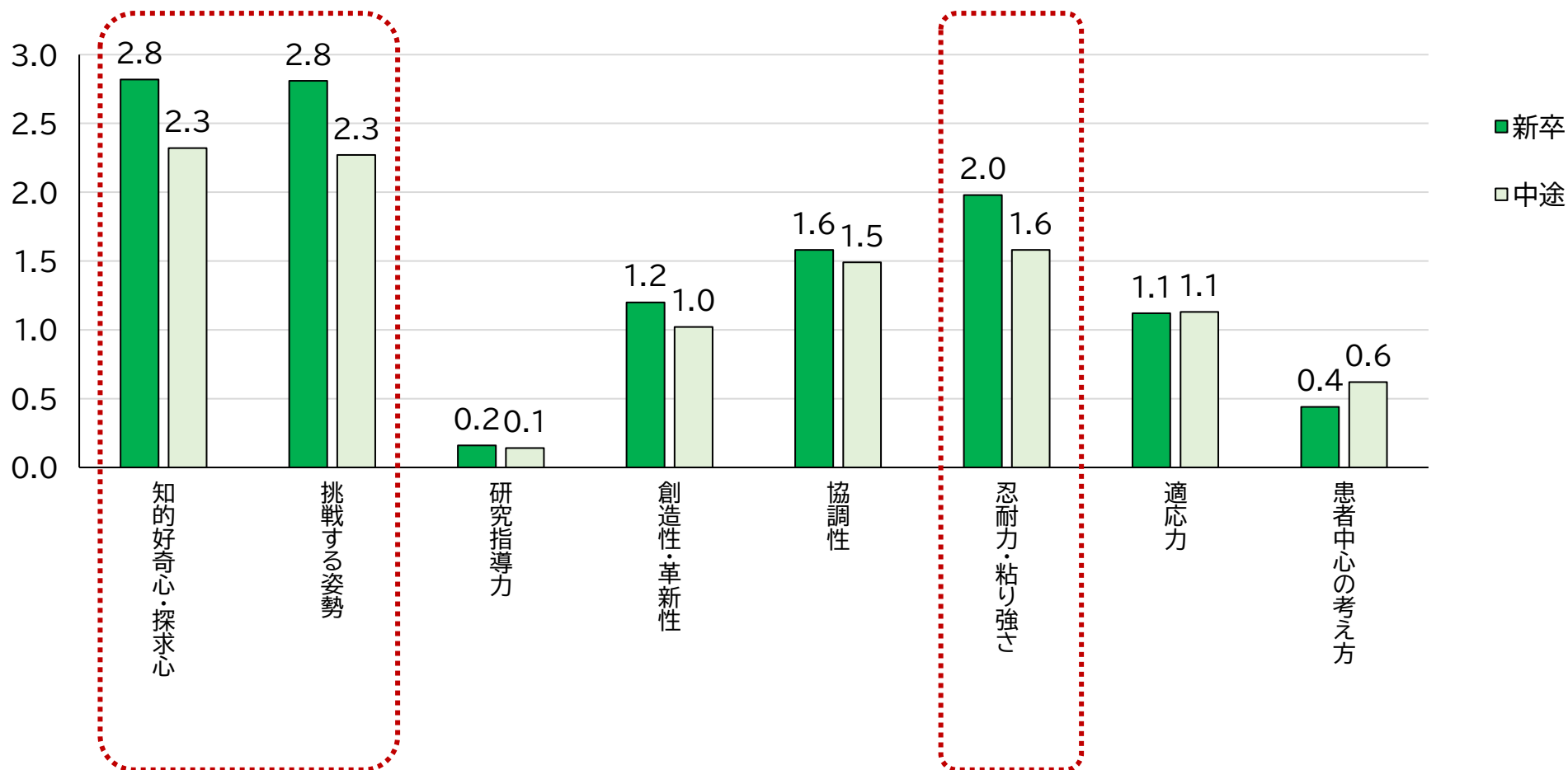
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 新卒・中途採用に関わらず、「知的な好奇心・探求心」「忍耐力・粘り強さ」が高くなっています。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:姿勢・態度(Q15-3)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(所属別)

Point

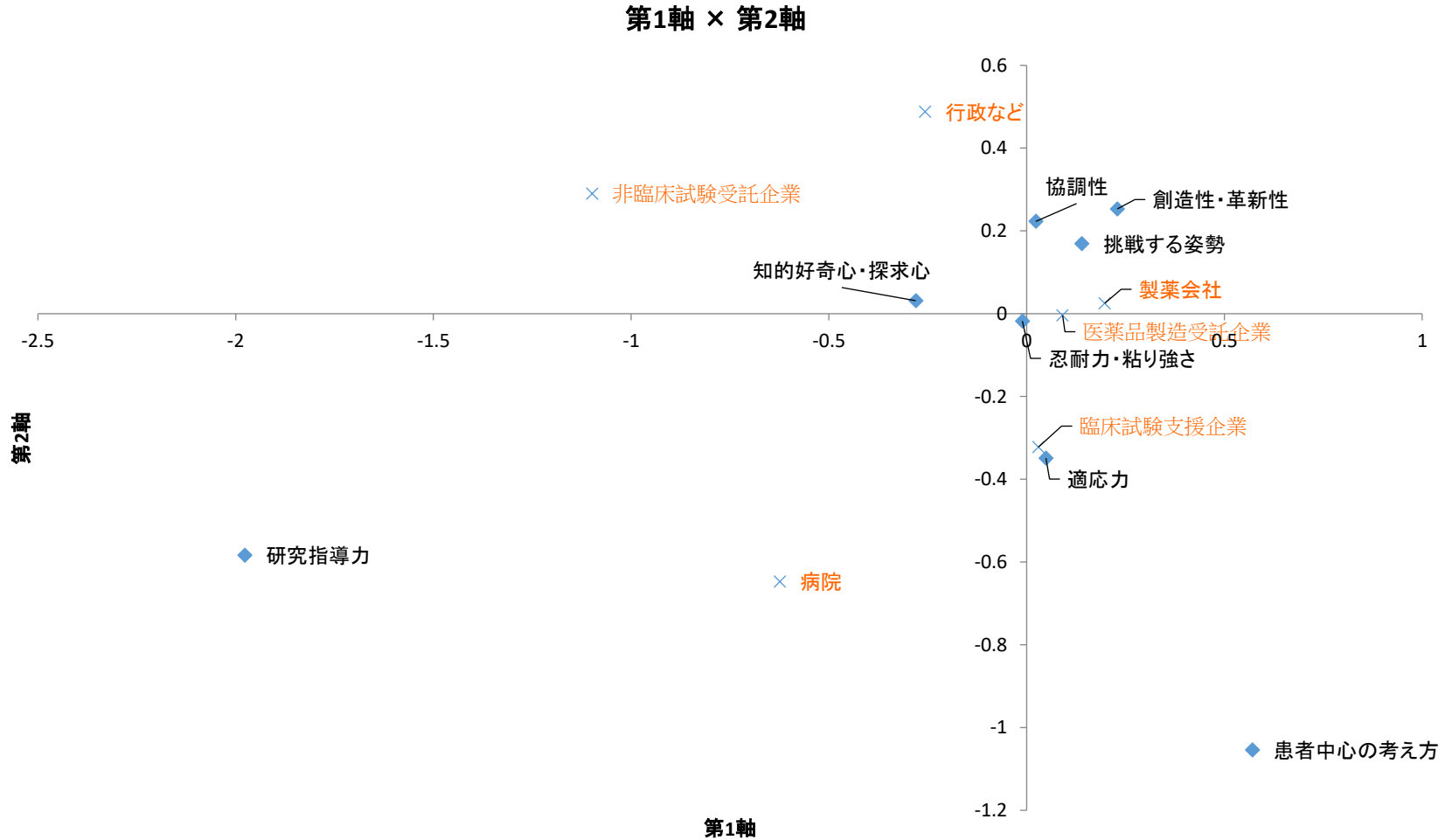
- ✓ 所属に関わらず「挑戦する姿勢」と「知的好奇心・探求心」「忍耐力・粘り強さ」が共通して高くなっています。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:姿勢・態度(Q15-3)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	挑戦する姿勢	知的好奇心・探求心	忍耐力・粘り強さ	協調性	創造性・革新性	挑戦する姿勢	知的好奇心・探求心	忍耐力・粘り強さ	協調性	創造性・革新性
臨床試験支援企業	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	忍耐力・粘り強さ	協調性	適応力	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	協調性	適応力	忍耐力・粘り強さ
非臨床試験受託企業	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	忍耐力・粘り強さ 協調性	適応力		挑戦する姿勢	知的好奇心・探求心 忍耐力・粘り強さ	協調性	患者中心の考え方	
医薬品製造受託企業	協調性 忍耐力・粘り強さ		知的好奇心・探求心	創造性・革新性 適応力		患者中心の考え方	忍耐力・粘り強さ	—	—	—
病院	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	忍耐力・粘り強さ	適応力	創造性・革新性 協調性	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	患者中心の考え方	創造性・革新性	協調性
行政など	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	協調性	忍耐力・粘り強さ	創造性・革新性	知的好奇心・探求心	挑戦する姿勢	協調性 適応力		忍耐力・粘り強さ

5 採用者に期待する要素

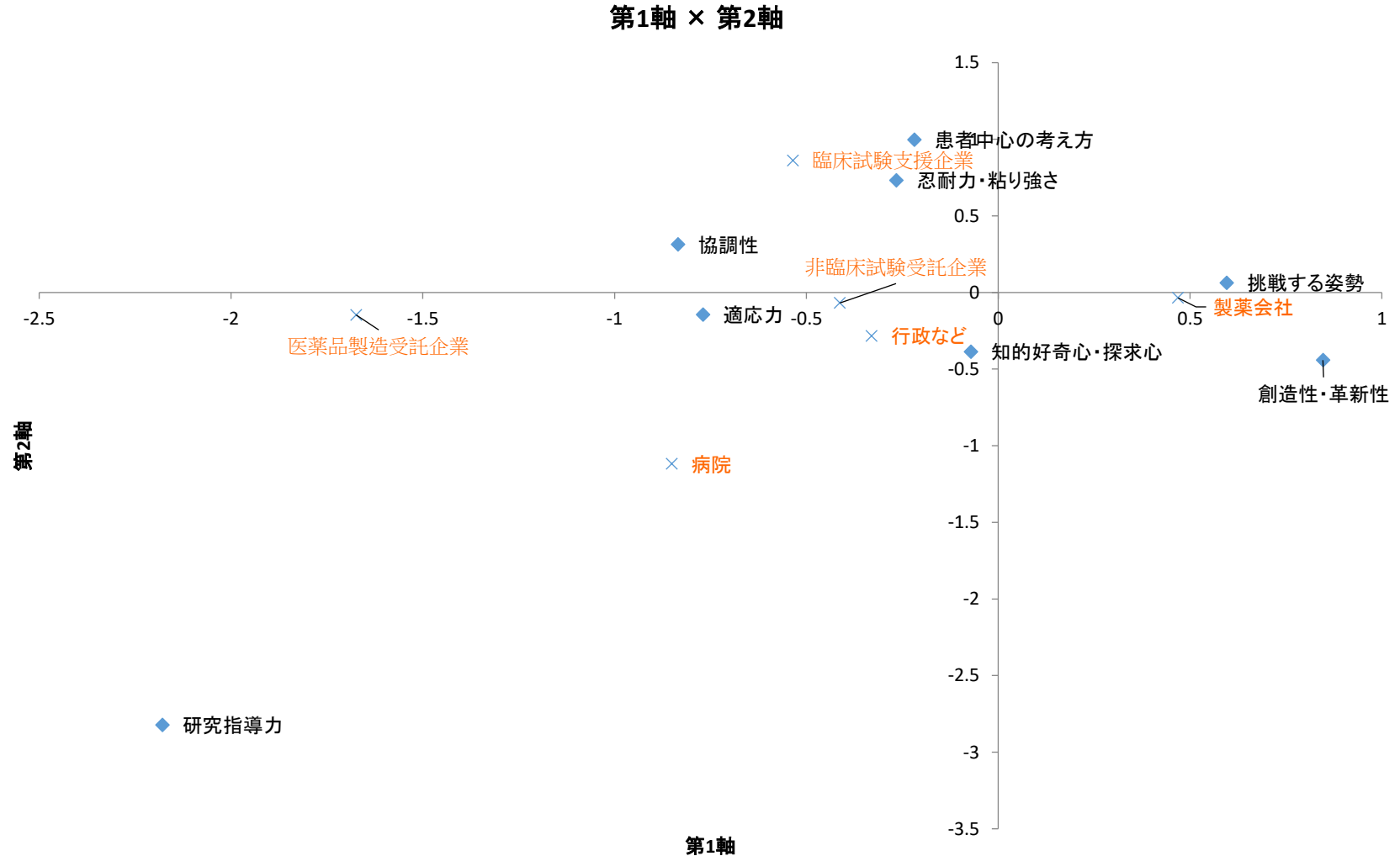
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1～5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率35.4%)、第2軸(寄与率28.2%) 累積寄与率63.6%

5 採用者に期待する要素

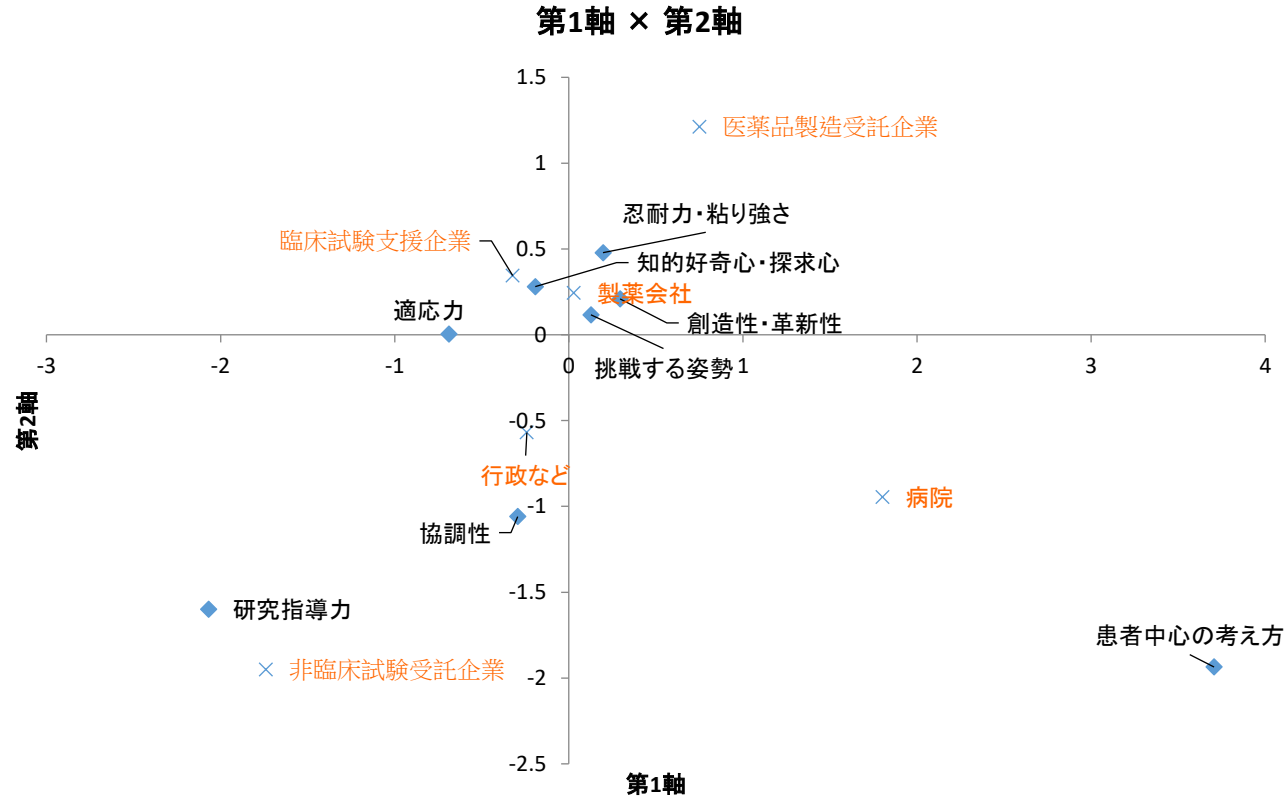
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率39.9%)、第2軸(寄与率33.5%) 累積寄与率73.3%

5 採用者に期待する要素

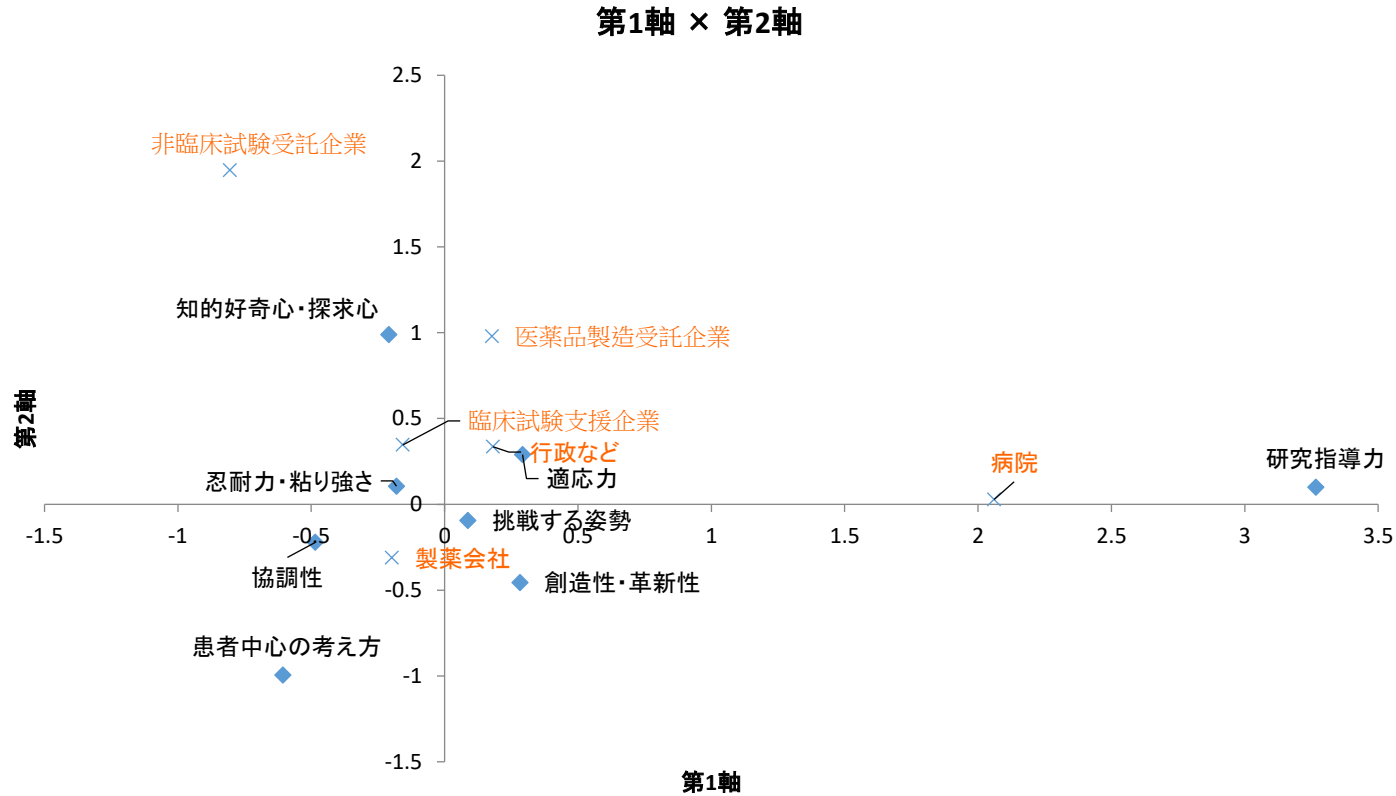
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率39.8%)、第2軸(寄与率29.9%) 累積寄与率69.7%

5 採用者に期待する要素

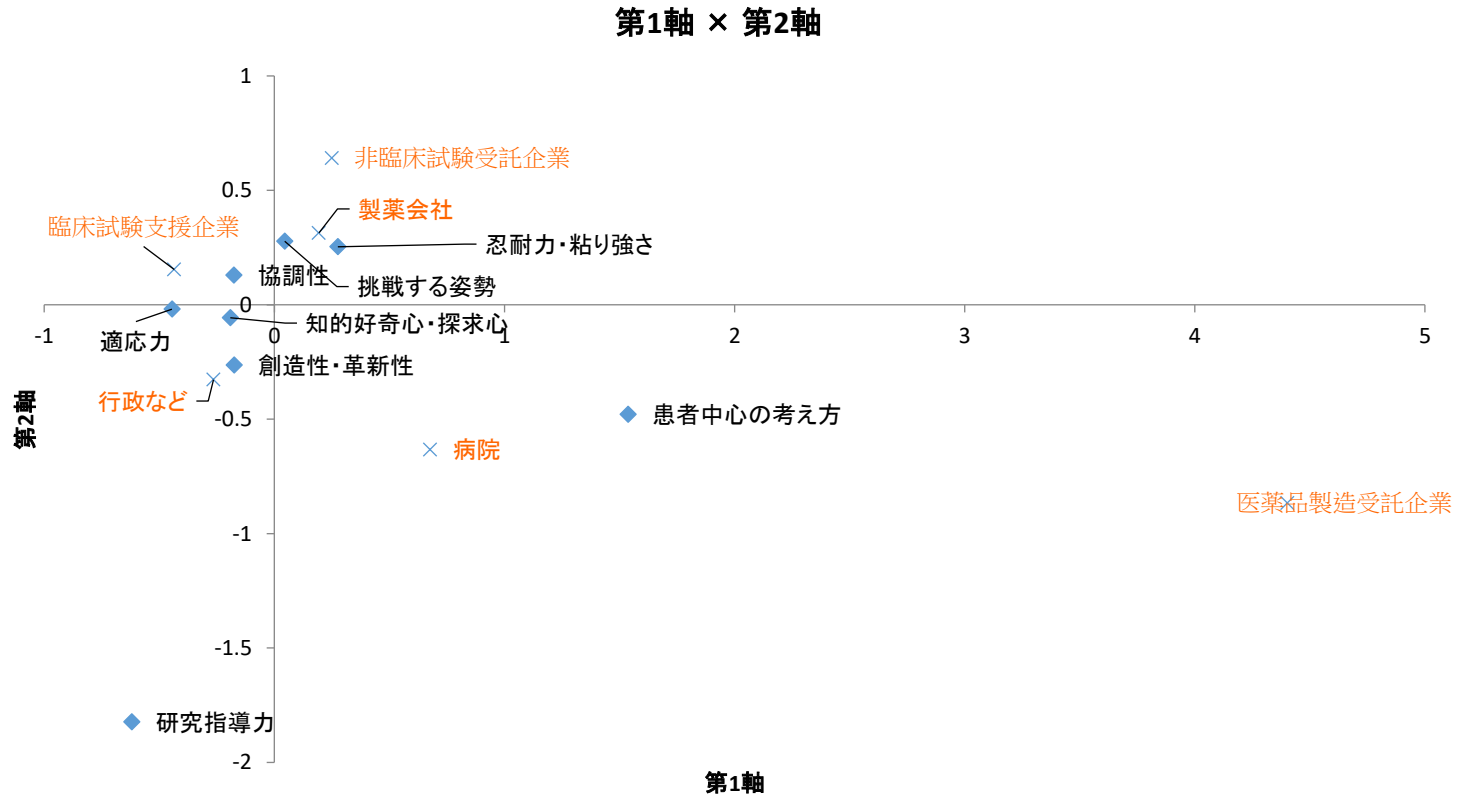
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率52.0%)、第2軸(寄与率21.5%) 累積寄与率73.5%

5 採用者に期待する要素

■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1～5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率57.5%)、第2軸(寄与率22.8%) 累積寄与率80.3%

5 採用者に期待する要素

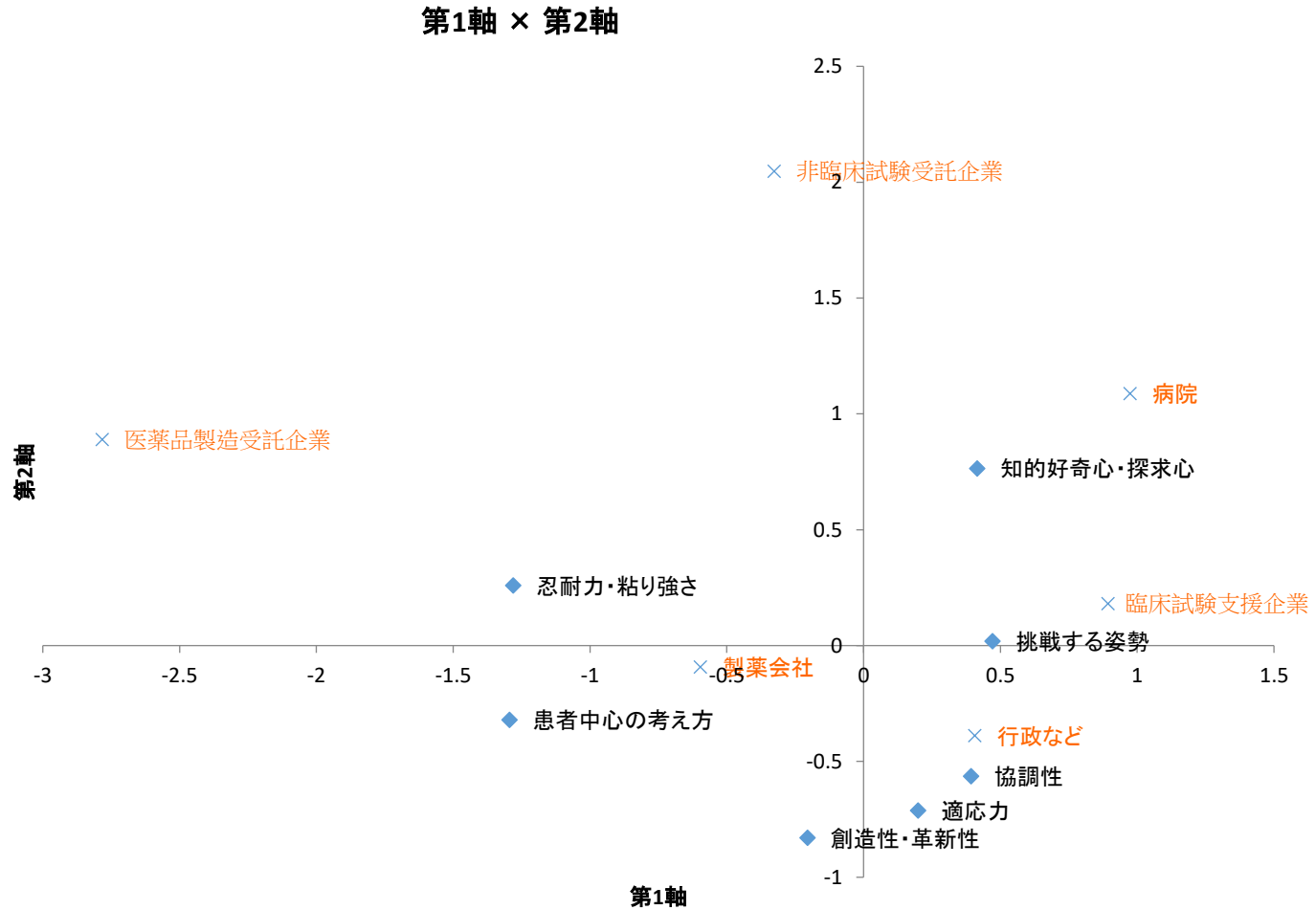
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率55.4%)、第2軸(寄与率27.8%) 累積寄与率83.3%

5 採用者に期待する要素

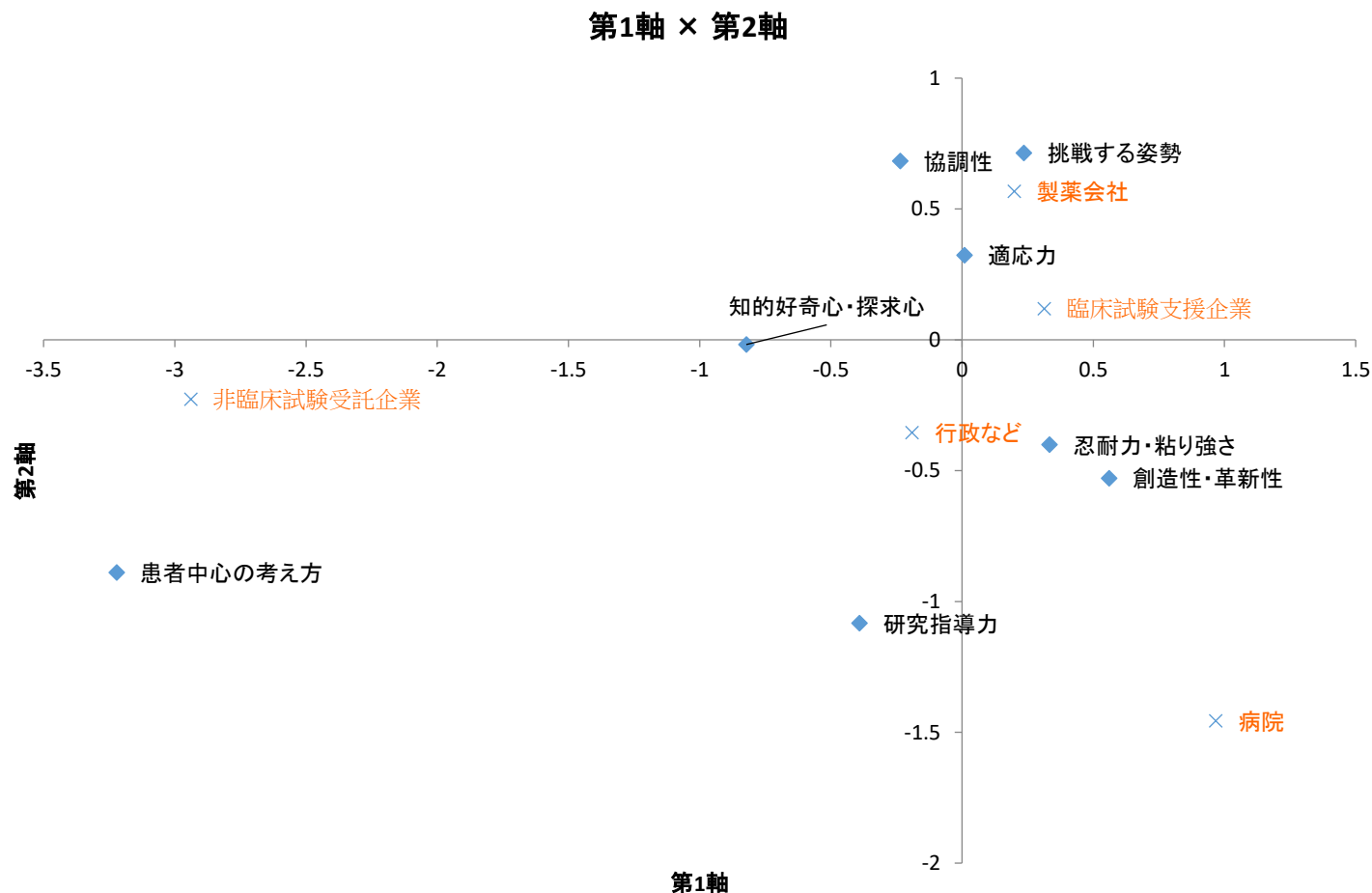
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率59.1%)、第2軸(寄与率23.6%) 累積寄与率82.7%

5 採用者に期待する要素

■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(姿勢・態度3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率54.7%)、第2軸(寄与率25.0%) 累積寄与率79.7%

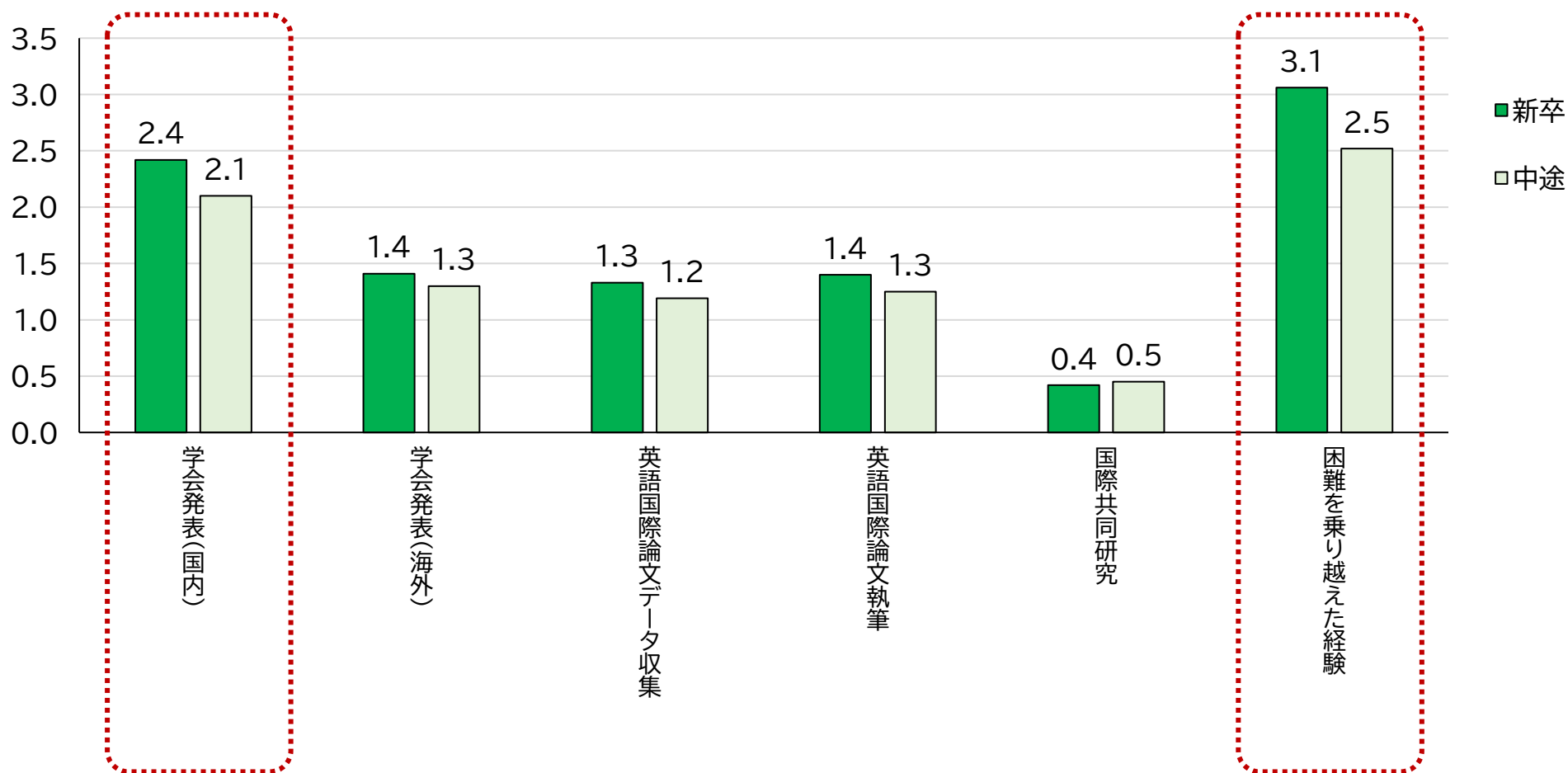
5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(採用種別)

Point

- ✓ 新卒・中途採用に関わらず、「困難を乗り越えた経験」「学会発表（国内）」が高くなっています。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:経験(Q15-4)



5 採用者に期待する要素

採用者に大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(講義科目)

Point

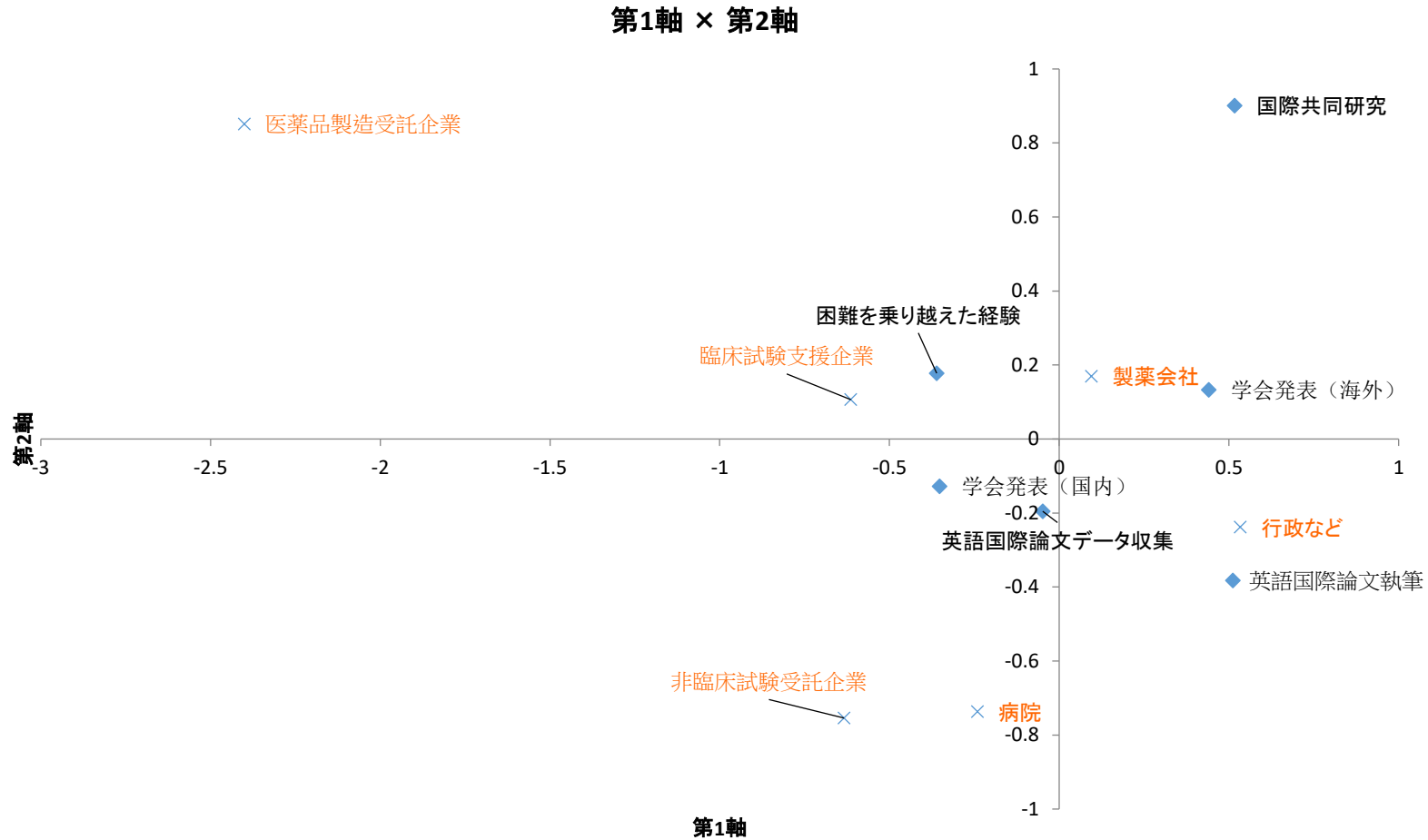
- ✓ 所属に関わらず「困難を乗り越えた経験」と「学会発表（国内）」が共通して高くなっています。

■大学の研究科目で学んでおいて欲しい学修事項:経験(Q15-4)

	新卒採用者(中途採用者)					中途採用者				
	1位	2位	3位	4位	5位	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文執筆	英語国際論文データ収集	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	英語国際論文執筆
臨床試験支援企業	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	英語国際論文執筆	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆
非臨床試験受託企業	学会発表(国内)	困難を乗り越えた経験	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	英語国際論文執筆	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内) 英語国際論文データ収集		英語国際論文執筆	国際共同研究
医薬品製造受託企業	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	—	—	—	—	—	—	—	—
病院	学会発表(国内)	困難を乗り越えた経験	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆	学会発表(海外)	困難を乗り越えた経験	英語国際論文執筆	学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文データ収集
行政など	困難を乗り越えた経験	英語国際論文執筆	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	学会発表(海外)	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	学会発表(海外)	英語国際論文執筆	英語国際論文データ収集

5 採用者に期待する要素

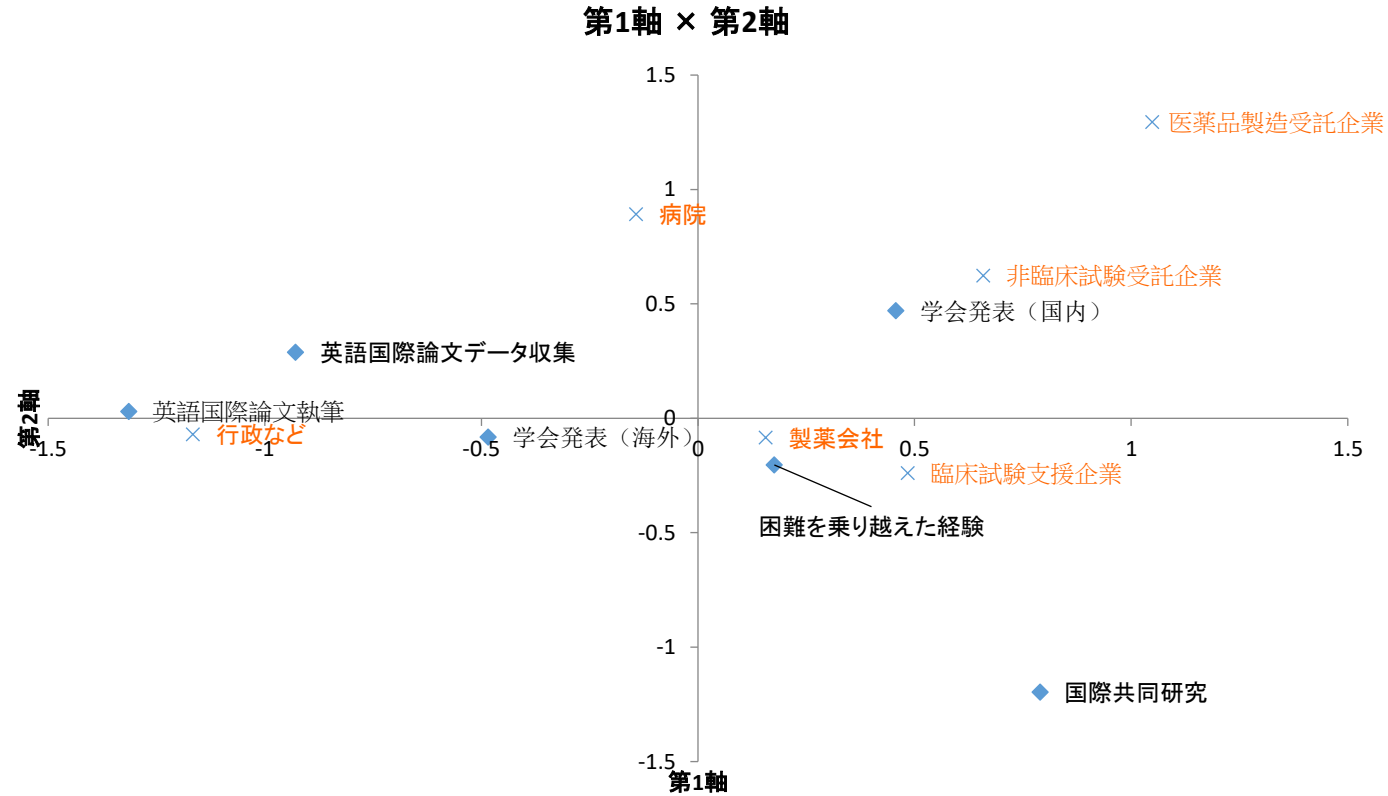
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験1~5位合計)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率57.6%)、第2軸(寄与率20.6%) 累積寄与率78.2%

5 採用者に期待する要素

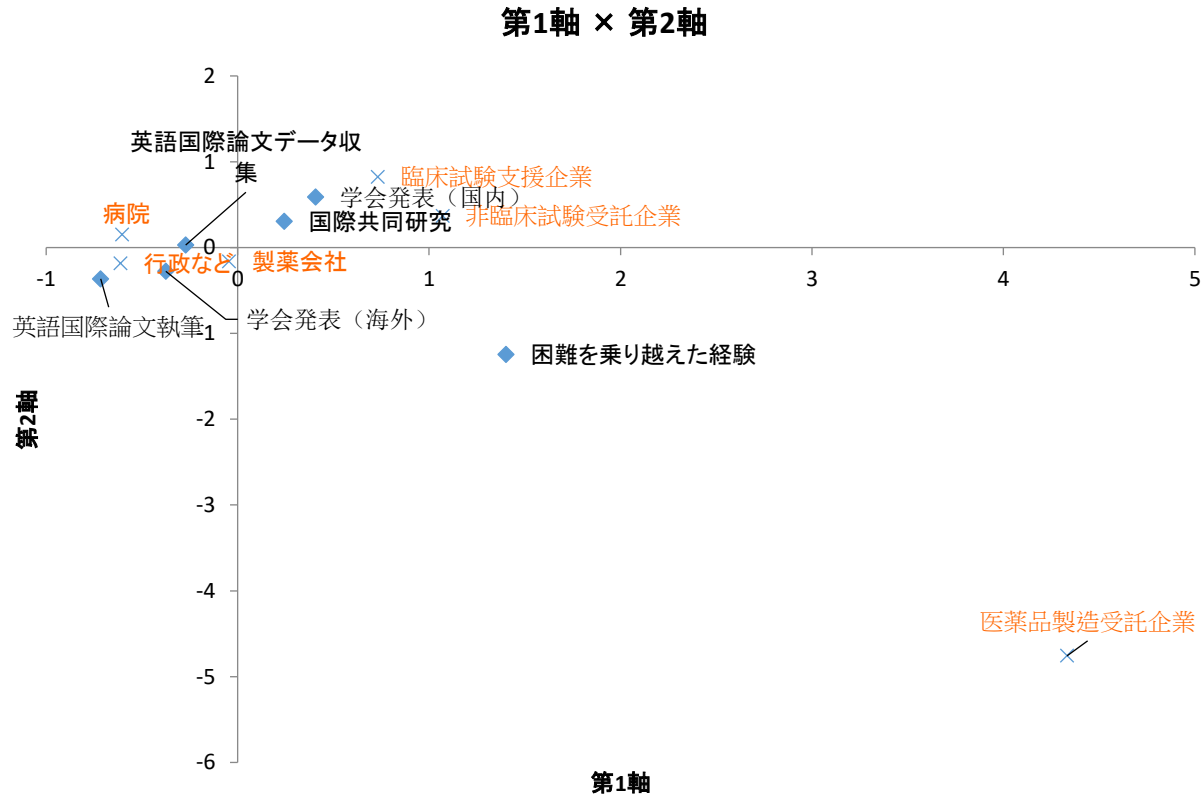
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験1位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率83.0%)、第2軸(寄与率9.7%) 累積寄与率92.7%

5 採用者に期待する要素

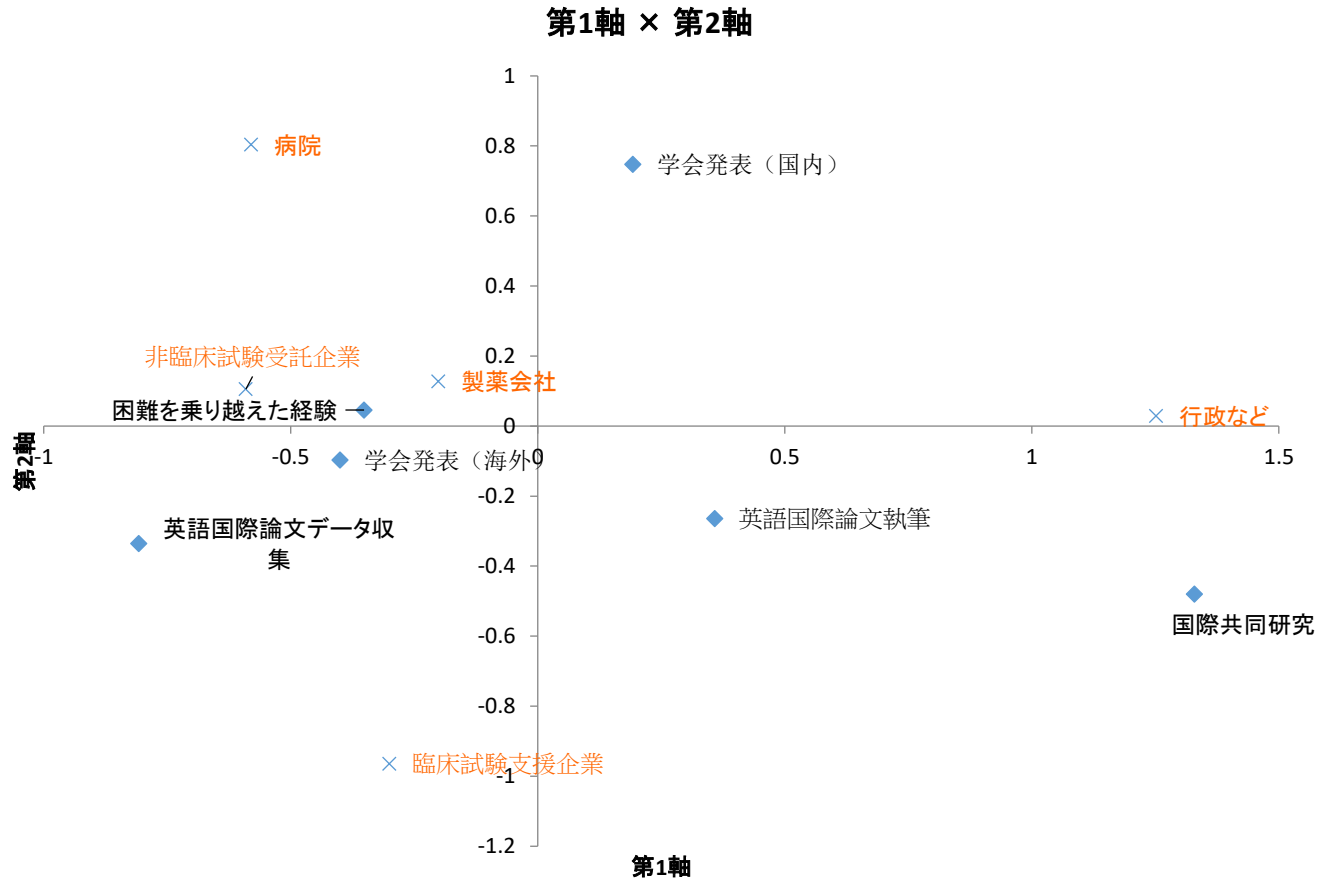
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験2位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率50.6%)、第2軸(寄与率33.1%) 累積寄与率83.8%

5 採用者に期待する要素

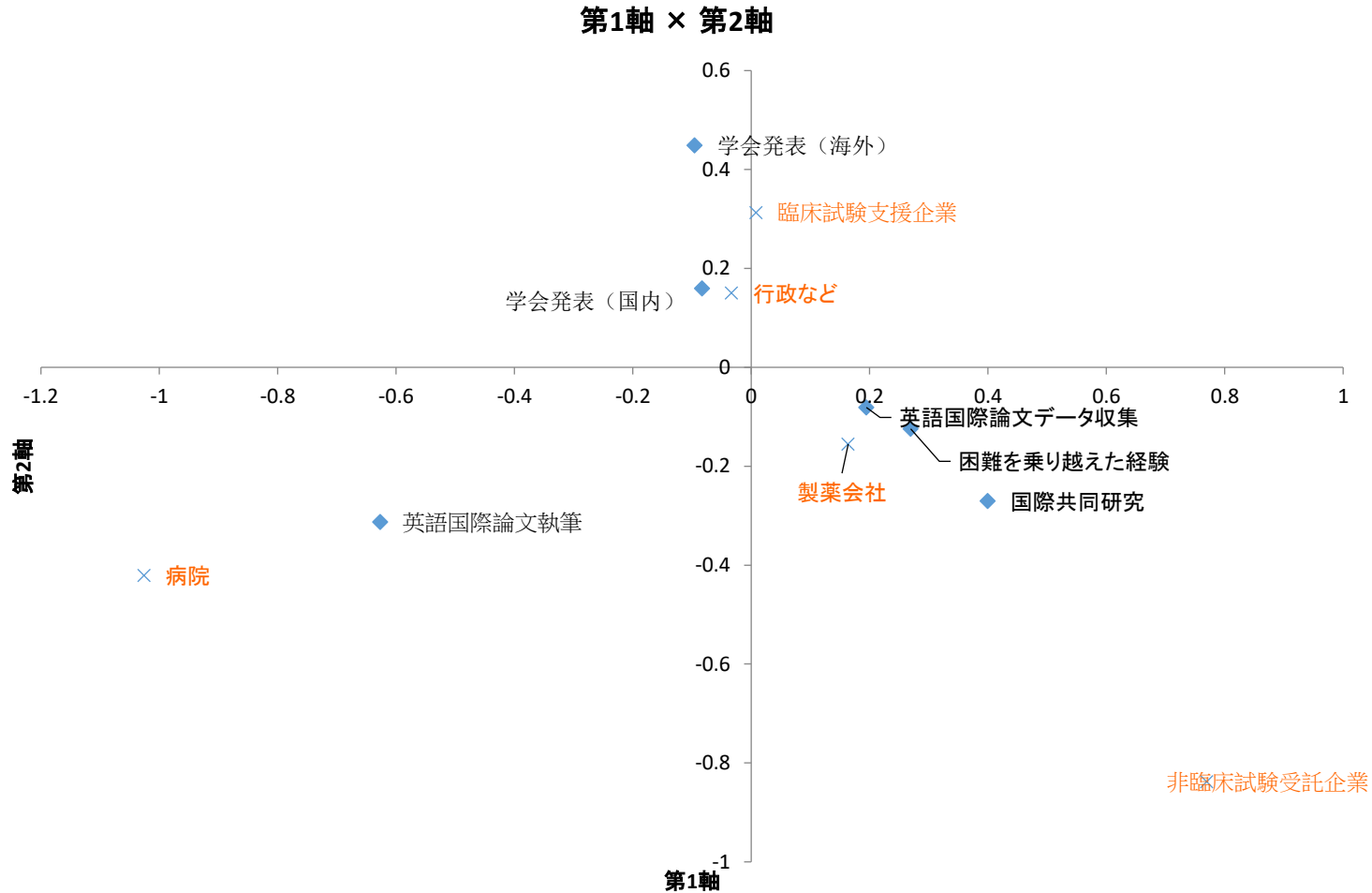
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験3位)×回答者の所属別(新卒採用)



※第1軸(寄与率72.2%)、第2軸(寄与率20.0%) 累積寄与率92.2%

5 採用者に期待する要素

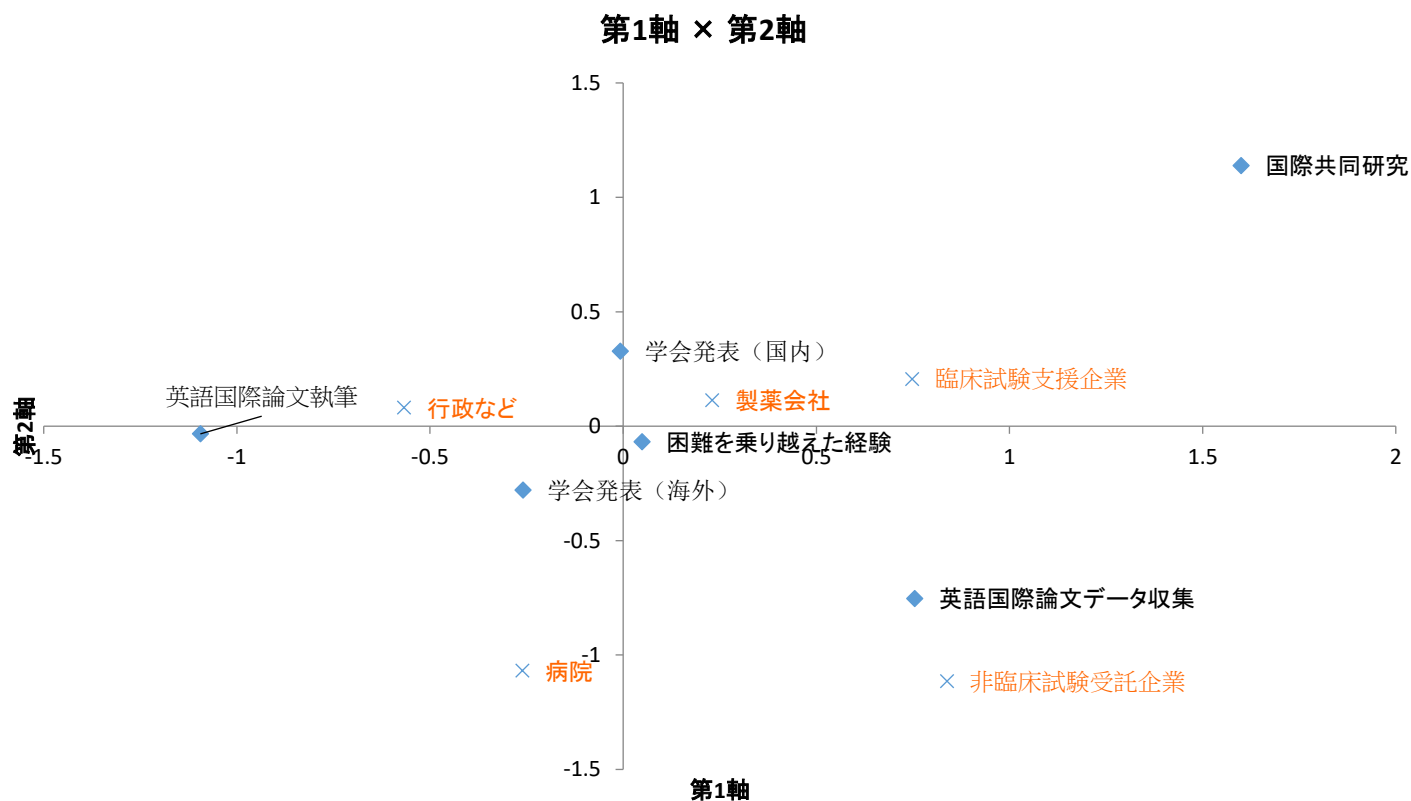
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験1～5位合計)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率58.2%)、第2軸(寄与率25.5%) 累積寄与率83.7%

5 採用者に期待する要素

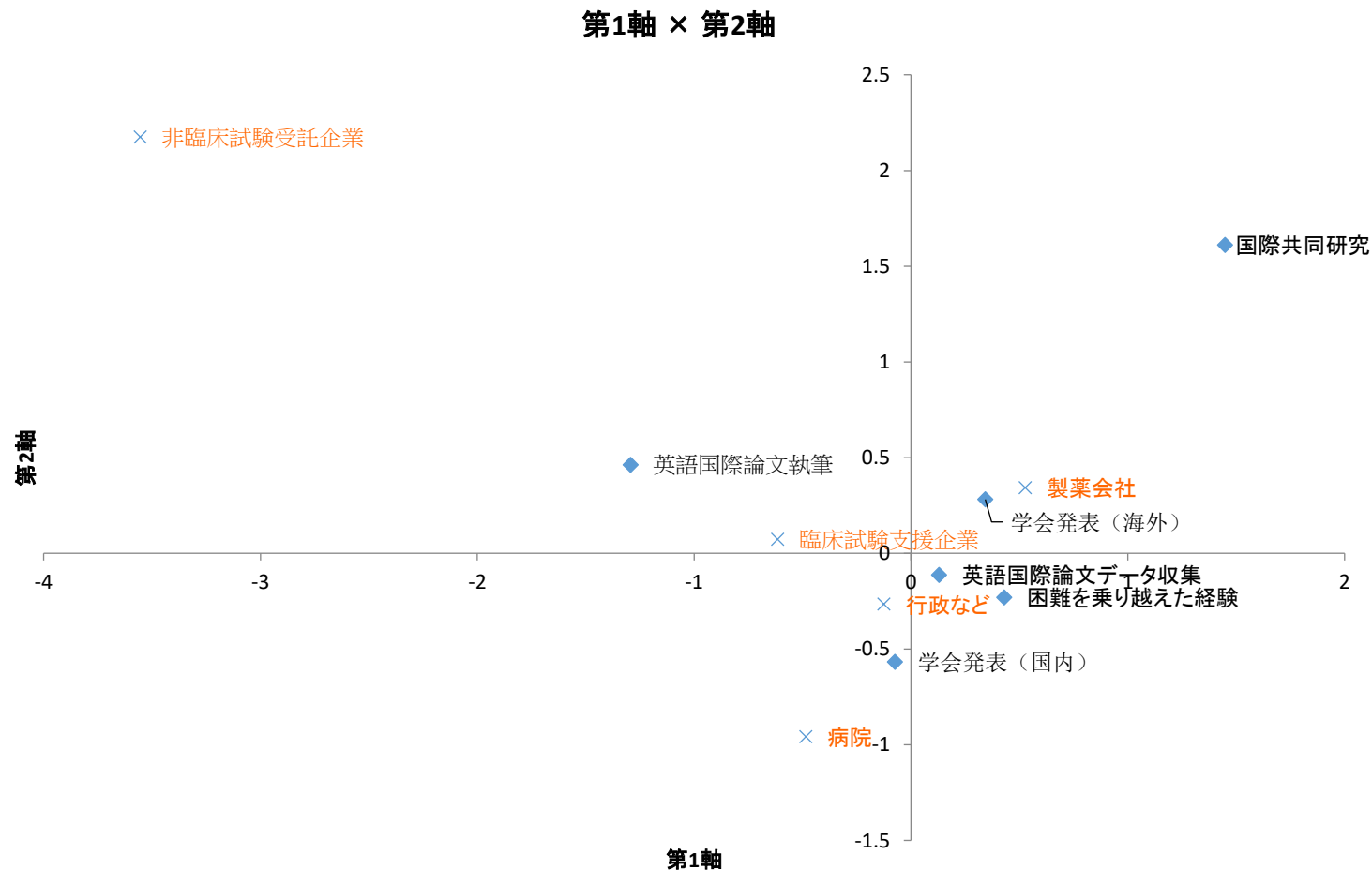
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験1位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率68.2%)、第2軸(寄与率17.1%) 累積寄与率85.4%

5 採用者に期待する要素

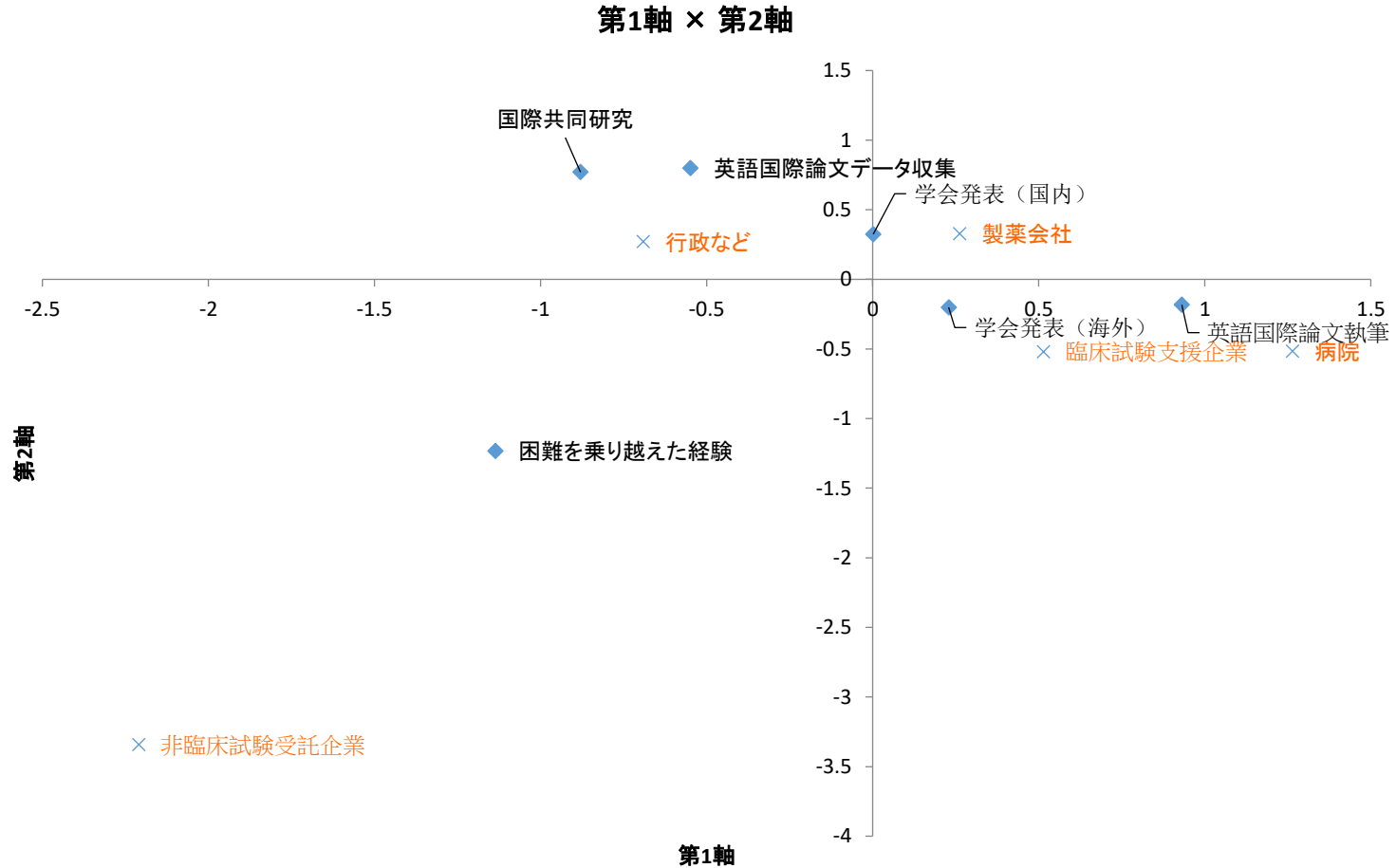
■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験2位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率62.7%)、第2軸(寄与率21.3%) 累積寄与率84.0%

5 採用者に期待する要素

■大学の研究活動で学んでおいて欲しい学修事項(経験3位)×回答者の所属別(中途採用)



※第1軸(寄与率52.5%)、第2軸(寄与率27.0%) 累積寄与率79.4%

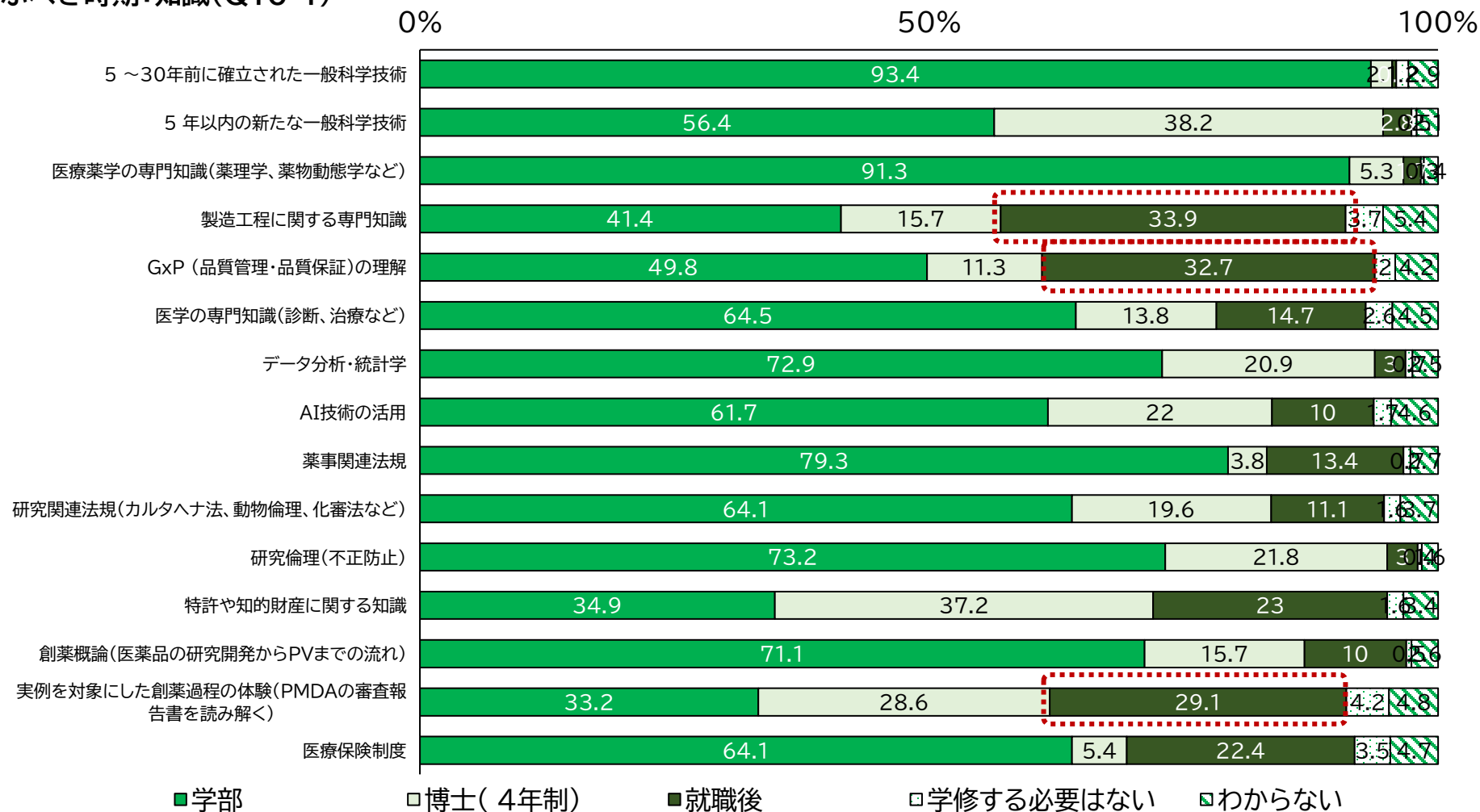
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)

Point

✓ 多くの項目が、「学部」で学ぶのがよい時期との回答が多いが、「製造工程に関する専門知識」や「GxP（品質管理・品質保証）の理解」、「実例を対象にした創薬過程の体験（PMDAの審査報告書を読み解く）」は、「就職後」がおよそ3割となっています。

■学ぶべき時期:知識(Q16-1)



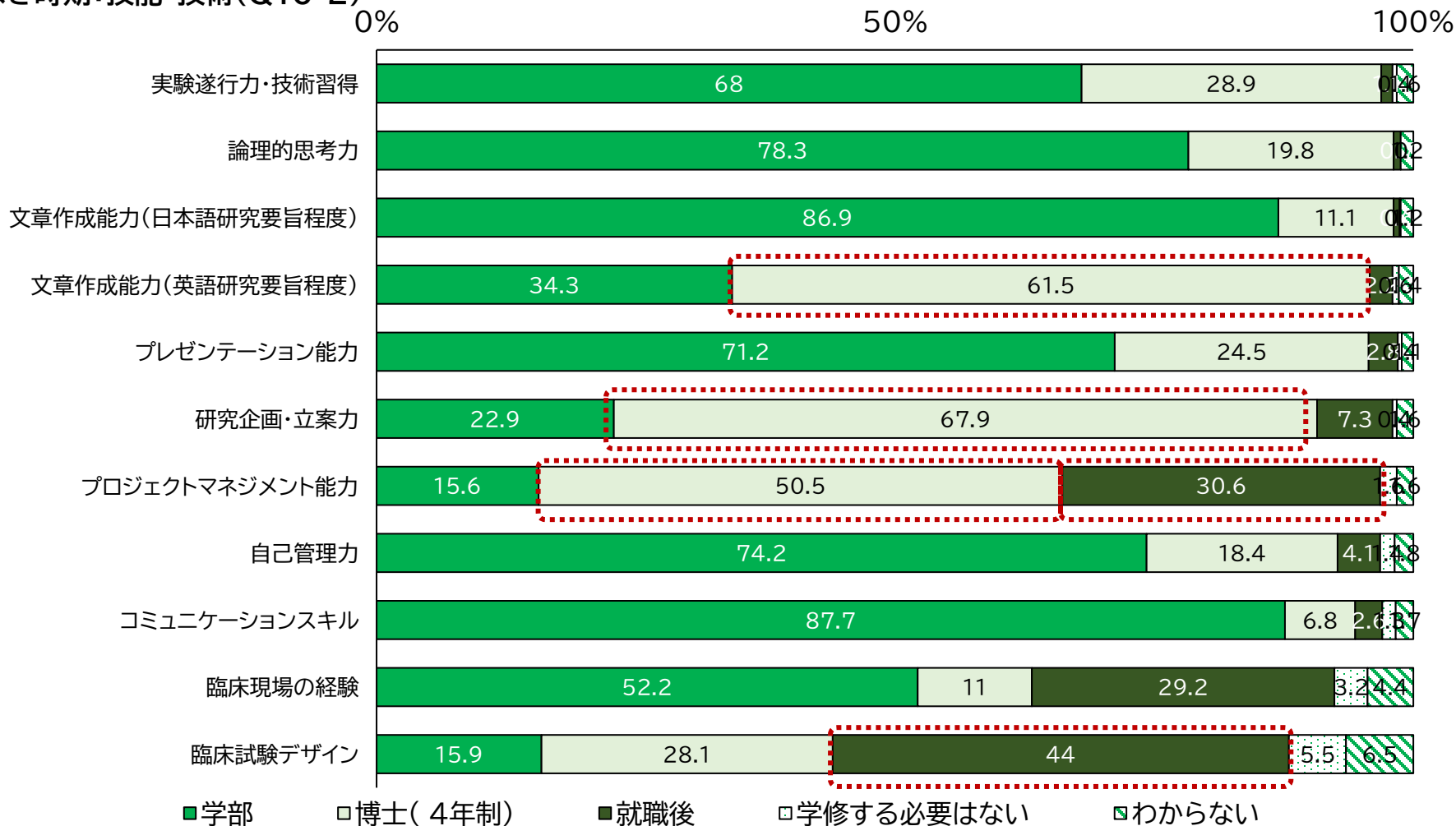
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)

Point

- ✓ 多くの項目が、「学部」で学ぶのがよい時期との回答が多いが、「文章作成能力（英語研究要旨程度）」「研究企画・立案力」「プロジェクトマネジメント能力」は「博士（4年制）」が5～6割と高くなっています。
- ✓ また、「プロジェクトマネジメント能力」と「臨床試験デザイン」は、「就職後」が3～4割となっています。

■学ぶべき時期:技能・技術(Q16-2)



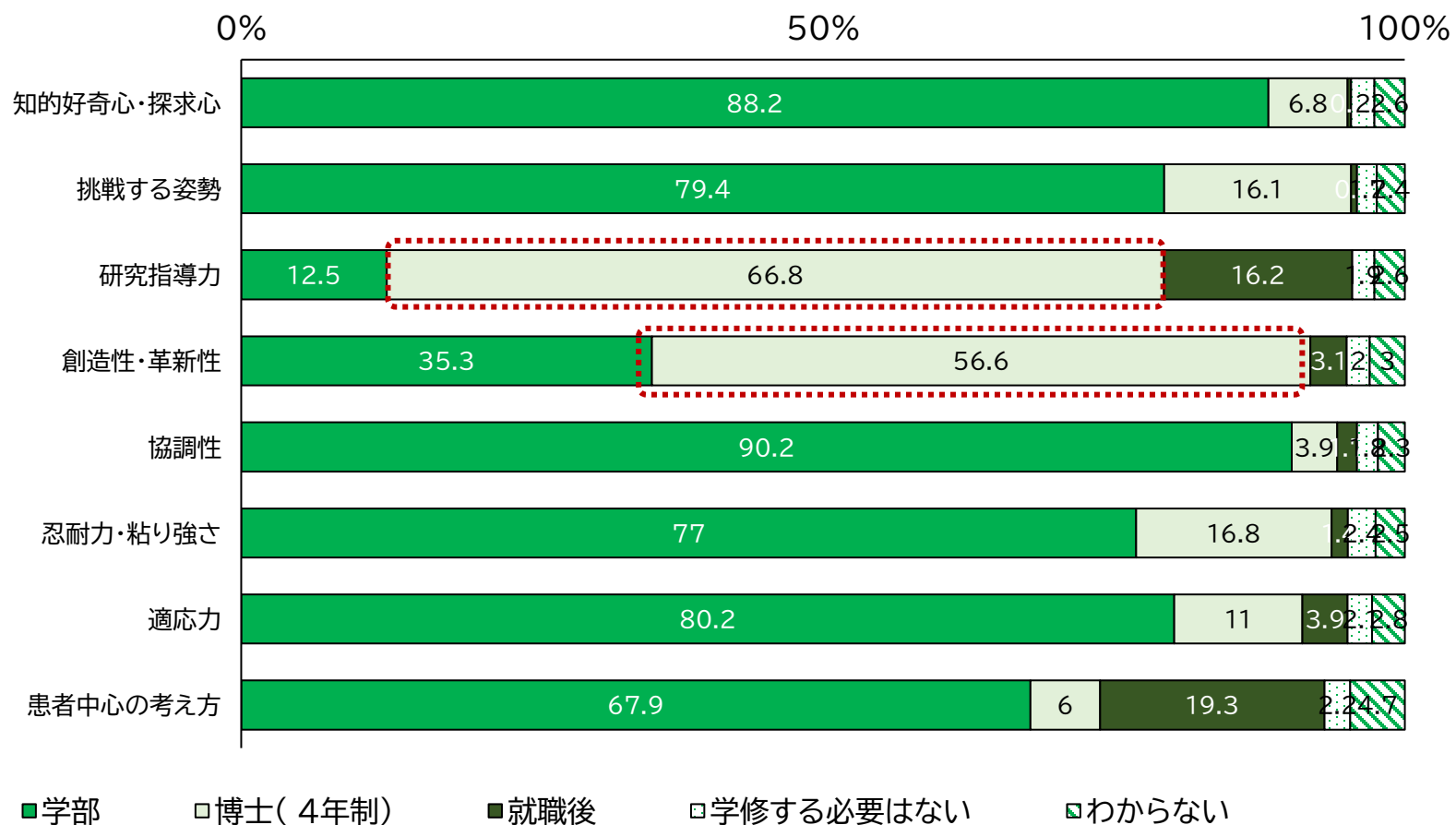
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)

Point

✓ 多くの項目が、「学部」で学ぶのがよい時期との回答が多いが、「研究指導力」「創造性・革新性」は「博士（4年制）」が5割以上と高くなっています。

■学ぶべき時期:姿勢・態度(Q16-3)



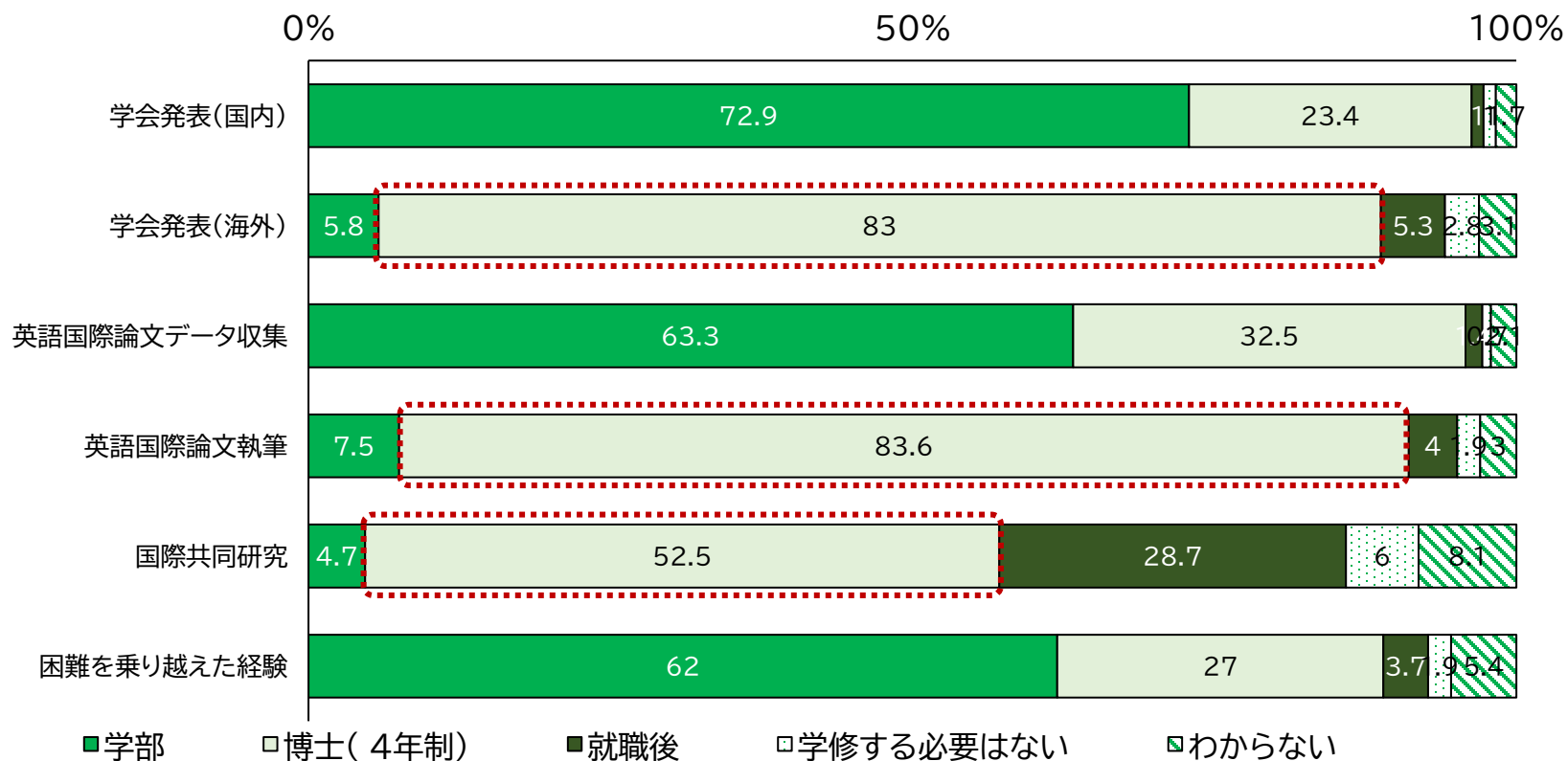
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)

Point

- ✓ 「学会発表(海外)」と「英語国際論文執筆」は「博士(4年制)」が8割以上を占めています。
- ✓ 「国際共同研究」は「博士(4年制)」が52.5%、「就職後」が28.7%となっています。

■学ぶべき時期:経験(Q16-4)



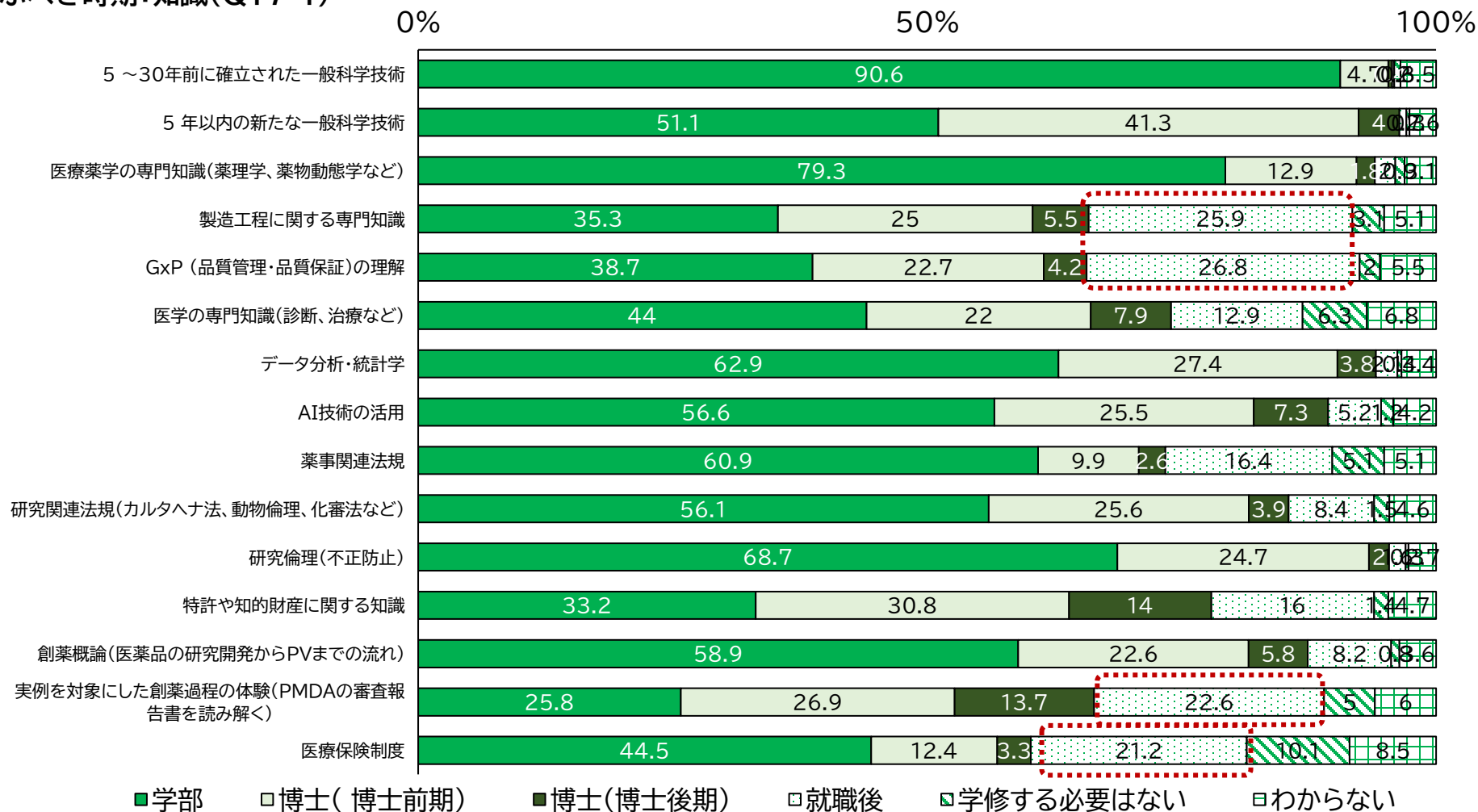
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)

Point

- ✓ 多くの項目が、「学部」で学ぶのがよい時期との回答が多いが、「製造工程に関する専門知識」や「GxP（品質管理・品質保証）の理解」、「実例を対象にした創薬過程の体験（PMDAの審査報告書を読み解く）」は、「就職後」がおよそ2割以上となっており、6年制課程での調査結果と共通しています。

■学ぶべき時期:知識(Q17-1)



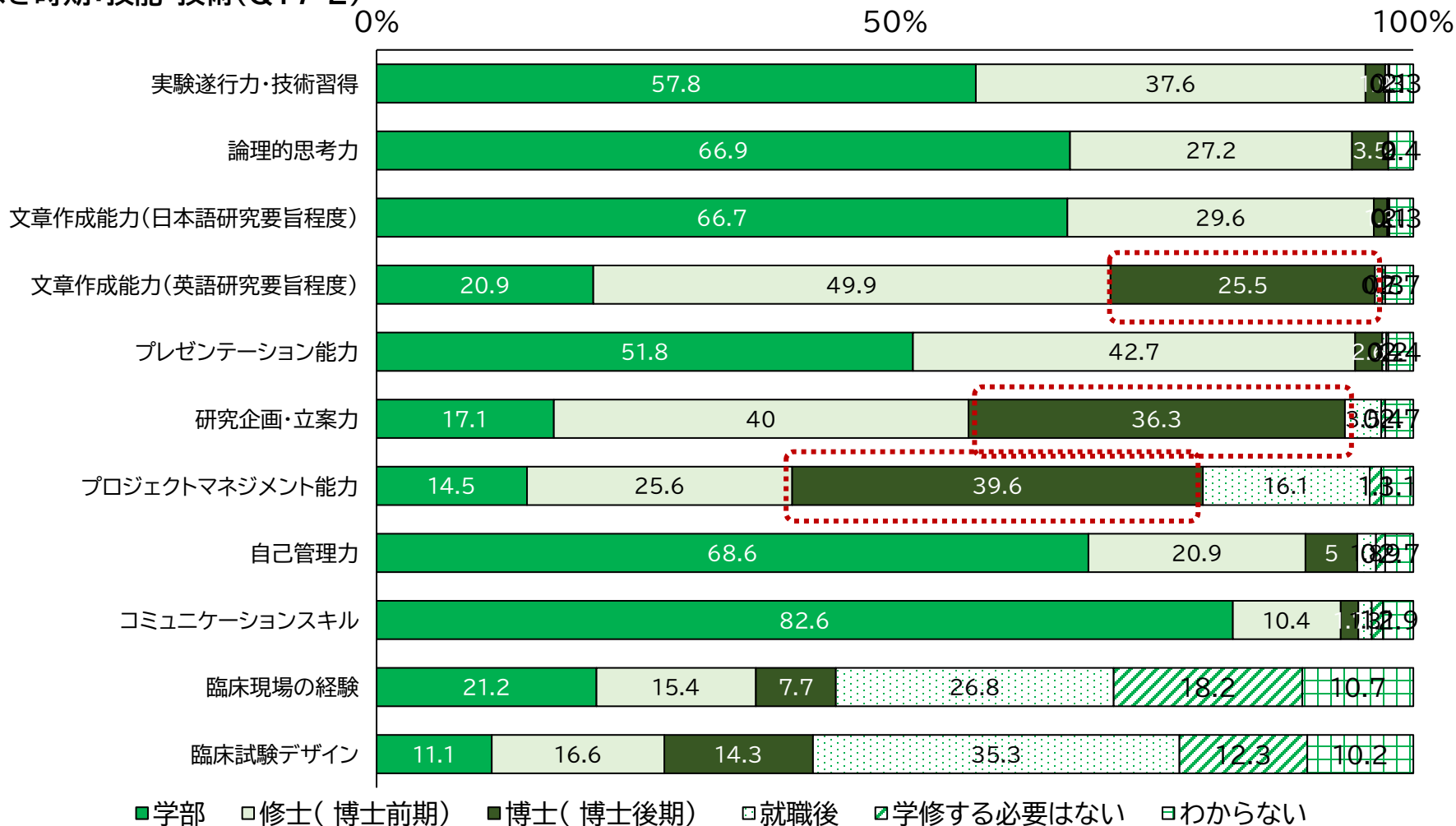
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)

Point

- ✓ 多くの項目が、「学部」で学ぶのがよい時期との回答が多いが、「文章作成能力（英語研究要旨程度）」「研究企画・立案力」「プロジェクトマネジメント能力」は「博士（博士後期課程）」が2～3割ととなっています。
- ✓ また、「臨床現場の経験」と「臨床試験デザイン」は、「就職後」が2～3割ととなっています。

■学ぶべき時期:技能・技術(Q17-2)



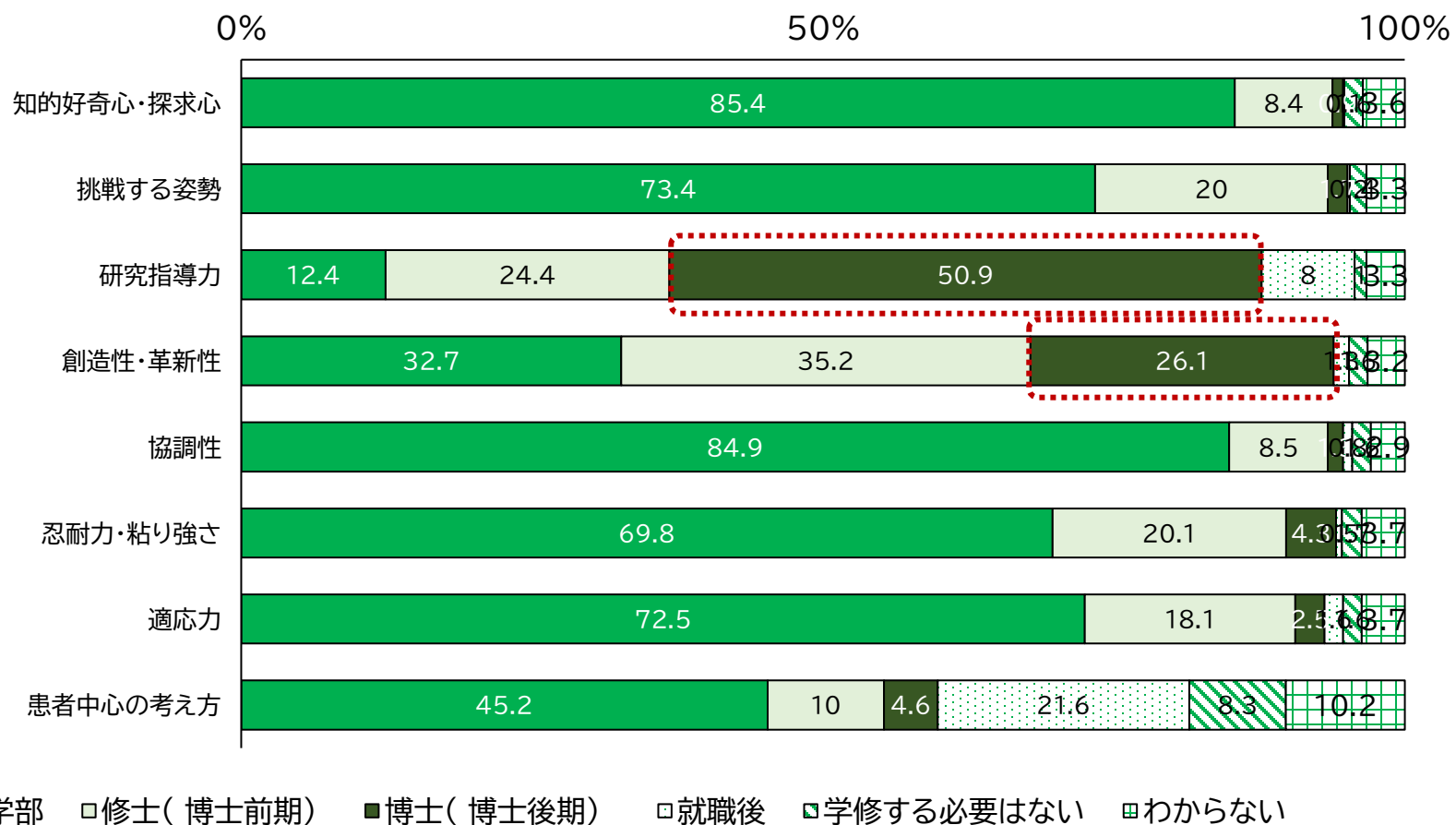
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)

Point

✓ 多くの項目が、「学部」で学ぶのがよい時期との回答が多いが、「研究指導力」「創造性・革新性」は「博士（博士後期）」が高くなっています。

■学ぶべき時期:姿勢・態度(Q17-3)



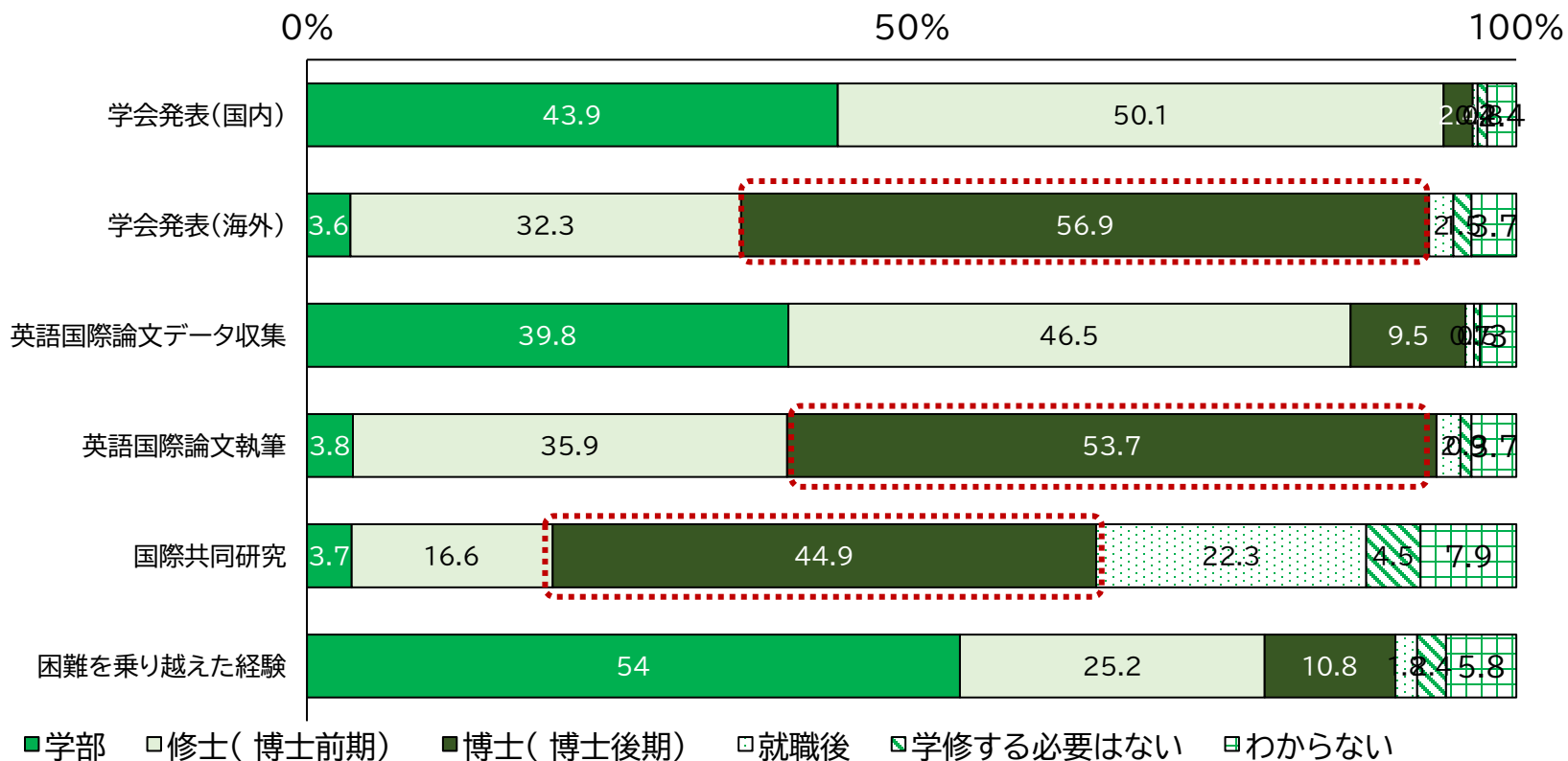
6 学習の時期

各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)

Point

- ✓ 「学会発表(海外)」と「英語国際論文執筆」「国際共同研究」は「博士(博士後期)」が4～5割を占めています。
- ✓ 「国際共同研究」は、「就職後」が22.3%となっています。

■学ぶべき時期:経験(Q17-4)



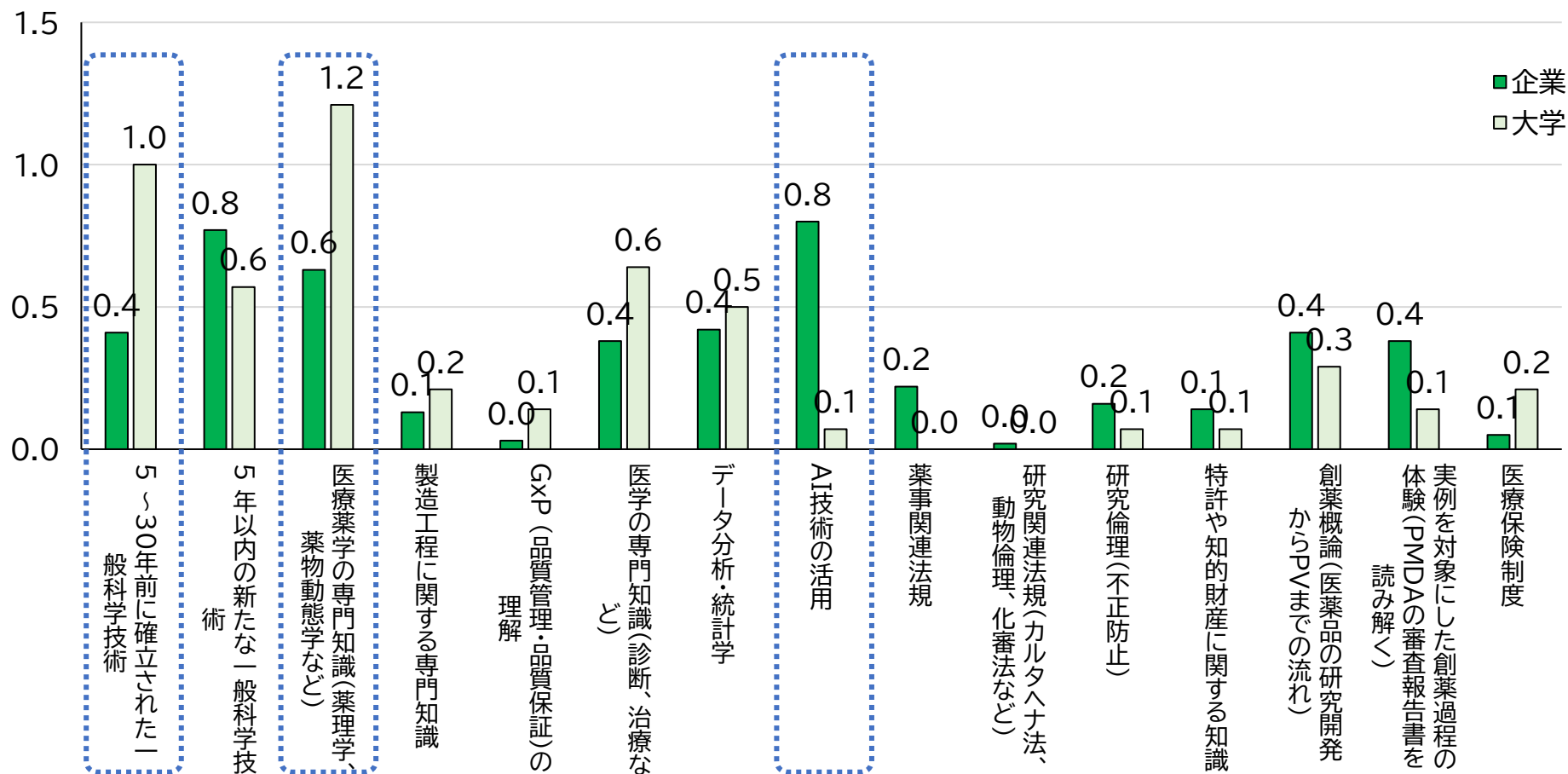
7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(企業・大学別)

Point

- ✓ 企業では「AI技術の活用」や「5年以内の新たな一般科学技術」が高く、大学では「医療薬学の専門知識」や「5～30年前に確立された一般科学技術」が高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:知識(Q18-1)



7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(所属別)

Point

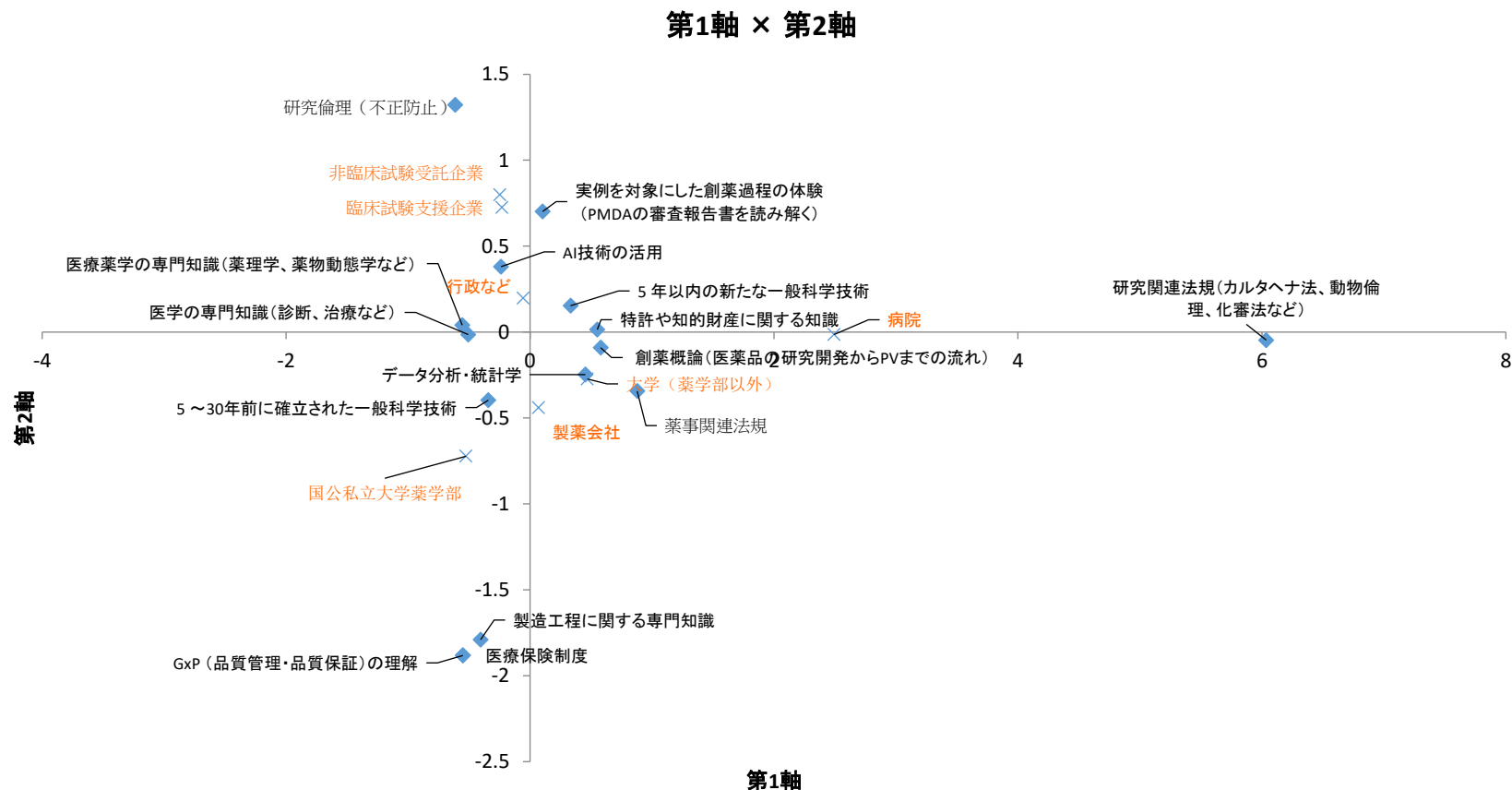
- ✓ 「5年以内の新たな一般科学技術」は所属に関わらず共通して高くなっています。
- ✓ 「AI技術の活用」が製薬会社、臨床試験支援企業で最も高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:知識(Q18-1)

	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	AI技術の活用	5年以内の新たな一般科学技術	データ分析・統計学	5～30年前に確立された一般科学技術	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)
臨床試験支援企業	AI技術の活用	5年以内の新たな一般科学技術	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など) 実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)		医学の専門知識(診断、治療など) 研究倫理(不正防止)
非臨床試験受託企業	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5年以内の新たな一般科学技術	AI技術の活用	医学の専門知識(診断、治療など)	創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ) 実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)
医薬品製造受託企業	—	—	—	—	—
病院	5年以内の新たな一般科学技術 創薬概論(医薬品の研究開発からPVまでの流れ)		データ分析・統計学	実例を対象にした創薬過程の体験(PMDAの審査報告書を読み解く)	薬事関連法規
行政など	医療薬学の専門知識(薬理学、薬物動態学など)	5年以内の新たな一般科学技術	5～30年前に確立された一般科学技術	医学の専門知識(診断、治療など)	AI技術の活用

7 創薬力強化

■日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(知識)×回答者の所属別



※第1軸(寄与率39.1%)、第2軸(寄与率21.9%) 累積寄与率60.9%

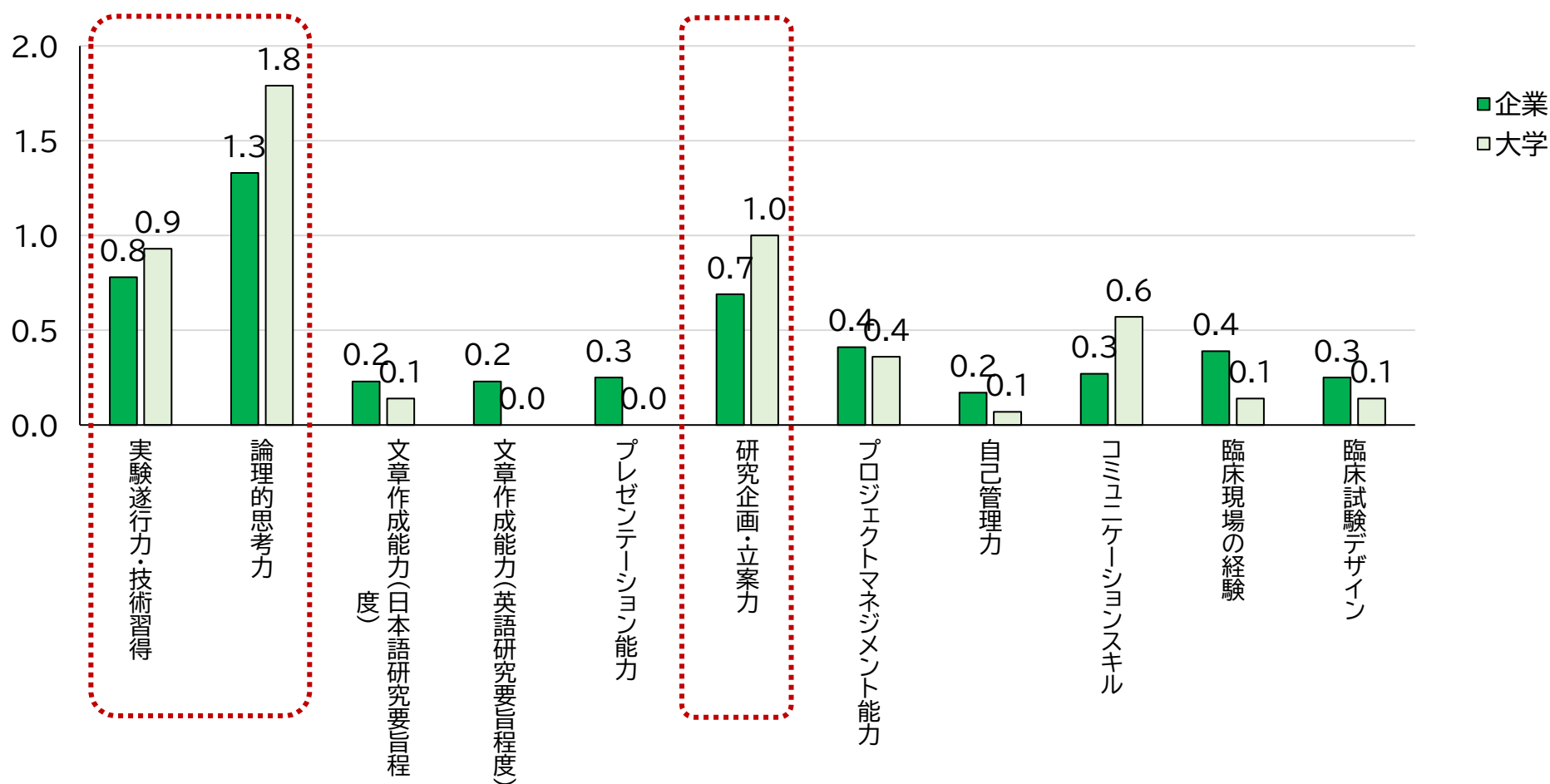
7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(企業・大学別)

Point

- ✓ 企業・大学ともに「論理的思考力」「実験遂行力・技術取得」「研究企画・立案力」が高くなっています。
- ✓ 「コミュニケーションスキル」は大学ではやや高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:技能・技術(Q18-2)



7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(所属別)

Point

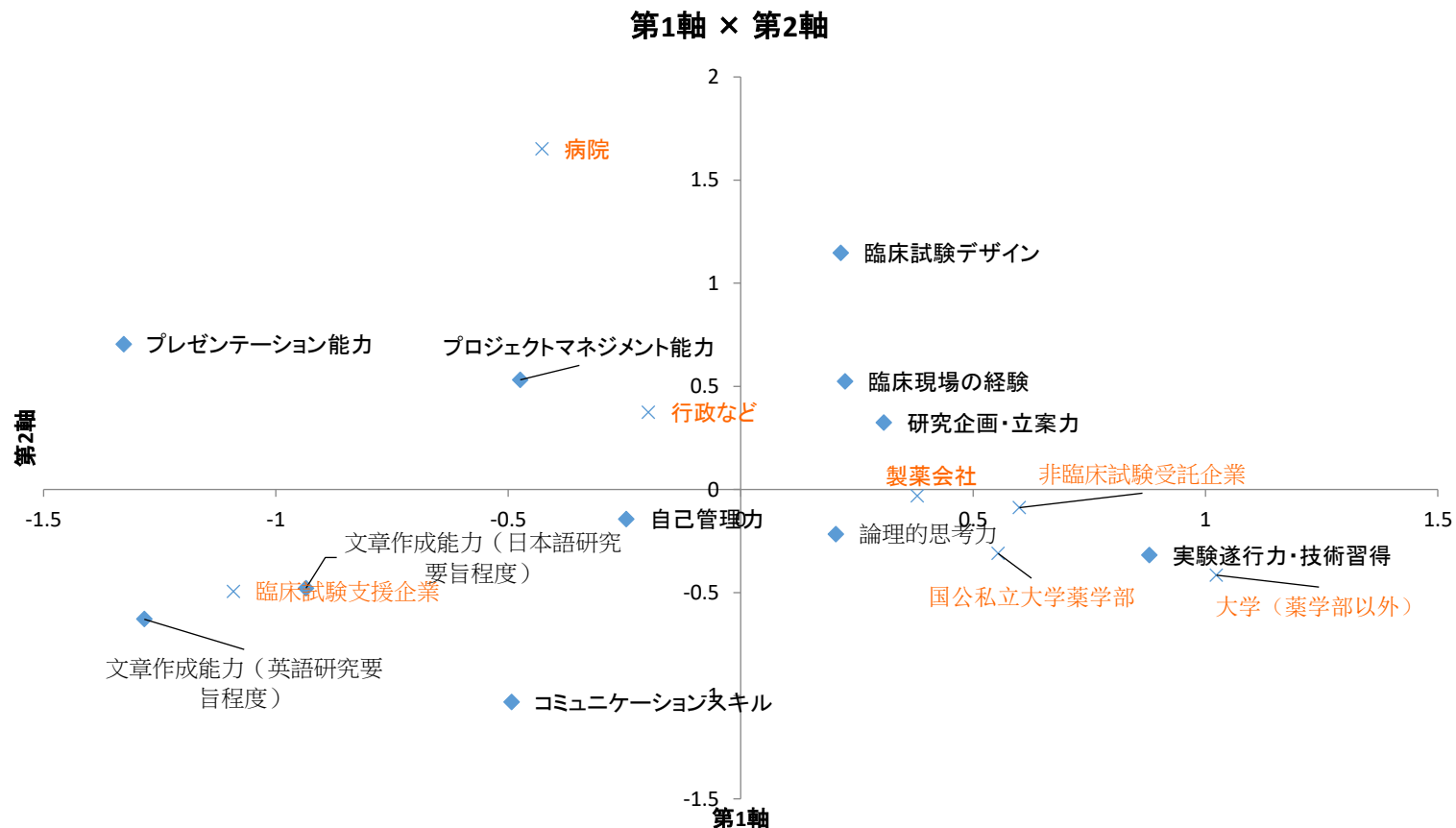
✓ 「論理的思考力」は、所属に関わらず共通して高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:技能・技術(Q18-2)

	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	論理的思考力	実験遂行力・技術習得	研究企画・立案力	臨床試験デザイン	臨床現場の経験
臨床試験支援企業	論理的思考力	プレゼンテーション能力 コミュニケーションスキル		研究企画・立案力	文章作成能力(英語研究要旨程度)
非臨床試験受託企業	実験遂行力・技術習得	論理的思考力	プロジェクトマネジメント能力	臨床現場の経験	研究企画・立案力
医薬品製造受託企業	—	—	—	—	—
病院	研究企画・立案力	論理的思考力	プロジェクトマネジメント能力 臨床現場の経験		プレゼンテーション能力 臨床試験デザイン
行政など	論理的思考力	研究企画・立案力 臨床現場の経験		実験遂行力・技術習得	プロジェクトマネジメント能力 臨床試験デザイン

7 創薬力強化

■日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(技術・技能)×回答者の所属別



※第1軸(寄与率48.6%)、第2軸(寄与率21.2%) 累積寄与率69.8%

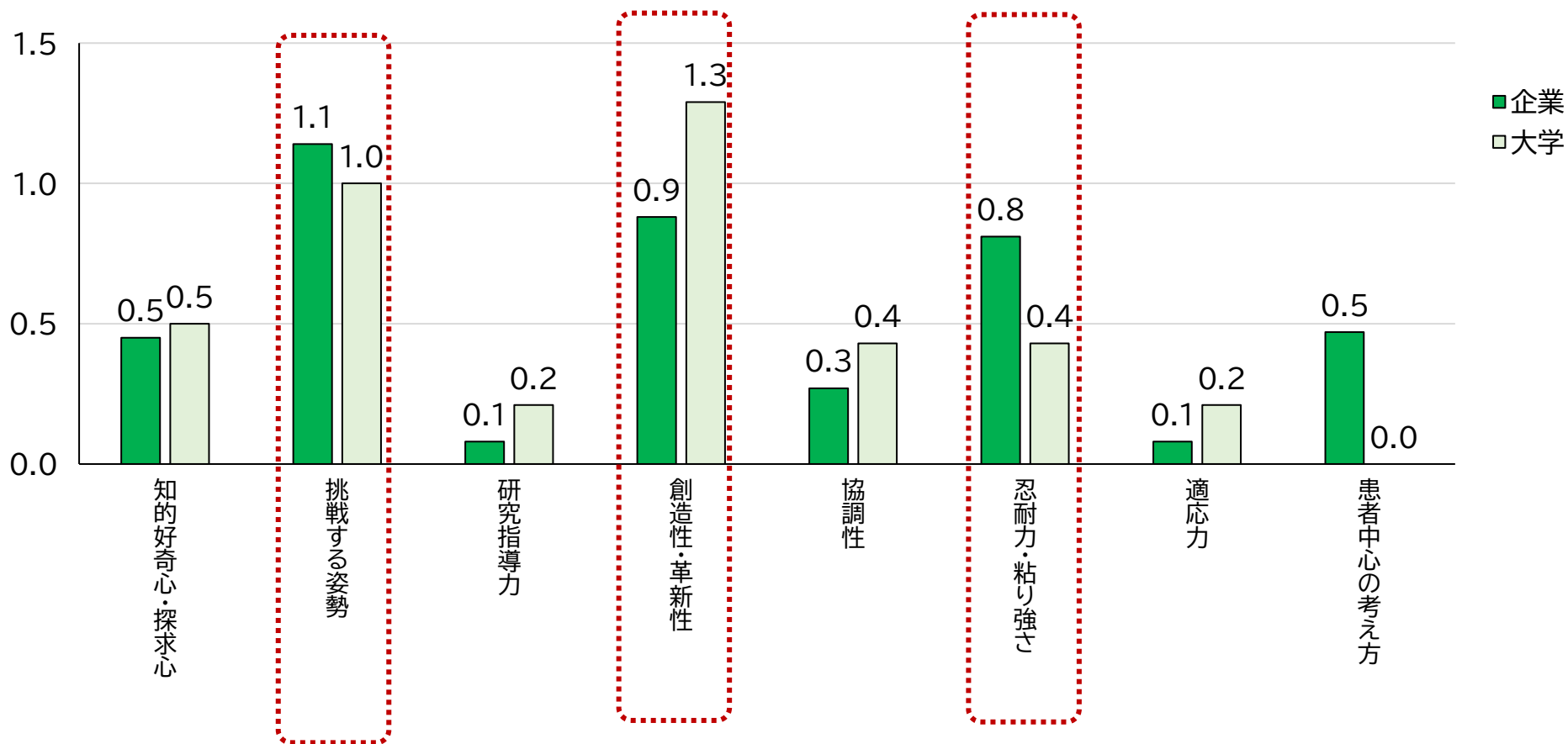
7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(企業・大学別)

Point

- ✓ 「挑戦する姿勢」は企業と大学で共通して高くなっています。
- ✓ 企業に比べて、大学では「創造性・革新性」は高く、「忍耐力・粘り強さ」は低い。また、「患者中心の考え方」は企業の方が高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:姿勢・態度(Q18-3)



7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(所属別)

Point

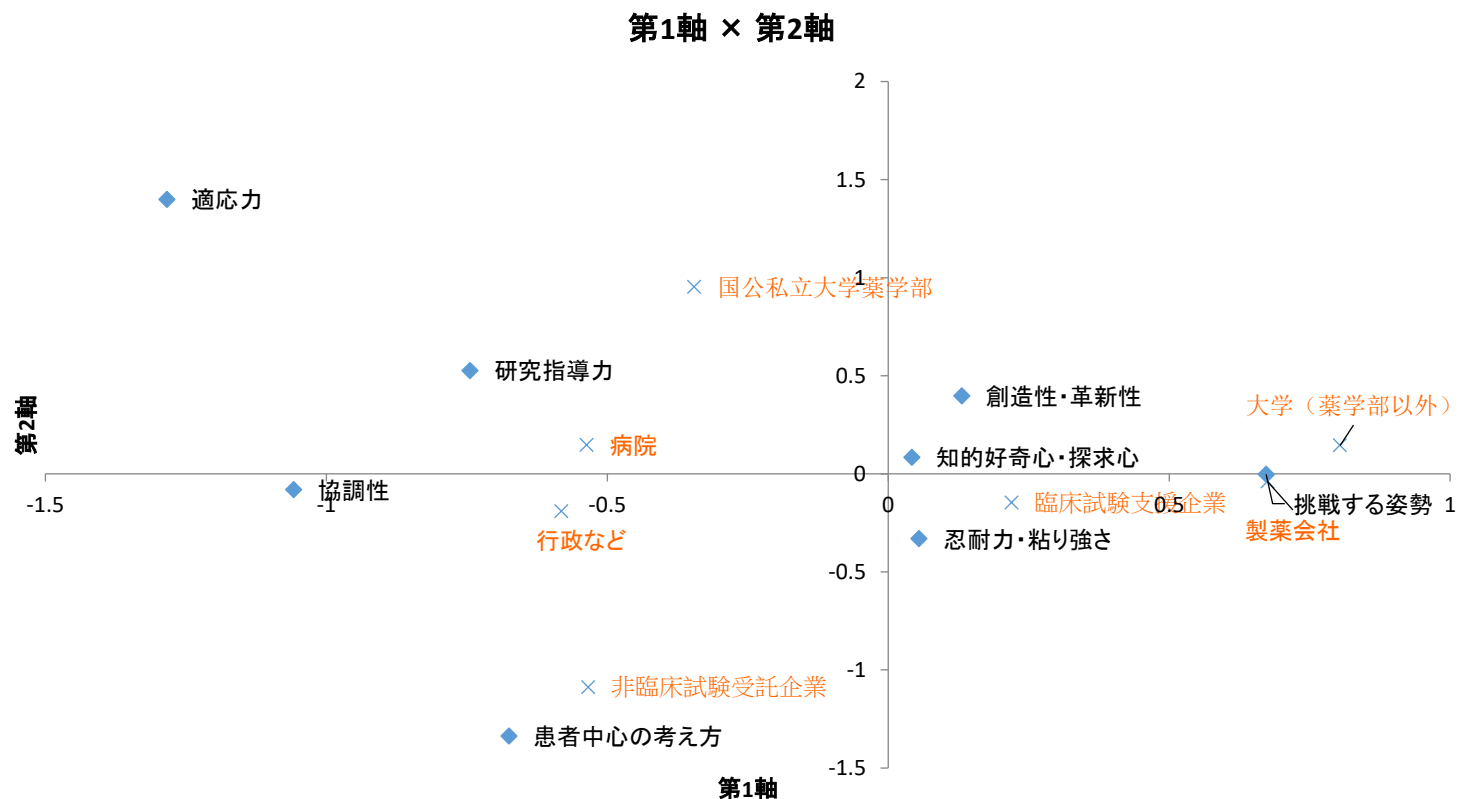
- ✓ 製薬会社と臨床試験支援企業では「挑戦する姿勢」や「創造性・革新性」が特に高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:姿勢・態度(Q18-3)

	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	挑戦する姿勢	創造性・革新性	忍耐力・粘り強さ	知的的好奇心・探求心	患者中心の考え方
臨床試験支援企業	挑戦する姿勢	創造性・革新性	忍耐力・粘り強さ	知的的好奇心・探求心 患者中心の考え方	
非臨床試験受託企業	患者中心の考え方	忍耐力・粘り強さ	挑戦する姿勢	創造性・革新性	協調性
医薬品製造受託企業	—	—	—	—	—
病院	知的的好奇心・探求心 創造性・革新性		挑戦する姿勢 患者中心の考え方		忍耐力・粘り強さ
行政など	忍耐力・粘り強さ	創造性・革新性	挑戦する姿勢 協調性		患者中心の考え方

7 創薬力強化

■日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(姿勢・態度)×回答者の所属別



※第1軸(寄与率46.4%)、第2軸(寄与率37.9%) 累積寄与率84.3%

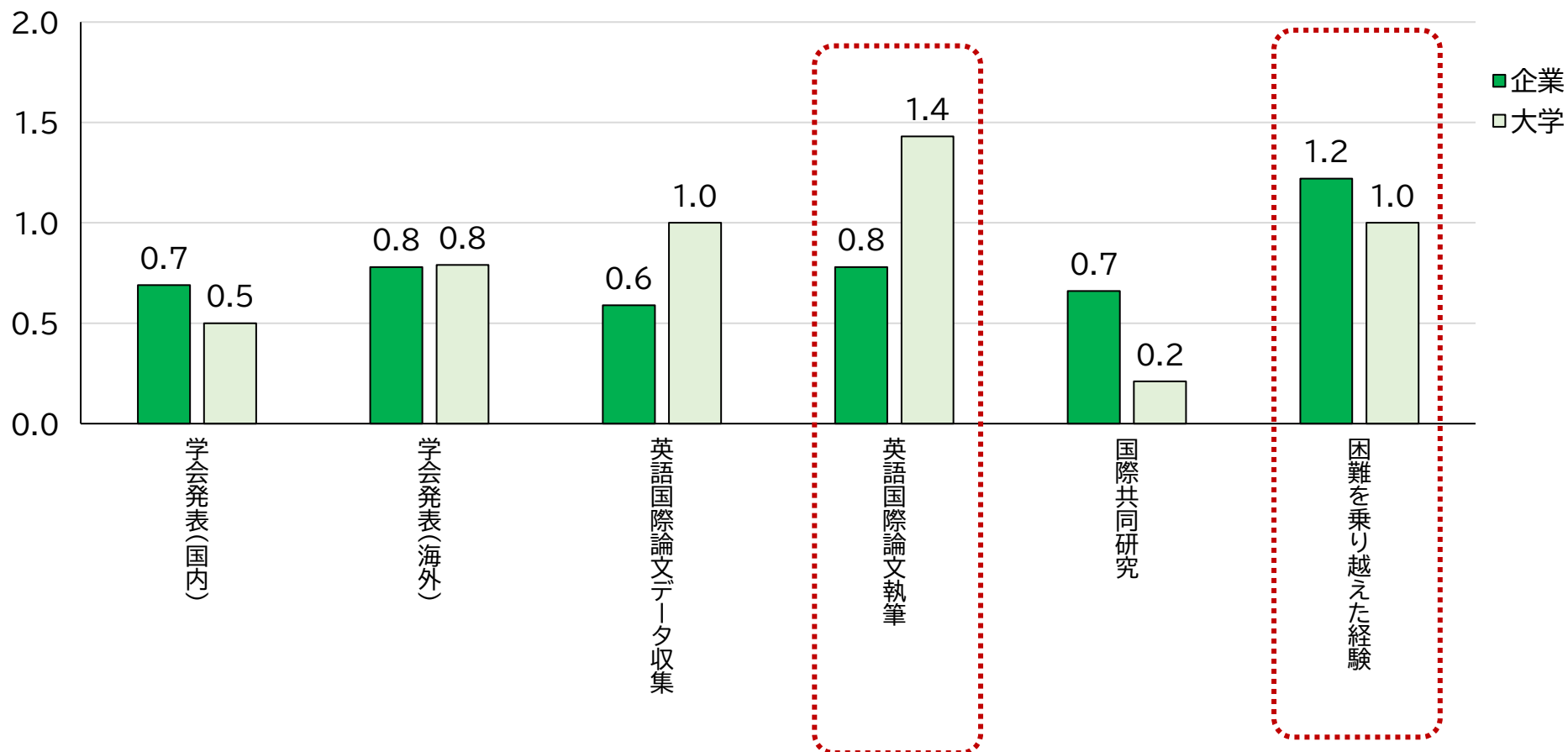
7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(企業・大学別)

Point

- ✓ 企業・大学に関わらず「困難を乗り越えた経験」は高くなっています。
- ✓ 大学の方が、「英語国際論文執筆」が高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:経験(Q18-4)



7 創薬力強化

日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(所属別)

Point

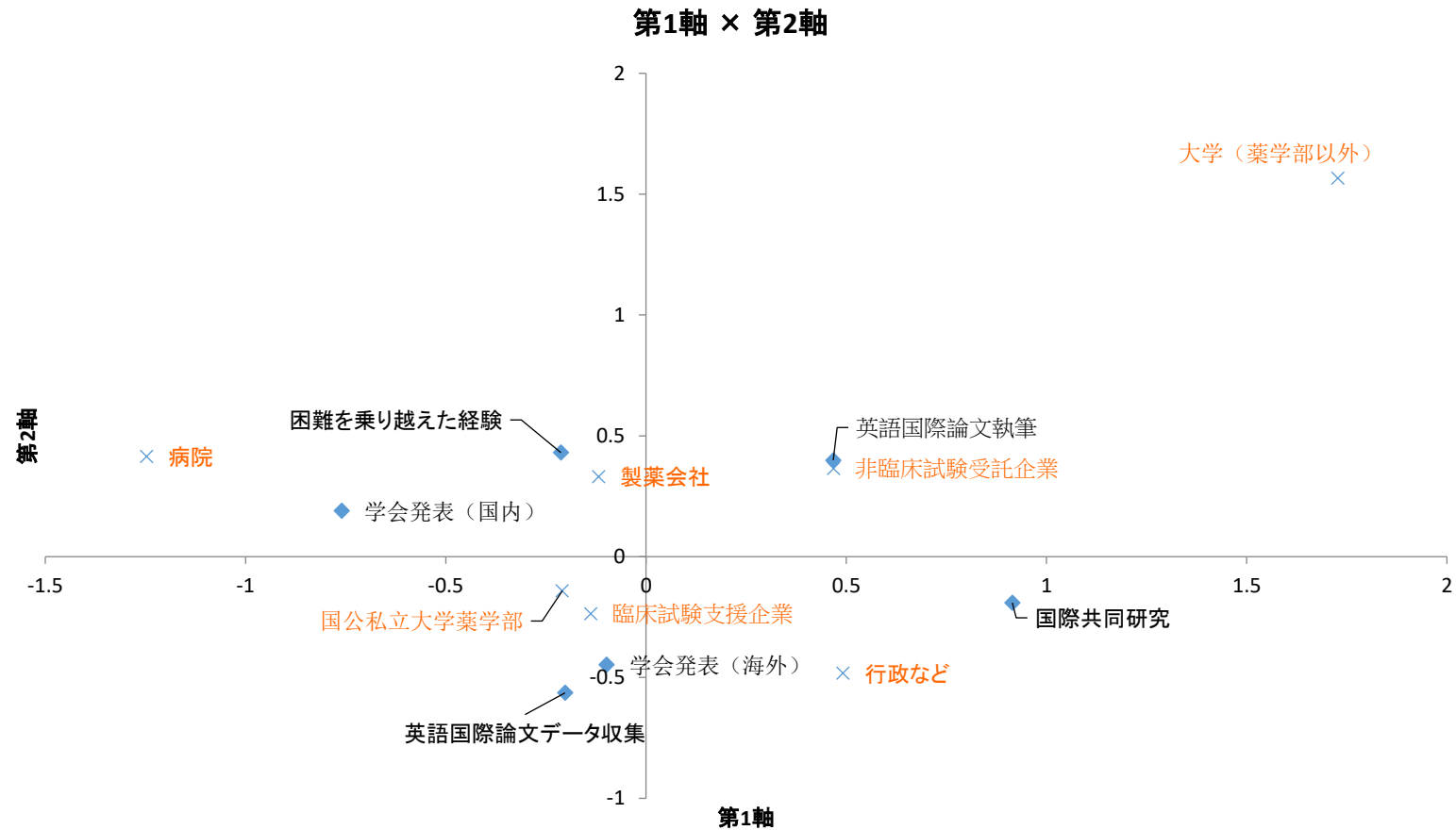
- ✓ 製薬会社を除いて「英語国際論文データ収集」が共通して高くなっています。

■創薬力強化の観点から薬学部が貢献するために学ぶべきこと:経験(Q18-4)

	1位	2位	3位	4位	5位
製薬会社	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	学会発表(海外) 英語国際論文執筆		国際共同研究
臨床試験支援企業	困難を乗り越えた経験	学会発表(海外)	英語国際論文データ収集	学会発表(国内) 国際共同研究	
非臨床試験受託企業	英語国際論文執筆	困難を乗り越えた経験	英語国際論文データ収集 国際共同研究		学会発表(国内)
医薬品製造受託企業	—	—	—	—	—
病院	困難を乗り越えた経験	学会発表(国内)	英語国際論文データ収集	英語国際論文執筆	学会発表(海外)
行政など	国際共同研究	学会発表(海外) 英語国際論文執筆		困難を乗り越えた経験	英語国際論文データ収集

7 創薬力強化

■日本の創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきこと(経験)×回答者の所属別



※第1軸(寄与率54.3%)、第2軸(寄与率26.6%) 累積寄与率80.8%

Ⅲ 大学アンケートと一般アンケートの比較

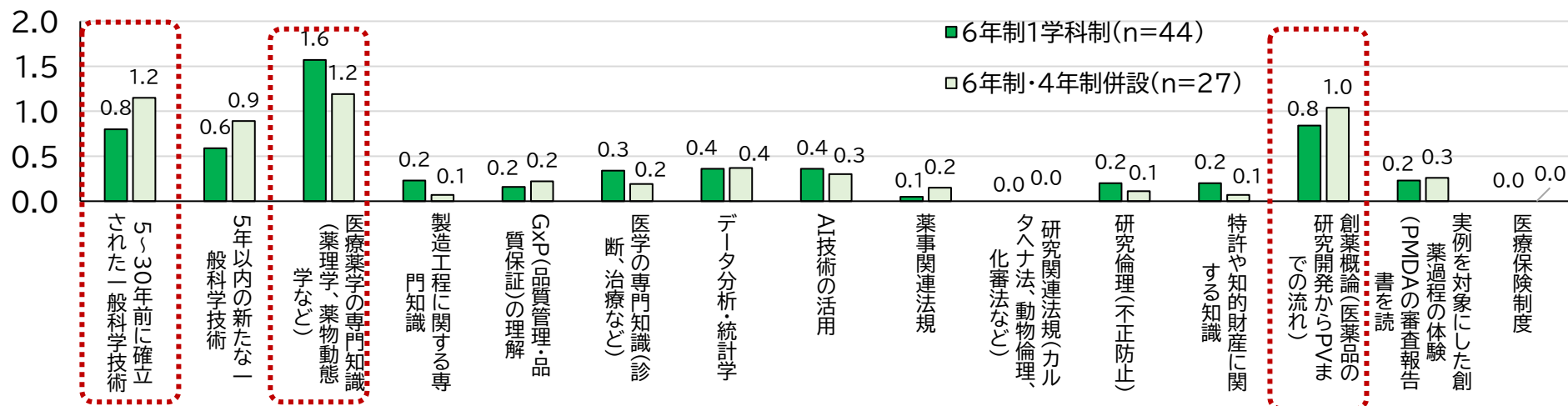
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

知識

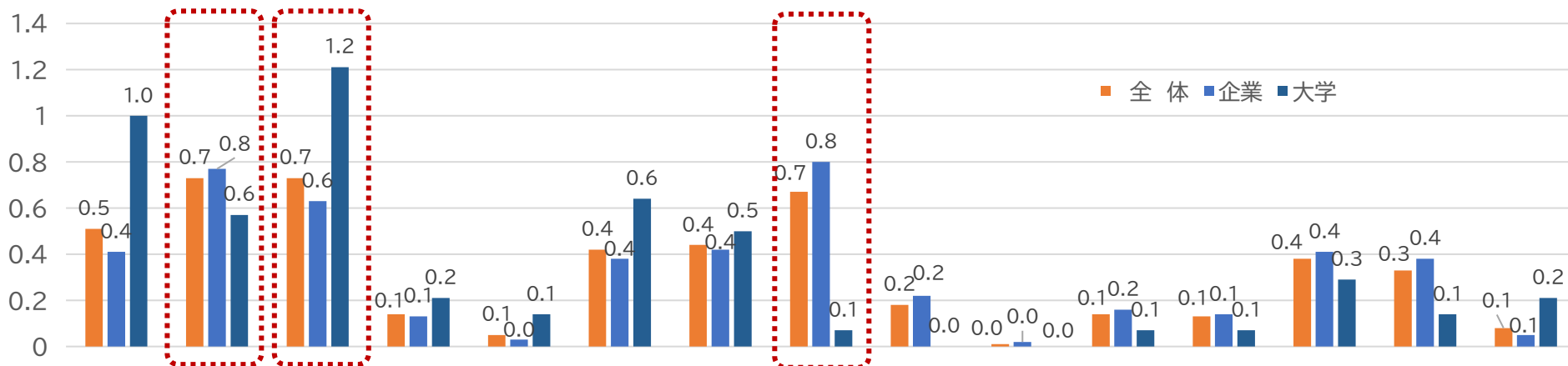
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「医療薬学の専門知識」、「創薬概論」、「5～30年前に確立された一般科学技術」が高い。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目では、「医療薬学の専門知識」、「5年以内の新たな一般科学技術」、「AI技術の活用」が高くなっています。
- ✓ 「AI技術の活用」は企業と大学で差が大きいです。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程):知識(Q19)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目:知識(Q18)



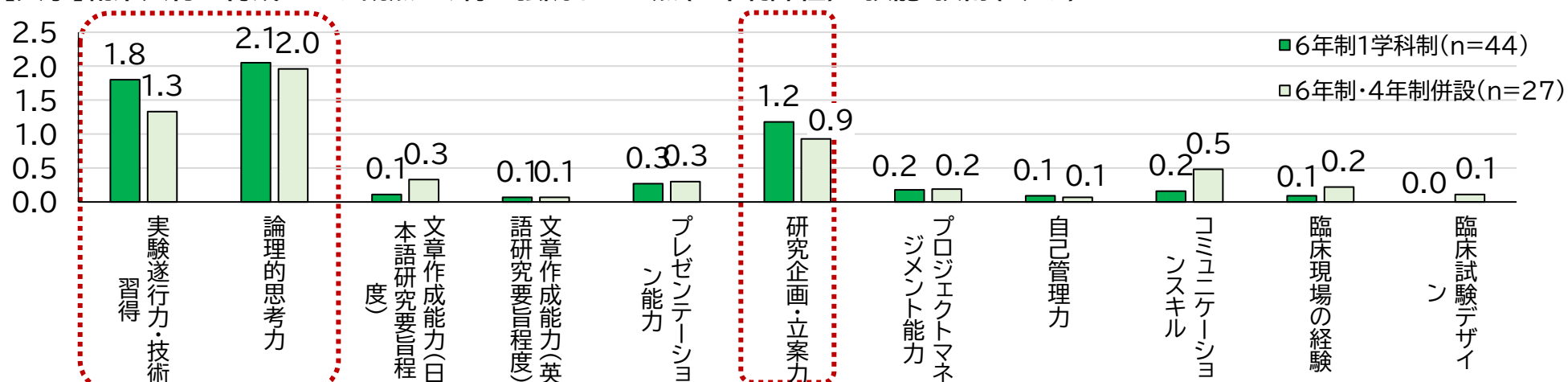
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

技能・技術

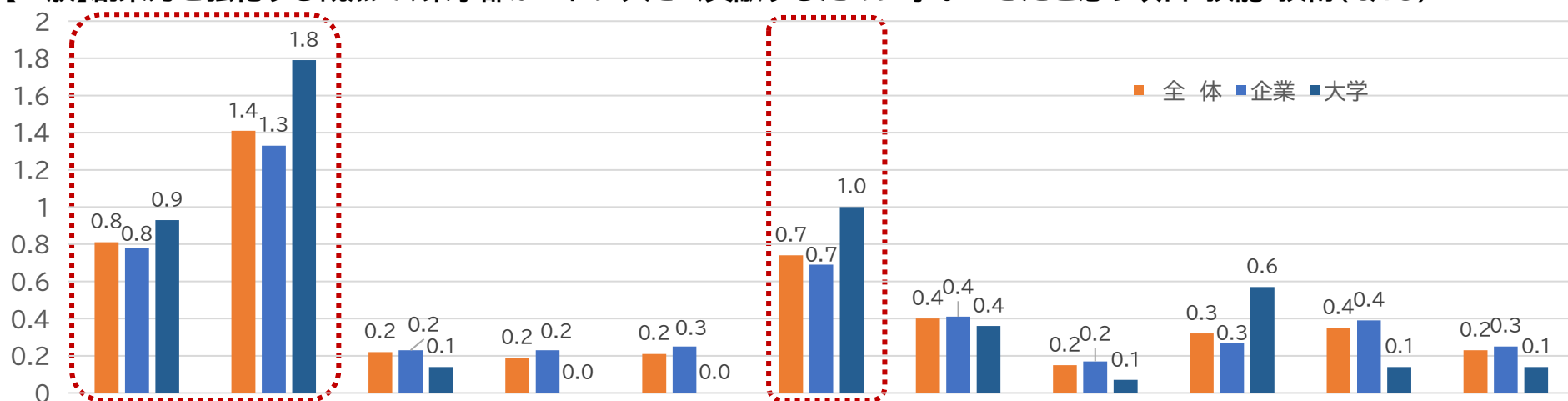
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「論理的思考力」、「実験遂行力・技術習得」、「研究企画・立案力」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目でも同様の結果となっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程)：技能・技術(Q19)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目：技能・技術(Q18)



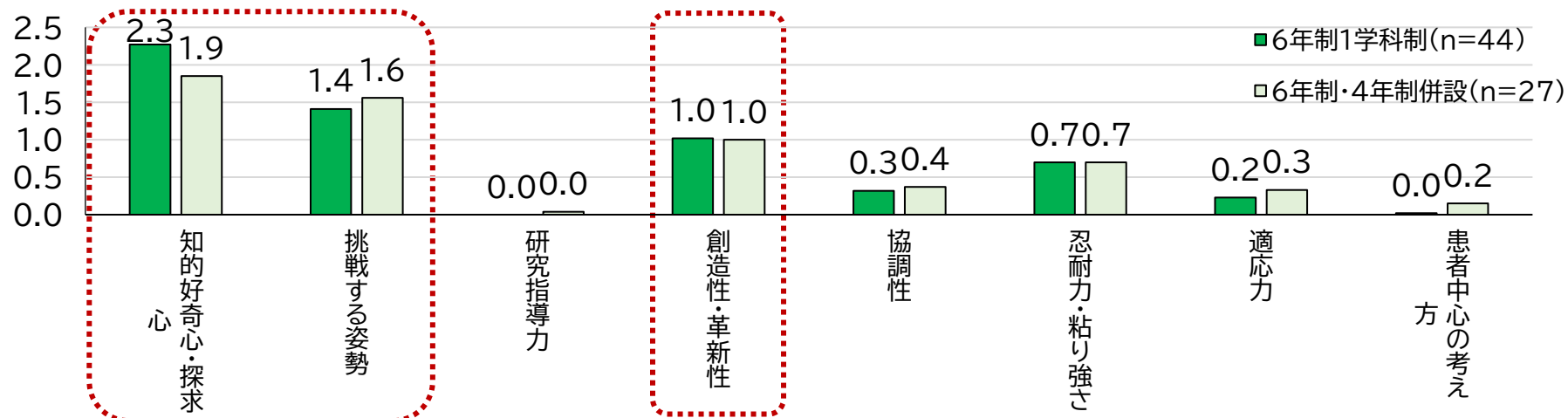
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

姿勢・態度

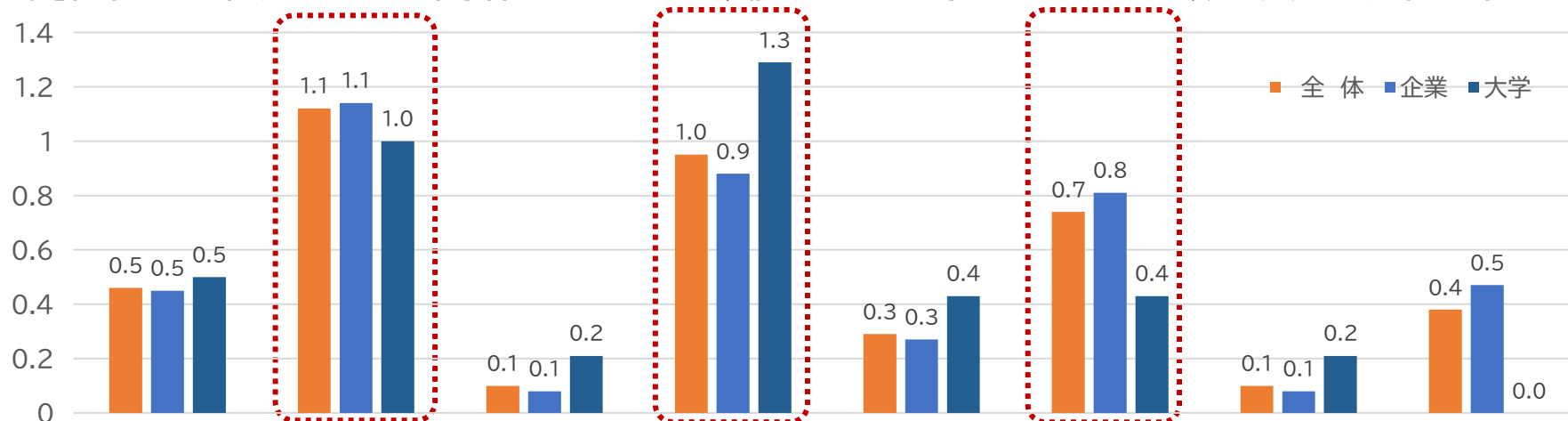
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「知的好奇心・探求心」、「挑戦する姿勢」、「創造性・革新性」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目では、「挑戦する姿勢」、「創造性・革新性」、「忍耐力・粘り強さ」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程)：姿勢・態度(Q19)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目：姿勢・態度(Q18)



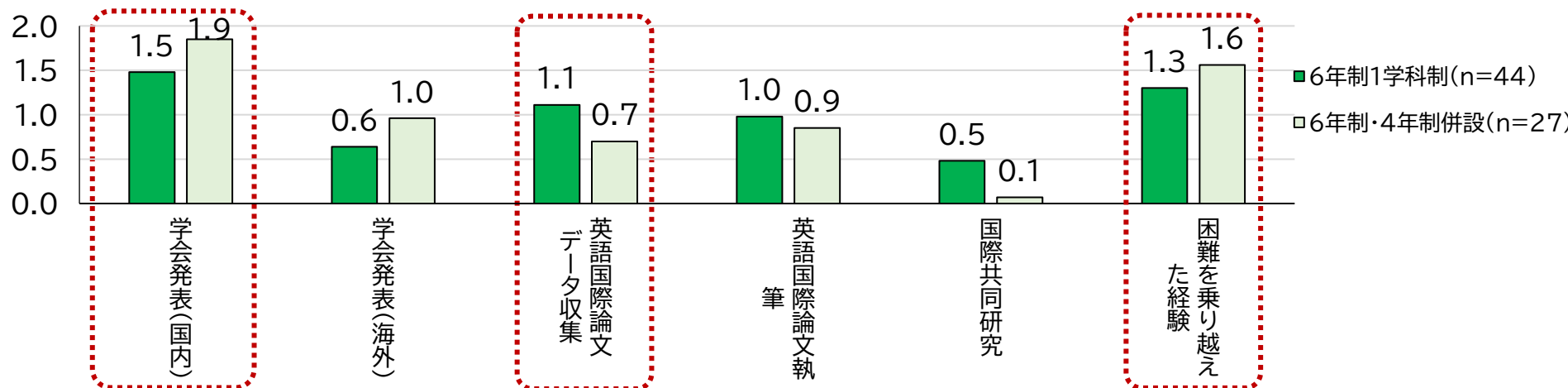
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

経験

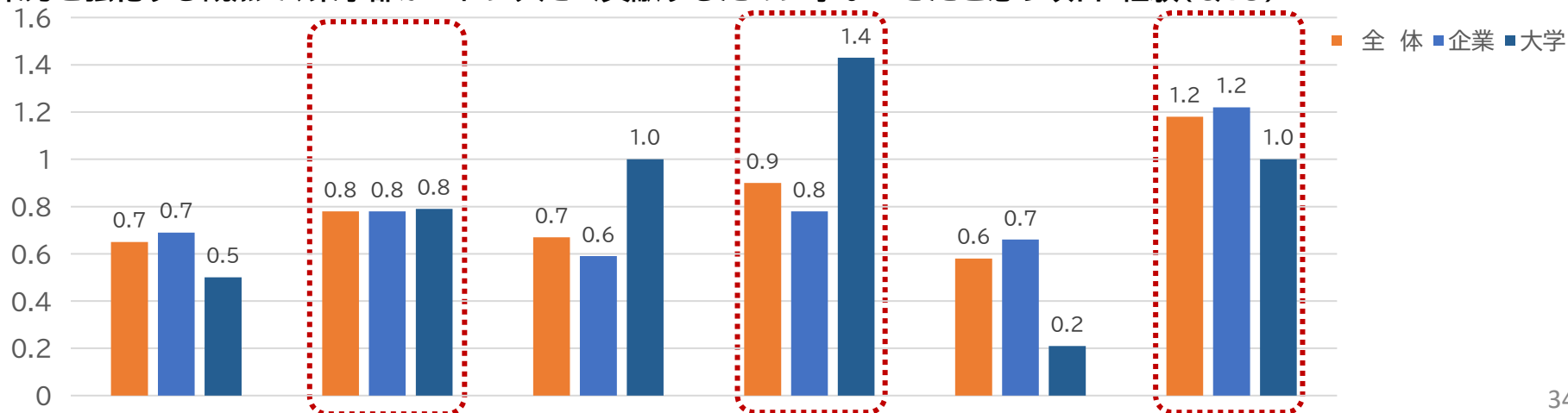
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「学会発表(国内)」、「困難を乗り越えた経験」、「英語国際論文データ収集」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目では、「困難を乗り越えた経験」、「英語国際論文執筆」、「学会発表(海外)」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程)：経験(Q19)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目：経験(Q18)



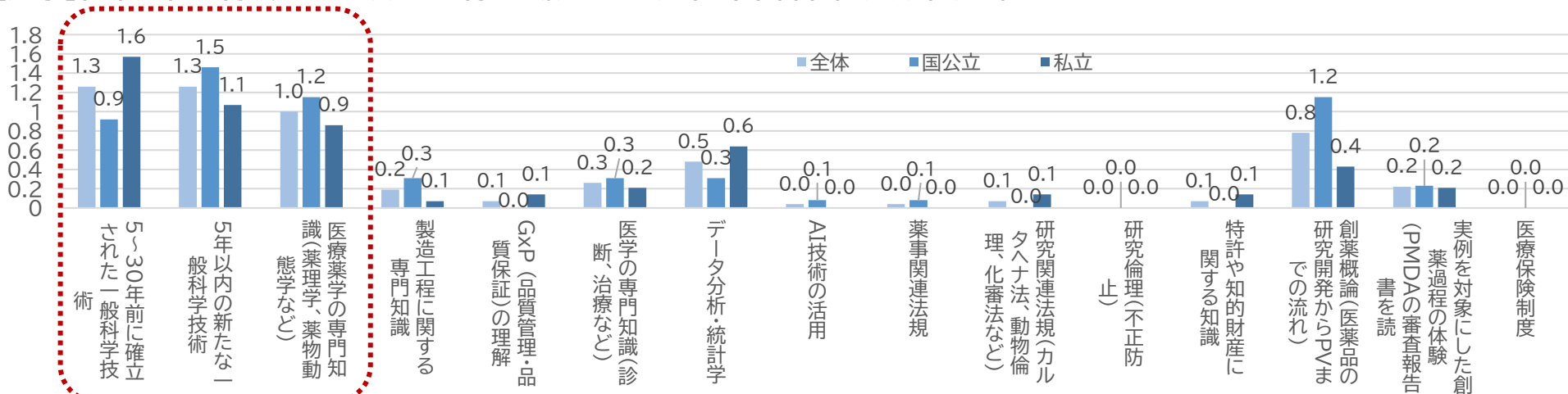
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

知識

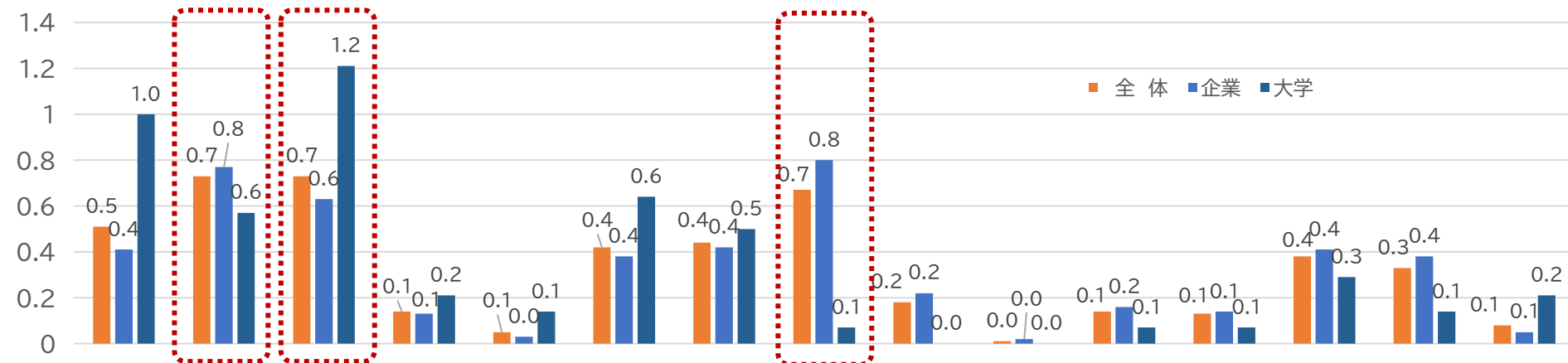
- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「5～30年前に確立された一般科学技術」、「5年以内の新たな一般科学技術」、
- ✓ 「医療薬学の専門知識」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目では、「医療薬学の専門知識」、「5年以内の新たな一般科学技術」、「AI技術の活用」が高くなっています。
- ✓ 「AI技術の活用」は企業と大学で差が大きいです。

Point

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程):知識(Q41)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目:知識(Q18)



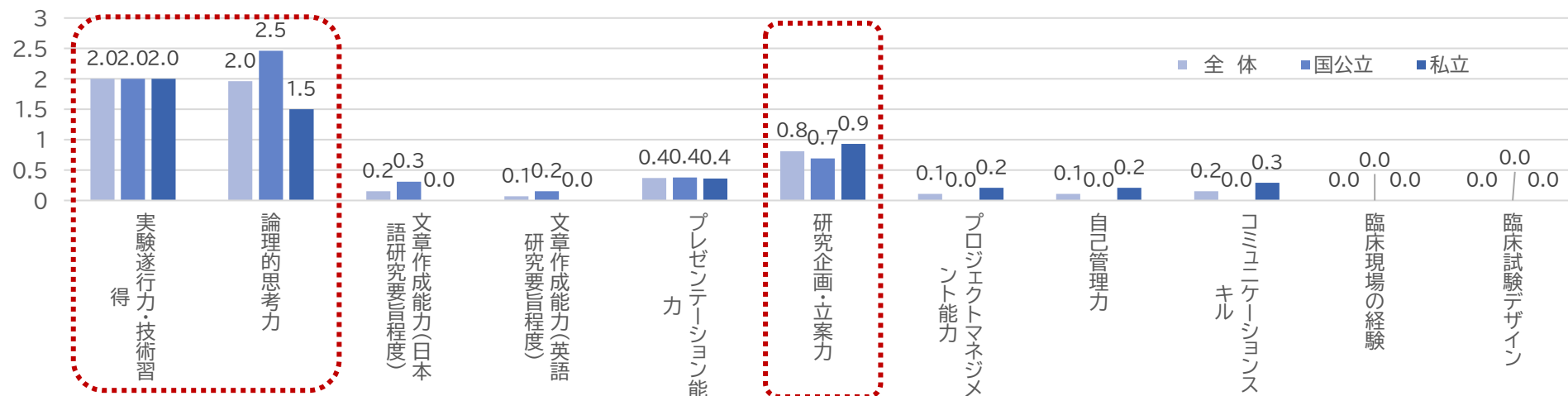
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

技能・技術

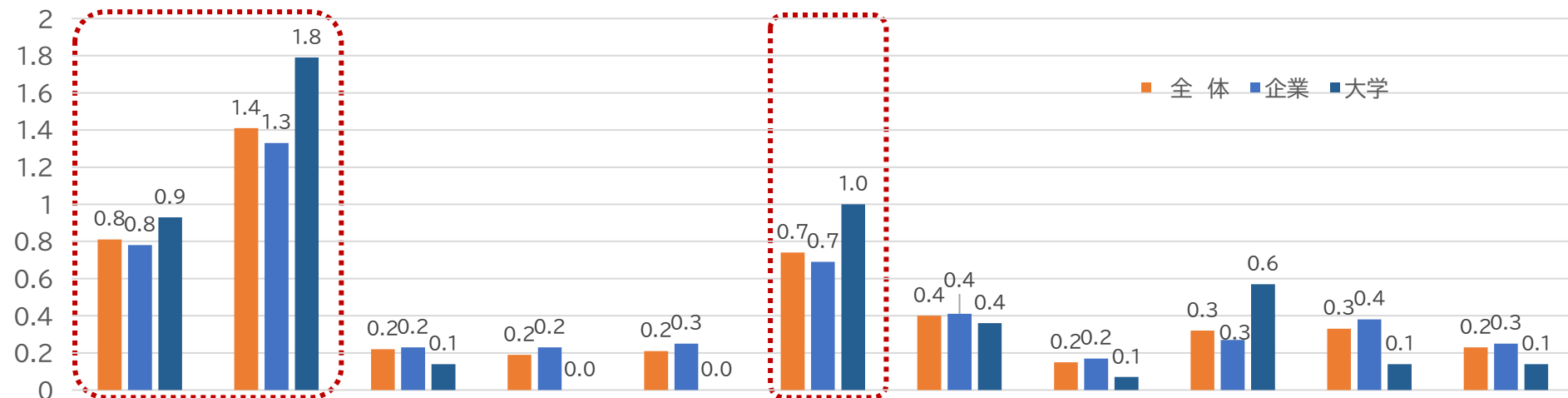
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「実験遂行力・技術習得」、「論理的思考力」、「研究企画・立案力」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目でも同様の結果となっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程)：技能・技術(Q41)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目：技能・技術(Q18)



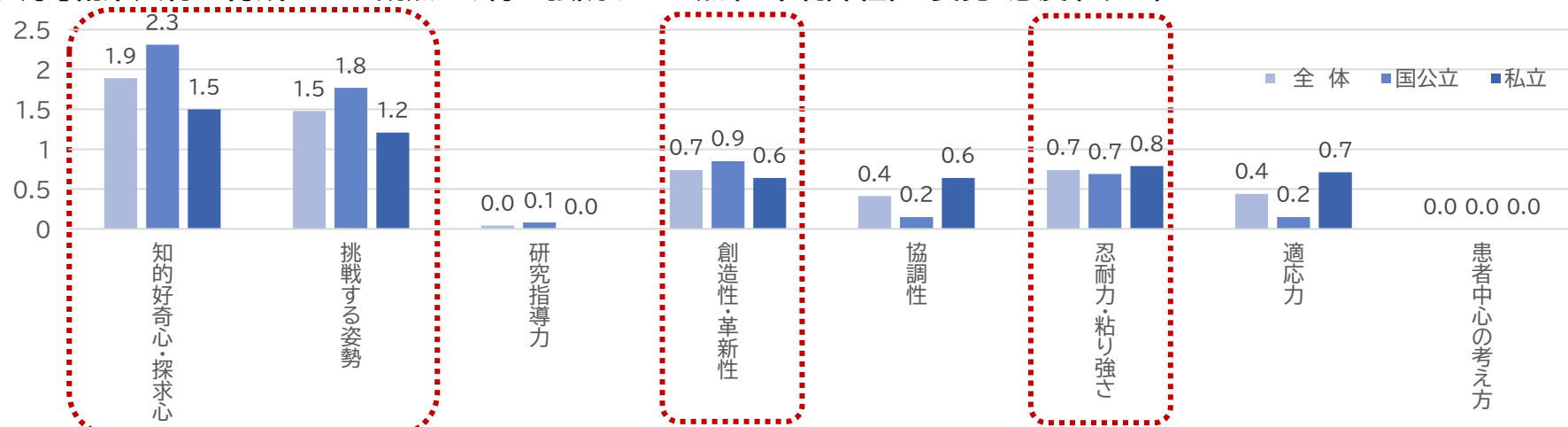
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

姿勢・態度

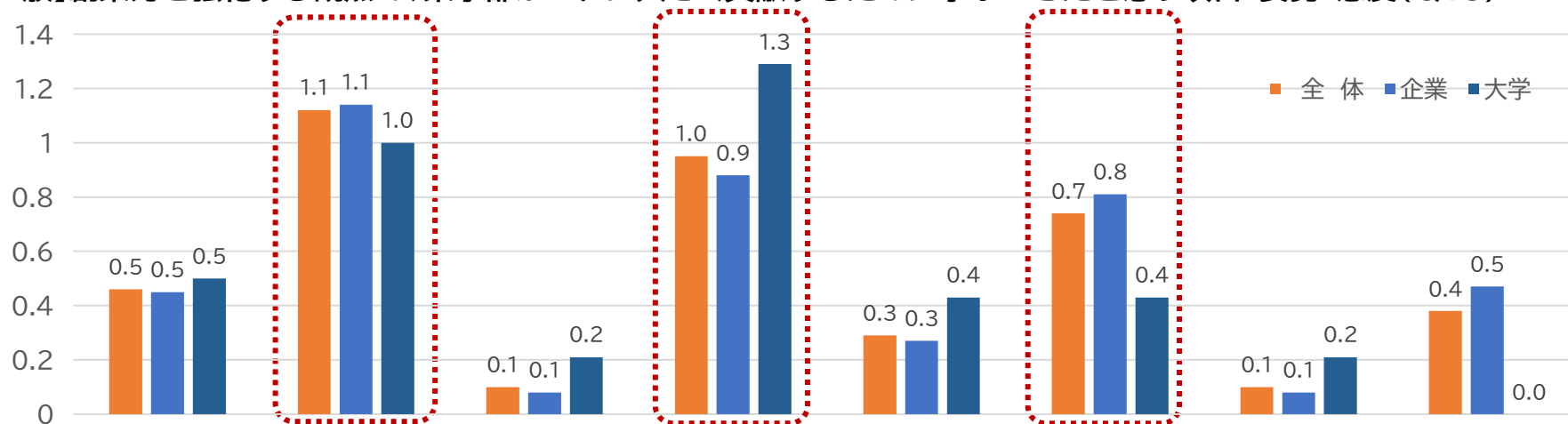
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「知的好奇心・探求心」、「挑戦する姿勢」、「創造性・革新性」、「忍耐力・粘り強さ」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目では、「挑戦する姿勢」、「創造性・革新性」、「忍耐力・粘り強さ」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程)：姿勢・態度(Q41)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目：姿勢・態度(Q18)



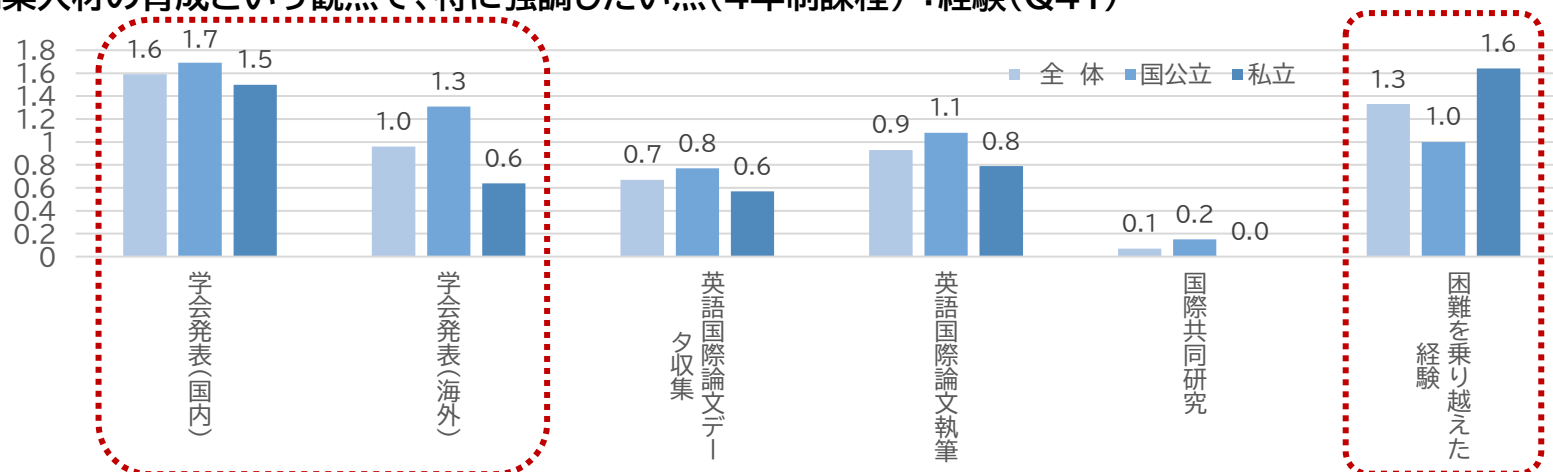
1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

経験

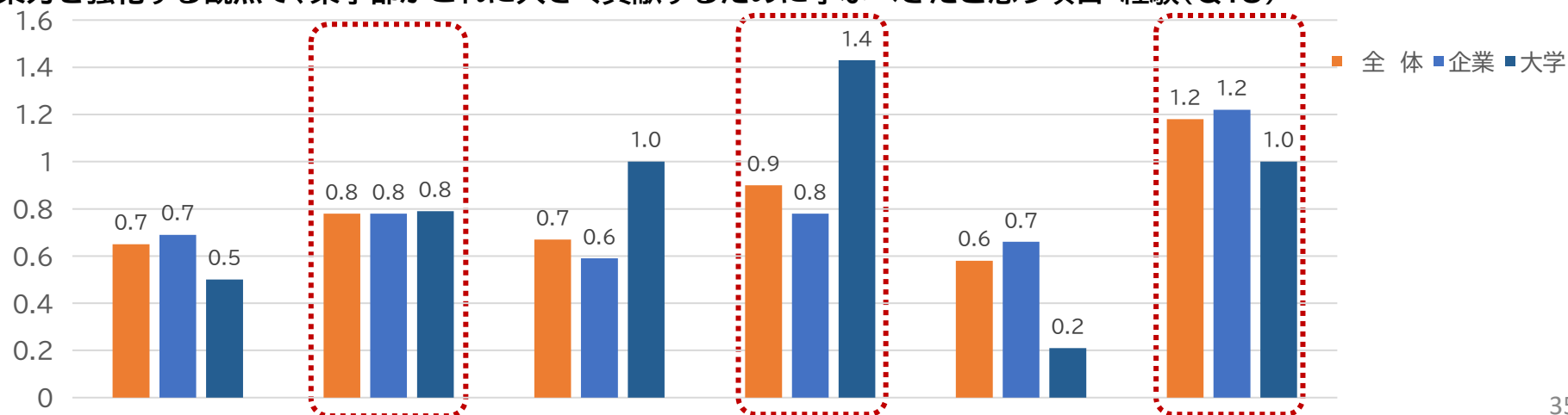
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「学会発表(国内)」、「困難を乗り越えた経験」、「学会発表(海外)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶべきだと思う項目では、「困難を乗り越えた経験」、「英語国際論文執筆」、「学会発表(海外)」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程)：経験(Q41)



【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目：経験(Q18)



1 大学の強調点と、学ぶべきだと思う項目

まとめ

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19)と:(4年制課程:Q41)の比較

Point

- ✓ 知識の「5年以内の新たな一般科学技術」や、経験の「学会発表(海外)」で差がみられます。
- ✓ その他については、大きな傾向の変化はあまり見られません。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(Q19、Q41)と、
【一般】創薬力を強化する観点で、薬学部がこれに大きく貢献するために学ぶべきだと思う項目(Q18)の比較

Point

- ✓ 知識では、強調点として「創薬概論」が高いのに対し、学ぶべき項目として「AI技術の活用」が高くなっています。
- ✓ 「AI技術の活用」については、企業と大学の別でも差がみられます。
- ✓ 技術・技能では大きな差は見られません。
- ✓ 姿勢・態度では、強調点として「知的好奇心・探求心」が高いのに対し、学ぶべき項目として「忍耐力・粘り強さ」が高くなっています。
- ✓ 経験では、強調点として「学会発表(国内)」が高いのに対し、学ぶべき項目として「英語国際論文執筆」が高くなっています。

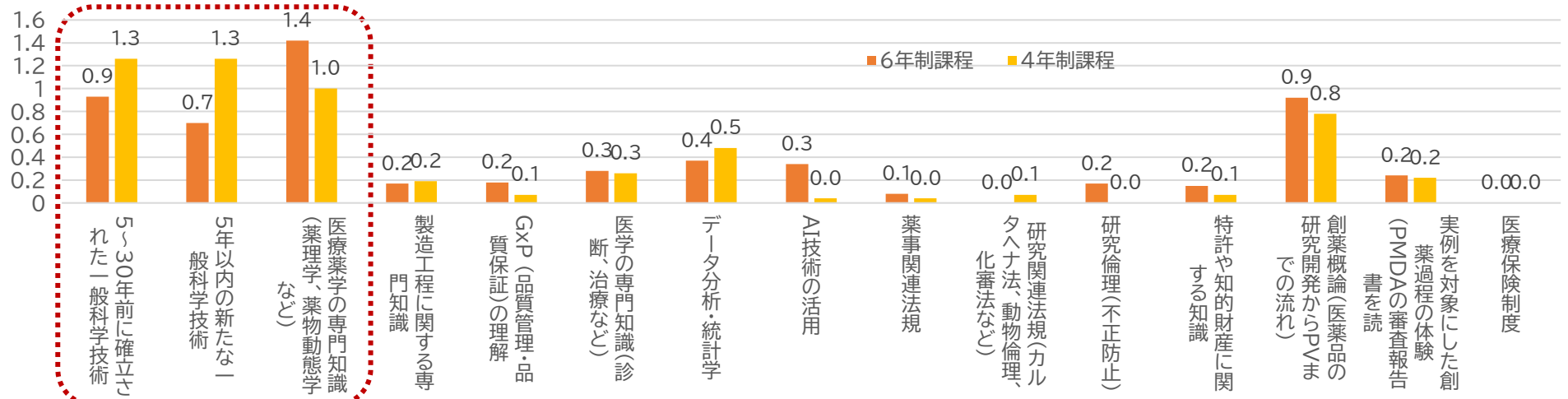
2 大学の強調点と、企業が学んでおいて欲しい項目

知識

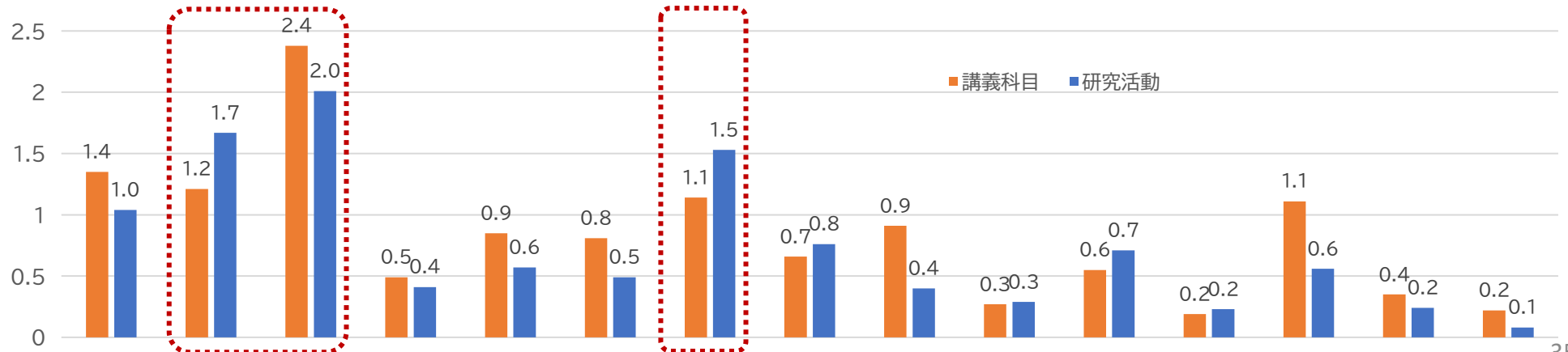
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「医療薬学の専門知識」、「5～30年前に確立された一般科学技術」、「5年以内の新たな一般科学技術」が高くなっています。
- ✓ 学んでほしい学修事項は、「医療薬学の専門知識」、「5年以内の新たな一般科学技術」、「データ分析・統計学」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19、4年制課程:Q41) :知識



【一般】職場部署の新卒採用者に、大学の講義科目や研究活動を通して学んでほしい学修事項:知識(Q14、15)



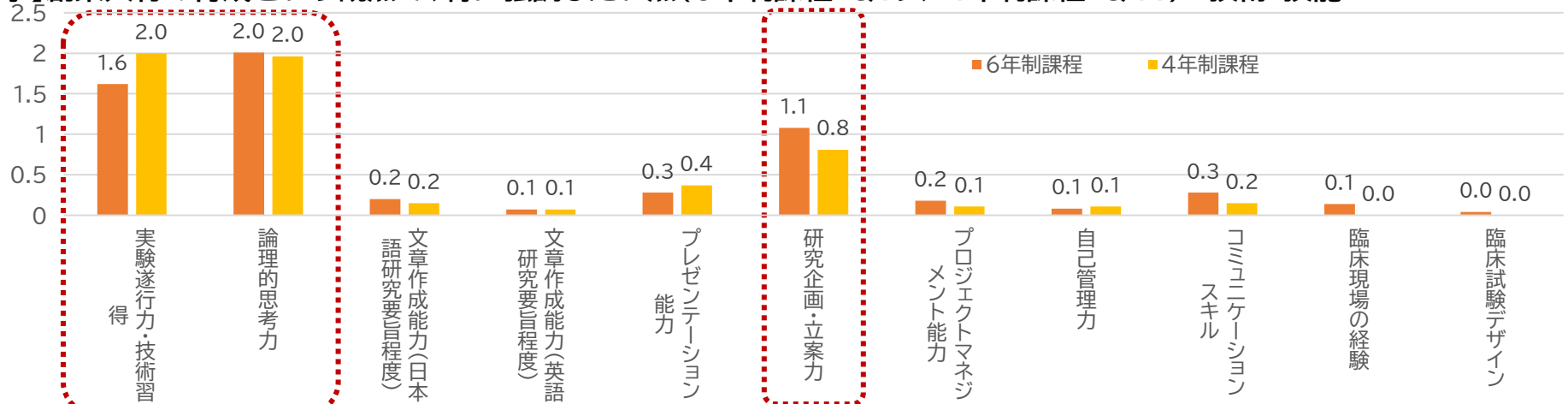
2 大学の強調点と、企業が学んでおいて欲しい項目

技能・技術

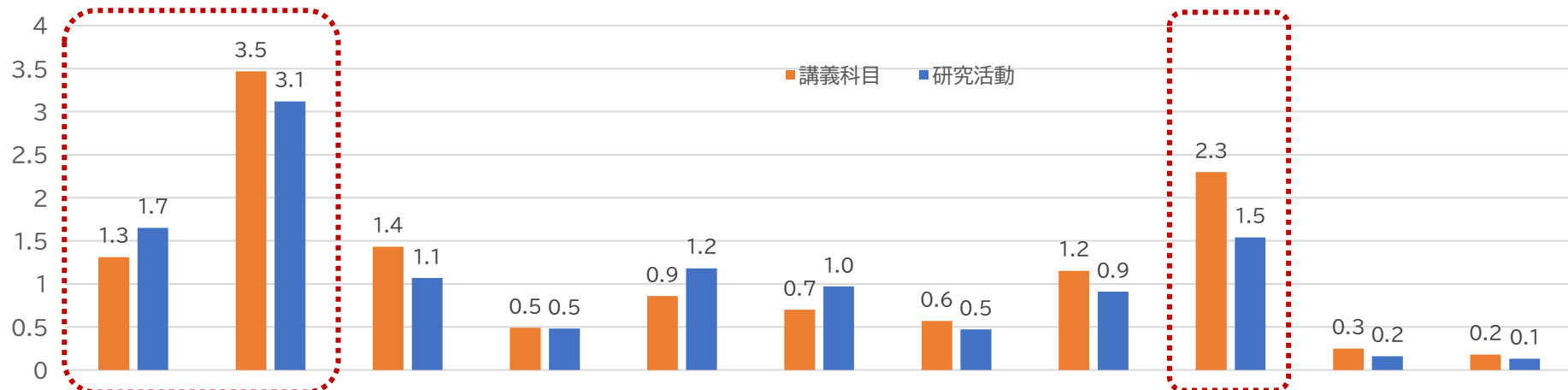
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「論理的思考力」、「実験遂行力・技術習得」、「研究企画・立案力」が高くなっています。
- ✓ 学んでおいてほしい学修事項は、「論理的思考力」、「コミュニケーションスキル」、「実験遂行力・技術習得」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19、4年制課程:Q41):技術・技能



【一般】職場部署の新卒採用者に、大学の講義科目や研究活動を通して学んでおいてほしい学修事項:知識(Q14、15)



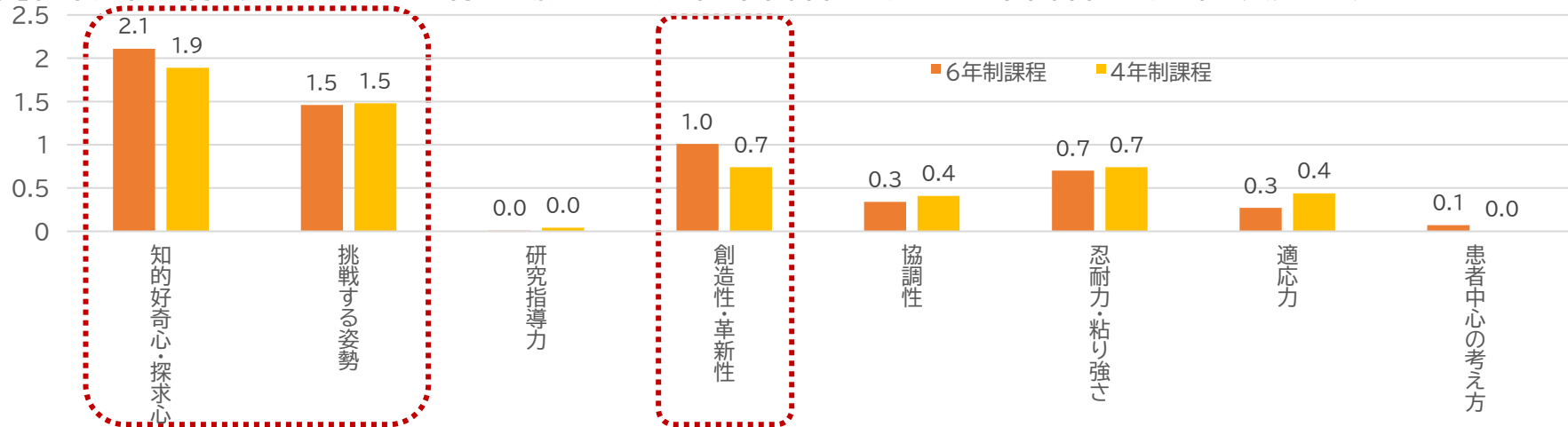
2 大学の強調点と、企業が学んでおいて欲しい項目

姿勢・態度

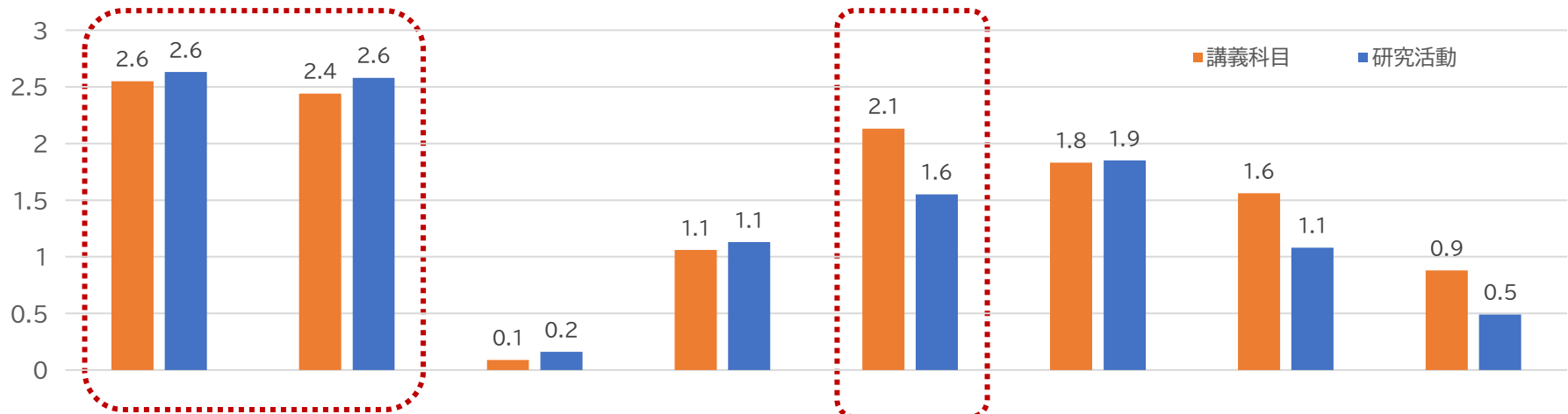
Point

- ✓ 創薬人材の育成での強調点は、「知的好奇心・探求心」、「挑戦する姿勢」、「創造性・革新性」が高くなっています。
- ✓ 学んでおいてほしい学修事項は、「知的好奇心・探求心」、「挑戦する姿勢」、「協調性」が高くなっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19、4年制課程:Q41) : 姿勢・態度



【一般】職場部署の新卒採用者に、大学の講義科目や研究活動を通して学んでおいてほしい学修事項: 知識(Q14、15)



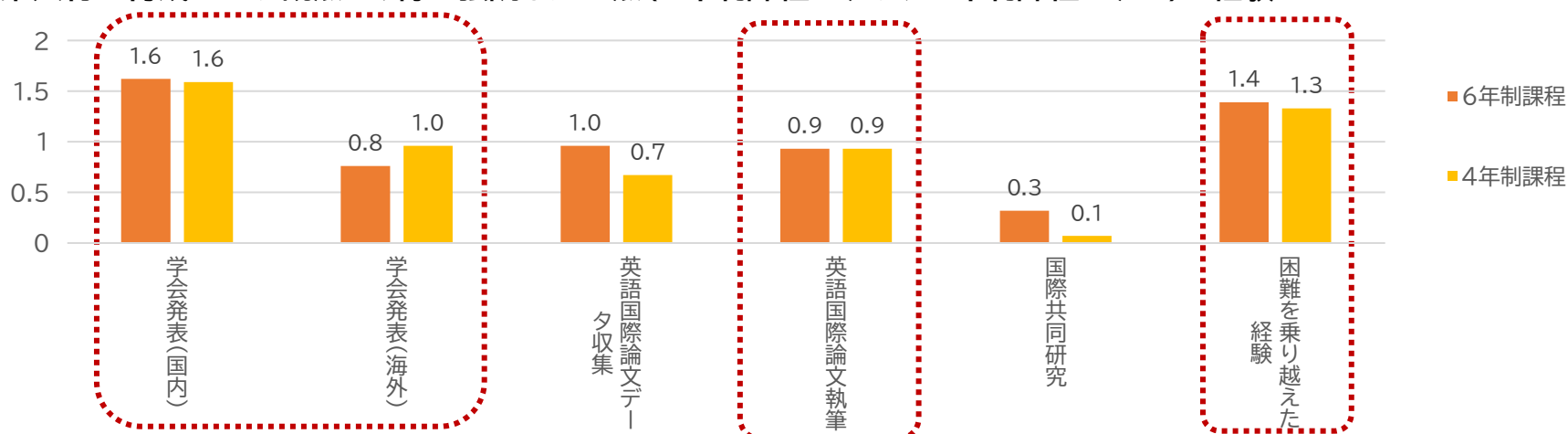
2 大学の強調点と、企業が学んでおいて欲しい項目

経験

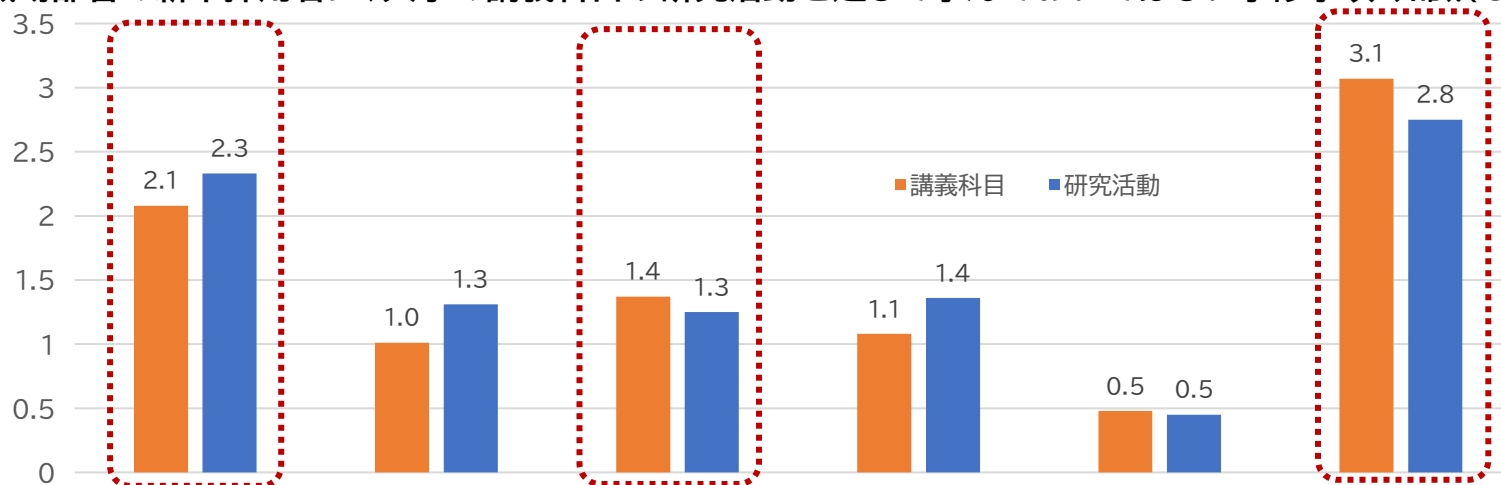
Point

- ✓ 創業人材の育成での強調点は、「学会発表(国内)」、「困難を乗り越えた経験」、「学会発表(海外)」、「英語国際論文データ収集」が高くなっています。
- ✓ 学んでおいてほしい学修事項は、「困難を乗り越えた経験」、「学会発表(国内)」、「英語国際論文データ収集」が高くなっています。

【大学】創業人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19、4年制課程:Q41) : 経験



【一般】職場部署の新卒採用者に、大学の講義科目や研究活動を通して学んでおいてほしい学修事項:知識(Q14、15)



2 大学の強調点と、企業が学んでおいて欲しい項目

まとめ

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19、4年制課程:Q41)と、
【一般】職場部署の新卒採用者に、大学の講義科目や研究活動を通して学んでおいてほしい学修事項(Q14、15)の比較

Point

- ✓ 知識では、「医療薬学の専門知識」や「5～30年前に確立された一般科学技術」、「5年以内の新たな一般科学技術」が共通して高く、加えて学んでおいてほしい学修事項として、「データ分析・統計学」が高くなっています。
- ✓ 技術・技能では、強調点として「研究企画・立案力」が高いのに対し、学んでおいてほしい学修事項として「コミュニケーションスキル」が高くなっています。
- ✓ 姿勢・態度では、強調点として「創造性・革新性」が高いのに対し、学んでおいてほしい学修事項として「協調性」が高くなっています。
- ✓ 経験では、強調点として「学会発表(海外)」や「英語国際論文執筆」が高いのに対し、学んでおいてほしい学修事項として「英語国際論文データ収集」が高いが、項目間での差はあまり見られません。

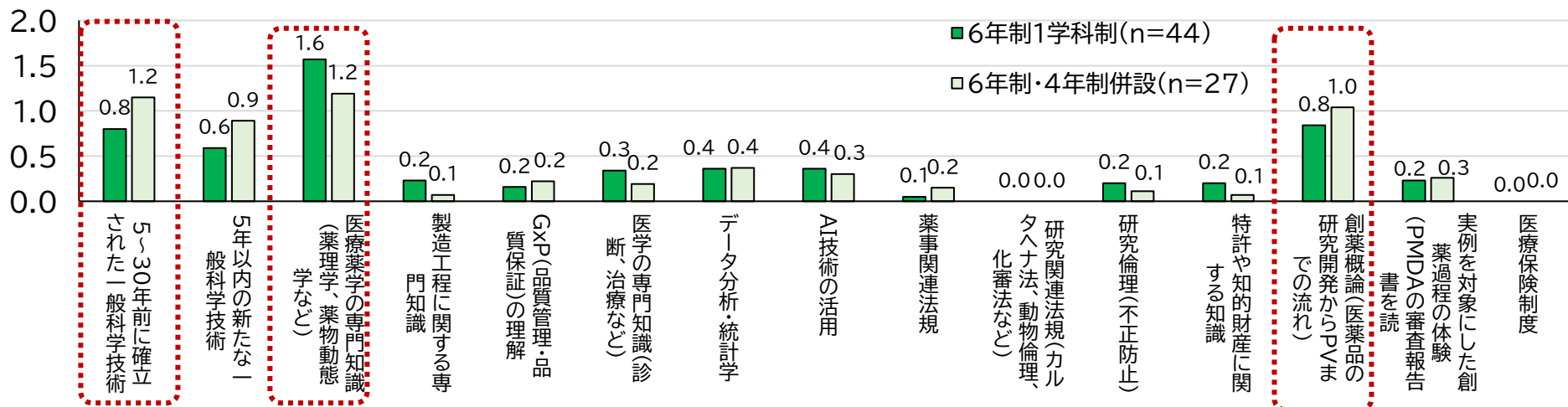
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

知識

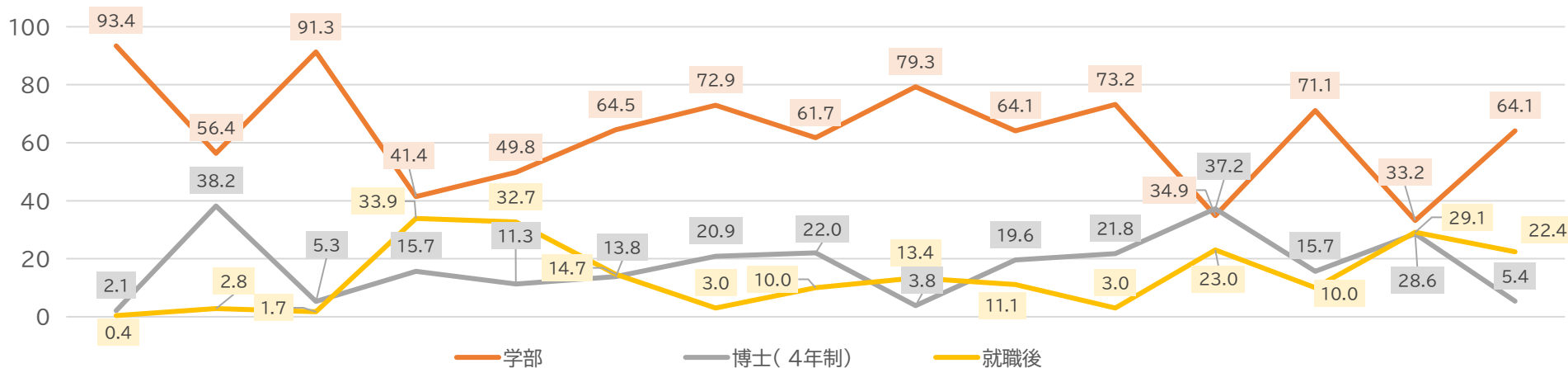
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「博士(4年制)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「製造工程に関する専門知識」、「GxP（品質管理・品質保証）の理解」、「実例を対象にした創薬過程の体験」となっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程):知識(Q19)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期:知識(Q16)



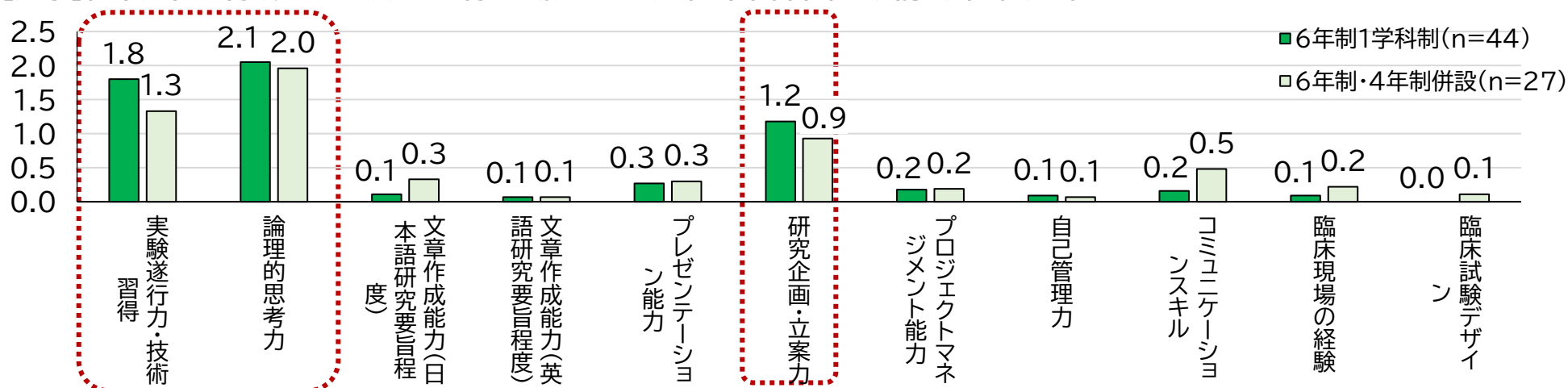
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

技能・技術

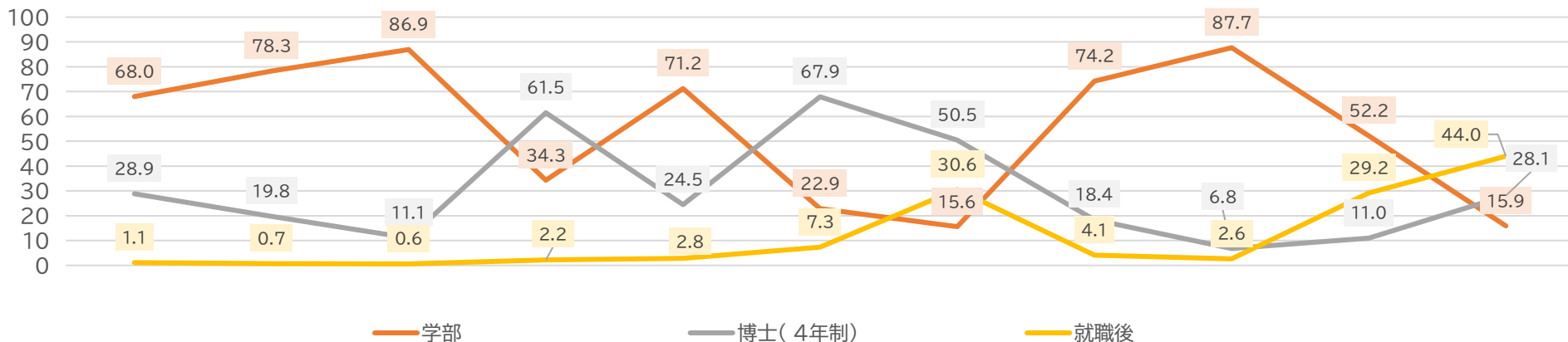
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「博士(4年制)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「臨床試験デザイン」、「プロジェクトマネジメント能力」、「臨床現場の経験」となっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程)：技能・技術(Q19)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期：技術・技能(Q16)



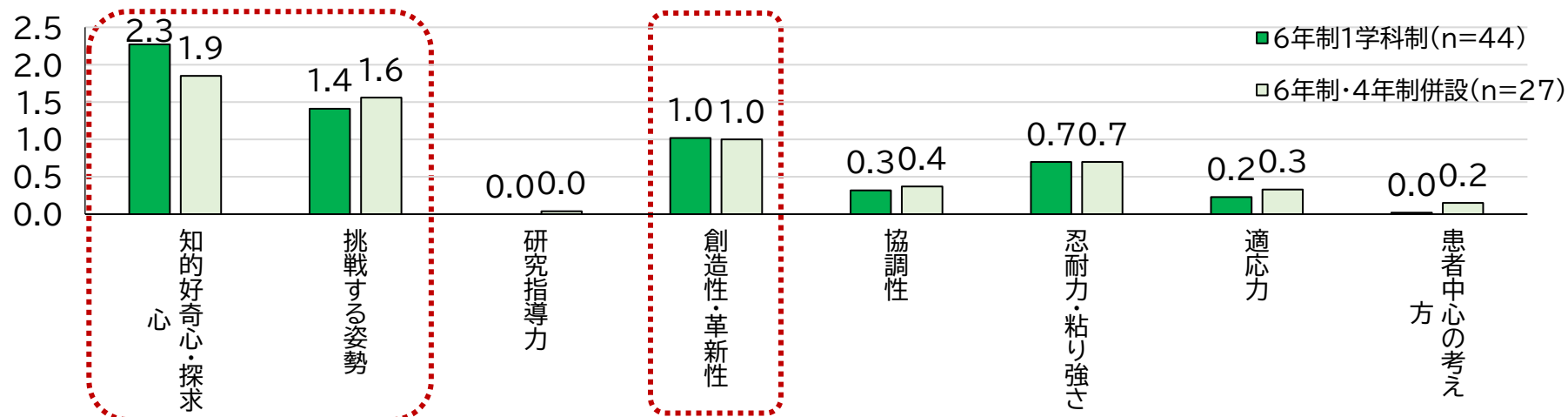
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

姿勢・態度

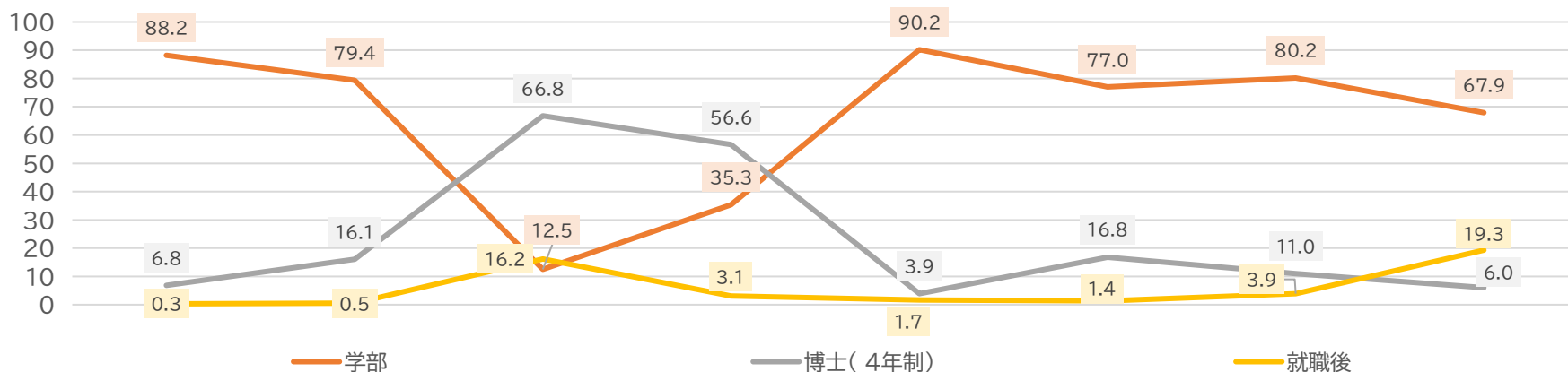
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「博士(4年制)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「患者中心の考え方」、「研究指導力」となっています。

【大学】創業人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程)：姿勢・態度(Q19)



【一般】創業力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期：姿勢・態度(Q16)



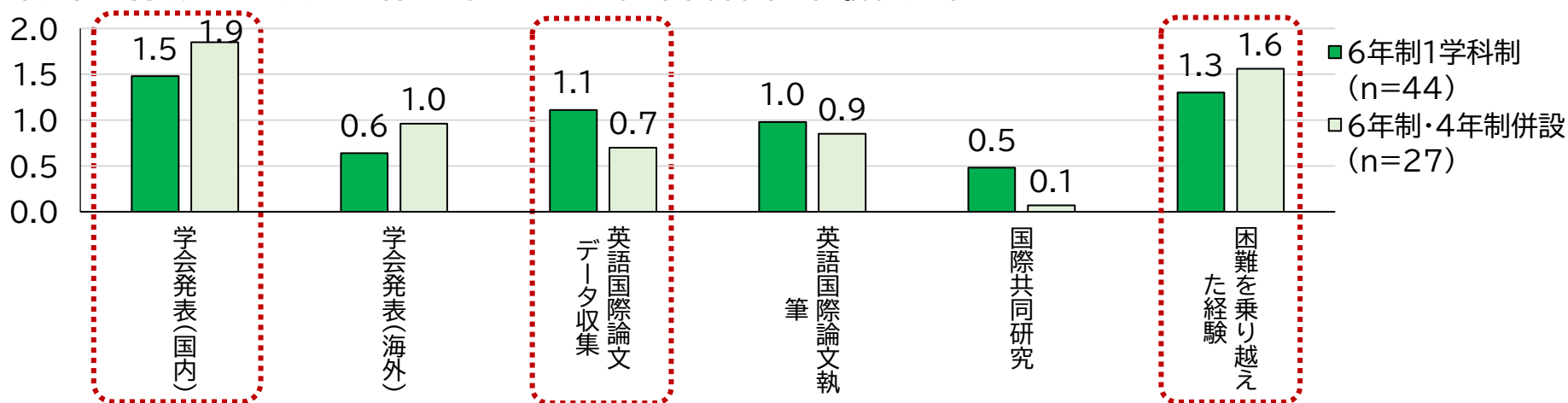
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

経験

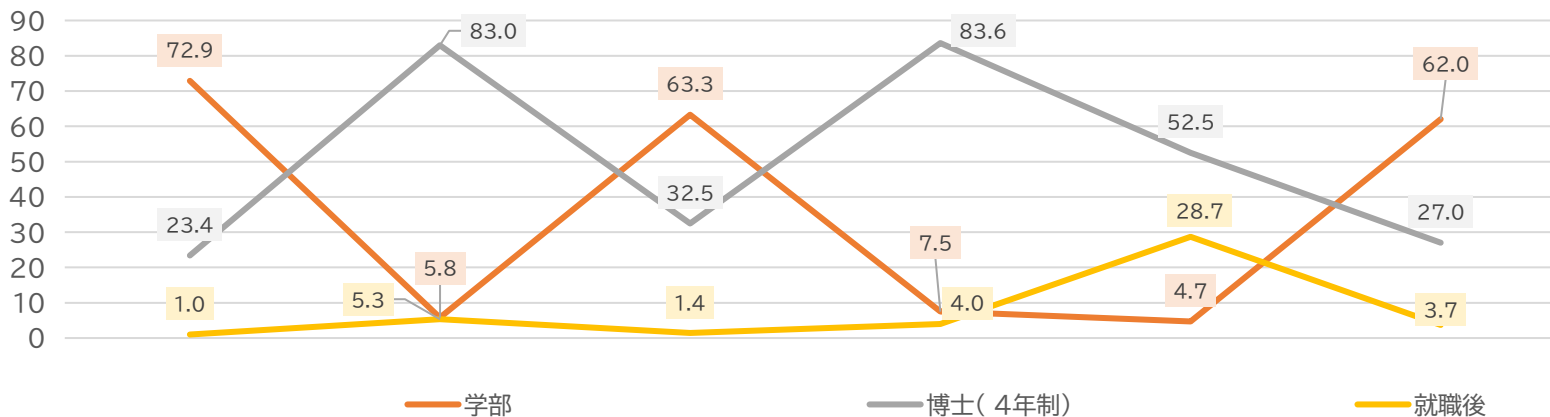
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「博士(4年制)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「国際共同研究」となっています。

【大学】創業人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程)：経験(Q19)



【一般】創業力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期：経験(Q16)



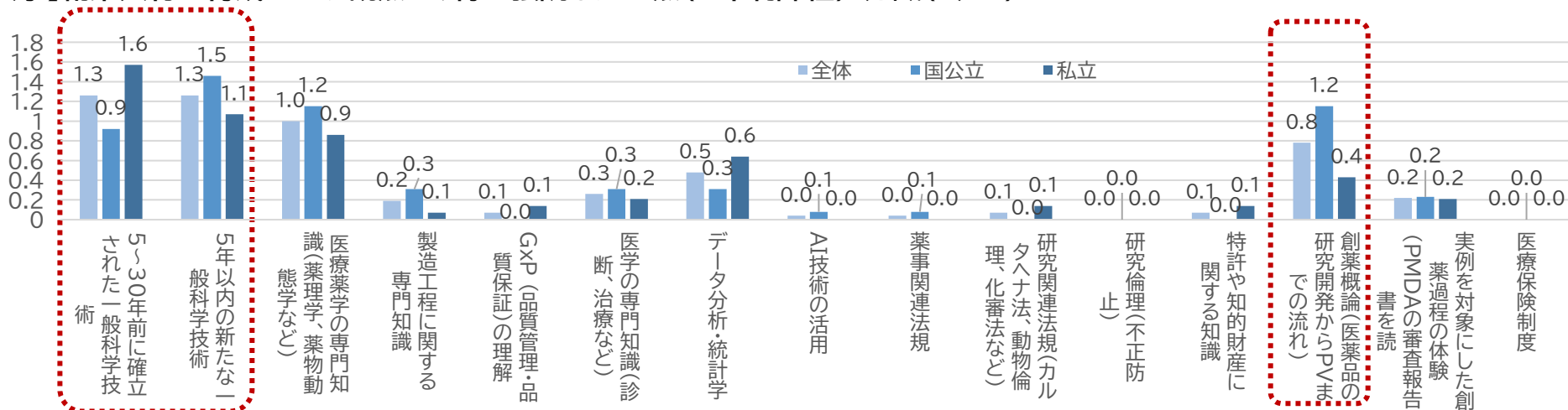
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

知識

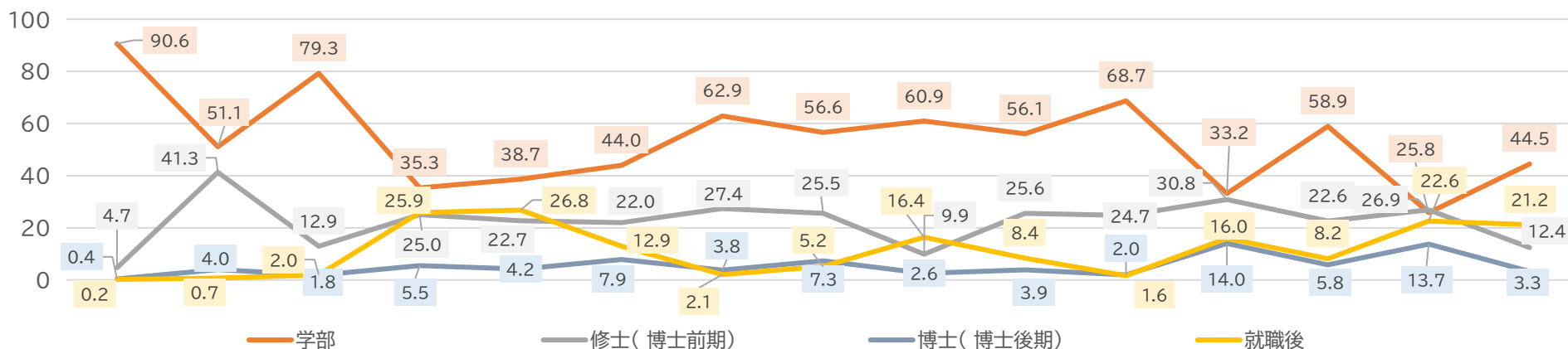
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「修士(博士前期)」、「博士(博士後期)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「GxP（品質管理・品質保証）の理解」、「製造工程に関する専門知識」、「実例を対象にした創薬過程の体験」となっています。

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程):知識(Q41)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期:知識(Q17)



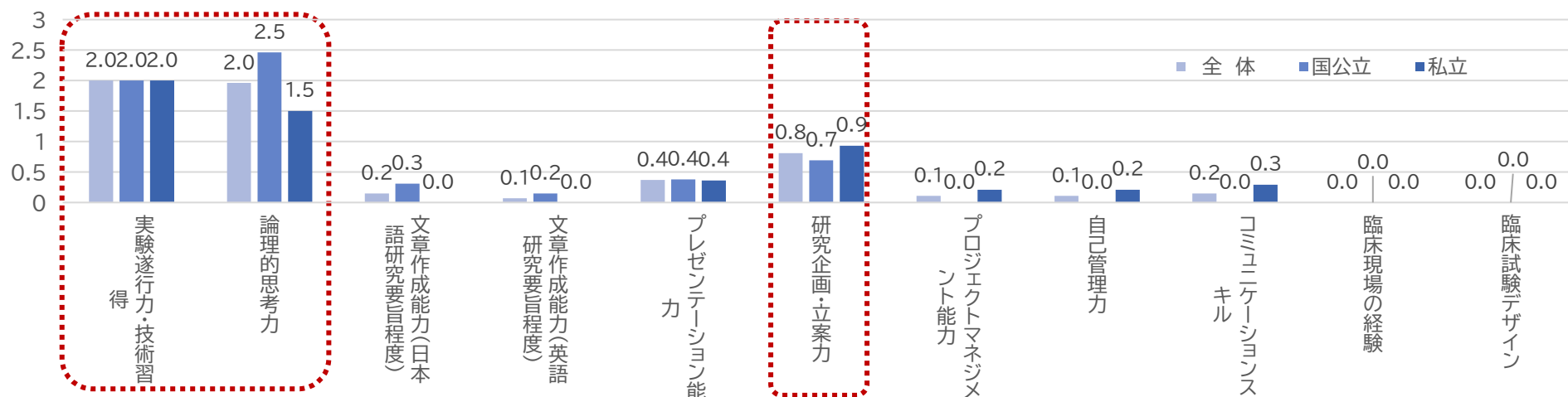
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

技能・技術

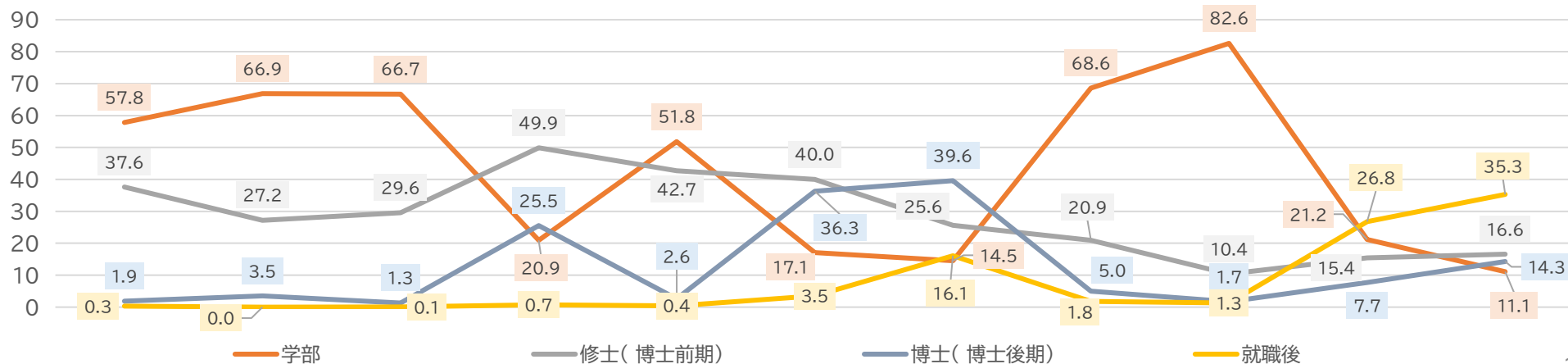
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「修士(博士前期)」、「博士(博士後期)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「臨床試験デザイン」、「臨床現場の経験」、「プロジェクトマネジメント能力」となっています。

【大学】創業人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程)：技能・技術(Q41)



【一般】創業力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期：技術・技能(Q17)



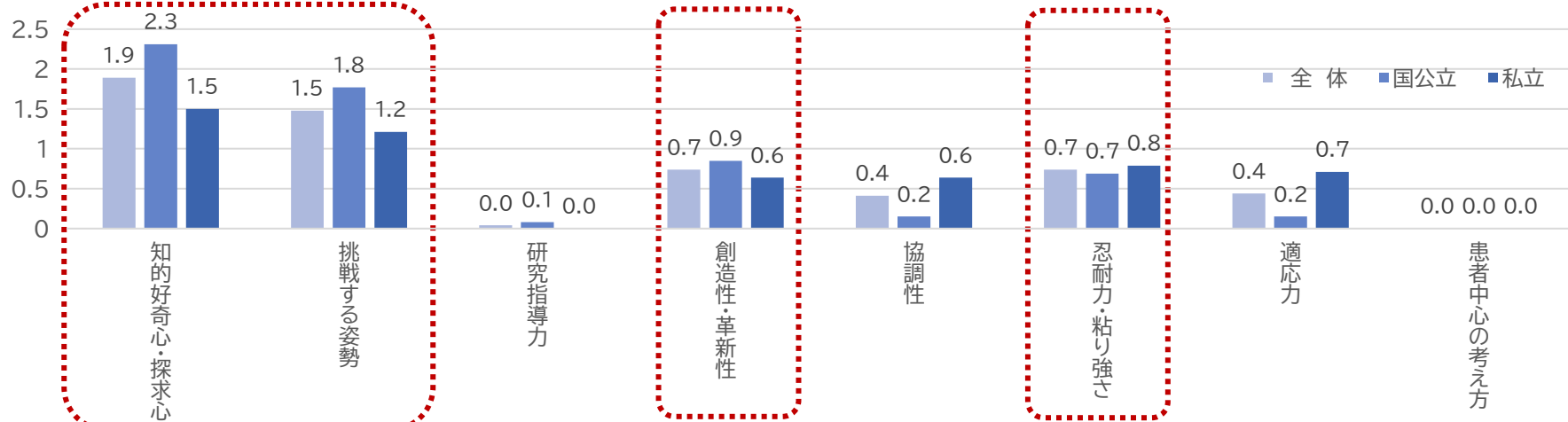
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

姿勢・態度

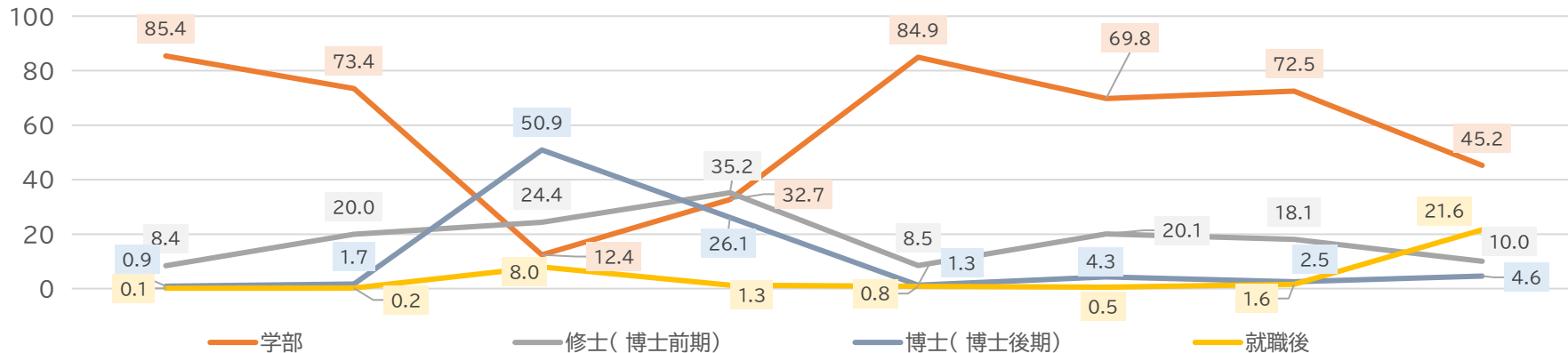
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「修士(博士前期)」、「博士(博士後期)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「患者中心の考え方」、「研究指導力」となっています。

【大学】創業人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程)：姿勢・態度(Q41)



【一般】創業力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期：姿勢・態度(Q17)



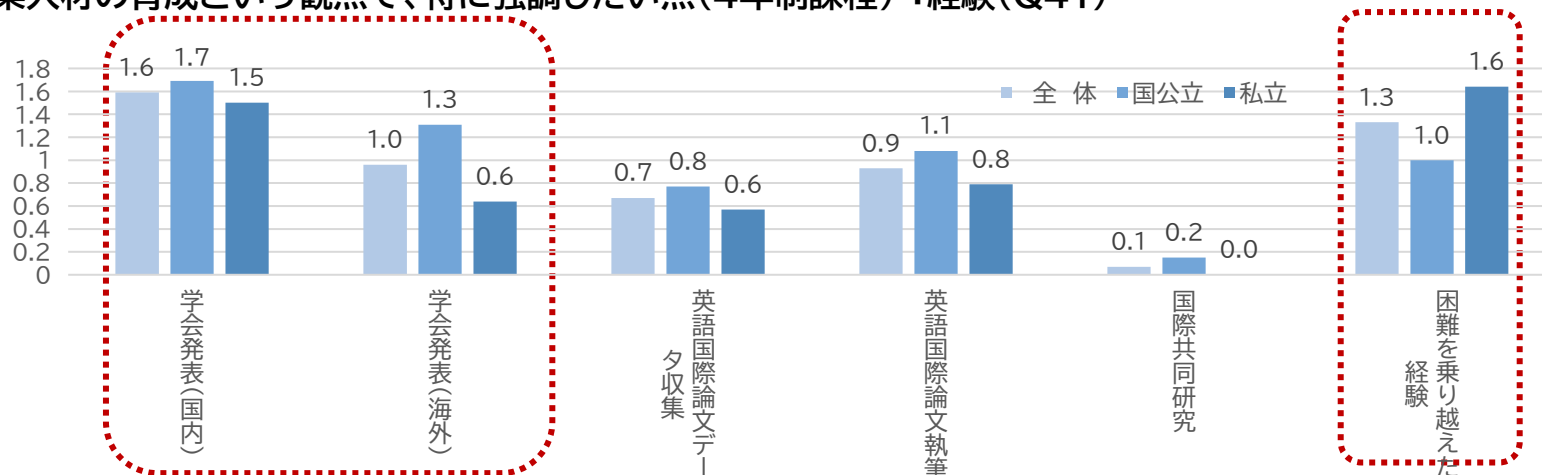
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

経験

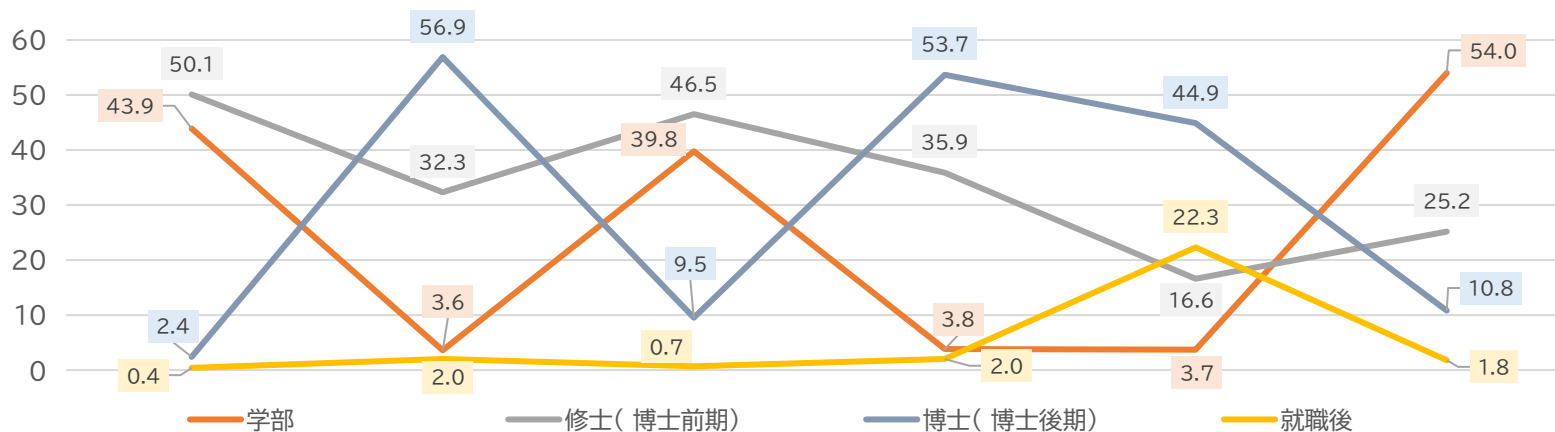
Point

- ✓ 強調したい点で点数が高い項目は、学ぶのによい時期で「学部」、「修士(博士前期)」、「博士(博士後期)」が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期で「就職後」が高いのは、「国際共同研究」となっています。

【大学】創業人材の育成という観点で、特に強調したい点(4年制課程)：経験(Q41)



【一般】創業力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期：経験(Q17)



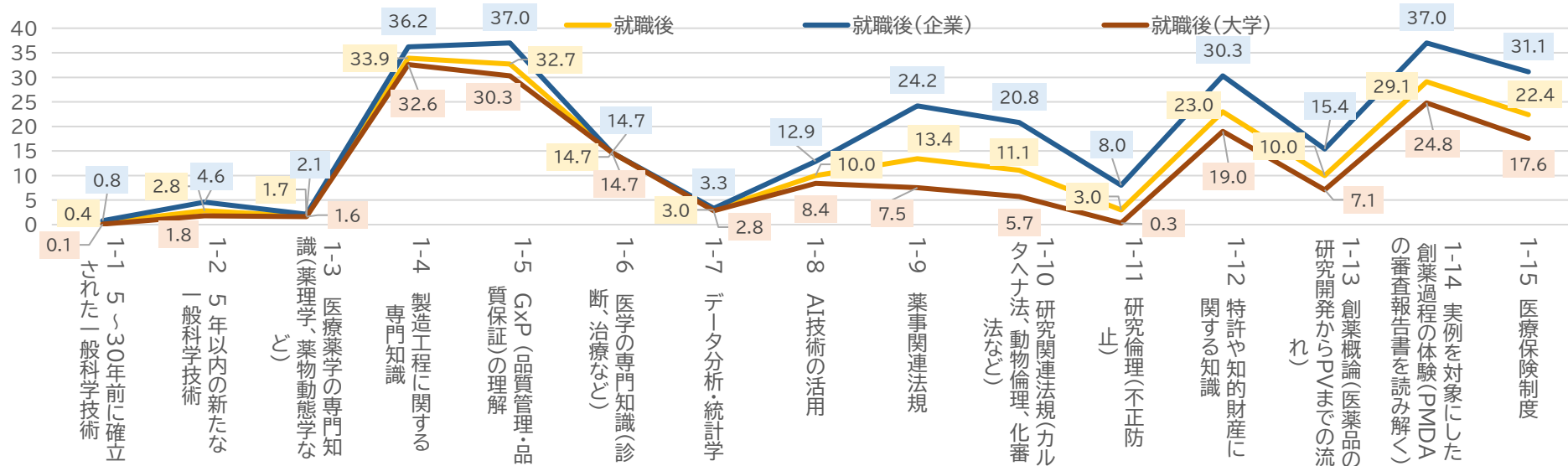
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

知識

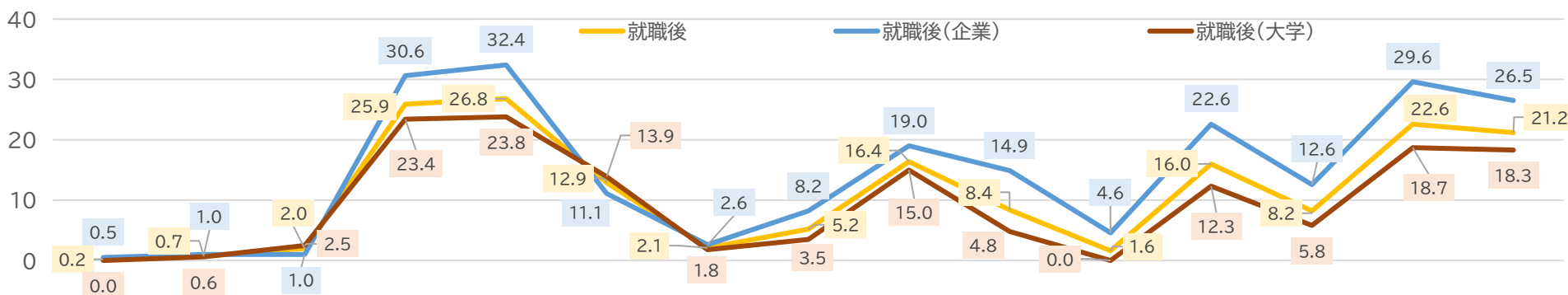
Point

✓ 「薬事関連法規」の学ぶのによい時期は、4年制課程の場合、大学は「就職後」の回答が多くなっています。

【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)：知識(Q16)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)：知識(Q17)



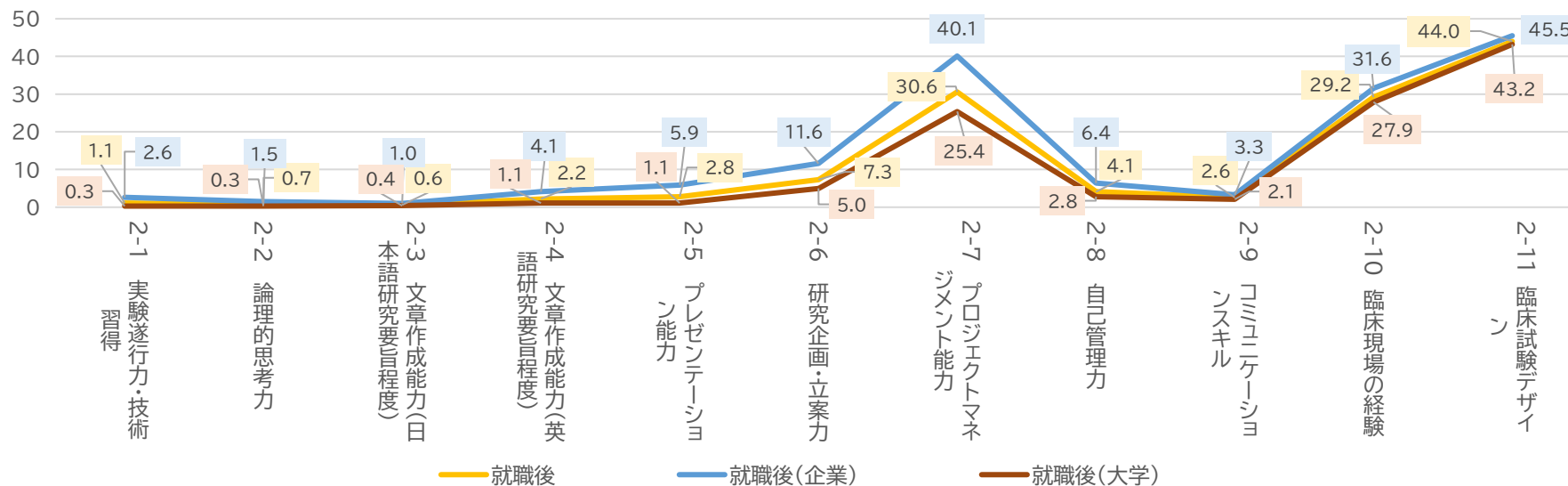
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

技能・技術

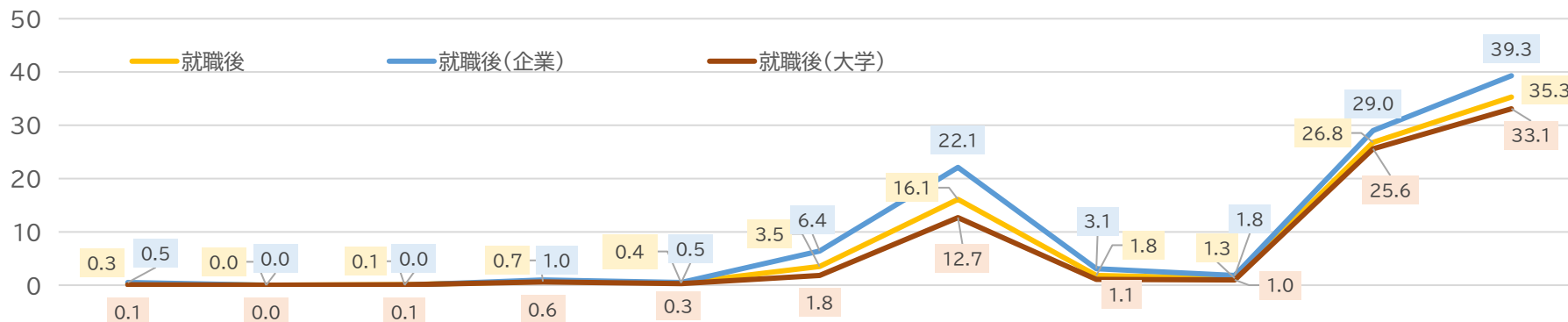
Point

✓ 「プロジェクトマネジメント」については、6年制課程でも4年制課程でも「就職後」の回答が多い傾向にあります。

【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)：技能・技術(Q16)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)：技能・技術(Q17)



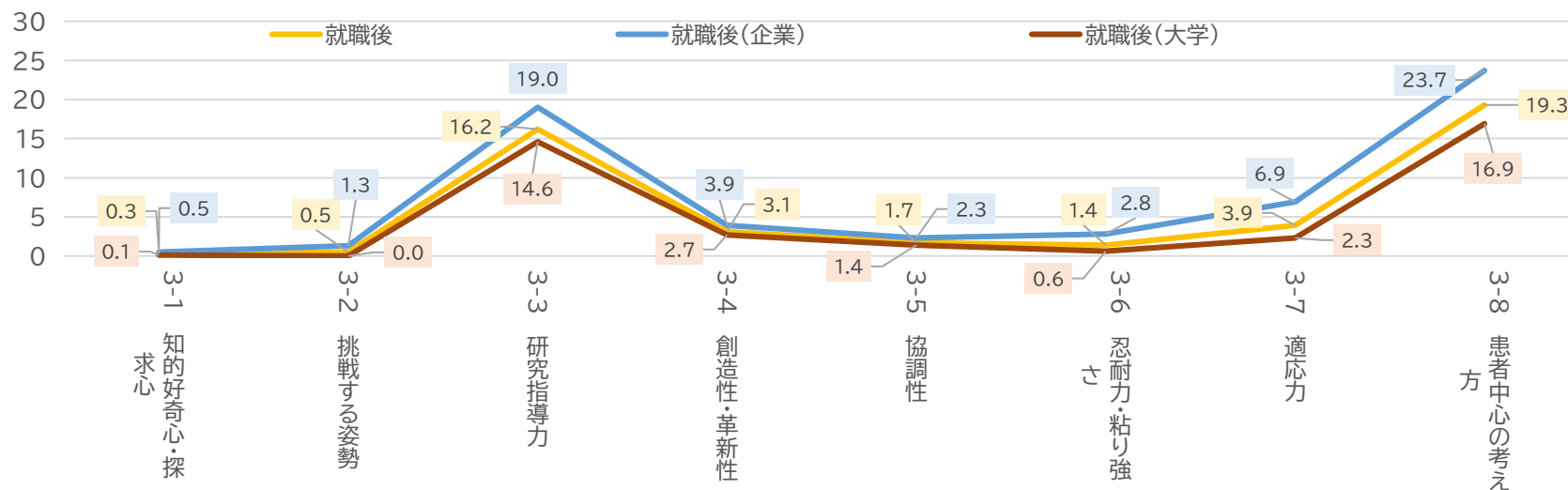
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

姿勢・態度

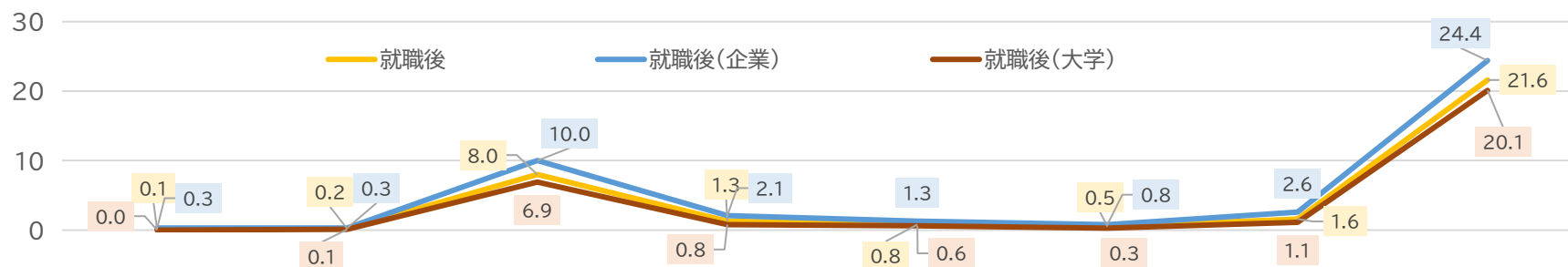
Point

✓ 「研究指導力」と「患者中心の考え」については、6年制課程でも4年制課程でも「就職後」の回答が多い傾向にあります。

【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期(6年制課程)：姿勢・態度(Q16)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期(4年制課程)：姿勢・態度(Q17)



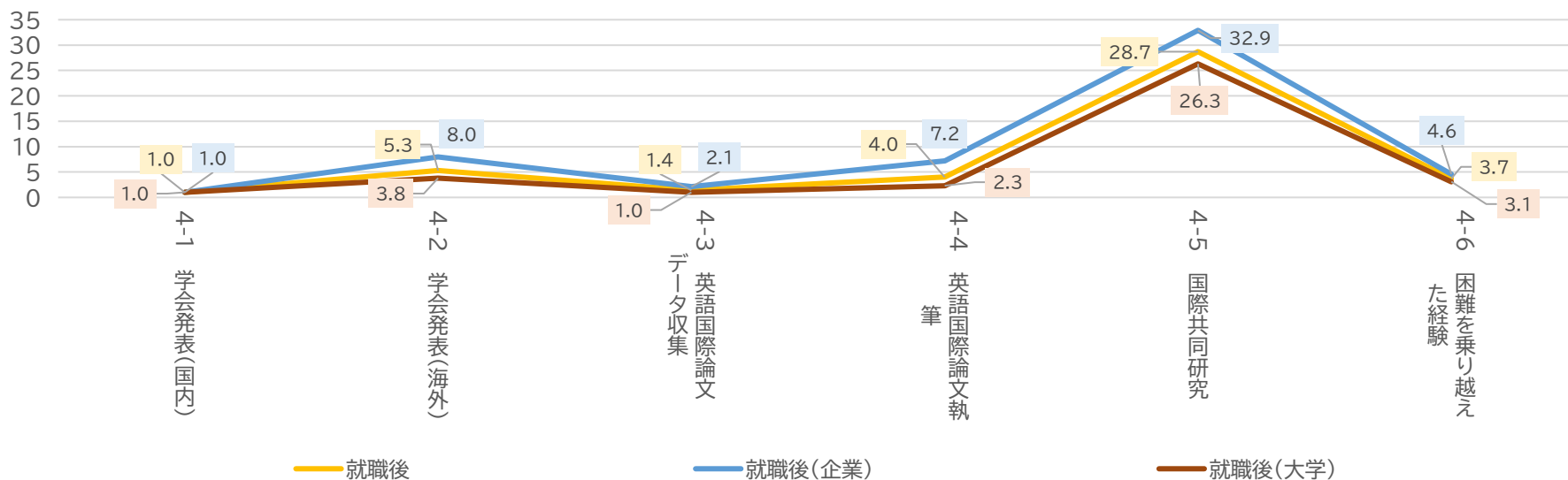
3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

経験

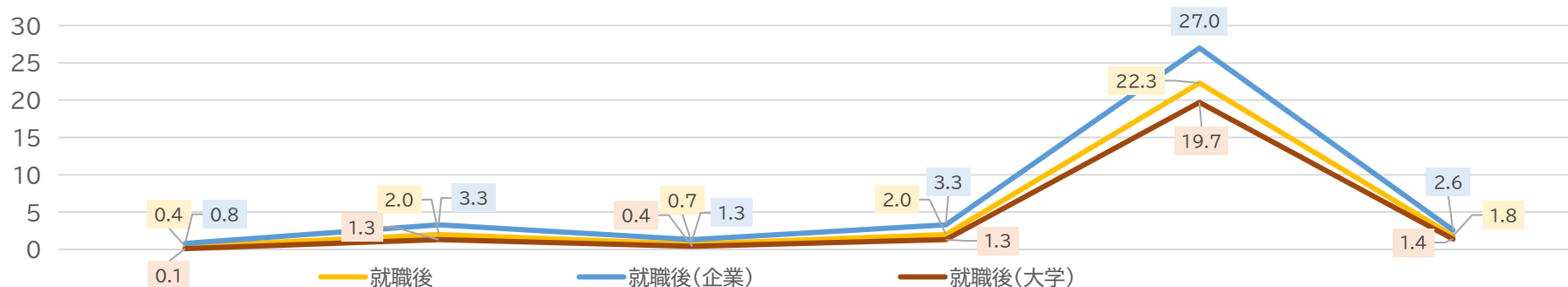
Point

✓ 「国際共同研究」については、6年制課程でも4年制課程でも「就職後」の回答が多い傾向にあります。

【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期(6年制課程)：経験(Q16)



【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのに最もよい時期(4年制課程)：経験(Q17)



3 大学の強調点と、学ぶのによい時期

まとめ

【大学】創薬人材の育成という観点で、特に強調したい点(6年制課程:Q19、4年制課程:Q41)と、
【一般】創薬力を強化する観点で、各学修項目を学ぶのによい時期(6年制課程:Q16、4年制課程:Q17)の比較

Point

- ✓ 大学が強調したいとしている点については、学ぶのによい時期としても概ね大学在学中との回答割合が高くなっています。
- ✓ 学ぶのによい時期について教育課程別でも、大学在学中か就職後かという観点では大きな差はみられません。
- ✓ 学ぶのによい時期について企業と大学の別でみると、ほぼすべての項目において、企業の方が就職後の回答の割合が高くなっています。

4 自由記述

Q19 日本の創薬力強化のために、他学部出身者と比べ、薬学(4年制)出身者が、創薬研究において有利であると感じる点

Q19 主な意見	件数
専門的に学べる、専門知識がつく	438
多様な分野について、幅広く学ぶことができる	216
基本的な知識を学べる	179
研究に時間を費やせる、研究力がつく	118
医療に関する知識、医療現場との接点	96
複合領域での対応力が身につく	71
創薬の流れ、全体像を理解できる	58
即戦力になる、早く社会(現場)に出られる	53
倫理観、規制対応について学べる	40
社会貢献意識、創薬へのモチベーションがつく	29
就職、キャリア形成で有利、進路に自由度がある	25
臨床に関する知識、意識が身につく	23
早くから専門的に学べる	22
人間関係、つながりができる	18
医薬品という観点、意識、知識を持てる	16
資格の価値	11
基礎能力(処理能力、問題解決力など)が身につく	9
研究志向が強い、研究者視点に立てる	7
学費が安い	1
多様な分野の研究室が同じ学部にある	1
研究技術の獲得時期と研究企画・成果の実現時期が修士と博士で上手くあてはまる	1
その他	11
なし、分からない	93

Point

- ✓ 創薬や創薬関連分野について体系的に学んでいる
- ✓ 創薬に関わる多様な基礎学問を学ぶことができる
- ✓ 研究に注力できる期間が長くなっている

Pick Up

「製薬会社 臨床開発」

- ✓ 薬の作用機序から臨床応用までを体系的に学んでおり、創薬研究において基礎科学と医療現場をつなぐ視点を持つ

Pick Up

「臨床試験支援企業 CRO」

- ✓ 薬学の基礎知識があり、かつ6年制卒よりも2年早く社会経験を積むことができるため、実際の企業での働き方を早く学ぶことができる

Pick Up

「国公立大学薬学部 教員」

- ✓ 研究技術の獲得時期と研究企画・成果の実現時期が修士と博士で上手くあてはまる

4 自由記述

Q20 日本の創薬力強化のために、他学部出身者と比べ、薬学(6年制)出身者(薬剤師免許保有者)が、創薬研究において、有利であると感じる点

Q20 主な意見	
臨床に関する知識、意識が身につく、臨床現場に立てる	445
専門的に学べる、専門知識がつく	413
薬剤師免許がとれる、資格の価値	185
医療に関する知識、医療現場との接点	166
多様な分野について、幅広く学ぶことができる	107
社会貢献意識、創薬へのモチベーションがつく	83
就職、キャリア形成で有利、進路に自由度がある	66
複合領域での対応力が身につく	44
倫理観、規制対応について学べる	40
即戦力になる、仕事に対する理解が早い	25
創薬の流れ、全体像を理解できる	21
薬剤師・医療従事者の視点がある	19
基礎能力(勤勉さなど)が身につく	11
研究経験	9
国際性	6
人間関係、つながりができる	5
医薬品という観点、意識、知識を持てる	5
就職後にさらに先の知識習得に割ける時間が多い	1
その他	6
なし、分からない	128

Point

- ✓ 臨床現場を実際に経験できる
- ✓ 専門知識の強み
- ✓ 薬剤師の資格を取れること

Pick Up

「製薬会社 CMC・生産研究」

- ✓ 患者さんを身近に感じ、より患者さんのために何ができるかを意識できる

Pick Up

「臨床試験支援企業 CRO」

- ✓ 実務経験や臨床薬理の理解により、患者視点を踏まえた開発が可能

Pick Up

「国公立大学薬学部 教員」

- ✓ 医薬品を、医学と化学の双方の観点から見るができる

4 自由記述

Q21 日本の創薬力強化のために、薬学教育へ期待すること

Q21 主な意見	
研究力・研究環境	138
基礎教育・基礎研究	137
学習者の質・意識	136
教育カリキュラム・制度	104
創薬教育・研究	102
複合領域・学際的対応力	91
多様性・人材育成	84
臨床教育・臨床力	64
先端技術・新領域	60
ビジネス・産業連携	55
国際性・グローバル教育	53
教育方法・体験型学習	50
キャリア形成・就職	49
制度・構造的課題	49
医療・患者視点	47
実務実習・経験不足	44
倫理・規制対応	43
創造性・発想力	35
コミュニケーション・社会的スキル	24
資格・薬剤師免許	21
教員・教育者の課題	21
資金・予算	21
博士・大学院教育	19
社会的意義・貢献	19
国試・資格試験制度	8
その他	1
なし、分からない	38

Point

- ✓ 研究活動に専念するための時間を増やす
- ✓ 基礎となる知識をしっかりと学ぶこと
- ✓ 研究立案力、粘り強く行動する力、柔軟な思考力、高い倫理観

Pick Up

「製薬会社 信頼性保証」

- ✓ 調剤や臨床薬剤師のようなユーザー側の教育と研究やGMPや薬事的な知識を学ぶ教育を明確に分けて欲しい

Pick Up

「非臨床試験受託企業 CRO」

- ✓ 創薬科学やデータサイエンス、AIなど、次世代の研究に対応できる教育内容の充実

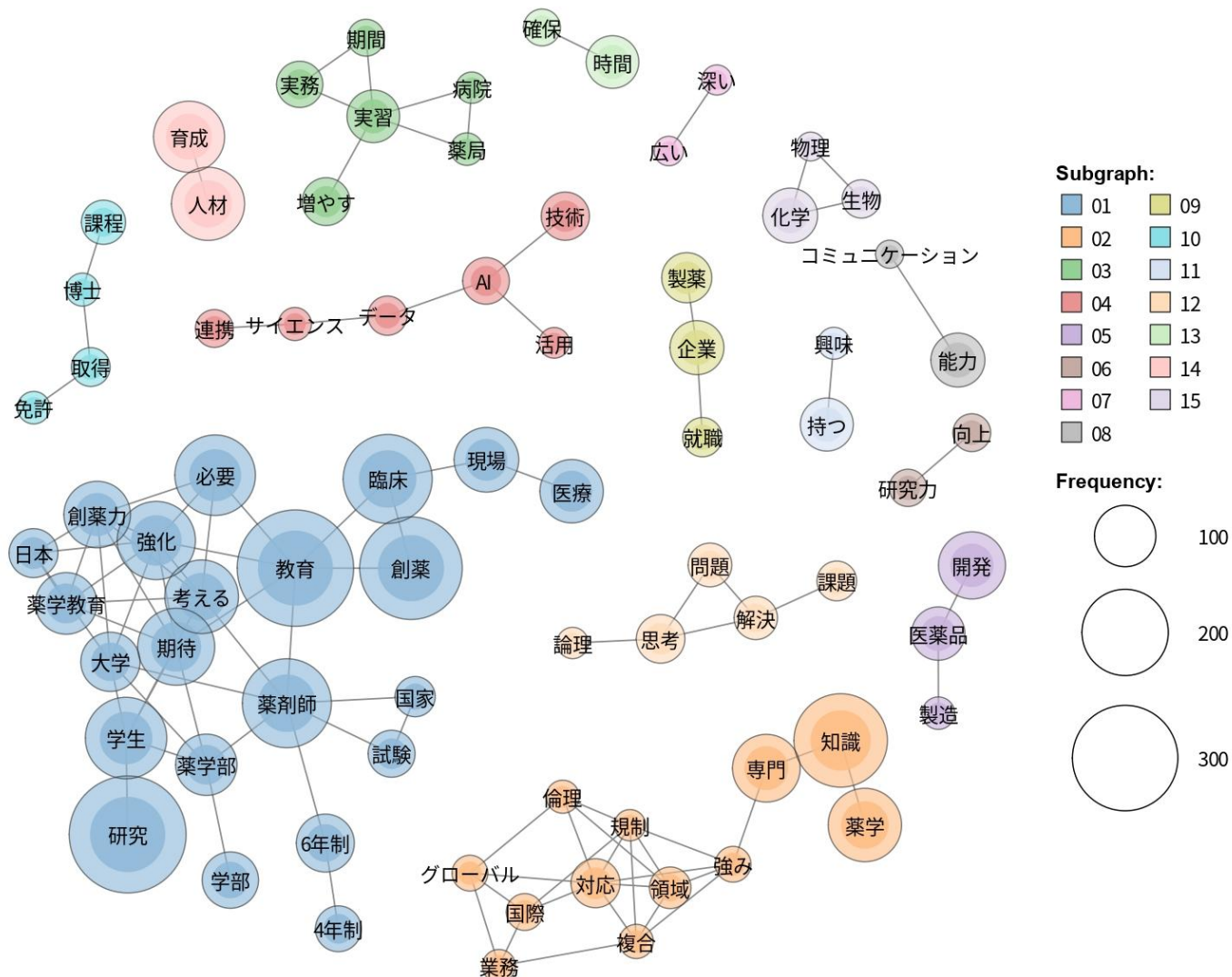
Pick Up

「国公立大学薬学部 学生」

- ✓ 薬局薬剤師の育成だけでなく、創薬研究や製薬企業、医療機関など、多様なステージでの活躍をもっと積極的に促す

4 自由記述

Q21 日本の創薬力強化のために、薬学教育へ期待すること(共起ネットワーク)



4 自由記述

Q22 日本の創薬力強化のために、薬学教育の課題(諸外国よりも遅れている点を含む)と感じていること

Q22 主な意見	
国際性・グローバル教育	146
研究力・研究環境	129
資格・薬剤師免許	124
学習者の質・意識	97
臨床教育・臨床力	84
基礎教育・基礎研究	72
教育カリキュラム・制度	64
先端技術・新領域	62
博士・大学院教育	61
ビジネス・産業連携	60
複合領域・学際的対応力	51
資金・予算	48
創薬教育・研究	46
創造性・発想力	44
キャリア形成・就職	41
教員・教育者の課題	31
コミュニケーション・社会的スキル	31
医療・患者視点	27
倫理・規制対応	26
実務実習・経験不足	25
制度・構造的課題	24
多様性・人材育成	22
社会的意義・貢献	16
教育方法・体験型学習	12
国試・資格試験制度	6
その他	11
なし、分からない	113

Point

- ✓ 語学力も含む海外との接点
- ✓ 研究のための時間と資金
- ✓ 薬剤師教育と薬学部での研究を分割できていない

Pick Up

「製薬会社 臨床開発」

- ✓ 基礎研究や臨床教育が中心で、創薬を産業応用へつなぐ教育や人材交流がまだ十分でない

Pick Up

「臨床試験受託企業 CRO」

- ✓ 「薬剤師養成」に偏りすぎており、創薬研究を担う高度人材育成が諸外国に比べて遅れている

Pick Up

「国公立大学薬学部 教員」

- ✓ 創薬力強化のための教育と臨床薬学教育を両方行おうとしてどちらも中途半端になっている

4 自由記述

Q22 日本の創薬力強化のために、薬学教育の課題(諸外国よりも遅れている点を含む)と感じていること

